昭和43年4月3日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）　昭和63年10月1日発行（通巻319号）

MODELING MAGAZINE

モデルアート

MODEL ART

第2次大戦が生んだ高性能機

Me163 & Me262

第2次大戦末期、連合軍の圧倒的優位な形勢に敢然と立ち向っていったドイツの革新的意欲作2機の魅力を探る!!

◆モデルで見るMe163 & Me262バリエーション
◆1/32 Me163B-1a & Me262A-1b
◆1/48 Me262B-1a/U1
◆マニュアル、ディティール写真で探るMe163
◆Me163 & Me262開発年表&性能表



1988 OCT. 10

おしゃれ度、ナンバー1。

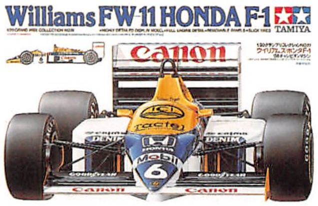
1/20 ベネトンフォードB188《新発売》 ¥1,300



タミヤニュース・10月号
月刊模型情報誌・1冊50円

エアロフォルムも精密再現。

ホンダ、中嶋の活躍ですっかりおなじみになったＦ１グランプリ。スポンサーカラーでカラフルに仕上げられた各マシンの華やかなムードもグランプリの魅力の一つ。その中でもひときわ派手なカラーリングで注目を集めているベネトンが、いよいよ1/20シリーズに登場です。鮮やかなブルー、グリーン、レッド、イエローに塗り分けられたイタリアンカラーは模型ファンには腕のふるいどころ。全長20cm弱のモデルでもシリーズ１番のおしゃれマシンです。もちろん、88年のＦ１マシン中もっともユニークなエアロダイナミックスタイルも精密再現。ペンシルノーズと呼ばれる細いフロントから、エンジンカウルの微妙な曲面まで、実感たっぷり。テレビ画面や、雑誌の写真とはまた違った発見もあることでしょう。さらに、リヤカウルを開ければノンターボのフォードＶ８エンジンが登場。力強く曲がりくねった排気管やラジエター、オイルクーラーなどの配置と、メカニカルな魅力はＦ１モデルならではの楽しさにあふれています。スタイルに、カラーリングに個性たっぷりな仕上がりが注目のベネトン。88年シーズンの主役の１台として、ぜひ、コレクションに加えたい１台です。



ウイリアムズホンダＦＷ11・1、200円



ロータスホンダ99Ｔ・1、200円

タミヤRCガイドブック

ご希望の方は模型店でお求め下さい。1部500円。当社直接お申し込みの場合は送料込で600円。ＲＣガイドブック係まで。

田宮模型

静岡市小鹿628　〒422

《タミヤRCカーグランプリ》●テレビ東京・テレビ愛知・テレビ大阪・テレビせとうち毎週金曜日18時～18時20分●びわ湖放送毎週土曜日18時10分～18時30分●テレビ静岡毎週日曜日6時55分～7時15分●熊本放送毎週金曜日16時～16時20分●山陰放送毎週日曜日11時～11時20分●テレビ新広島毎週土曜日7時25分～7時45分●北海道文化放送毎週日曜日8時35分～8時55分●新潟総合テレビ毎週日曜日7時30分～7時50分●長野放送毎週金曜日16時40分～17時●岐阜放送毎週木曜日19時～19時20分●山形テレビ・岩手放送毎週金曜日16時10分～16時30分●福島テレビ毎週金曜日16時30分～16時50分●南海放送テレビ毎週月曜日16時40分～17時●仙台放送毎週土曜日6時40分～7時

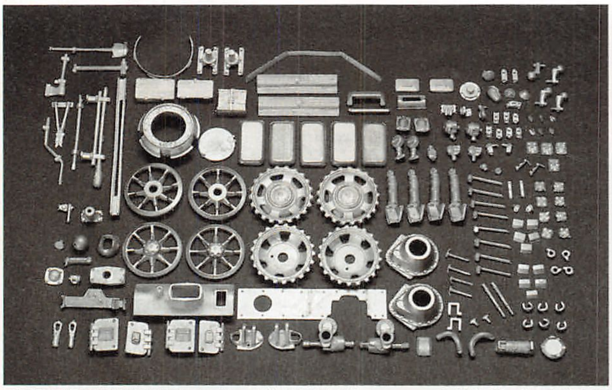

'88 F1グランプリ
ニューマシンぞくぞく登場
GUNZE SANGYO
グンゼ産業・ホビークラフト部
東京都千代田区神田錦町3-17 TEL 03(295)4557
好評発売中
フェラーリ F1-87/88C ■1/24●¥600
近日発売
ロータス ホンダ 100T
■1/24●¥700
新発売
マクラーレン ホンダ MP4/4 ■1/24●¥700
熱気と興奮のサーキットを激走する最強のマシン、F1レーサーがぞくぞく登場します。今年はターボ車最後の年。各チーム'89に向けてのニューマシンを作り上げるべく英知をそそいだ車体で活躍しています。去年より、ぐ～んと絞り込まれたボディが魅力です。さっそく作って走らせてみませんか。
超速マシンでぶっちぎろう!!
コックローチJr. 好評発売中
■1/35・¥600
アクロマンティスJr.
■1/35・¥600
新発売
スーパー4駆Jr.
いま、コースでの話題はスーパー4駆Jr.。スピードとパワーは超一流。しかも、低いシルエットに派手なマーキング、コーナーワークもばっちり。別売のスピードアップパーツを使っての改造も楽しいぞ。
第3弾近日発売。ご期待下さい。
イナズマJr.
■1/35・¥600
ハイテックモデル
ドイツ3号戦車N型
■1/35・¥8,000
好評発売中
好評のＪ型の発展型です。7.5cm24口径砲を装備したドイツ戦車の傑作です。
全金属製
ドイツ10.5cm
Ie FH18榴弾砲
新発売
■1/35・¥7,000
全金属製で各部が可動するドイツの傑作榴弾砲の精密モデルです。細部にわたるディテールは正確無比。ハイテックモデル戦車とあわせてコレクションして下さい。

PANZER KAMPF WAGEN III Ausf N ドイツ III号戦車N型

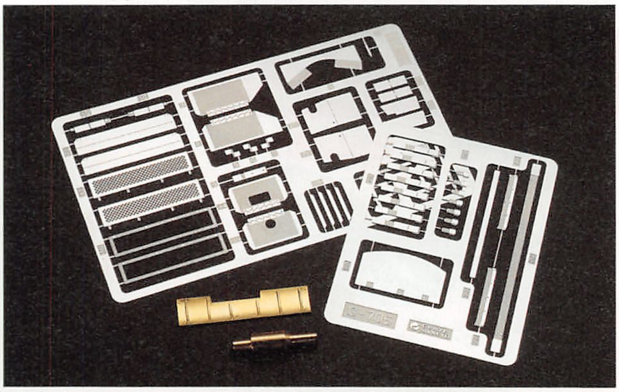


1/35 新発売¥8,000

III号N型 メタルパーツ

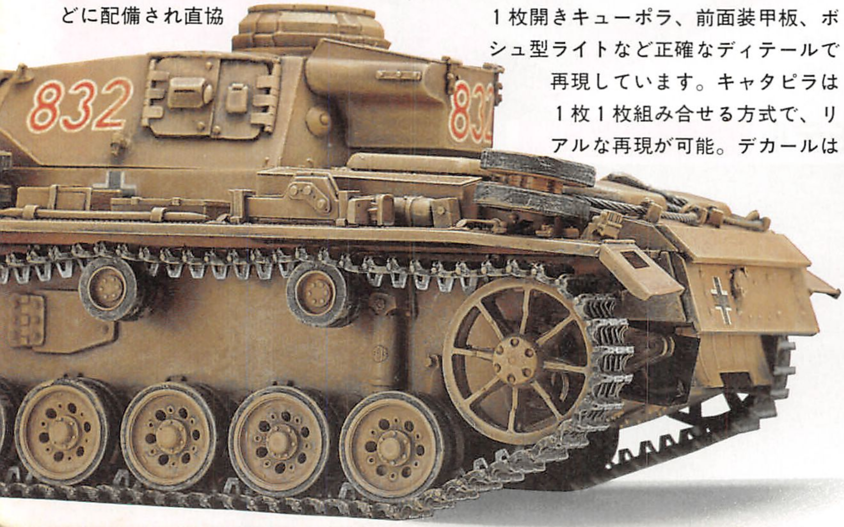


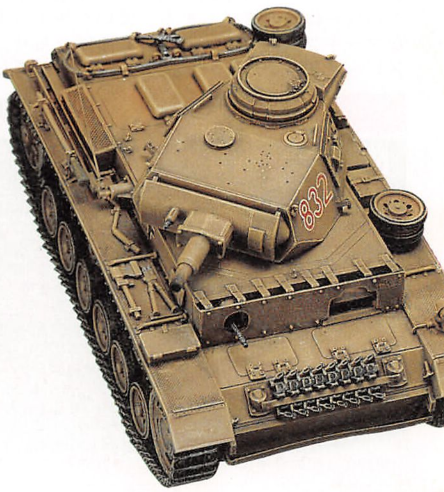
精密エッチングパーツ



III号N型はIII号戦車シリーズの最終型として生産されました。主砲はそれまでの50mm砲から24口径75mm砲へ変更され、主にタイガーI型の重戦車大隊などに配備され直協支援用として使用されました。

ハイテックモデルのIII号戦車N型は砲身、排気管ディフレクターは金属プレス加工品、メタルパーツでは新型の1枚開きキューポラ、前面装甲板、ボシュ型ライトなど正確なディテールで再現しています。キャタピラは1枚1枚組み合せる方式で、リアルな再現が可能。デカールは第501重戦車大隊第8中隊のものを入れていますので、北アフリカ戦線のジオラマにしてグンゼ・ハイテックタンクの世界をじっくりお楽しみ下さい。





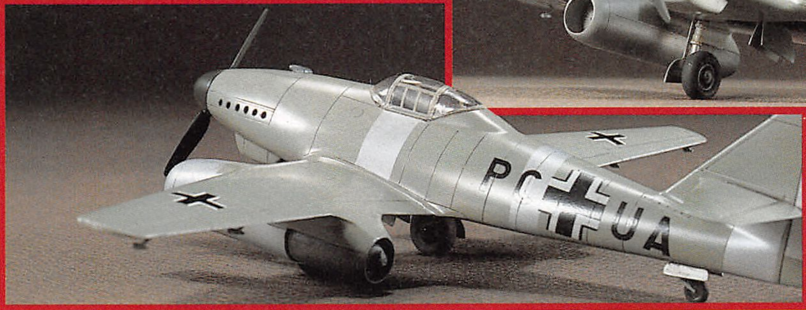
第2次大戦に生まれた高性能機
Me 163 & 262

第２次大戦中におけるドイツの航空学の進歩というものは、他の諸外国をはるかに引き離しており、1937年頃には早くもロケット機の開発に着手している。今回特集で取り上げたMe163、Me262はそれぞれ、実戦に参加した最初のロケット、ジェット戦闘機であり、諸外国で開発されていたP-80やミーティアに較べ、数段優れていたことは誰もが認めるところだろう。戦争というものが、科学や技術の発展に大いに貢献したとしたら、ドイツは多大なる貢献をし、戦後、さまざまな分野に影響を及ぼしたといえる。Me163、Me262ともいろいろな雑誌で取り上げられているので、今回は両機の各型をプラモで再現し、それぞれの特徴を探ってみた。ほとんどがエアモデルのバキュームを使ったものだが、1/72ということもあり、ちょっとした工作で多くのバリエーションが揃うので、本誌を読み終ったら挑戦しては?!

Me262V1

HASEGAWA & airmodel 1/72
by Y. MATSUKI





Me262V3

HASEGAWA & airmodel 1/72
by H. IKEDA

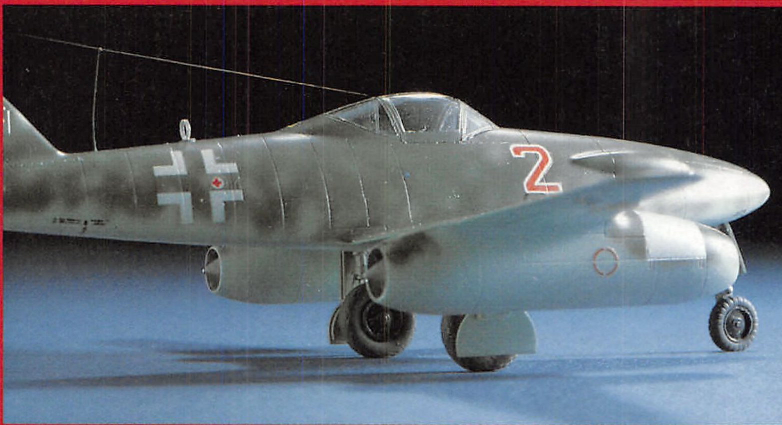


Me262A-1a

HASEGAWA 1/72
by Y. MATSUKI







Me262A-1a/U3

HASEGAWA & Zmodel 1/72
by Y. MATSUKI

Me262A-1a/U4

HASEGAWA & Zmodel 1/72
by Y. MATSUKI





Me262A-2a/U2

HASEGAWA & airmodel 1/72
by H. IKEDA

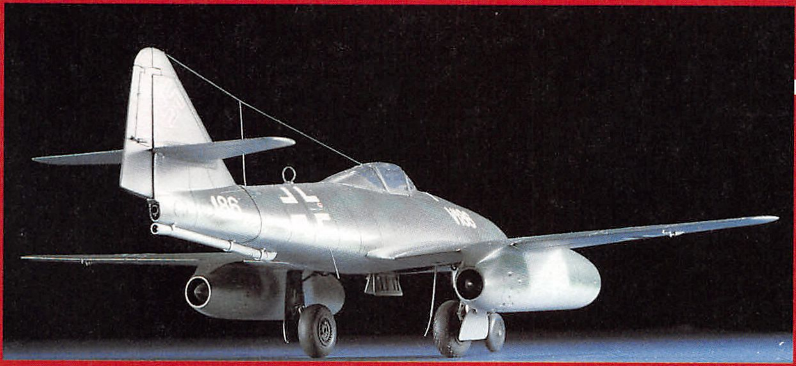




Me262B-1a/U1

HASEGAWA 1/72
by Y. MATSUKI





Me262C-1a

MONOGRAM 1/48 CONVERSION
by N. TORIGOE

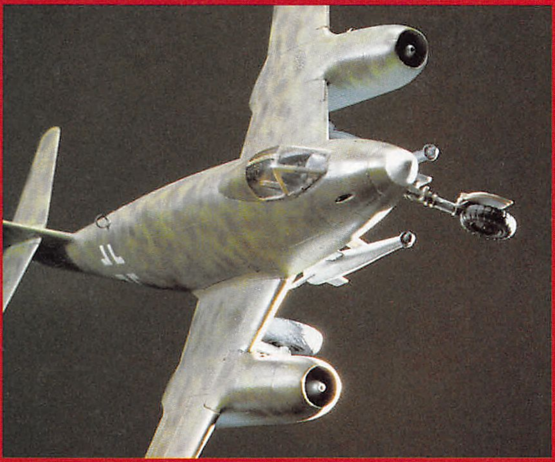
Me262V9

HASEGAWA & airmodel 1/72
by H. ISHIHARA



Me262 SCHNELLBOMBER Ia

HASEGAWA 1/72 CONVERSION
by H. UENO



Me262B-1a/U1

MONOGRAM & MISSINGLINK MODEL
1/48 by T. TOMIZAWA





Me262A-1b

HASEGAWA 1/32
by T. TOMIZAWA

Me163A

airmodel 1/72
by H. TAIRA

Me163B

HELLER 1/72
by H. TAIRA



Me163B

HASEGAWA 1/32
by H. IKEDA



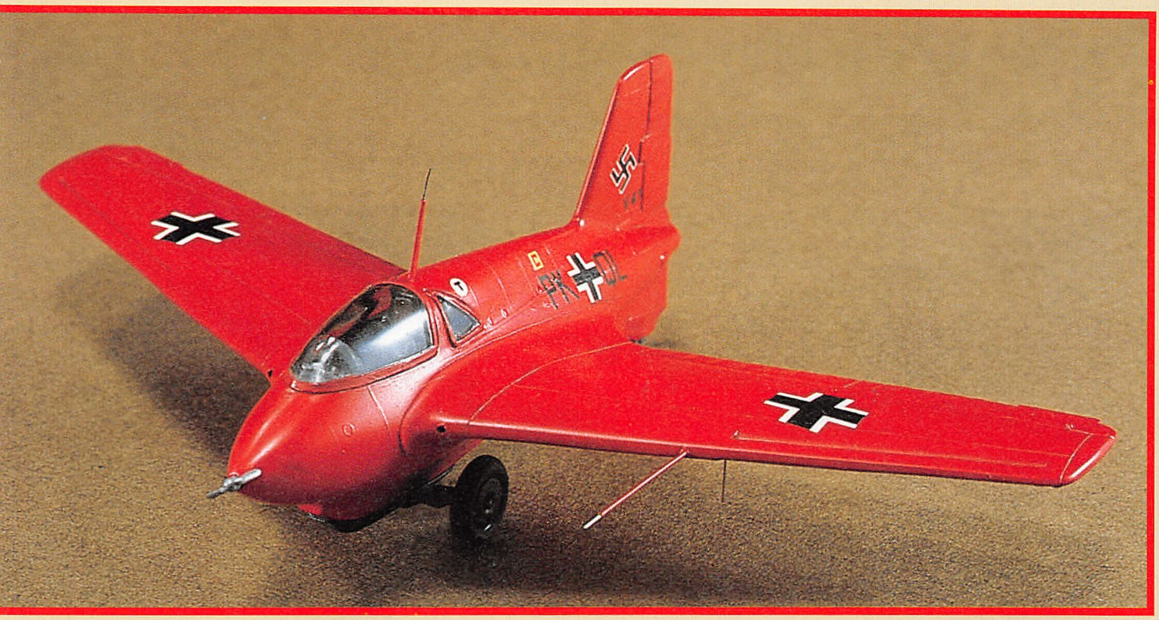


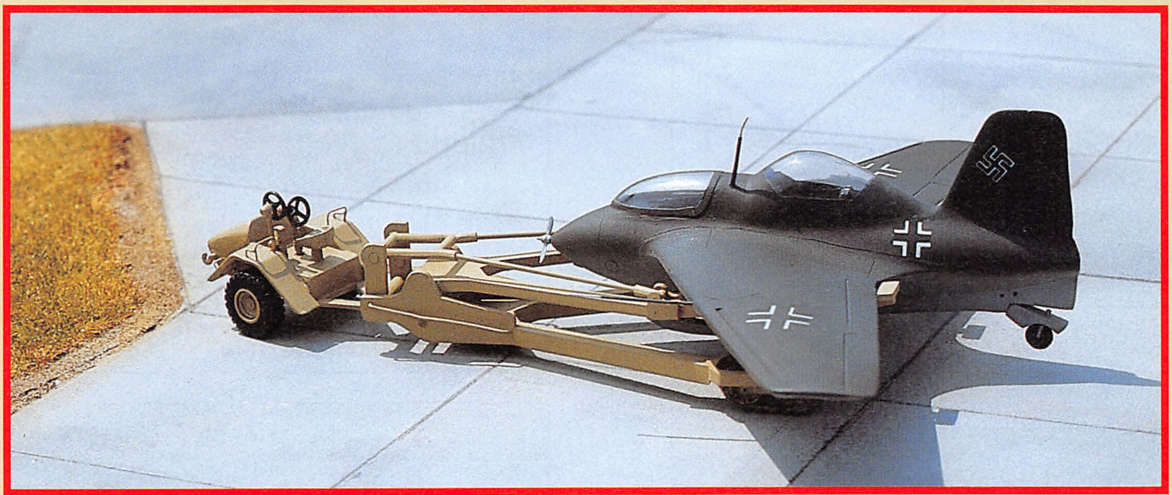


Me263V1

airmodel 1/72
by N. TORIGOE







Me163S

HELLER & airmodel 1/72
by N. TORIGOE

Me263V1

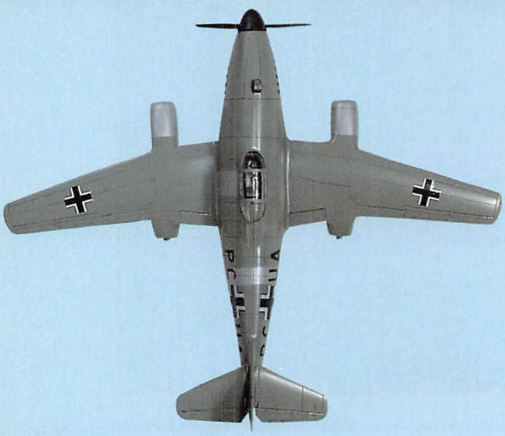
HUMA 1/72
by N. HIDA





Me262 主要型系統図

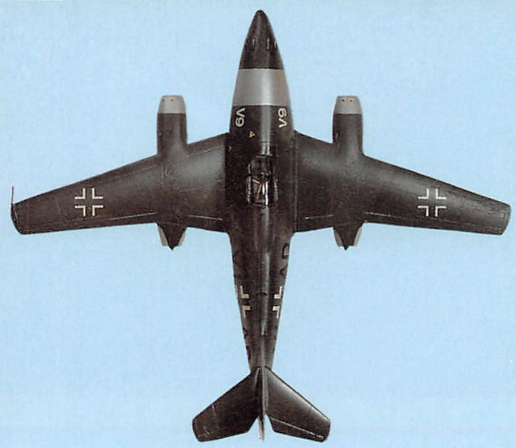
Me262V1





試作第1号機。1941年4月18日、ピストン・エンジンのユンカース・ユモ210Gのみで初飛行。翌年3月25日にはBMW003 2基を装備して初飛行。W. Nr. 262 0000001。

Me262V9





初飛行は1944年1月19日。当初、動力系及び電気系統のテストに用いられたが、後に高速型のデータを得るためキャノピーを空気抵抗の少ないタイプに、また、両尾翼を後退角の強いものに替えて、45年1月に初飛行した。W. Nr. 130004。高速タイプの計画型はHGと呼ばれ、主翼の後退角を強くし、HeS011を主翼付け根に埋め込んだHGⅢまでが知られている。

Me262V3





1942年7月18日、ユンカース・ユモ004A-0 2基により初飛行。試作3号機だが、ジェット・エンジンのみで飛んだ最初の機体。W. Nr. 262 0000003。

Me262A-1a

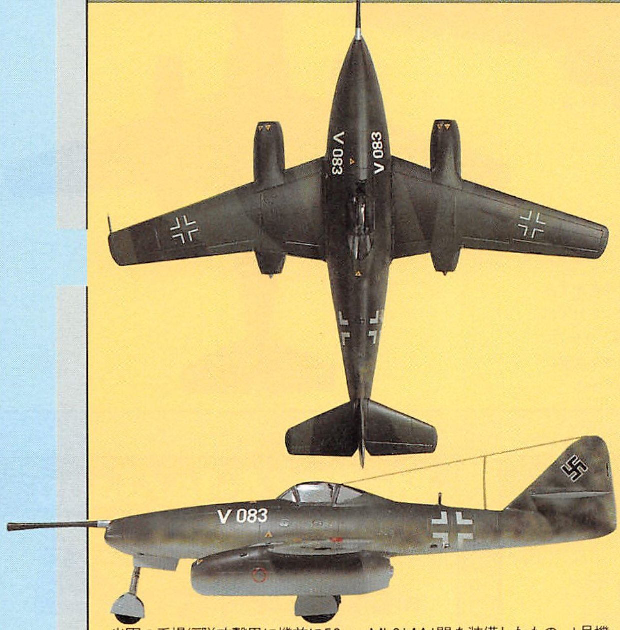




A-1aは最初の生産型で、30mm Mk108 4門を持つ戦闘機。英のミーティアはV1の迎撃と僅かな地上攻撃を行った程度だし、Me262は大戦で活躍した唯一のジェット戦闘機といっても間違いではない。

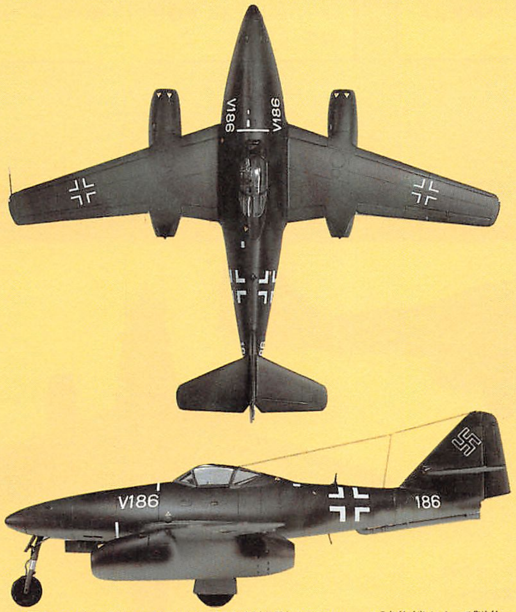
戦闘/迎撃機系

Me262 A-1a/U4



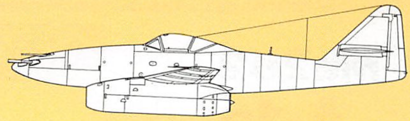
米軍の重爆編隊攻撃用に機首に50mm Mk214A1門を装備したもの。1号機(W. Nr. 111899)は1945年4月5日に実戦テストに用いられたが、砲の故障で発射出来なかった。作例は2号機(W. Nr. 170083)で、飛行したかどうか不明。生産型にはE-1の呼称が予定されていた。

Me262C-1a



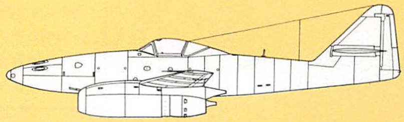
祖国防衛機Ｉ型と名付けられた迎撃機型Me262J-1の試作機として製作。2基のユモ004Bジェット・エンジンに加え、胴体後部にヴァルターHWK509Aロケットモーターを装備しているのが特徴。ロケットも用いた飛行は1944年10月16日に行われた。W. Nr. 130186。

Me262A-1a/U1



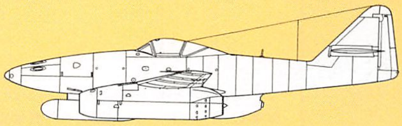
Me262の武装には様々な種類とその組合せが検討されたが、これは機首に20mm MG151/20×2(各176発)、30mm Mk108×2(各66発)、30mm Mk103×2(各72発)を装備した重武装型。1機のみ試作。Mk103は後にMk213リボルバー式機関砲に換えられた。

Me262A-1b



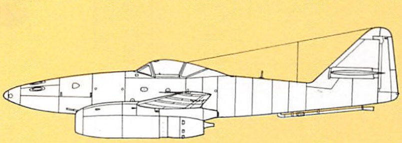
V1に装備されて最初の飛行時に故障して以来、改修を続けてきたBMW003は1944年後半に漸く実用の域に至り、これを搭載したA-1bが作られた。最初の機体(W. Nr. 170078)は10月21日に初飛行、ユモ004に較べ加速が良く、より静かだが、スロットルの操作はかなり難しかったという。

Me262C-3



祖国防衛機III型は2基のHWK509Aロケットモーターだけを装備するもので、計画のみ。C-3は祖国防衛機Ⅳ型で、通常のユモ004Bに加え、胴体下のポッドにHWK509Aを納めていた。さらに充分な燃料を積むために、ロケット用のT液は胴体下の2個の600ℓ増槽に収容された(S液は胴体後部のタンク内)。しかしこのレイアウトでは増槽がロケットモーターより低いためT液の供給に問題があり、完成に至らなかった。

Me262C-2b



祖国防衛機II型。BMW718ロケットモーターを組み合わせたジェット/ロケット結合エンジンBMW003Rを装備し、1944年1月25日に初飛行した。

爆撃機系

Me262 A-1a

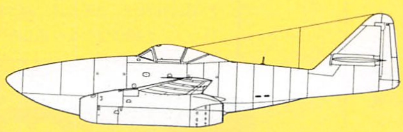
高速爆撃機試案Ⅰa





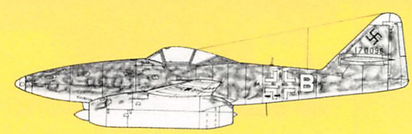
ヒトラーがMe262の爆撃機転換命令を出す以前の1943年夏、既にメッサーシュミット社では戦闘機以外の各用途への可能性を探っていた。これは爆撃機型試案のひとつで、照準を容易にするためにコクピットを機首へ移している。

高速爆撃機試案Ⅱ



こちらは爆弾を収容するために、グッピーよろしく胴体下面を膨らませた案。試案Ⅰ、Ⅱ共にカメラを内蔵した写真偵察型も考慮されたが、何れも試案以上には発展しなかった。

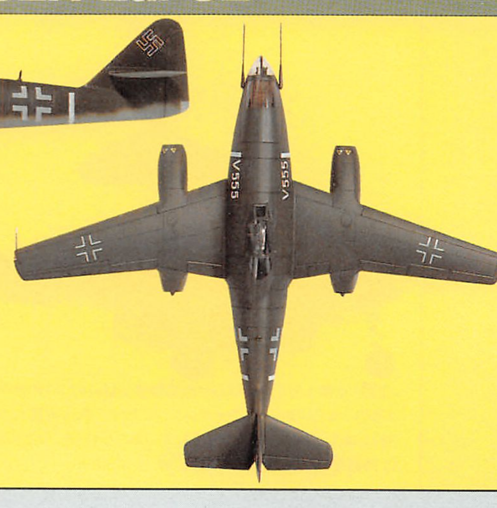
Me262A-1a/Jabo



Me262の実際の爆装型は機首下面に爆弾架2基を取り付けたもので、機首のMk108を2門に減らしたA-2aの他、A-1aに爆弾架を取り付けただけのA-1a/Jaboがあった。爆弾架は当初のETC503、海賊船型ラックに替り、後期にはBT400魚雷型爆弾も使えるETC504が用いられた。
塗装例はI./KG51の所属機で、下面76、上面83の上に81の蛇行状斑点。機首、下方の銃口周囲、垂直尾翼上端は白。機体レターのBは白に細い黒縁付でやや傾いている。9KとH、W. Nr.は黒。

Me262A-2a/U2



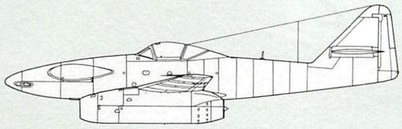


Me262では精密な爆撃は困難だったが、その対策として機首に爆撃手席を設け、通常のロトフェ7H爆撃照準器を使用しようとしたもの。2機作られたが、追加装甲等により速度と航続距離が犠牲になった。生産型のA-3aは完成せず。W. Nr.は110484と110555。

偵察機系

Me262 A-1a

Me262A-5a



A-4に続く写真偵察型で、機首にMk108×2(各65発)を装備している。生産には至らず。

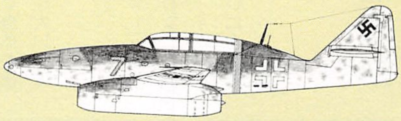
Me262A-1a/U3



機首の武装区画にRb 50/30カメラ2基を積んだ写真偵察型。少数機が完成し、1944年後期から実用に供された。作例機はW. Nr. 110585。量産型はA-4aと呼ばれたが、生産に至ったかどうかは不詳。

練習機

Me262B-1a



パイロットをMe262に慣らさせるための複座型練習機として作られたのがB-1aで、全てがIII./EJG2に配備された。後部の教官席によって除かれた燃料は、機首下の爆弾架に300ℓ増槽2個を装備して補った。
塗装例は下面76に、上面恐らく81と82(パターンは推定)。機番7と胴体の帯は黄。W. Nr.は不詳。

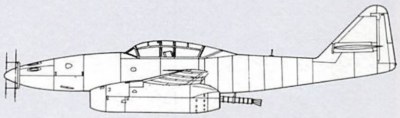
夜間戦闘機

Me262B-1a/U1



Me262の夜戦型計画は1944年9月に始まり、複座練習型B-1aをベースに、FuG218かFuG350Zcナクソスレーダーを搭載したB-1a/U1は翌年2月末頃、実用に供された。武装はMk108×4またはMk108×2+MG151/20×2。

Me262B-2a



胴体及びキャノピーを延長し、FuG218レーダーを持った夜戦型。B-2には幾つかの計画案が知られているが、実際に完成に至ったものがあったかどうかは不詳。アダースの「ドイツ夜戦史」によればHeS011エンジンにMk108 6門(2門はシュレーゲムジーク)を装備したB-2 1機が10./NJG11に配備されたという。

1/43 MODEL CAR GALLERY



MATRA MS80 FORD

'69 F-1GP J.STEWART

　1968年、初めてワークス・チームとしてF-1に進出したマトラは、自社開発のV12DOHCエンジンをF-2用シャシー・MS7・をベースにしたものに搭載したMS11で戦う一方、タイレル・オーガニゼイションにマシンを供給し、フォードDFVを積んだMS10と2本立てでレースに挑戦を開始した。

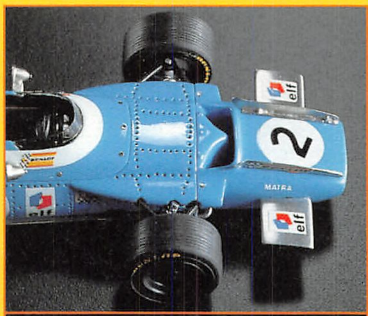
　しかし、MS10の成功とは逆に、ワークスのMS11はV12の信頼性に欠け、惨たんたる結果でシーズンを終える。

　迎えた1969年、ル・マン制覇を目指すマトラは、F-1部門をすべてタイレルにゆだねた結果、F-2マシンの延長ではなく、まったく新しく設計し直されたMS80でレースに挑戦することになる。

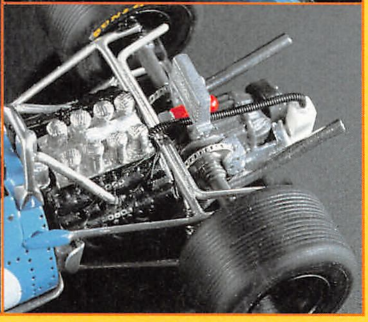
　このMS80は、ボディ・デザイン上からもまったくの新しいボディで、中央部が大きくふくらんだデザインは、のちの多くのフォーミュラーカーに影響を与えることになる。また、構造からみても軽合金パネルをリベット止めしたモノコック構造といえるが、ロータス49などと同様にモノコック部分はコクピット後部まで、それ以降はフォードDFV自体が後輪荷重を負う構造で、軽量化に大いに役立っている。

　マトラ最強のマシンMS80と、ジャッキー・スチュワートのコンビネーションは、'69年シーズン期待どおり波にのり、スペイン、オランダ、フランス、イギリス、イタリアGPと勝ち続け、ついに念願のドライバーズ・チャンピオンシップを獲得するのである。

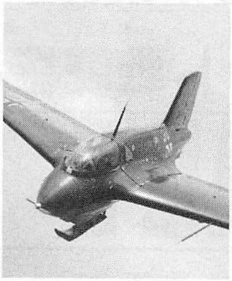
製作・下間康弘





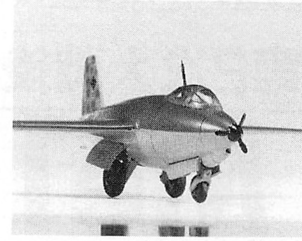


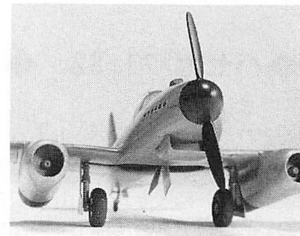
マトラMS80フォード・'69 F-1・J.スチュワート：スケール・レーシングカーズ1/43キット￥8,700　協力：(株)メイクアップ☎03-498-9876

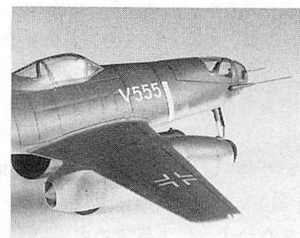


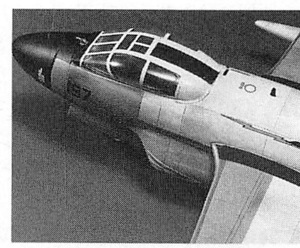
MODEL ART

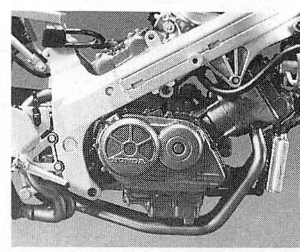
1988年10月号
第319号

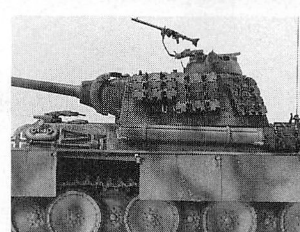












CONTENTS

印刷：昭和63年9月25日　発行：昭和63年10月1日
MODEL ART 1988年10月号第319号
定価700円　送料65円
発行人：井田　博
編集人：山下武雄
発行所：有限会社モデルアート社
〒102 東京都千代田区飯田橋2-8-3
Tel.03-262-6450, 6285
FAX. 03-262-7932
振替：(東京)4-196313
MODEL ART Co. Ltd.
8-3, 2 Chome, Iidabashi Chiyodaku, Tokyo, Japan
印刷所：壮光舎印刷㈱
製本所：㈱岡嶋製本工業
レイアウト：AD SCHMON, 福井美和
写植：㈲アドバン

第2次大戦後半に登場した無尾翼ロケット戦闘機！

Me163B COMET



◆ハセガワ1/32　◆「倉敷翼端灯」池田　始

その形体の単純さからも来るものであろうが、このハセガワのキットはハメ合わせの精度も良く、1/32のキットとしては他のどの機種よりも簡単に完成させる事が出来、その特徴あるスタイルを楽しむ事が出来る好キットである。

各点検ハッチや燃料補給扉などは実感のある凸モールドとなっており、スジ彫りも凸モールドであるが細くてきれいな物であるため、ヘタに彫り直すよりはキットの表面仕上げをなるべく消さないように工作するとよいだろう。

外観形状も2、3実機と違う部分もあるが、本誌を読んでまたキットが完成しなくなってしまった、という事ではなんにもならないので、敢えていわない事とする。以下今回行なったディティールアップ箇所を機首のほうから記す。

○**発電機用プロペラのブレードのズレの再現。**
○**キャノピーは実機どおりのヒンジを自作し開閉式とした。**
○**コクピット内にほどほどの追加。**
○**アンテナ先端を0.4㎜洋白線で自作。**
○**主翼フィレットをアルミ板で表現。**
○**着陸用ソリ上部板と下部補強板追加。**
○**ピトー管は1×0.6真鍮パイプと0.5㎜洋白線で作り替えた。**

では製作順を追って説明する。

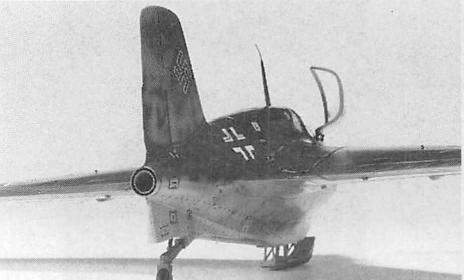
◆主　翼

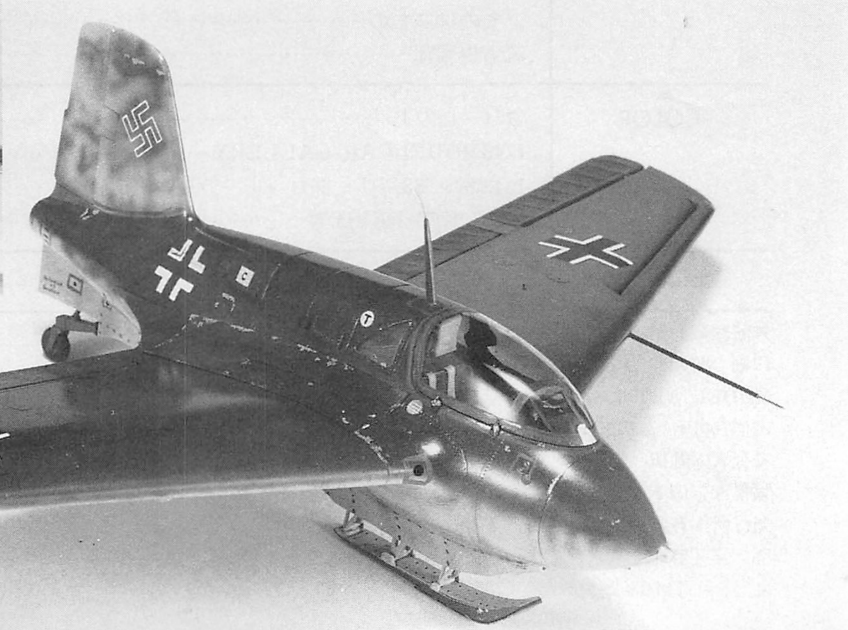
固定式前縁スロットは下面のみ隙間を再現してあるが、上面は彫刻だけで表現してある。実機では下面から上面へ空気が流れるのであるが、キットで隙間を開けるとなると難しくはないが時間がかかりそうで、かつそう目立つ物でなく自己満足に終りそうなので、上面の隙間をPカッターで深くするに止めておいた。

もし再現してみようという方のために一方法を記す。まず上下面接着する前にスロット部を切り離してスロットだけ別パーツを作るといった感じにスロット後縁を薄く削っておく。スロットの下に隠れて見えなくなる部分は主翼前縁を新たに作ってやる。この時、主翼下面のスロット部との継がりをあてがいながら見るとよいだろう。つまり判りやすくいうと、F-4Sファントムのスロットの両端が主翼となじんでいるといったイメージである。

筆者も小学生の時にこのキットを真赤に塗って作った事があるほどの年代物なのだが、バリなどほとんどなくて、唯一バリを取ったのがエレボンと主翼の隙間の所。ここは実機でもかなりの隙間なので意識して隙間を開けてやる。ペーパーを2つ折りにした物を隙間に入れて削ってやった。

主翼は、後縁は薄く仕上げるために、この部分を下面の一部と一体に成型してあるが、分割部分はエレボンとフラップの部分に当り、しかもここは羽布張りのそれも最も デリケートにモールドしてある部分である。しかし、分割







作例ではエンジンは組み込まず、完成後見えるテールパイプのみ用いた。完成後取り外してエンジンが見えるようになっている胴体後部も、前部胴体と接着している。

部の隙間はほとんどなく、段差のみ削ったり、プラペーパーを貼ったりしてなくしてやればよい。またどうしても隙間が出来た場合、ラッカーパテを隙間に押し込むように塗り、乾燥後シンナーで拭き取るだけにすると羽布張りモールドを壊さなくてよい。主翼上下面を貼り合わす時、胴体との接着面も段のないようにすると後でパテが不用だ。

◆胴　体

なぜコクピット工作の前に胴体かというと、胴体左右を接着する寸前の段階までやっておいたほうが、コクピットを胴体内に収めるにあたっての削り合わせやコクピット内への追加部分などの干渉がよく判るからである。

理由は2つほどあって、

①隙間は避けられない。隙間ゼロとすべくスリ合わせをしていても、ここは一番荷重がかかる所であり、移動させるたびに隙間を気にしなければならない。また御存知のようにMe163に限らず航空機の外板はいたる所が取り外せるようになっており、ここの胴体を輪切りにしたような分割ラインのみ目立ってはおかしい。

②後部胴体を外した実機写真を見れば判ると思うが、キットの断面はいかにもプラモデル然としており、実機どおりとするには、この付近の外板のほとんどを薄いアルミ板などで作り換えたほうがよい。またその時実機ではボルト18本で止めてあるのだが、モデルにした場合の止める良い方法が見つからない。

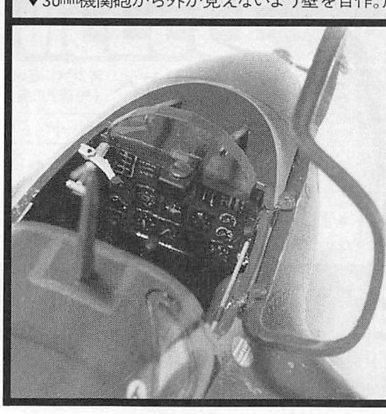
などが理由であるが、先月のDo335は荷重のかかる所でもなく、取り外す部分も上に乗っかっているだけであるので後部エンジンの公開が出来たわけである。

胴体は左側なら左側だけで前後胴体を接着する。この時、左右の接着面よりも、もちろん外形に段がないように気をつける。左右の接着面はバキューム・キットではよく行うが、平らなペーパーの上で平面を出しておく。プラキットのパーツを本来ピタリと合わせるためについている凸と凹のピンはこういった作業の場合ジャマになる事のほうが多いばかりか、ズレている事のほうが多いので筆者の場合ほとんど削り取り、ヤスリで面出しをする。胴体左右別々の時に主翼を接着した。こうしたほうが少々の隙間なら力でなくす事が出来るし、裏から瞬間接着剤で補強も出来る。

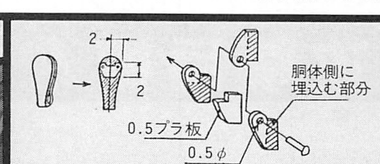
◆コクピット

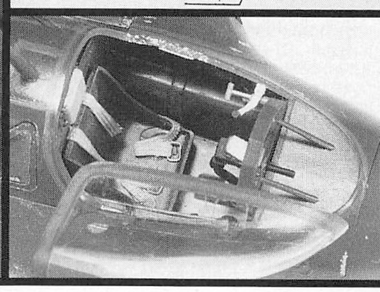
なんとキットのままではコクピットを覗くと、30㎜機関砲口から外が見えるので、コクピット横の壁（実機では胴体外板の裏側）をコクピット床の部品側へ0.3㎜プラ板を貼って作ってやった。胴体内へ収めるためには少々座席後のバルクヘッドを削る必要があった。座席左右のハリ出しは薄く削り、シートベルトはドラクラブ製カーモデル用布ベルトとバックルは0.3洋白線である。

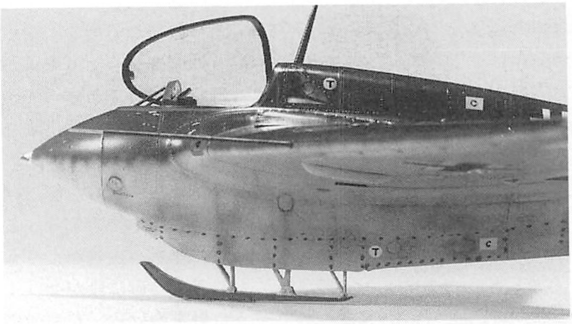
▼30㎜機関砲から外が見えないよう壁を自作。広いコクピットのため手を加えると引き立つ。



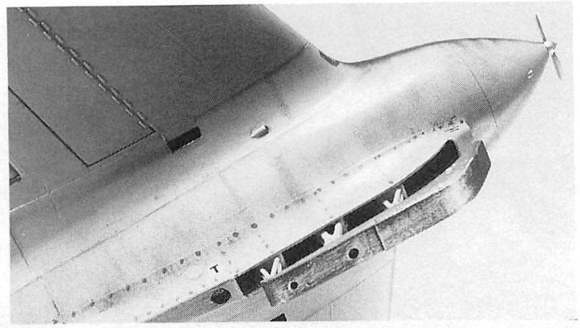




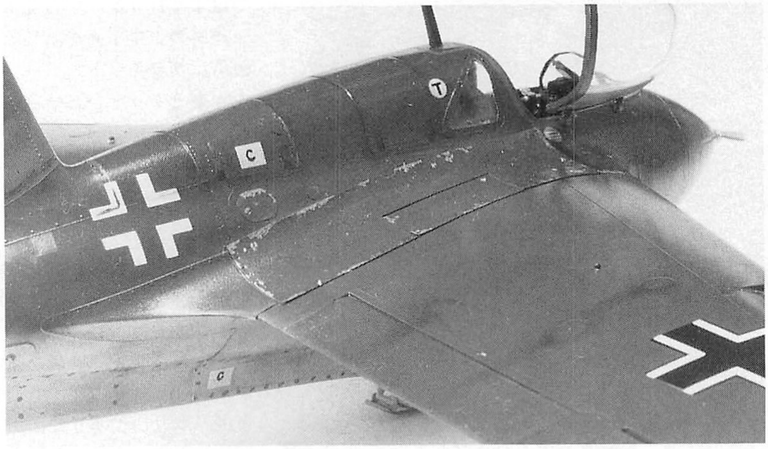




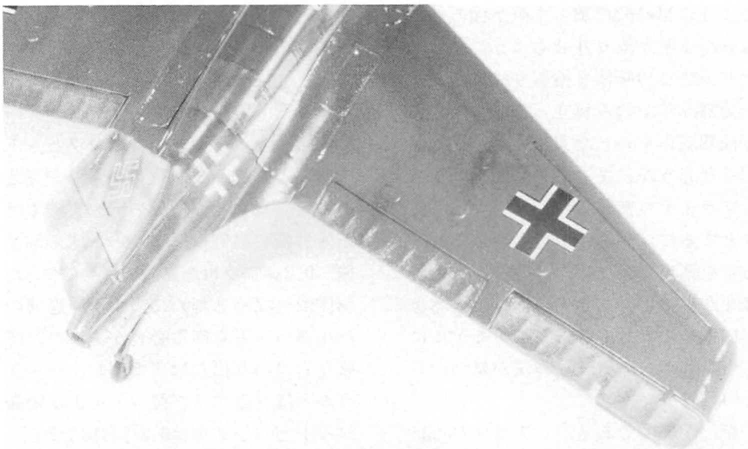
▲長いピトー管は真鍮パイプに作り変え、仕上げの時に接着する。発電機用プロペラはかなり薄くなるまで削っておく。



▲着陸用ソリの上下には補強板を貼り付ける。上の分にはパンチ穴を開けておく。Ⓣと🄲はそれぞれの注入口の表示。



▲フィレットは0.1㎜アルミ板を貼って表現してある。1/32ともなるとこのくらいの工作も出来る。▼主翼はかなり長くヒネリが加えられている。エレボンの隙間はかなり大きい。



ヘッドレストはシワを再現した。

酸素ホースはキットの位置はおかしいので、先ほどの横壁に貼り、他は電気コードや燃料排出レバー、キャノピーロックレバーなど自作してやった。

◆キャノピーと主翼フィレット

先月のDo335に続いてのヒンジ工作のため、「ヒンジ男」とアダ名されている。

なんとくつ下に付いていた、アルミの止め具を図のように加工した物である。

実機では主翼フィレット内に機関砲が積んであるためか、この部分がベコベコであるので0.1㎜アルミ板で再現してやった。また、所々わざとメクレ上がらせてある。

◆塗　装

最近までオーストラリアに保存されていた機体の鮮明なカラー写真が5枚ほど手元の資料にあったので、これに忠実に工作や塗装する事によって少しでも実機に近づく事を願った物である。

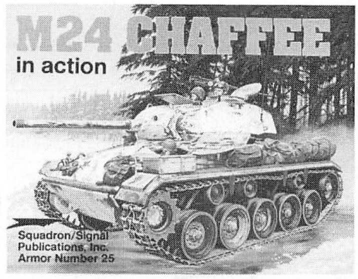
81はオリーブドラブ＋赤、82はダークグリーン＋緑である。所々レッドブラウンのプライマーと全体に高速機特有のクリアーラッカーの目止めが塗ってある。

ハセガワ ベストセレクション ガイド

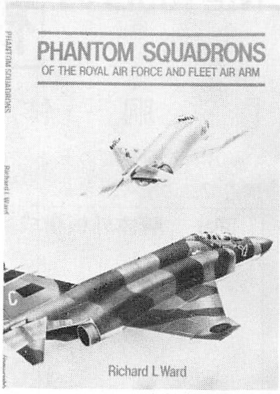
Hasegawa Hobby kits HASEGAWA BEST SELECTION 輸入書籍特約店

HASEGAWA BEST SELECTION

今月号の新刊紹介は、まず先月号の続きからデース。それは先月号に表紙だけ載せたM24チャーフィーで、チマタにはすでに出回っていますが先月号のメ切直後に見本誌が入ったためいささか気の抜けた新刊紹介になってしまいました。ゴヨーシャください。さてアルデンヌから朝鮮戦争を経てベトナム戦争までアメリカ陸軍など西側各国の機甲部隊の尖兵として活躍を続けたチャーフィーゆえに自走砲や対空砲など各種の派生型もあり地味ながら興味のつきない車輛ですが、この本はこれらの派生型も含めたチャーフィーファミリーのすべてを網羅してファンのズイキの涙をさそいます。AFVファンには久方振りに楽しめる本でしょう。写真はヨーロッパ戦線、朝鮮戦争当時のものが多い様です。さて次はイギリスはラインライツ社のスペシャル・イッシュ､英空海軍ファントム・スコードロンです。この本実にグッドタイミングで、ハセガワの1/48ブリティッシュ・ファントムにジャストフィット！ただし入荷数量が少ないため残部僅少、ハヤイモノガチです。編集はファントム装備の全部隊を部隊毎にファントムの全景や部隊マークをモノクロ写真で配列し、簡単なキャプションを付しているスタイルですが、このモノクロ写真が中々クセモノで例えばアークロイヤルが最後にアメリカを訪問した際ROYAL NAVYをCOLONIAL NAVYと書き換えた001などの珍しいものが含まれていて楽しませてくれます。カラーページ4ページ、紙質が良いためモノクロ写真の印刷あがりは上々です。さて次はこの所精力的に新刊をリリースしているディテール＆スケールのＦ４Ｆワイルドキャットです。ＤＳではつい先頃ヘルキャットを出しましたし、インアクションでもワイルドキャットが出たばかりで、この所何故か人気のグラマンの猫族です。本の内容は、試作機のXF４F-２からFM-２までワイルドキャットのすべてのバージョンをいつも通りの細部写真を中心に編集したもので、エンジン、コクピット、主脚そして主翼折りたたみ部などのモデルのディテールアップに欠かせない写真がたくさんフィーチャーされてレシプロ機ファンにはウレピー一冊です。この本も紙質が良いため印刷あがりが上々で細かい部分まで良くわかります。カラーページは８ページ。著者はいつものバートキンゼイです。



2025 ¥1,200(〒200)
M24 チャーフィー



¥4,000(〒300)
ファントム スコードロン



DS30 ¥2,100(〒250)
F4F ワイルドキャット

ハセガワ輸入書籍特約店リスト ㉓

ハセガワ輸入書籍をお求めの方は右上のステッカーの貼ってある“ハセガワ輸入書籍特約店”にてお買求めください。なお、お近くに特約店がない場合には弊社ＢＳ係まで現金書留、または現金小為替にてお申込みください。なお価格、送料は、弊社ポスターまたは電話などで、あらかじめご確認くださるようお願いいたします。

（関東地区）

ホビーランド	水戸市新原	0292-51-3431
ホビーショップ レイ	水戸市住吉町	0292-47-8437
ホビーショップ ベルモ	土浦市桜町	0298-22-6510
ピン歩気	取手市東６丁目	0297-74-3595
マルエス模型店	宇都宮市二荒町	0286-33-6519
青和模型	宇都宮市幸町	0286-37-2986
スズキ模型 上青木店	川口市上青木西	0482-55-5790
トラヤ	川口市長蔵新田	0482-95-5495
ダルマヤ模型店	蕨市南町	0484-41-4543
クラブ堂	埼玉県妻沼町	0485-88-0694
ホビーベース キノクニヤ	春日部市備後	0487-35-6139
ゆみや模型店	八潮市中央	0489-96-6009
ホビーシティ	狭山市入間川	0429-54-2611
ホビーショップ はせがわ	埼玉県三芳町	0492-59-0169
ナミキ模型	千葉市小仲台	0472-52-2586
㈲たからや	千葉市中央	0472-22-0863
マニアホビー	八千代市八千代台東	0474-84-2123
MAXIM	市川市新田	0473-24-2437
ホビーショップ ハッピー	習志野市実籾町	0474-73-2007
フォルクスモデル 松戸店	松戸市五香六実	0473-88-3593
㈲ハチピー	松戸市常磐平	0473-86-5189
ホビーショップ コンボイ	浦安市堀江	0473-51-8771
太陽模型	君津市東坂田	0439-52-8208
あらじん	佐倉市王子台	0434-62-0209
やつざか模型	横浜市金沢区	045-701-2018
モケイ ラッキー東神奈川店	横浜市東神奈川区	045-324-3473
ホビープラザ	横浜市緑区	045-902-5797
模型の由樹	横浜市緑区	045-983-3385
滝口模型	横浜市緑区	045-473-0957
かめやま模型 横浜店	横浜市港南区	045-831-2165
㈲金田商会	横浜市戸塚区	045-823-2820

スコードロン シグナル社 出版物リスト④

《スペシャルズ シリーズ》

6028	B-29 スーパーフォートレス	¥1,600	〒250
6031	フライング カラーズ(US)	¥5,000	〒250
6032	ガンシップ	¥1,800	〒200
6033	アーマー イン ベトナム	¥1,800	〒250
6034	東南アジア航空戦 Vol.1	¥1,800	〒250
6035	エアー ウォー オーバー コリア	¥1,800	〒250
6036	東南アジア航空戦 Vol.2	¥1,800	〒250
6037	東南アジア航空戦 Vol.3	¥1,800	〒250
6038	アーマー イン コリア	¥1,800	〒250
6039	センチュリー シリーズ	¥1,800	〒250
6040	エアモービル	¥1,800	〒200
6041	リバーライン	¥1,800	〒200
6042	ワイルド ウィーゼル	¥1,800	〒250
6043	ベント & バタード ウィングス	¥1,600	〒250
6044	イタリア空軍 Vol.2	¥1,600	〒250
6045	B-17 フライングフォートレス	¥1,600	〒250
6046	南ベトナム空軍	¥1,600	〒250
6047	ストレンジャーズ &ストレンジランド	¥1,600	〒250
6101	ブリッツクリーク 1939-40	¥1,600	〒250
6156	ネイビーエアーカラーズ Vol.1(1911-1945)	¥1,800	〒250
6157	ネイビーエアーカラーズ Vol.2(1945-1985)	¥1,800	〒250
6160	アメリカ艦載機マーキング Vol.1(1945-1956)	¥1,600	〒200
6161	アメリカ艦載機マーキング Vol.2(1957-1963)	¥1,600	〒200
6151	パンツァーカラーズⅠ	¥1,800	〒250
6152	パンツァーカラーズⅡ	¥1,800	〒250
6153	パンツァーカラーズⅢ	¥1,800	〒250
6351	USAF ファントム イン コンバット	¥1,800	〒250

（輸入・発売元）
ハセガワ
株式会社 長谷川製作所
〒425 静岡県焼津市八楠1193－2
TEL(0546)28-8241 FAX(0546)27-8046
Hasegawa Hobby kits

Me163Bの機体構造

ロケット戦闘機Me163はどんな航空機だったのか。実機マニュアルのイラストを交えて見てみることにする。

解説：松樹祐司

[胴　体]

胴体は全金属製のセミ・モノコック構造で、ノーズ・キャップ（発電器、無線器を含む）、前部（コクピット、T液タンク、スキッドを含む）、上部（後方視界用三角窓、アンテナ柱を含む）、後部（ロケットモーター、尾輪を含む）、尾端（ロケット噴射口）の5区画からなっていた。

これらの内、ノーズ・キャップのみが鋼板製で、防弾板を兼ねていた。

図1　胴体外板構成

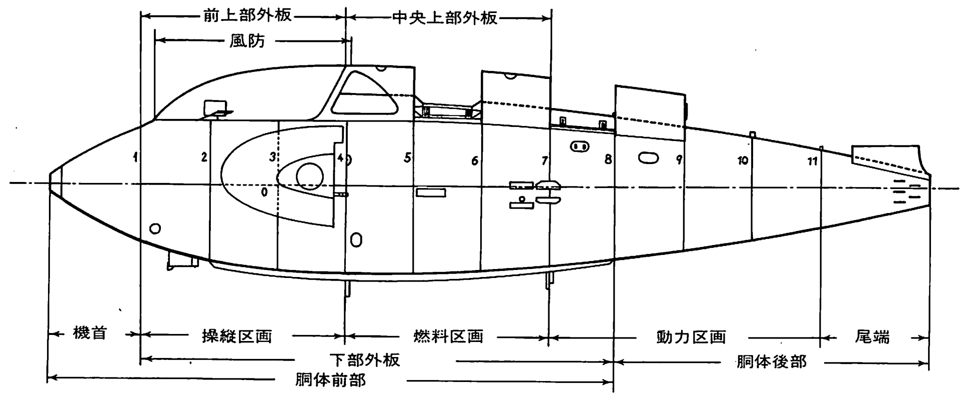
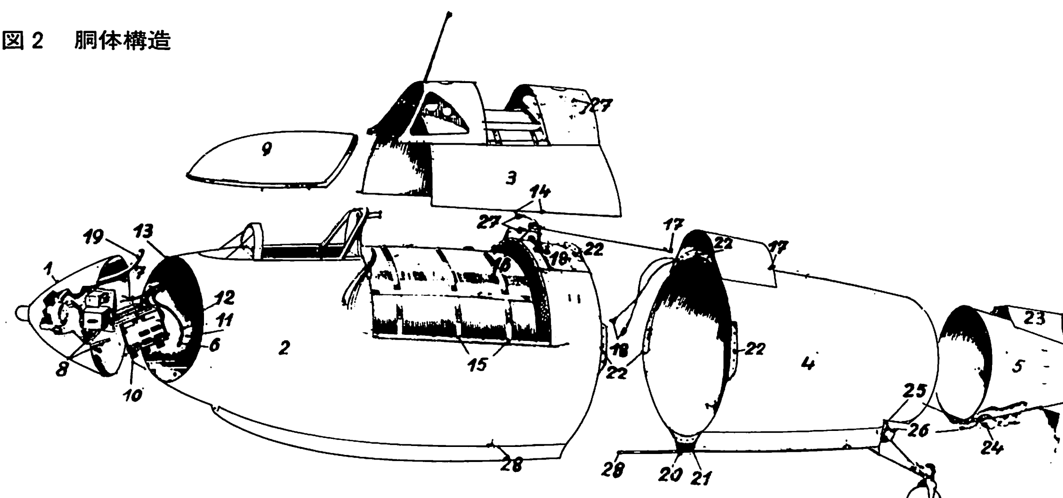


図2　胴体構造



1 ノーズキャップ
2 胴体前部
3 胴体上部
4 胴体後部
5 尾部
6 バッテリーコード
7 雑音防止器用コード
8 レギュレーターコード
9 風防
10 通信器
11 圧縮空気導管
12 オイル導管
13 ネジ
14 固定軸差入口
15 固定軸
16 プッシュロッド連結器
17 方向舵操作ロッド
18 コードソケット
19 配線コード
20 オイル導管
21 圧縮空気導管
22 連結板
23 方向舵基部フェアリング
24 オイル導管
25 圧縮空気導管
26 オイル導管
27 T液導管
28 尾輪操作ロッド

[降着装置]

Me163の降着装置は引込み式のスキッドのみで、離陸は轍間距離がせまく全く緩衝装置のないドリーによって行なわねばならず、本機の欠点のひとつだった。このドリーのタイヤのサイズは700×175㎜で、タイヤ圧は5.5kg/㎠。

尾脚は第11隔壁に取り付けられており、油圧で作動、タイヤは260×85㎜。

[主　翼]

主翼は構造材、外皮共に全て合板製。

翼厚は第1リブ（付根）で弦長の14.4%、第19リブ（翼端）で8.7%。

後退角は主桁の位置（弦長の約25%）で23°。上反角は0で、5.7°の捩り下げが付けられていた。

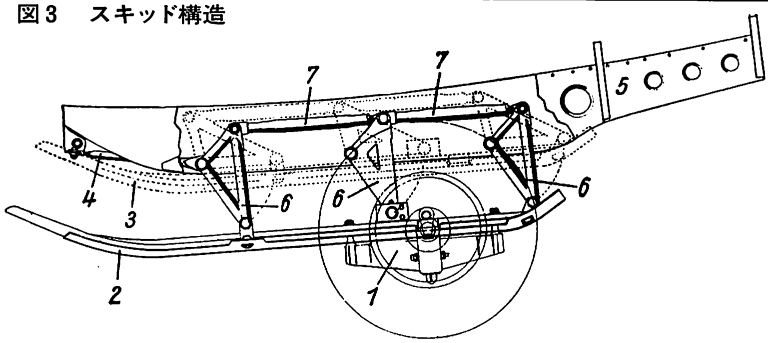
前縁部には固定式スロットが付けられているが、これは長さが約2.18ｍで、位置は翼端から約30㎝及び弦長の約10%のところだった。

エレボンと釣合いフラップは合板の構造に羽布張りで、作動角は前者が＋22°、－27°（＋は下方、－は上方）、後者が±10°。

エレボンはエルロンと昇降舵の働きをする訳だが、その操作法は図7を参照されたい。また、エレボンは主翼の第11と第18リブに、釣合いフラップは4と第10リブに取り付けられている。

着陸フラップは合板構造にアルミ外皮張りで、面積は0.72㎡、作動角は＋45°。主翼弦長50%の位置に取付けられている。作動は油圧による。

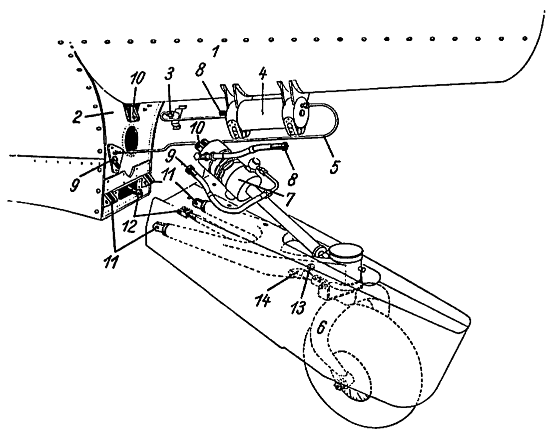
図3　スキッド構造



1　ドリー
2　スキッド（伸展時）
3　〃　（引込時）
4　支柱
5　スキッド支持材
6　ブラケット
7　連結ロッド

図4　尾輪構造

1　胴体尾部
2　第11隔壁
3　圧力オイル導管連結部
4　シリンダー
5　圧搾空気導管
6　尾輪フォーク
7　油圧シリンダー
8　圧力オイル導管連結部
9　〃
10　油圧シリンダー連結部
11　尾脚取り付け部
12　尾脚支柱取り付け部
13　ピストンロッド固定ボルト
14　尾輪操作ロッド



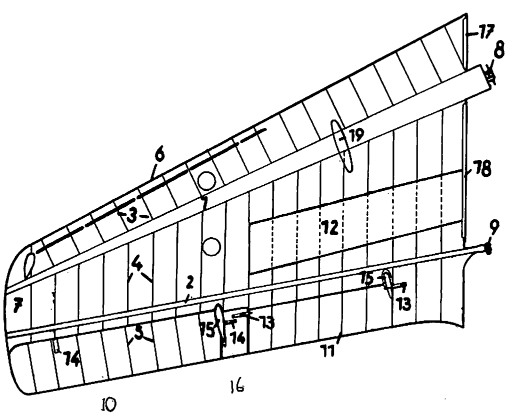


図5　右主翼下面

1　主桁
2　補助桁
3　前部リブ位置
4　中央リブ位置
5　後部リブ位置
6　スロット
7　翼端フェアリング
8　前部連結器
9　後部連結器
10　エレボン
11　釣合いフラップ
12　着陸フラップ
13　フラップ取り付け部
14　エレボン取り付け部
15　フェアリング
16　後縁フェアリング
17　前部隙間カバー
18　後部隙間カバー
19　燃料パイプ用フェアリング

図7　エレボン操作法

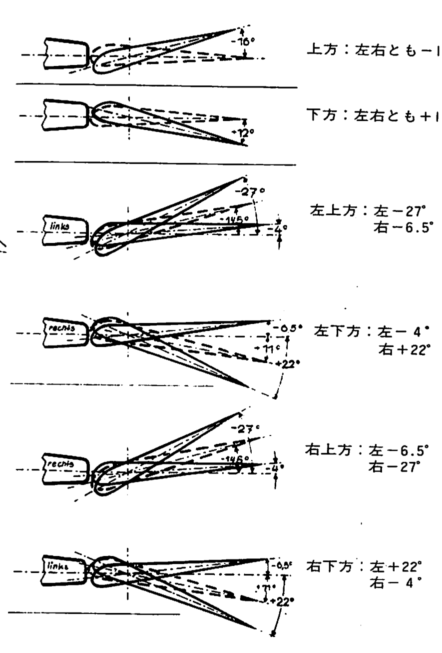
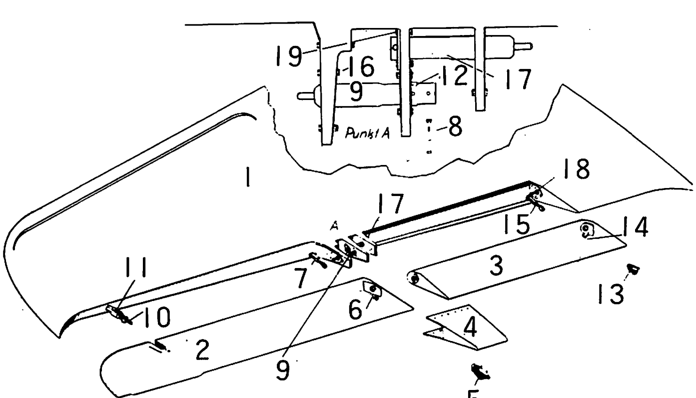
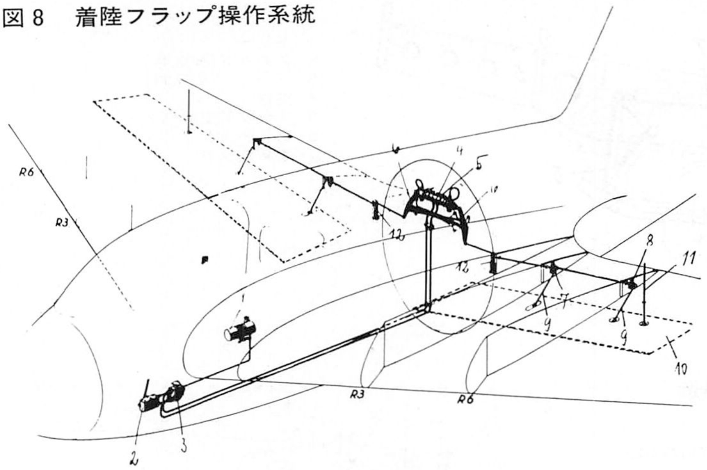


図6　左主翼



1　左主翼
2　エレボン
3　釣合いフラップ
4　後縁フェアリング
5　フェアリング
6　エレボン取り付け部
7　エレボン操作索
8　六角ボルト
9　エレボン取り付け軸
10　外側エレボン取り付け軸
11　取り付けアーム
12　取り付けフランジ
13　フェアリング
14　釣合いフラップ取り付け部
15　操作索
16　六角ボルト
17　外側釣合いフラップ取り付け軸
18　内側釣合いフラップ取り付け軸
19　取り付けフランジ

図8　着陸フラップ操作系統



1　オイルタンク
2　ハンドポンプ
3　切換弁
4　シリンダー
5　留金
6　操作レバー
7　内側操作レバー
8　外側操作レバー
9　フラップ操作ロッド
10　着陸フラップ
11　フラップ位置表示器
12　スウィングレバー

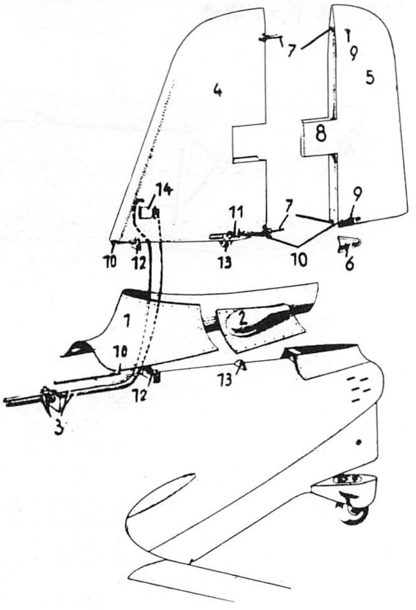
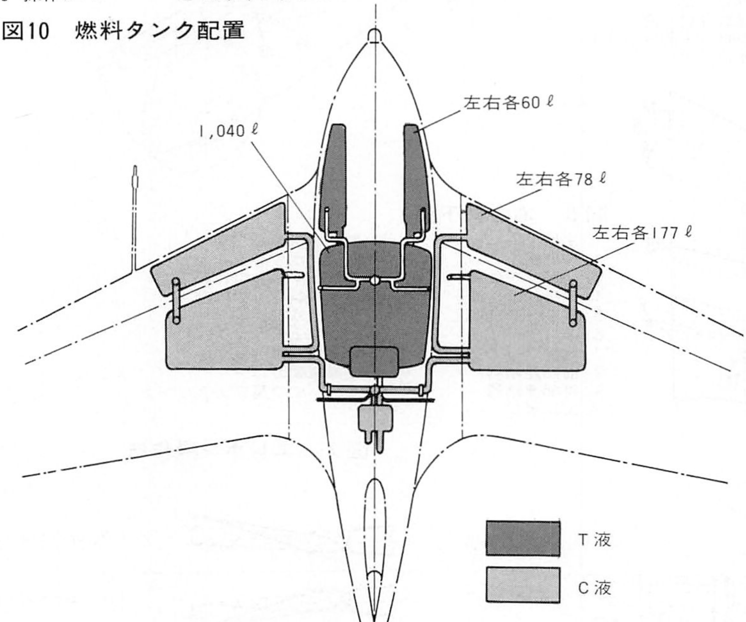


図9　垂直尾翼
1　前部垂直安定板フェアリング
2　後部垂直安定板フェアリング
3　アンテナ線
4　垂直安定板
5　方向舵
6　方向舵操作索用フェアリング
7　方向舵取り付け部
8　ホーンバランス
9　方向舵点検パネル
10　方向舵操作索
11　方向舵用スウィングレバー
12　前部垂直安定板固定部
13　後部垂直安定板固定部
14　FuG16用アンテナ調整器

図10　燃料タンク配置



［　尾　翼　］

垂直安定板は全合板製、方向舵は合板構造に羽布張り。方向舵は安定板の第1リブ（付根）と第5リブに固定されたヒンジに取り付けられる。

垂直安定板前下部にはFuG16通信器用アンテナの調整器が納められており、左舷に小さな点検パネルがある。

［　動力／燃料系　］

ロケットモーターはヘルムート・ヴァルター・キール製HWK 109-509A-1。スロットルは4段で、推力はアイドリングの100kgから全開の1,500kgまで調節できた（A-2は1,700kg）。

燃料はC液（メチルアルコール57％＋水化ヒドラジン30％＋水73％）とT液（過酸化水素80％＋安定剤）で、これらはタービンポンプに連結された2個の遠心ポンプにより燃焼室へ送り込まれた。燃料タンクは計7個に分けて納められたが、操縦席わきのT液タンク以外は防弾式でなかった。

補器類を含むエンジン自体の重量は369kg、燃料は計2,018kgだったが、最大出力での燃料消費時間は7分程度だった。

［　電気／油圧系　］

電気は機首の小プロペラで駆動される2,000ワットの発電器でまかなわれるが、これが空中で作動するまでは24ボルトのバッテリーが用いられた。

油圧系は独立した2系統があり、一方は着陸時のスキッドと尾輪及びドリーの緊急投下用、もう一方は着陸フラップ用だった。

［　通信器材　］

送／受信器はFuG16ZEで、ノーズキャップ内に緩衝器付きでセットされた。キャノピー後方のアンテナ柱はこの受信用で、胴体後部のループアンテナは送信用だった。

敵味方識別装置はFuG25aで、座席の下部にセットされており、アンテナは左翼下面に取り付けられている。

［　武　装　］

実用化に供された生産前型Me163B-0はマウザー20㎜MG151/20×2（各100発）を装備したが、47号機以降はラインメタル・ボルジク30㎜Mk.108×2(各60発）に替えられた。

照準器は標準的なレヴィ16B。

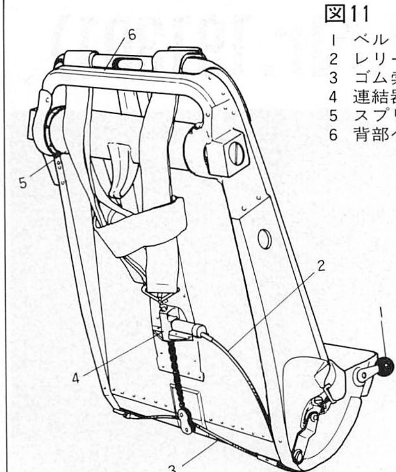


図11　シート裏面
1　ベルト調節レバー
2　レリーズ
3　ゴム索
4　連結器
5　スプリングケース
6　背部ベルト通し

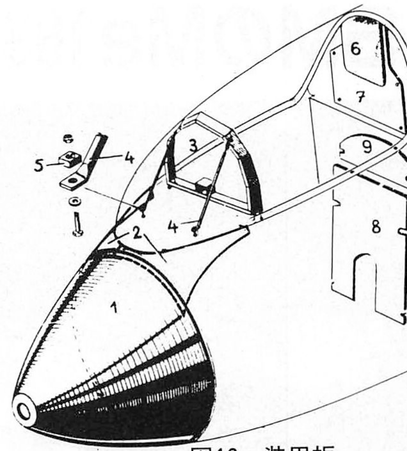


図12　装甲板
1　ノーズキャップ(15㎜)
2　前上部装甲板
3　装甲ガラス(90㎜)
4　支柱
5　ナット
6　ヘッドレスト
7　頭部防弾板(13㎜)
8　背部防弾板(8㎜)
9　肩部防弾板(13㎜)

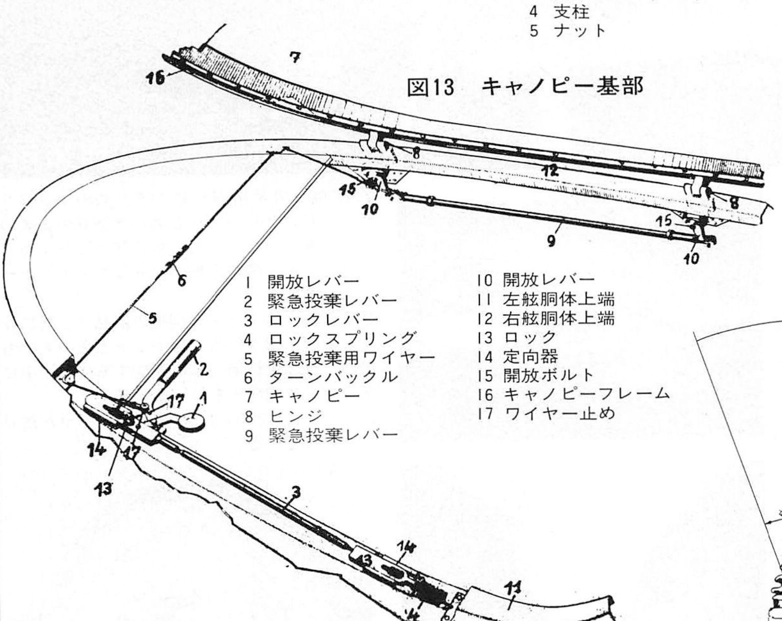


図13　キャノピー基部
1　開放レバー
2　緊急投棄レバー
3　ロックレバー
4　ロックスプリング
5　緊急投棄用ワイヤー
6　ターンバックル
7　キャノピー
8　ヒンジ
9　緊急投棄レバー
10　開放レバー
11　左舷胴体上端
12　右舷胴体上端
13　ロック
14　定向器
15　開放ボルト
16　キャノピーフレーム
17　ワイヤー止め

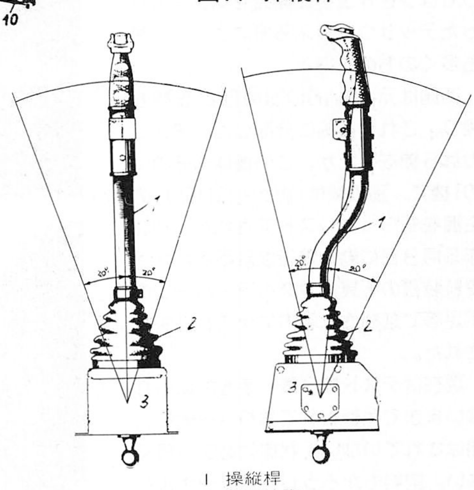


図14　操縦桿
1　操縦桿
2　革製蛇腹
3　基部ハウジング

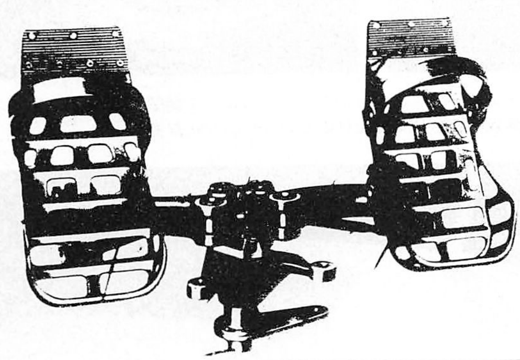


図15　フットペダル

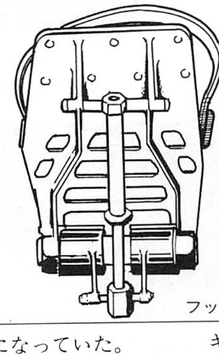


図16　ペダル裏面

フットペダルはプラスチック製

［　コクピット　］

座席は初期のテスト中に荒っぽい着陸によってパイロットの負傷が相次いだことから、12Gまでの衝撃を吸収できるスプリング内蔵式になっていた。

装甲板については図10のとおりだが、前述のようにノーズキャップ自体が15㎜厚の鋼板製で、防弾板を兼ねているのがユニーク。

キャノピーは右側の2個所のヒンジにより開閉されるが、必要があれば図13に見られるような機構で、緊急投棄が出来た。

スミソニアン宇宙航空博物館

NASMのMe163B-1a(W.Nr.191301)

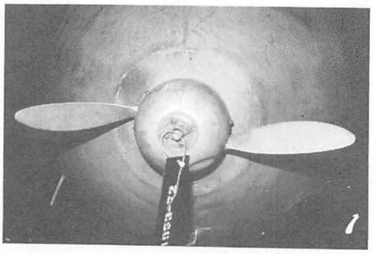


解　説：松樹祐司

終戦後、連合軍各国はドイツ技術の分捕り合戦を展開したが、Me163に関してはソ連が工場と開発センターのあったデッサウを押える事によって、最も多くのものを得た。

西側は元JG400の29機ほどを持ち帰り、これを各国に分配した。アメリカは5機を得たが、この機体もその中の1機で、別の機体（W.Nr.191190）の主翼をもらってレストアされた。1946年5月3日に動力飛行が計画されたが、曳航装置の不具合やスペア・パーツの不足等で延期される内にテストは中止された。

現在はテスト終了後、手を加えられないままで保管されており（一般に公開はされていない）、状態はあまり良くない。塗料もかろうじてオリジナルを残しているが、本来の色調やパターンを読み取る事は困難になっている。



1. 2,000Wの発電器を動かすための小プロペラ。これはスピンナーと共に無塗装のままのものが多かったようだ。陰になってちょっと判り難いが、機首下部の小さなエアインテークに注意。

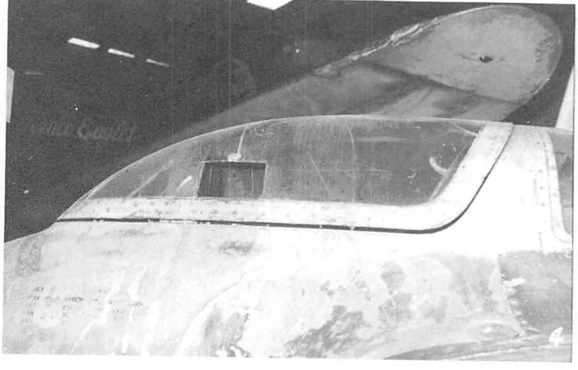


2. ドリー、スキッド等鋼製の部品は、既にかなりの錆が出ている。スキッド上方の丸いものは、機体曳航用の索を固定する所で、中にあるツメで索の先をロックする。

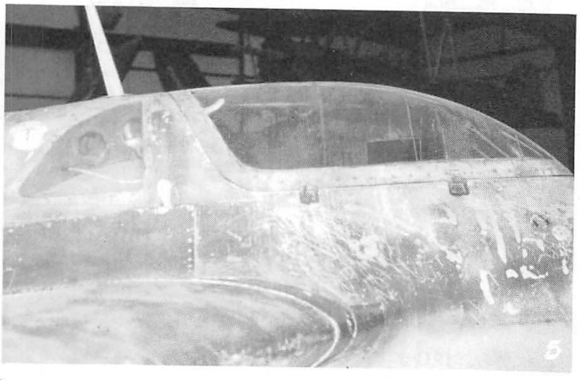


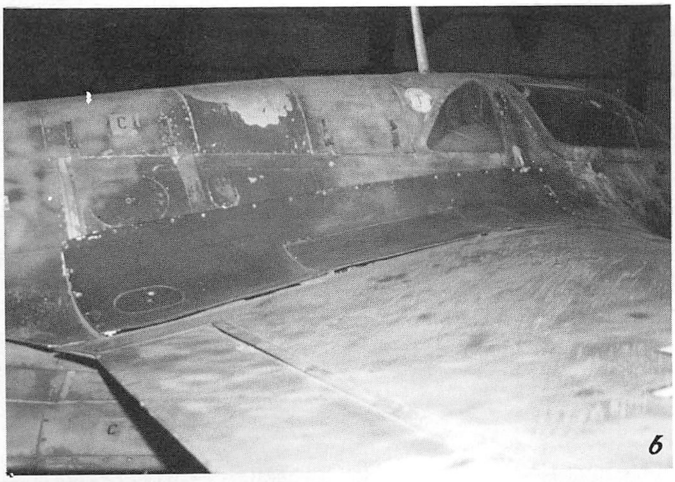
3. ドリーには700×175㎜の低圧タイヤが取り付けられている。

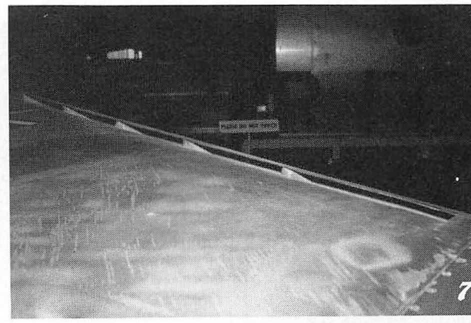
4. キャノピー左舷の小窓は失われているが、これは下方に取り付けられたヒンジで内側に開いた。キャノピーとつながる部分の胴体の微妙なラインに注意。



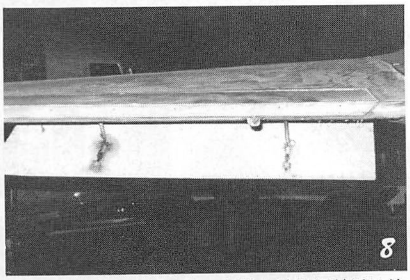
5. キャノピーは右舷の2個のヒンジによって開閉するが、このヒンジは鋼板を打ち抜いただけみたいなシンプルなもの。



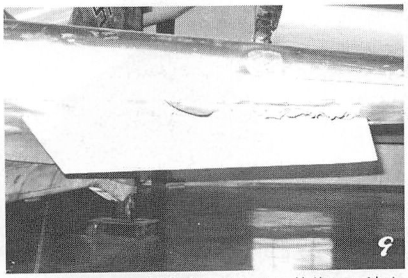




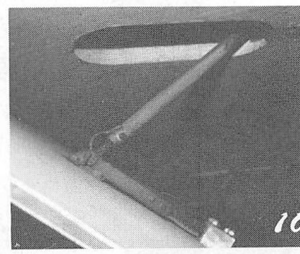
6.理由はよく判らないが、主翼付け根上面のパネルは左右共他の部分よりかなり良く色味を残している。濃い部分の色は81と思われるが、あまり茶色味は感じられない。
7.右翼前縁の固定スロット。これは翼端失速を防ぐためのもの。主翼上面もライトブルーの下地にダークグリーンがスプレーしてある。



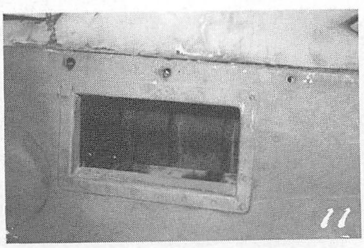
8.左翼を後方から見る。上面の付け根付近は塗料が殆ど剝れて合板の薄茶色が出てしまっている。着陸フラップは降ろした状態になっている。



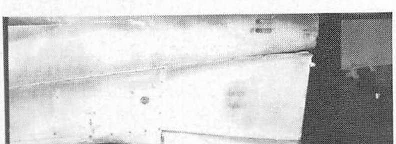
9.左翼下面。中央付近のバルジは前後のC液タンクをつなぐパイプをカバーするためのもの。前縁の暗く見える部分はピトー管の取り付け部。



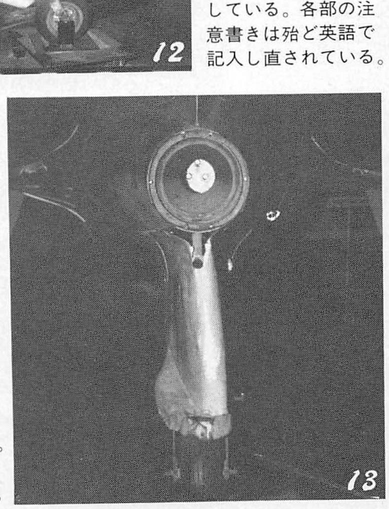
10.着陸フラップの操作ロッドのアップ。着陸フラップの断面から、合板製にジュラ張りという構造が確認出来る。



11.一見判り難いが、これは右舷機銃の薬莢排出口。



12.尾輪もオリジナルのままだが、フェアリングは一部が欠損している。各部の注意書きは殆ど英語で記入し直されている。



13.後方からのアングルで、意外に膨らんだ尾輪フェアリングの形状が判る。ロケットノズルには栓がしてある。ノズル下方に見えるのは燃料投棄用のパイプ。

14.尾翼もキレイとは言えない状態だが、方向舵の羽布張り部と他の部分とでは、塗料の落ち具合いがかなり違っている。T2-500の下のナンバーもオリジナルではなく、当初用いられたFE500(FEはForeign Equipmentの略)。

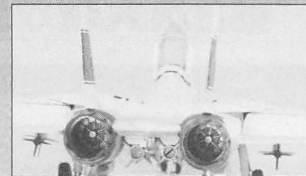


論より証拠!! 31のチェックポイント

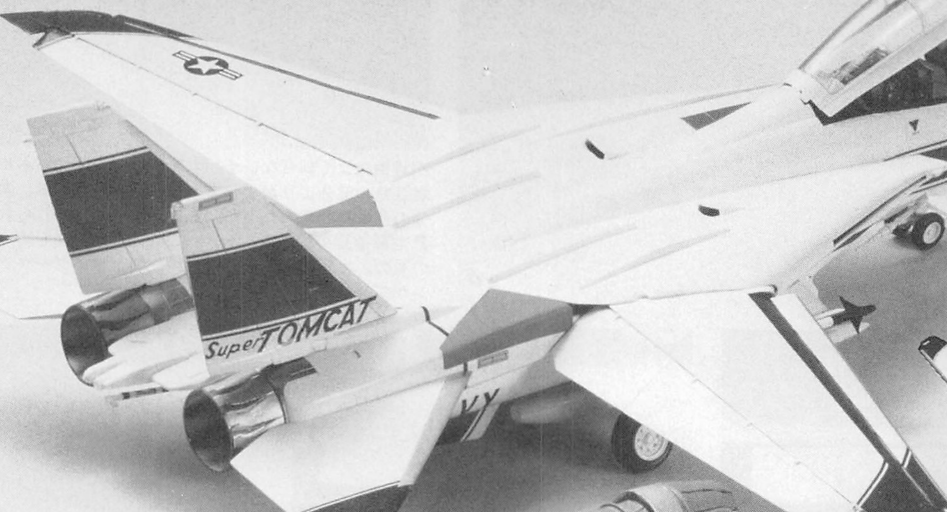
1/72スケールロイヤルコレクションシリーズ

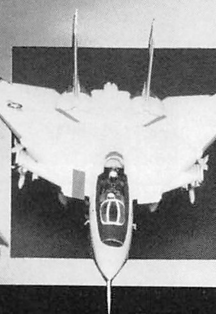
F-14Dスーパートムキャット

第2弾 F-14Aトムキャットは10月下旬発売予定

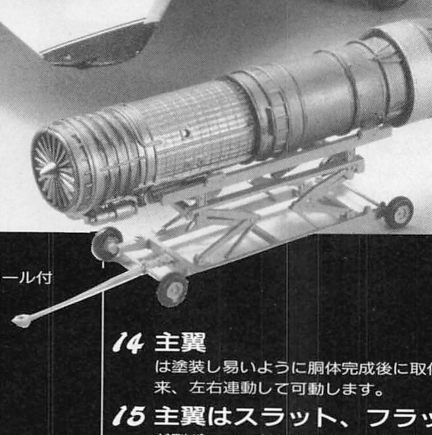


限定発売 ¥3,800 好評発売中









***1* デカール**
2種のテスト機が選べる大型デカール付きです。

***2* 部品点数189点**
(金属パーツを除く。)

***3* レドーム**
はブロック85以降のタイプです。

***4* レドーム内レーダー**
まで再現。レドームは開閉状態選択可能です。

***5* 機首下面のアンテナ**
は各ブロックごとに4種類入っています。

***6* バルカン砲のガス抜き**
はブロック60と85を別パーツ化しています。

***7* ノーズギア**
はカタパルト発進時の脚柱と駐機状態の2種類が選択可能です。

***8* ノーズギア収納庫**
は彫刻で再現されています。

***9* ボーディングラダー**
が別パーツとなり、ステップも開閉状態選択可能です。

***10* キャノピー**
は開閉状態が選択出来る2分割式、独特のΩ型形状をひずみなく再現しました。

***11* シート**
は4分割で再現しました。

***12* 計器盤**
は彫刻とデカールが選択出来ます。

***13* パイロットフィギュア**
おなじみの立体彫刻機によるものです。

***14* 主翼**
は塗装し易いように胴体完成後に取付けが出来、左右連動して可動します。

***15* 主翼はスラット、フラップ**
が別パーツ。あらゆるシチュエーションに対応出来ます。

***16* 主翼上面のスポイラー**
を凸彫りにし、実機の雰囲気を表現しました。

***17* メインギア収納庫**
は彫刻で再現しました。

***18* 前輪、主輪はゴムの質感**
を持った材質を採用しました。

***19* エアダクト側面**
は左右分割方式により彫刻再現されています。水平尾翼の軸受け穴も確保され、スムーズに可動します。

***20* 胴体後部のキャンバス部**
は主翼の開閉状態に合わせて2種類が付いています。

***21* グローブベーン**
は開閉が可能です。

***22* ビーバーティル**
は新旧2種類が付き、スピードブレーキは一体式ですが、実機の雰囲気を出す為、少し浮いた感じを表現しています。

***23* 垂直尾翼**
は補強板付きの最新のものです。

***24* 排気ノズルは2種類**
入っています。

***25* ホワイトメタル**
○ノーズギア2種。○メインギア。○シート×2。○ホイール(前、主輪共)。○サイドワインダー本体。

***26* エッチングパーツ**
○バックミラー。○コクピット後部パネル。○胴体側の基部とキャノピーのロックピン。○シートの両サイド。○脚収納庫内パイピング。○ピトー管センサー。○各部アンテナ。○パネルライト×10。○チャフディスペンサー。○ラムエアインテーク。○ボーディングラダーの側面。○タイダウンチェーン。○バックル付シートベルト。○サイドワインダーのフィン。○エンジンのネームプレート。

フォトエッチングパーツの材料は洋白材が使われています。この材質の特徴はニッパー等の刃先を傷めない加工性の高さにあります。又、ホワイトメタルの材料はスズ100%であり、これらの材質は共に高級なハンダ材料としても使用されています。

***27* エンジン**
は前部コンプレッサーファン、後部エンジンタービン、排気ダクトまで再現しました。

***28* 単体ディスプレイ**
専用F110-GE-400エンジンモデル2機が入っています。(ドーリー2機付。)

***29* カットモデル**
派のモデラーにはディスプレイ用エンジンモデルを胴体内に組み込む改造をお勧めします。

***30* ライト類はクリアーパーツ**
衝突防止灯、着陸灯などのライト類はクリアーパーツを使用しています。

***31* アクセサリーパーツ**
は燃料タンク×2、AIM54フェニックス×4、AIM7スパロー×2、AIM9Lサイドワインダー×2、LA610偵察カメラポッド×1。

お待たせしております1/72・バックアップシリーズ・デッキクルーセットは10月下旬予定,予価¥800にて現在,最終の追いこみ中です。

FUJIMI フジミ模型株式会社/静岡市登呂4-21-1 〒422 ☎(0542)86-0346(代) FAX(0542)86-0349

第2次大戦中に飛行したロケット、ジェット機データ



◀ロケット機データ

	He176	Me163A	Me163B-0	Me163C	Me263A	秋水	BI
動力	HWK-RI-203	HWK-RII-203b	HWK109-509A-1	HWK109-509C-1	HWK109-509C-1	特呂2(KR10)	D-1A-1100
推力(kg)	600	750	1,700	1,700+300	1,700+300	1,500	1,100
最高速度(km/h)	750	1,003	900	950	1,000	900	990
上昇時間(m-分・秒)	4,000-1′6″		6,000-2′16″ 10,000-3′11″ 12,000-3′27″		15,000-3′	6,000-2′16″ 10,000-3′30″ 12,000-3′50″	5,000-35″ 10,000-59″
航続時間	50″	4′30″	7′30″	12′	13′12″	6′36″	3′9″
全長(m)	5.20	7.20	5.82	7.05	7.95	6.05	6.48
全幅(m)	5.00	10.60	9.30	9.80	9.50	9.50	6.40
全高(m)			2.50	3.05		2.70	2.06
翼面積(m²)	5.40	17.50	19.60	20.40	17.80	17.73	7.00
自重(kg)	780	1,450	1,777	2,200	2,105	1,505	958
全備重量(kg)	1,620	2,400	3,950	5,116	5,305	3,900	1,683
武装	——	——	20mmMG151/20×2(各100発)後に30mmMk.108×2(各60発)	MG151/20×2(各100発)またはMk.108×2(各60発)	Mk.108×2(各75発)	30mm五式×2(各50発)	20mmShVAK×2(各45発)

▼ジェット機データ

	He178V	He280V-3	He162A-2	Me262V1	Me262A-1a	Me262A-1b	Me262A-2a	Me262B-2	Me262C-1a	カンピーニN1	E.28/39	ミーティアF.1	バンパイアF.1	XP-59A	XP-80A	XFD-1	橘花
動力	HeS3b×1	HeS8a×2	BMW003E×1	ユモ210G×1+BMWP3302	ユモ004B×2	BMW003A×2	ユモ004B×2	ユモ004B×2	ユモ004B×2+HWK509A×1	イソッタ・フラスキーニ	ホイットルW.1X×1	ロールス・ロイスウェランドI×2	デ・ハビランドゴブリンII×1	ジェネラルエレクトリックI-16(後のJ31-GE-5)×2	ジェネラルエレクトリックI-40(後のJ33-GE-9)×1	ウェスティングハウスWE-19XB-2B×2	ネ-20×2
推力(kg)(1基につき)	450	750	800	750HP、550	900	800	900	900	900、1,500	900HP	363	771	1,406	726	1,746	726	475
最高速度(km/h/m)	632/SL	780/SL	838/6,000	——	870/6,000	802/6,000	825/6,000	841/6,000	922/6,000	375/3,000	750/3,050	675/3,050	854/5,334	653/9,144	898/SL	784/SL	696/10,000
航続距離(km)		410	620	——	845				1,020				1,175		2,124	1,207	1,128
上昇限度(m)			12,000	——	11,400	11,000	10,300	10,500	12,200	4,000	9,750	12,200		13,716	12,500	13,320	12,000
全長(m)	7.48	10.40	9.05	10.46	10.60	A-1aと同じ	A-1aと同じ	11.75	A-1aと同じ	13.10	7.72	12.57	9.37	11.84	9.78	11.35	9.25
全幅(m)	7.20	12.20	7.20	12.35	12.65	〃	〃	A-1aと同じ	〃	15.80	8.84	13.11	12.19	14.94	11.28	12.42	10.00
全高(m)	2.10	3.06	2.60		3.83	〃	〃	〃	〃		2.82	3.96	2.69	3.75	3.12	4.32	3.05
翼面積(m²)	7.90	21.50	11.16		21.70	〃	〃	〃	〃	36.00	13.61	34.74	24.71	37.16	22.07	25.64	13.20
自重(kg)	1,650	3,055	2,338		4,000			4,764	4,480	3,640	1,309	3,692	2,893	3,611	2,852	2,792	2,300
全備重量(kg)	1,988	4,300	2,805		6,775	6,500	7,100	7,700	8,260	4,195	1,700	6,257	4,758	4,746	4,048	4,242	3,500
武装	——	20mmMG151×3(計画)	MG151×2(各120発)	——	30mmMk.108×4(各80発×2、各100発×2)	A-1aと同じ	Mk.108×2+500kg爆弾×2	A-1aと同じ	Mk.108×6(計画)	——	——	20mmイスパノMk.II×4(計700発)	20mmイスパノ×4(各150発)	37mm×2	0.50″ブローニングM2×6(各300発)+500lb/1,000lb爆弾×2	0.50″ブローニングM2×4	500~800kg爆弾×1

Me163MODEL VARIATION

Me163の進化を1/72のモデルで楽しむ。どうしてもバキュームフォームのキットや、パーツによる改造が多くなり工作も楽とはいえない。しかし、実用化された唯一のロケット戦闘機をファミリーで揃えることも意義のあるモデリングとなることだろう。

Me163A V1

エアモデル1/72　製作と文：平　均

Me163Aシリーズは模型界でも殆ど顧みられることがないが、実用型であるB型への踏み台として多くのデータを提供し、パイロット達には未知のロケット機への習熟用にも用いられ、また、航空史上最初に時速1,000kmを突破した機体ともなっている。

確かに外形的にはヌメッとした両生類的で、B型の如何にも軍用機らしい締まった力強い姿態に比べると、人気のないのもさもありなんといった気になってしまうが、ドイツ機ファンならコレクションに入れておくに値する機体ではあるのだ。

キット

Me163Aのキットは今のところ、真空成型によるものだけで、西独のエアモデルとカナダのVPから発売されている。VPのほうは見ていないので断言は出来ないが、恐らく原型は同じものと思う。他にもDFS194やMe163C-0も発売されているので、出来ればコメートファミリーをズラリと並べてみたかったが、この手のキットは欲しい時にすぐ手に入るというものではないので、今回は断念となった。

作例はエアモデル製のキットで、それ程上出来とはいえないものの、実物がシンプルなおかげで比較的短時間で完成させることは出来る。

組み立て

先ず、パーツ割りが少々気に入らない。主翼下面は胴体中央部からの2分割となっているのだが、これだけの大きさの機体にこの分割法は適切とはいえまい。主翼下面を左右通しの1枚ものにするか、主翼だけを別パーツにし、胴体は主翼部も切り欠かないものにしてくれたほうが、より組み立て易かったと思う。

また、主翼下面と胴体のそれぞれの接合部は余分めにモールドしてあって、作り手が任意の部分まで切り取るようになっているが、こういう自信無げであなたまかせの手法はほめられたものではない。

結局筆者は、主翼下面の胴体部分は予め切り離して、初めに胴体側に接着してしまい、主翼はそれだけで別に組み立て、後で胴体に接着することにした。

コクピットは説明書にも写真が載っているが、B型のとは大分違っており、塗装も明るい色、恐らくRLMグレイと思われる。何しろ狭いこともあって作例では極く基本的なパーツしか入れていない。

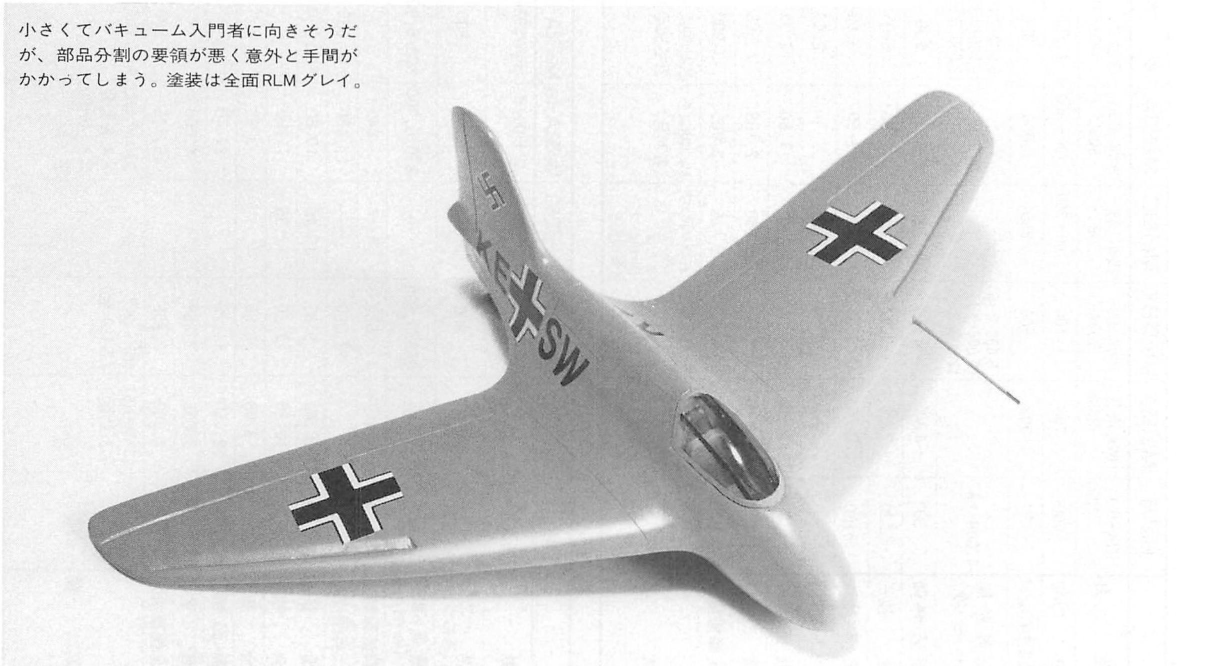
本機はかなり小さい機体ではあるが、胴体は割とフニャフニャなので、バルクヘッド等を入れて強度を確保するのは是非必要。

機首の形状は今ひとつ感じが出ていないので、パテを盛って修整。

キャノピーはストレートに作る分には合いも良くて余り問題ないのだが、出来上って見ると感じが違う。これはキャノピー下面の線が本来曲線であるべきなのがまっすぐになってしまって、やや浅くなっていることと側面形で上面のラインが滑らかすぎるのが原因。修整には自作するしか手はない。

主翼はちゃんと捩り下げが再現されているから、作業中に消してしまわないようにしないといけない。主翼にはいろいろ問題があって、どうも作例はミスを犯してしまったらしい。

つまり作例の機体はMe163AV1なの



小さくてバキューム入門者に向きそうだが、部品分割の要領が悪く意外と手間がかかってしまう。塗装は全面RLMグレイ。

であるが、この機体にはまだ主翼前縁のスロットはなく、替りにBf109でもお馴染みの自動スラットが付けられていたらしい。このスロットはＢ型にも用いられたものだが、Ａ型ではどの機体から導入されたのかは不明である。

また、主翼下面にはＢ型のと同様の着陸用フラップも装着されるのだが、これはＡＶ１の滑空試験時に本機の沈下率が異常に低いことが判っており、動力飛行時には既に着陸用フラップは装備されていたと見るべきだろう。

本機の表面は良く仕上げられ、ピカピカに磨かれていたようで、パネルラインは殆ど確認出来ない。スジ彫りクッキリ派の方々には物足りないだろうが、スジ彫りは舵翼とソリの部分ぐらいに止めておいたほうが、実機のイメージを再現出来そうだ。

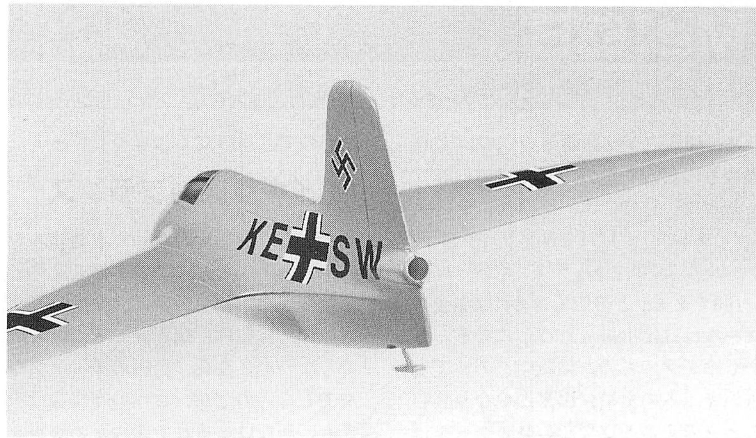
このノッペリかげんを強調したかった訳ではないが、作例では幾つかの小パーツが間にあっていない。つまり、主翼下の動翼操作リンクのフェアリング、翼端下面のバンパー、それにエレボンのトリムタブと方向舵のヒンジ等である。

離陸時用のドリーはＢ型用のものとは異なっており、それもＡシリーズの初期型と後期型ではまた別なものになっているのだが、これも作っているヒマがなかったのでエレールのキットに入っているトレーラーに載せてしまった。これは地上では自力で動くことの出来ないMe163の必需品であったが、トレーラーの部分には幾つかのタイプがあり、この油圧式のアームを持ったものは後期型で、Ａ型との組み合わせは正しくない。初期のタイプはエアで膨らませた２個のバッグの上に機体を載せていた。

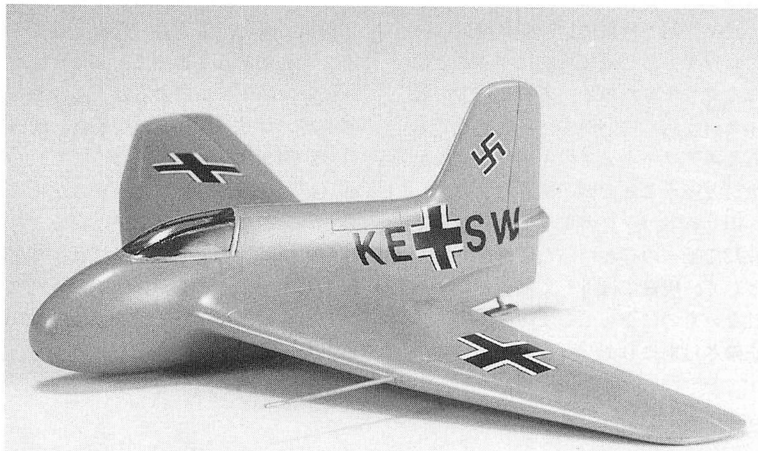
小型の牽引車は何れのタイプのトレーラーにも用いられたもので、ショイ・シュレッパー（内気な、または恐がりの牽引車）と呼ばれ常用された。

塗装

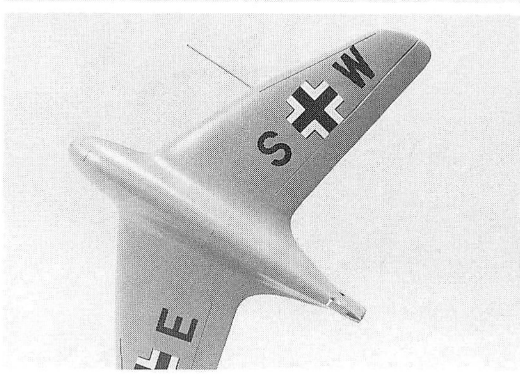
全てのMe163Aは全面ＲＬＭグレイで、マーキングも国籍マークとファクトリーコードが記入してあった程度。何れも代り映えはしない。



ロケットのノズルはシャープに工作したいところ。



両生類的な線でまとめられたＡ型。案外Ｂ型よりこっちのほうがいいなんていう人も多いのでは？


主翼下面には動力飛行時にはＢ型のように着陸用フラップが付いていたと思われる（作例では未装備）。

デカールはマイクロ、ハセガワ等の寄せ集めだが、胴体の小さなコードレターにはピッタリするものがなく、インレタの類いを使用した。

最後にMe163Aのモデリングに際し、資料をひとつ紹介しておこう。それはファナティック・ド・ラヴァショー誌No.143のモデリングのページで、僅か４ページに実機の写真もないが、エアフィックスキットからの改造例と、ショイ・シュレッパー、初期型トレーラーを含むＶ１とＶ６の1/72図面は、かなり参考になるだろう。

Me163B

エレール1/72　製作と文：平　均

Me163Bのキット運というのはどれ程のものだろうか。これまでに1/32でハセガワ、1/48でホーク（後にテスター/イタレリ）、1/72でリンドバーグ(現レベル)、エアフィックス、エレール、1/100でタミヤと絶版も含めれば主要スケールはほぼ出揃ったことになる。しかしホークのものが絶版で、あっても古いキットのために出来がかなり甘いことを考えると重要な1/48スケールは欠落していると考えて良いだろう。

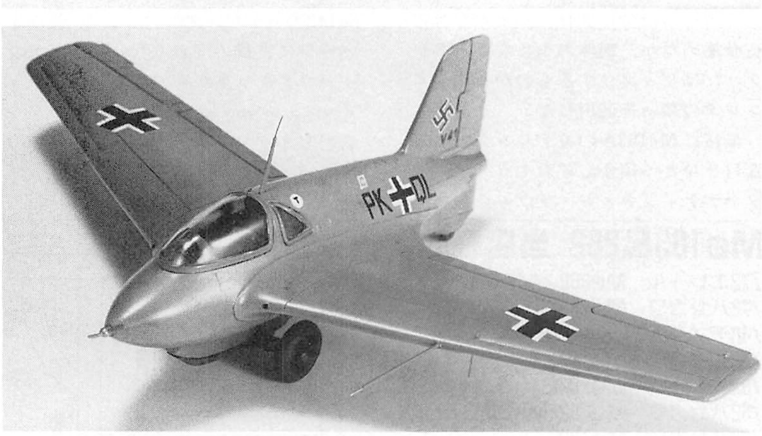
元々今回の特集に1/72のB型は入っておらず、おじゃま虫的に作ることになってしまったので、各社キットの競作という訳にはいかず、現在絶版でもあるエアフィックスのキットは完成品ナシということで御了承願いたい。

旧リンドバーグのキットは、かつて1/72で唯一の存在だった頃はともかくとして、現在ではさして価値の認められないものになってしまった。但し、正確さは別にしてパーツの精度自体は高いので、組み立ては容易なキットだ。

イギリス対フランス

ところで原稿を書き始める前にエレールとエアフィックスの胴体を並べてみたら、なんと前者のほうが5㎜程長い。筆者は普段、余程怪し気なキットでもないと、全長、全幅のチェックなんてしないのだが、こういう場合はそうもいかない。それで幾つかの資料を当ってみると5.85ｍと5.69ｍという数字が出て来た。こういった有名機でこんな混乱があると困ってしまうが、取り扱いマニュアルによると、どうやら発電器プロペラ付きでの全長は5.82ｍ(1/72で約8.08㎝)、プロペラなしで5.70ｍ（1/72で約7.91㎝）というのが正解らしい。どうにかこれでひと安心と思ったら、エレールのほうはプロペラを含めないでほぼ5.82ｍ、エアフィックスのほうはプロペラを入れてほぼ5.70ｍとなってしまった。となると前者は長すぎ、後者は短かすぎということになるのだが、そうなるとどちらも僅かなもので、今回のように両者を比べでもしなければ、完成後のイメージに影響を与えることはない。





この両者、パーツ割りもほぼ同様で、パネルラインは細い凸線と、良く似たキットではある。細部の再現性は一長一短あるが、エレールのほうはパネルの段差等を強調してアクセントを付けた表現になっており、このサイズのキットに相応しいメリハリの付いた仕上りになる。

胴体の表現もエレールのほうが適確。エアフィックスのは主翼フィレット前縁部辺りの胴体の曲面がちょっとおかしくなってしまっている。

インテリアもエアフィックスのは手抜き気味で、エレールの勝ち。

胴体下面のスキッドがある所から尾端までの細長いフェアリングの下面はエレール・キットのように幅が均一なのが正解。エアフィックスのほうはスキッドのブラケットもパーツ化されているので、スキッドを降ろした状態にすることも出来る。

主翼はともに捩り下げがちゃんと再現されているが、全体の感じはエアフィックスのほうが良い。エレールのは翼端部が厚すぎてボッテリしている。エアフィックスのでは下面の着陸用フラップが忘れられている。エレールのでは左翼下面に棒状のパーツが付くが、これはFuG25a無線器用のアンテナである。見落されがちなものなのを良くパーツ化したものだが、勿論スケール的にはまるで太すぎるので、金属線で作り替えてやる。

オプショナル・パーツとしては、両者共、尾輪がフェアリング付きとそうでないものの2種が入っている。エレール・キットのほうは値段が高いこともあって、さらにショイ・シュレッパーとトレーラーまでセットされている。さすがに機体に比べるとかなり大雑把な作りで、オマケの域を出ないが、飾り台と考えれば充分なものである。余談ながらショイ・シュレッパーはコメートを離陸位置まで移動させるのにも用いられたが、その場合は後部に1輪加えて、3輪車とした。

赤い彗星

キットの指定塗装はエレールがＢＶ47と2./JG400の“白の10”、エアフィッ

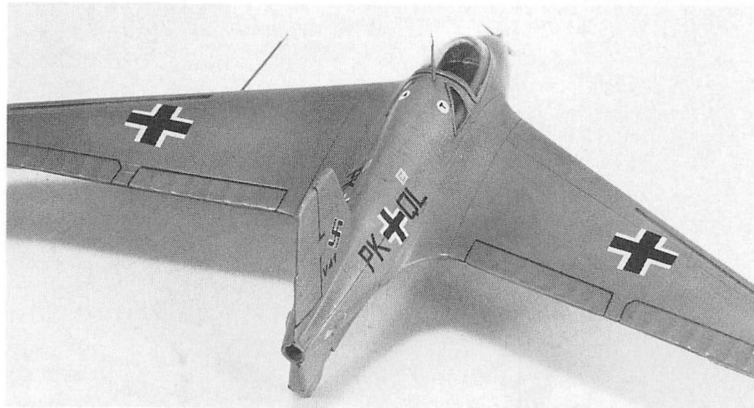
クスが同じく〝白の10″と14./JG400の〝白の54″。

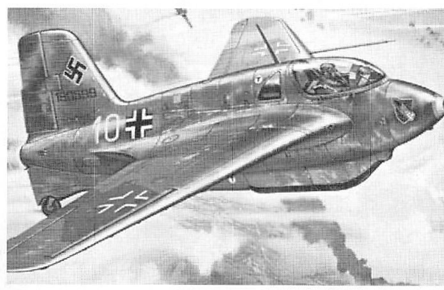
作例では年のせいか恥ずかしげもなく、真紅のB V41に仕上げてしまった。この元祖〝赤い彗星″は各社キットの指定になっていて、恐らく最も有名なコメートの1機だろう。

本機はEK16に配備された最初の12機のMe163Bの1機で、JG400の実戦投入に先立ち、EK16の指揮官であるヴォルフガング・シュペーテ少佐自らの操縦によって、ロケット機として最初の実戦参加をした機体なのである。

その日は事前に1944年5月13日と決められていたが、当日、使用機が全体を赤く塗り替えられていたことは少佐を驚かせた。これはロケット戦闘機の最初の実戦使用に際し、無事に任務が達成出来ることを願った整備兵らが、かの伝説のエース、リヒトホーフェンの乗機に因んで全面を赤に塗ったものだった。

シュペーテ少佐は赤いコメートで出撃し、2機のP-47を発見するが、攻撃をかける前にモーターが突然停止してしまう。2分後にやっとモーターの再始動に成功し、再びP-47を追うが、今度は速度の出しすぎで衝撃波が発生し、機体は降下を始めた。少佐は機体を立て直すことは出来たが、既に攻撃の機会は失われており、P-47は何も気付か





エアフィックスのMe163B（カタログより）

ぬまま去っていった。

シュペーテ少佐は99機のスコアを残した柏葉騎士鉄十字章授章のエースで、スコアの大部分は東部戦線でのJG54時代に挙げられたものだが、EK16からJG7に移ってからもMe262によって重爆5機を撃墜している。

で、この赤いコメートだが、実際に写真が残っているのかどうかは知らない。但しその大本となった塗装図が載っているプロフィルNo.225は、シュペーテ自身が共著者となっているものなので、細かい部分はともかく、まず信憑性はあるものだろう。

エレールのデカールは以前のものに比べ大分質が向上したが、シンナーに弱いので、仕上げにクリアーをかける時は少量ずつを繰りかえす。

Me263 V1

フーマモデル1/72　製作と文：火田七瀬

はじめに

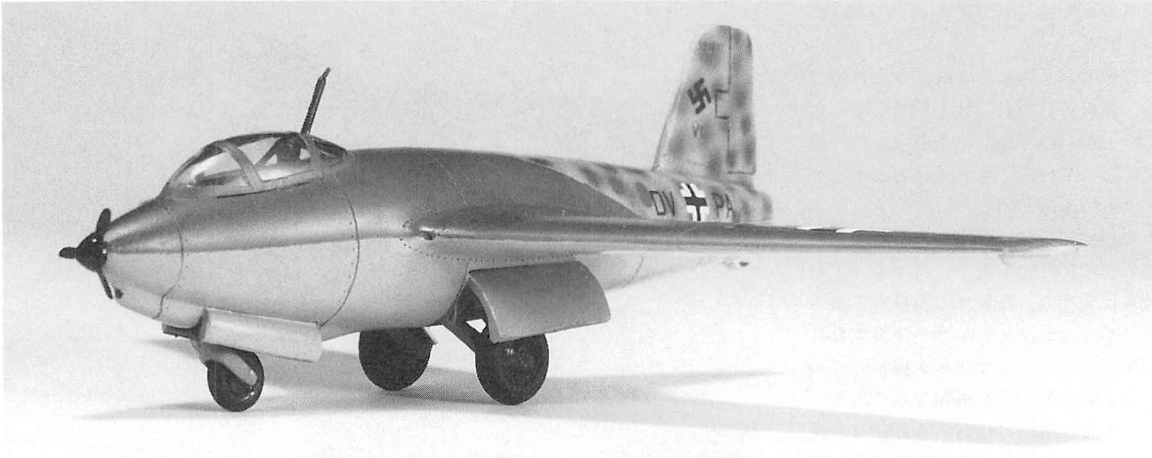
落日の第三帝国を救わんと、彗星のごとく登場したMe163〝コメート″。しかし、あまりに短い飛行時間と降着装置を持たない機体は充分な作戦行動が取れず、世界初の有人ロケット要撃機としてその性能を発揮することができなかった。そこでこの欠点を解消するために燃料タンクを大型化し、引き込み式の着陸装置を装備して登場したのがMe263であります。実機についての解説は別稿を参照していただくとして、ここでは西ドイツ製フーマモデルの1/72Me263をご紹介いたします。

マニアが泣いて喜ぶ!?

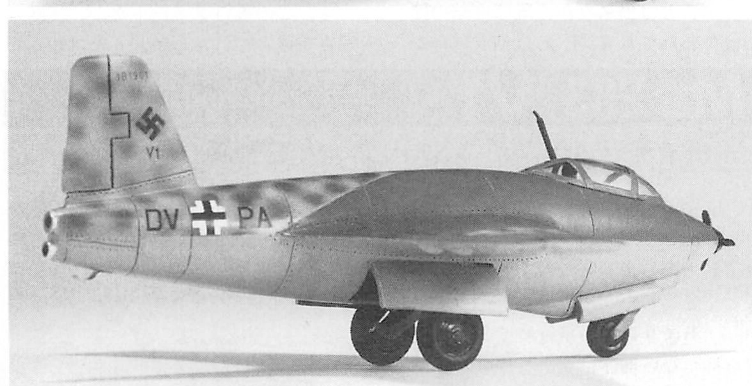
キットはパーツ数36点の白いプラ材のランナーが1枚と、キャノピー、デカール、そして解説書がビニールパックされています。モールドは凹ですが、全体にエッジが甘く樹脂成型キットのような印象を受けます。パーツの合いはそれほど悪くなく、また成型精度も



まさかMe263のインジェクションモデルが出るとは!!塗装は上面が81と82、下面は76。







良好で、接着後のパーティングラインを消すのに瞬間接着剤を使った程度です。

ところで、このキットの一番の特徴は何かというと、組み立て説明書にあるといえます。大判の上質紙に機体の概要、組み立て図、塗装図の他に実機写真３枚(うちコクピット内２枚)と、Me263が高度１万５千ｍまで上昇する間の燃料消費量のデータを示すグラフ(ドイツ語で㊙という判が押してある)までが印刷されているのです。Me263に関する解説の中に今まで日本国内で出版されてきた書物に書かれているものとはちょっとニュアンスの異なる記述があったり、まったく別物の２種類のコクピット内部写真が出ていたり、ユンカース型とメッサーシュミット型の２種類(!!)のパーツ、デカールが用意されているなど、真偽のほどはともかくとして、マニアにとっては大変興味深い内容といえるのではないでしょうか。

作るのはかーんたん

コクピット内は非常にあっさりとしていて、メインパネルに計器のデカールを貼るだけです。完成後内部はよく見えませんが、パイロットを乗せない場合はシートベルトを取り付けたほうが良いでしょう。また、ヘッドレストと正面の防弾ガラスがオミットされていますので、余力のある方は自作してください。説明書には指示がありませんが機首におもりを入れることをお忘れなく。主脚室内はまったくの筒抜けになってしまいますのでせめて後方の隔壁だけでもプラ板から作ってやりましょう。主脚柱は取り付け位置が分かりにくいので説明書の脚部構造図を参考にしながら作業すると良いでしょう。後部ノズルは両方とも開口し、大きいほうを上にして接着します。本キットにおけるJu型とMe型の相異点は主脚カバーが異なるだけです。どちらを作るかはあなたの自由！です。

でも塗るのは……

この機体を作る上で一番不可解なのが塗装とマーキングです。キットの塗装図によればMe263とJu248ともに同一の塗装パターンで、下面ＲＬＭ76、主翼上面74/75直線分割、胴体上面前方75、後部は74地に22(黒)のインクスポットということになっています。またW.Nr381001、DV＋PAはJu248で、Me263はテール上部に599　190が記入されているようになっています。時期的に74/75の可能性がないともいえませんし、同時期のMe163を見ると81/82のような気もするし……ドイツ機についてまったく無知な私には判断が付きません。作例はモデルアート別冊「ドイツ軍用機の塗装とマーキングVol.1」に掲

載されている塗装図を基に、Me263V1 DV＋PAとして81/82カラーで作りました。カラーの配合は同別冊を参照してください。今回、バルカンクロイツのみマイクロデカールを使用しました。

キットのデカールはつや消しで黒の発色がやや弱いことを除けば概ね良好です。

おわりに

本機はマイナーな機体ながらドイツのジェット・ロケット機を語る上でどうしても必要な機体です。キットとしての稀少性も高いので是非コレクションの1つに(もちろん完成させて)加えてみてはいかがですか。

Me263 V1

エアモデル1/72　製作と文：「倉敷翼端灯」鳥越徳浩

キット製作

スジ彫りはかなり甘いので一度瞬間接着剤で埋めて彫り直し。コクピットは資料がないので適当に作りましたが後でWaffenaresenalに写真が1枚のっているのを見つけました。

主翼はいい図面がないのでキットに付属しているものに合わせて作りました。翼端にはバルジがあるのでプラ板から削り出して接着。

機首下面の空気取り入れ口はキットのパーツは使わずプラ板を細く切って箱組みして接着してから削ってそれらしくします。作例ではこれの長さが不足してしまいました。

前脚柱、主脚柱ともに流用できるパーツが無いので真鍮線、真鍮パイプ、プラ板などからの自作となります。

前輪は1/72スケールのファントムから、主輪はハセガワ1/72スケールのMe262から流用しています。

ここの工作にはMotor Buch Flugzeugfdhrwerke があると非常に参考になります。僕は持ってなく一部間違ってしまいました。

機首のプロペラはランナーをモーターツールにはさんで回転させながら円錐状に削りスピンナーにします。

ブレードは真鍮線から製作。

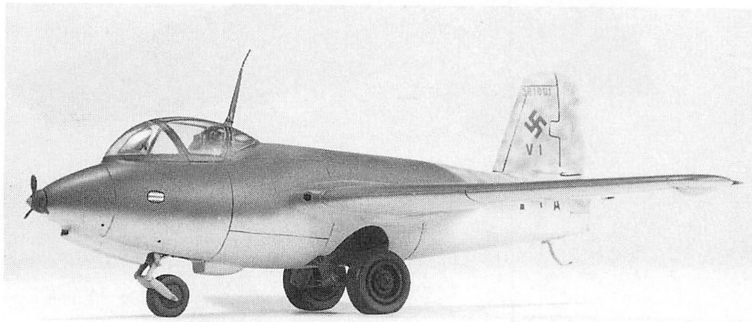
排気口は真鍮パイプから作りました。

モラーネアンテナと尾そりも真鍮線で自作しましたがピトー管はないようなので付けませんでした。

塗装とマーキング

塗装は野原先生に従って下面を76、胴体前部を81、後部を81と82のインクスポットとしました。

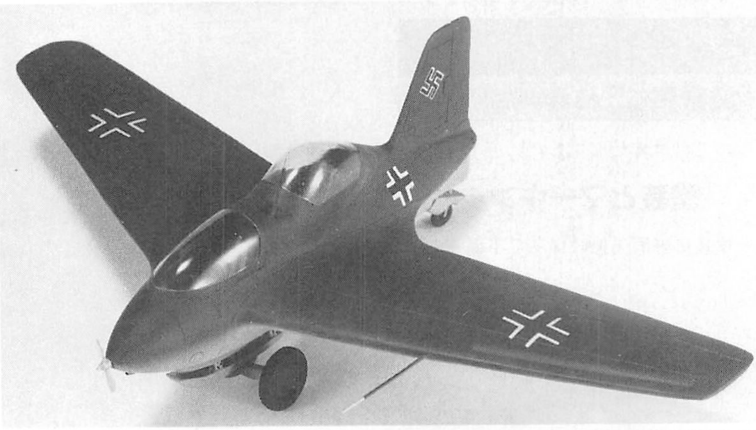
スピンナー先端は色が変っているようなので赤を塗ってみました。





Me163S

エアモデル改造パーツ＋エレール1/72
製作と文：「倉敷翼端灯」鳥越徳浩







まるで子供を背負ったようなMe163S。風防はエアモデルのパーツから石膏で型取りしエンビ板で絞り直したもの。

Me163の複座と聞いてすぐに松本零士のまんが「エルベの蛍火」を思い出すミーハーファンなので製作を引き受けた後で無動力の練習用グライダーと知ってがっかりしてしまいました。おまけに資料はほとんどない上にMe262 C—1aで時間を使い果たし締め切りを過ぎての製作となりどう仕様もない出来になってしまいました。どうもすいません。

資料としては

○Waffen Arsenal Me163
○航空ファン　'82年　10月号
を使いました。

Warbirds Illustrated No.6 The Luftwaffe 1933—1945 Vol.IVにソ連マークの機体の写真がありますが、これはソ連が改造したらしく、今回は野原先生の図面に従いました。

キット

エアモデルの改造パーツは前後キャノピーが一体で整形されていますが透明度が悪いので石膏で型取りしエンビ板で作り直します。この時前後一体では絞れないので後部キャノピー直前で石膏型を切断して後部のみを使いました。前部キャノピーはエレールのキットのものを型に絞ります。

前部コクピットはB型と同じとし前面ガラスは取り付けません。

後部コクピットは資料が全くないのでそれらしく計器盤や操縦桿を配置しておきます。コクピットが出来たら胴体を接着し後方窓も瞬間接着剤でしっかりと接着しすり合わせをします。

キャノピー取り付け部にプラ板でのりしろを作って接着しキャノピーは瞬間接着剤で強引に接着します。

この時キャノピーとのりしろの間に硬化促進剤を流し込んでおくと曇らないようです。後はペーパーがけしクリアー塗料を吹き付けた後でコンパウンドがけして仕上げます。こうしないと、エンビに傷を付けるといくら磨いても落ちないようです。

排気口周囲はキットのままとしましたがエンジンが外されているので、もしかしたら塞がれているかもしれません。主翼は胴体との間にかなり隙間が出来るので瞬間接着剤で埋めて整形します。モラーネアンテナは真鍮パイプをつぶして作り左側にオフセットして取り付けます。尾輪とスキッドはキットのままだと飛行状態しか出来ないので支柱を作って下げた状態にします。プロペラはキットの物を逆方向から削って軸がズレているのを表現しようとしたが効果がなかったようだ。ドリーは真鍮線を軸に取り外しが出来るようにしてみました。

塗装とマーキング

本機のドイツマークの写真はないのだがやはりドイツ機にはドイツマークを付けたいのでWaffen Arsenalに出ていたソ連マークの塗装を参考にして、下面76、上面81一色とし、国籍マークだけとしました。おまけにエレールのキットに付属している牽引車を作ってみた。ハセガワのメンターに付属している牽引車からタイヤ、フック、ハンドルなどを流用し、後は真鍮線などでディティールアップしてあります。

最後にいつも心よく資料をお貸し下さる高田氏と励まして下さった真鍋、石山、野瀬、大西各氏どうも有難う。

今、中古車は新しい!?

ケンメリスカイラインとクレスタスーパールーセント、お買得な中古車が今、店頭でお安くなっなんと　800円ポッキリ、年式は古いけれども中身は新品。豊富なオプションパーツもいっぱい。



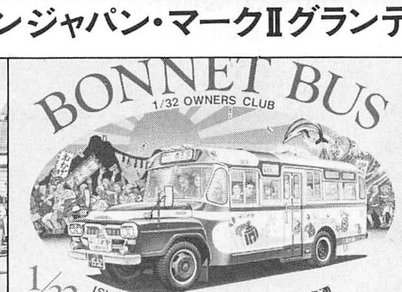
SKYL… 2000 GT-X 4DOOR SEDAN
ケンメ…カイライン2000GT-X 4ドア



TOYOTA CRESTA Super Lucent turbo
《57年式》トヨタクレスタ スーパールーセント ターボ

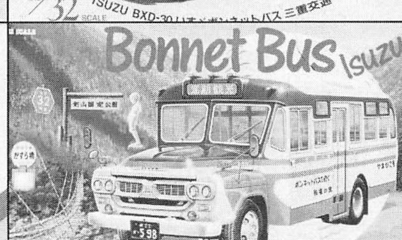
★スカイライン ジャパン・マークⅡグランデ もお値打ち!!











全国を走り回っているボンネットバスもくたびれてません。
元気に5タイプ勢揃い。《各1,500円》

▼千曲バス ◀三重交通 ▲呉市交通局
◀中央バス ◀四国交通《NEW》

昔懐かしオーナーズクラブ再始動第2弾。
ミゼット(後期)・N360・R360・ミラウォークスルーバン 発売!!

LS エルエス

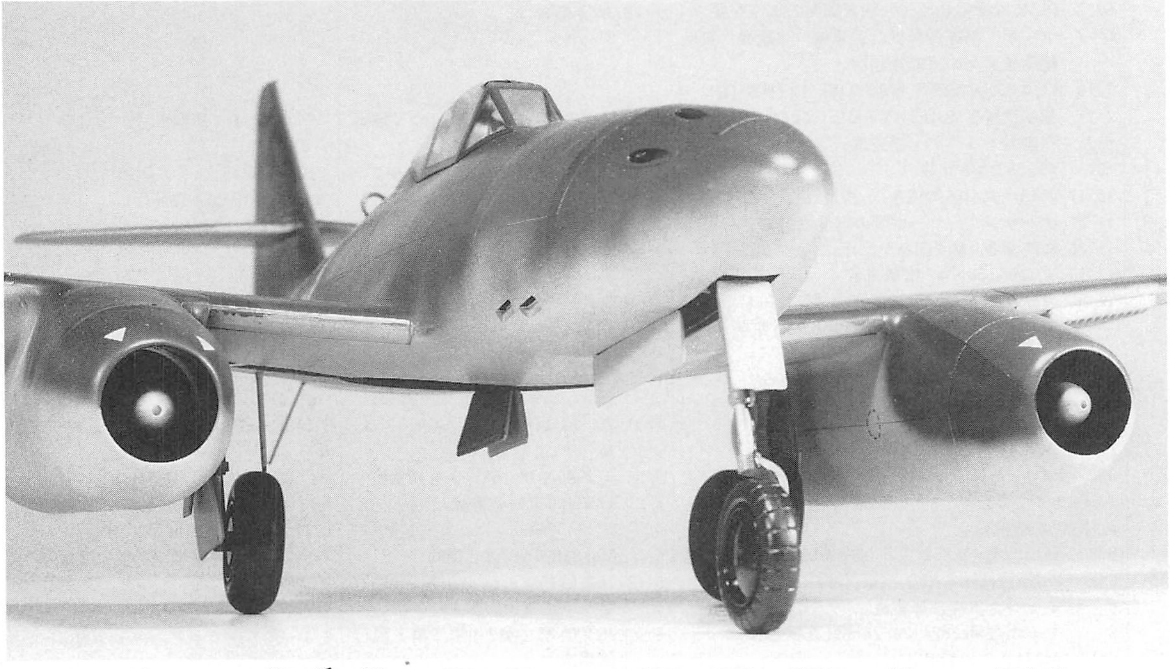
岐阜市本荘中ノ町8-8 サービス専用TEL0582-74-3266

第2次大戦中のロケット、ジェット機開発年表

解説：松樹祐司

	Me 262	Me 163	他社/外国 (初飛行は動力付きの状態)
		'37RLM、DFSにロケット機発注(X計画)	'37/6 He112ロケットのみで飛行
1939	4/1 Me262計画始動 6/7 P.65(またはP.1065)案提出 11/9 第I改修案 11/16 BMW P.3302(後に003)、Bf110に懸架してテスト 12/1 RLM、P.65にP.3302かP.3304(002)の使用を示唆	1/2 リピッシュ博士のチーム、メッサーシュミット社のL局へ	6/20 He176 V1初飛行 8/27 He178 V1初飛行 9 ㊇ミーティア設計開始
1940	1/15頃 モックアップ着手 3/1 試作型3機契約 5/15 第II改修案 10/11 ユンカース、T1(後にユモ004)テスト開始 11/1 第III改修案	6/? DFS194V1、ロケットにより初飛行	2/8 ㋞RP318ロケット機初飛行 8/27 ㊞カプロニ・カンピーニ初飛行 9/11 He280滑空テスト開始 秋-冬 アラドE370(後にAr234)設計開始
1941	1/末 1号機胴体完成 4/8 BMWエンジンの替りにヴァルター・ロケットの使用検討 4/18 V1、ユモ210(ピストン・エンジン)のみで初飛行 7/25 試作5機、生産前型20機契約 9/26 RLM、写真偵察型の開発を要求 10/16 P.3302でのテストにヴァルター・ロケットの補助を検討 10/21 偵察型についての書類提出 11/4 RLM、42年6月～10月までに生産前型10機の完成を要求 11/25 RLM、偵察型のモックアップ製作要求	春 V1滑空テスト開始 4/17 V4滑空テスト開始 8 ヴァルターRII-203完成 8/13 V1初動力飛行 10/2 V1、1,003km/h記録 10/22 メッサー、ウーデットに迎撃機型の開発許可を要請 11/8 V5滑空テスト開始 12/1 RLM、迎撃機型発注、設計開始	4/2 He280 V1初飛行 5/15 ㊇グロスターE.28/39初飛行
1942	2/5 RLM、偵察型に武装搭載を要求 3/初 BMW、P.3302 1号引渡し 3/6 偵察型モックアップ視察 3/25 ユモ210×1、P.3302×2を装備してV1、初飛行 7/18 V3、ユモ004Aのみで初飛行 8/11 V3、6回目の飛行で大破 8/12 試作型5機追加契約 10/1 V2初飛行 12/2 '43末までに生産前型30機(合計)契約 12/8 RLM、武装にMk103×1＋MG151×2要求	4/29 V4、V5初飛行 6/13 ミルヒ、シュペーア、ガーラントらテスト飛行視察 6/26 Bv1滑空テスト開始 10 ハンナ・ライチュ、テストに参加	5/15 ㋞ベレズニャク・イザエフロケット機初飛行
1943	2/11 高度6000mから投下して強度、空力テスト 2 総統命令、全ての戦闘機をヤーボ(戦闘爆撃機)に 3/4 RLM、武装、装甲、爆装に関する仕様提出 3/30 V3修理 4/14 3点姿勢採用決定、前脚はMe309より流用 4/18 V2墜落 5/15 V4初飛行 5/22 ガーラント少将、V4で飛行 5/25 ミルヒ将軍、量産を下命 5/28 量産型の仕様決定 6/2 偵察機隊総監バルセヴィヒ大佐と偵察型検討 6/7 3点姿勢のV5初飛行(脚は固定) 6/17 生産計画、44年1月までに生産前型1機、44年10月までに430機、11月から量産開始	初 16実験部隊編成 4/28 メッサーシュミットとリピッシュの不仲によりL局廃止 5/1 リピッシュ、ウィーン航空研究所へ 6 ヴァルターRII・211完成	3/5 ㊇ミーティア初飛行 3/27 He280開発中止

1943	6/23 RLM、複操縦装置付き練習機型の試作を要求 6~7 ヤーボ、高速爆撃機、迎撃機、偵察機、夜戦、駆逐機各型の可能性検討 7/19 V1、ユモ004Aで初飛行、暫定的にMG151×3搭載可能に 7/21 基本武装、MG103×2+M151×2に 9/7 複座型モックアップ完成 10/3 V3、950km/h記録 10/17 V6(3点式引込脚付き)、初飛行 11/2 ゲーリング、ヤーボ型の可能性打信 11/26 総統命令、Me262をヤーボに 12/10 V7にMk108×4の搭載用意 12/9 ガーラント、262実験部隊編成下命RLM、Me RLM、Me262にHeS-011の装備案を要求 12/20 V7、ユモ004B-1により初飛行 〃 爆撃機隊総監、ペルツ大佐V6で飛行	6/23 Bv 2 初飛行 7/26 RAFのモスキート、初めて地上のMe163を撮影 8/17 メッサー、レーゲンスブルク工場被爆、Me163B 11機破壊	7/30 Ar234V1 初飛行 9/26 (英)バンパイア初飛行 10/30 (米)YP-59A初飛行
1944	1/19 V 9 初飛行 2/25 メッサー社被爆、V 8、V10破損 3/2 ブローム& フォス社で60機の練習機型生産決定 3/18 V 8 初飛行 4/15 V10初飛行 5/2 総統命令、Me 262 は爆撃機としてのみ使用 5/11 262実験部隊本部設立(乗員はII./ZG26から) 6 シェンク実験部隊編成 6 ヤーボ型Me262A-2a、28機引渡し 6/17 Ar234との比較テスト 6/20 KG51のパイロット、Me262での訓練開始 6/22 総統命令、Ar234が充分に揃うまでMe262を高速爆撃機として使用 7/20 シェンク実験部隊実戦へ 7/25 262実験部隊初撃墜(モスキート) 8 JG7 編成準備開始 8/20 ヒトラー、爆撃機型20機につき戦闘機1機の製造認可 8/21 262転換部隊編成 8/28 シェンク実験部隊、初の被撃墜 9/20 ヒトラー、戦闘機型の量産認可 9/25 ノヴォトニー部隊(昼間戦闘)編成 10/7 ノヴォトニー部隊初出撃 KG51初出撃 10 ブラウンエック部隊(偵察)編成(後にNAG6に吸収) 10/27 III./EJG2(Me262への転換訓練用)編成 11/4 ヒトラー、戦闘機としての使用、全面認可 11/8 ノヴォトニー戦死 11? シュタンプ部隊(対爆撃機爆撃技術開発)編成(45/3 解散) 11 V56(レーダー装備)完成 11/19 ノヴォトニー部隊、III./JG7へ編入 11/27 I./JG7編成(II./JG3より) 11/下 I./KG(J)54、Me262へ転換 12/11 ヴェルター部隊(夜間戦闘)編成 12/12 ヴェルター部隊初の夜間撃墜	1/31 20./JG1編成(翌月I./JG400に改称) 3/末 I./JG400、Me163B-0 を初受領 4/21 I./JG400で初の事故 4/下 2./JG400編成 5 Me163B-1a引渡し開始 5/13 16実験部隊のBv41出撃、初のロケット機実戦参加 6 JG400、第1、第2中隊で第I飛行隊編成 7/6 ヴァルターHWK109-708(補助燃焼室付き) 装備のBv18初飛行、1130km/h記録 7/28 JG400初出撃 8/初 Ju248(Me163D)機体完成 8/16 I./JG400初の被撃墜 8/24 I./JG400初の撃墜(B-17) 9? Ju248(後にMe263)初飛行 9 JG400、第13,第14中隊から成る第III飛行隊編成 12 JG400、第5、第6 中隊から成る第II飛行隊編成 12/23 Me263に最優先生産権	1/9 (米)ロッキードXP-80初飛行 6 Ar234B-2生産開始 6/11 (米)XP-80A初飛行 7/5 (米)MX324ロケット機初飛行 7/12 (英)No.616Sqn、ミーティア受領 7/27 (英)ミーティア初出撃 8/4 (英)ミーティア、V-1 初撃墜 12/6 He162V1 初飛行 12/22 Ba349無人打上げ
1945	1/1 ボーデンプラッテ作戦にKG 51参加 1/12 II./JG7編成 1/28 ヴェルター部隊、10./NJG11に改称 1/30 KG6、KG27、KG54、KG55をMe262装備の戦闘機隊へ転換決定 2/9 I./KG(J)54 初出撃 2/12 II./JG7 戦力化(要員はIV./JG54より) 2 KG(J)55、II./KG(J)54、Me262へ転換 2/24 JV44編成開始 2/27 C-1a 初飛行 2/末 10./NJG11へB-1a/U1 引渡し開始 3 本部、III/KG(J)6、転換開始 3/18 R4M ロケット弾初使用 4/1 JV44初出撃 4 III./KG(J)54 転換開始 4/25 I./JG7 解隊 4/27 JG7、ソ連機と交戦 (Il-2、6 機撃墜) 5/8 JG7 最後の戦闘でYak-9 撃墜	1 Me163S完成 2 生産中止 3/10 エルベ特別部隊にJG400から志願兵 8 名 4/10 イェーガーファウストでB-17撃墜 4/22 II./JG400初撃墜(ランカスター)	初 (米)P-80、イタリアで初飛行(終戦までに50回) 1/25 (米)FH-1、初飛行 2/25 (米)ベルXP-83初飛行 2/28 Ba349有人打上げ 4/20 (英)バンパイア生産型初飛行 7/7 (日)秋水初飛行 8/7 (日)橘花初飛行



ビッグなMe262A-1b

ハセガワ1/32　◆富沢武夫

10数年前、1/32スケールの飛行機が全盛で、レベル、ハセガワが先を競って開発をしていた頃のキットだが、表面のアレやバリもなく、今もってきれいなモールドは流石といえる。ただ、ものによっては胴体や主翼に変形が見られ、プラの材質が硬いせいもあって修整に苦労するので、購入の際、中味をよく調べてみたほうがいいだろう。

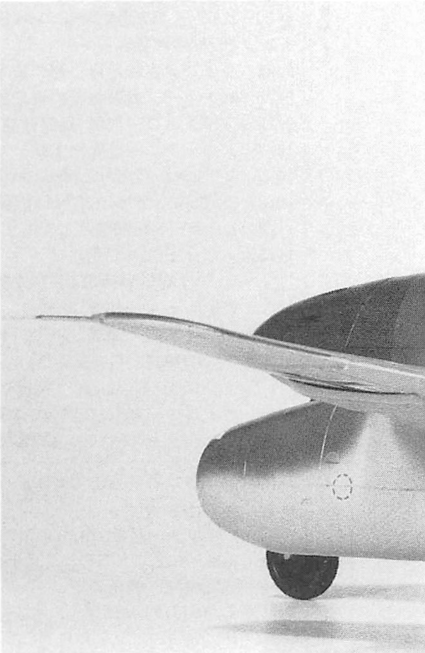
1/32ながらおとなしめのモールドは組み立て中のペーパーがけ等ですぐ消えてしまいそうなので、モールドを生かす場合は、接合面の処理にかなり気をつかいそうだ。

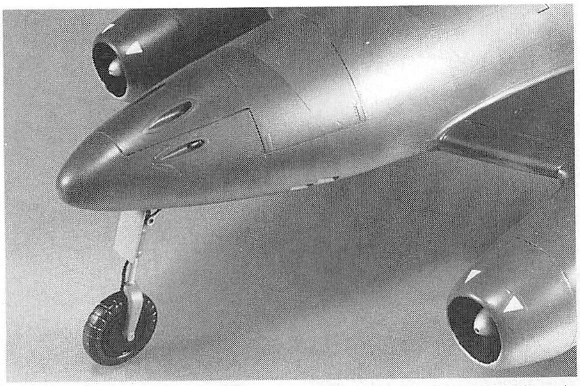
今回はキット・ストレート組みで製作してみたが、いかがなものだろうか。最近はこのような素直な作りをしたモデルが少なくなり、スジ彫りだ、リベット打ちだという作りがあたり前になってしまい、それが作るペースを鈍らせているような気がしてならない。ちょっと気になる隙間を埋めるぐらいで、あとはキットのモールドを生かして作る。かえってそのほうがむずかしいような気がするのだがどうだろうか。

さて、この1/32のMe262だが、コクピットは実機どおりカプセル式になっているので、胴体左右接着後、組み込むことが出来るが、主脚収納孔から見える部分に何もモールドされてないのが1/32としては淋しい。

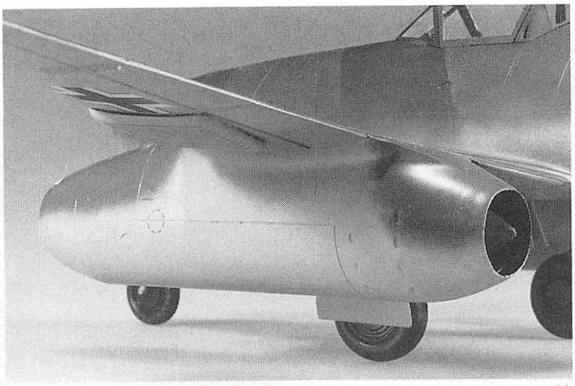
機首の機銃部は、カウルを外して内部を見ることが出来るが、作例ではパスして接着してしまった。しかし、隙間埋めの手間を考えたら、内部をきれいに塗り分けて見えるようにしたほうがよかったような気もする。1/32ならやはり見せ場をどこか1個所でも作っておくと作品自体のグレードも上がるしネ。

順序が逆になったが、前脚収納孔の接着位置がピタリと決まりにくいので





▲前脚、主脚ともやや細めなので、機首にオモリを入れ過ぎないようにしたい。機銃を見れるが、接着してスタイルを重視したい。



▲エンジン左右を見ることが出来るが、かなり合いが悪いので、接着してしまいきれいに整形したほうが見映えも良いだろう。

主翼およびエンジンの組み立てが終り、胴体と接着してから、機銃部から入れて位置決めすると一番楽に工作出来る。そして機銃部を組み込み、機首のスペースにオモリを詰める。

エンジンカウルは左右それぞれ3分割され、ユモ004エンジンを見ることが出来るが、どちらか一方のみディティールアップを施してみるのも面白いだろう。

このエンジンカウルも開閉式としたためにかなりの隙間や段差があるので、だいぶパテの御厄介になることとなる。

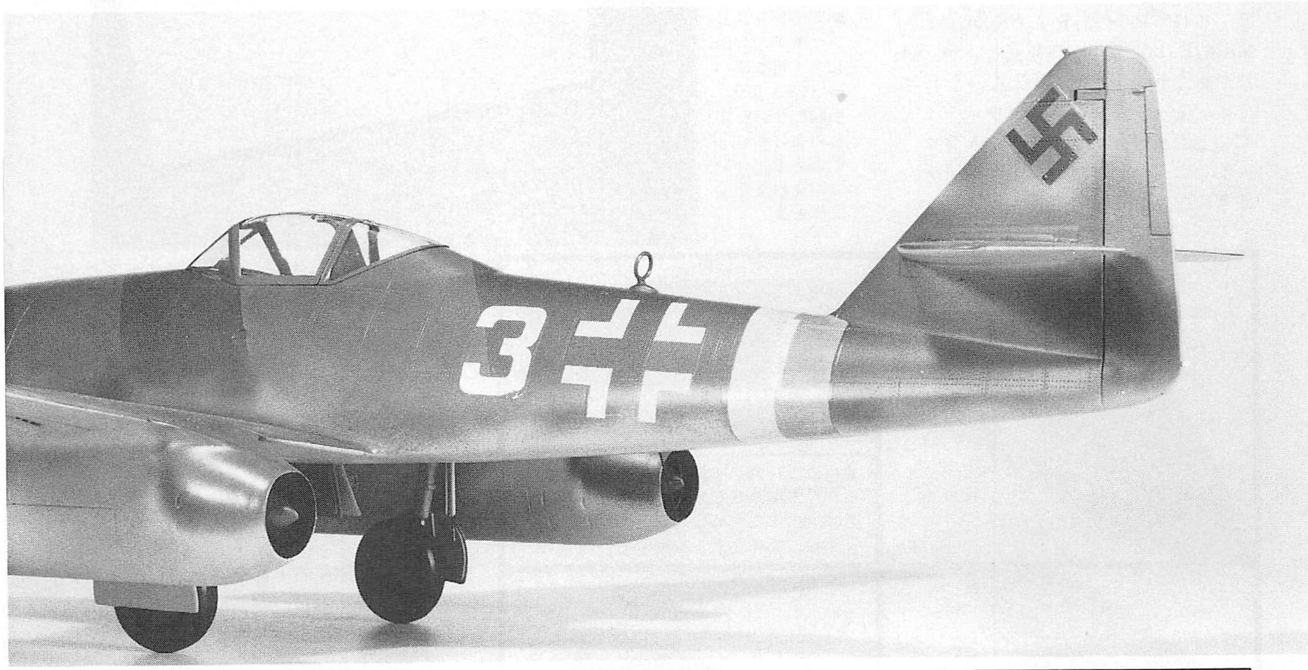
主翼と胴体を合わせてみると上面にかなりの隙間が出るが、作例ではセロテープで無理矢理引っ張って接着してしまったため、上反角がつきすぎてしまった。もし、このキットを作る場合は、プラ板のシムを挟んで正しい上反角を出してほしい。

あとは水平尾翼、ラダーを接着すれば外形は完成。所々に生じる隙間をパテ等で埋め、お楽しみの塗装に移る。

作例はⅢ.／JG7所属のマーキングとし、81/82/76の迷彩。

デカールはフィルムの質、厚さとも良好で、マークソフターできれいに貼ることが出来る。デカールが完全乾燥後、フラットクリアーを吹いてトーンを整えてある。

細部は、コクピット内部、脚収納孔、脚柱、脚扉がRLMグレイ。ホイールがグロスの黒。タイヤはゴム製の物が入っているのは親切。久しぶりに1/32を手がけてみるとあまりの大きさにとまどいを感じた私です。

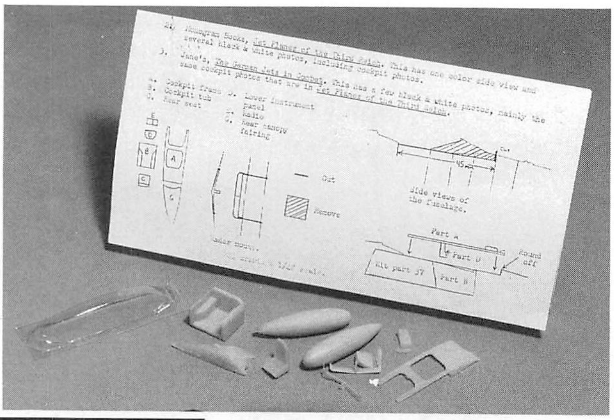




改造パーツでMe262B-1a/U1を作る

◆モノグラム1/48＆ミッシングリンクモデル　◆富沢武夫

最近、ミッシングリンクモデルなるメーカーから、1/48Me262B-1a/U1用改造パーツが発売になり、それと相前後してモノグラムから久しく絶版となっていた1/48Me262Aが再版、そして、ウォーイーグルからドイツ複座機用デカール（Fw190S-5、S-8。Bf109G-12。Me262B-1aセット）が発売という、偶然が重なり、今回の記事となったわけです。ミッシングリンク、ウォーイーグルともまだサンプルのみの入荷で、入手しにくいかと思いますが、何かの参考になれば幸いです。



▶ミッシングリンクモデルのB-1a/U1用改造パーツ（￥1,550）。手軽に改造を楽しめる好キットといえる。レジンの質が柔かく工作も楽。

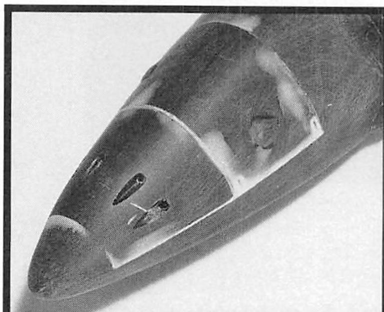
ミッシングリンクの説明書には工作方法が示されているので（図示もされている）、資料をひっくり返してどうこうという手間がいらない。

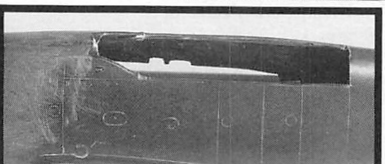
工作方法は、ハセガワ1/32ハイグレード・シリーズのMe262B-1a/U1と同じで、A-1のコクピット後方を切り取ってコクピットの仕切りを接着、胴体後部のフェアリングを接着するというもの。以下、作例写真を参考に話を進めていこう。

まず胴体左右上部を、足掛け後方の外板から4本目の線まで切り取る。切り口を、操縦席パネルと合いをみながら整形する。

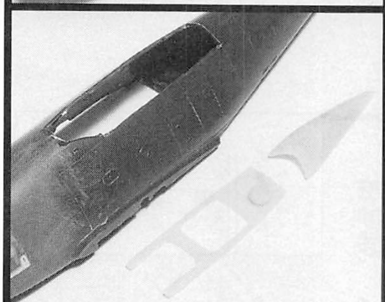
コクピットカプセルは胴体左右接着後に組み込めるので、胴体を先に組み立ててしまう。

胴体左右接着したら、前脚収容孔をしっかり接着し、機銃部を組み立てる。キットはカウルを外すことによって機銃部を見ることが出来るが（エンジンも）、結構隙間が出るので、作例ではすべて接着して、隙間をプラ板とポリパテで埋めてしまった。この機銃部を胴

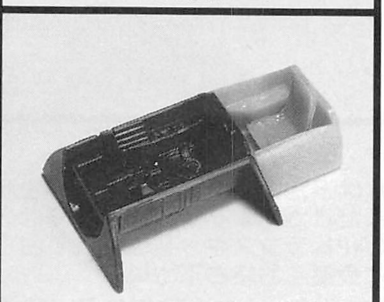




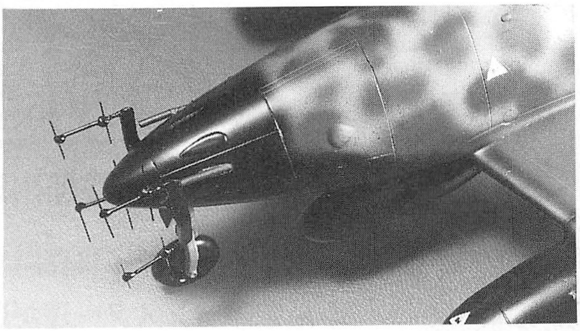
1.カウルを外して機銃を見ることが出来るが、隙間がかなりあるので閉じてある。
2.複座とするために胴体上部をカットしてから、胴体左右を接着する。



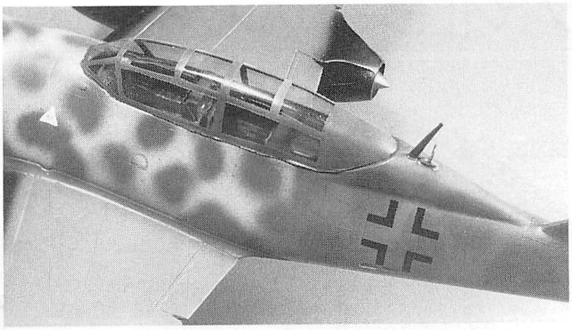
3.B-1a/U1にするためのパーツ。レジンだが縮みやユガミが少ない良質なもの。



4.後席はコクピットカプセルの後ろに貼る。シートもあり、メーターもモールド。



▲4門の機銃口のうち上部の2門はパネルで塞ぎ、2門は消焔効果の高いMG151とし、パイプで自作した。FuG218のアンテナは自作。



▲キャノピーは塩ビ板をしぼったものがひとつ入っているが、失敗した時のために予備か原型を入れてほしいところだ。

体に接着後、機首の隙間に粒オモリを10g程度入れ、エポキシパテを押し込んで固定する。

機首の2枚のカウルは接着して隙間を埋める。この修整やコクピット・パネルの接着等の工作でかなりペーパーがけを行なうので、作例はスジ彫りを施した(主翼下面ははそのままのモールド)。

コクピットカプセル後方に後席を接着し、コクピットを完成させる。

コクピット・パネルはかなり幅広の寸法で入っているので、胴体とキャノピー(おおまかな形に切っておく)とそれぞれ仮り組みしながら、それぞれを調節する。

胴体後部のフェアリングは胴体のアームにピッタリ。FuG218、FuG25a、アンテナ柱、ループアンテナの取り付け穴を開けて、これでほとんど工作は終り。

主翼、エンジンはストレート組み。

胴体に主翼を取り付けるが、モノグラムにしては珍しくピタリと決まり、隙間、段差ともほとんど出ないのは有難い。主翼下面左側にモールドされているFuG16ZY用アンテナ穴は右にあるのが正しいので修整しておく。

キャノピーは胴体と充分にスリ合わせが必要で、作例のようにあわててやるとあとで泣きを見るので慎重に。出来れば、キャノピーの一番下の枠の内側に0.5mmのプラ板でノリシロを付けて胴体に接着して、ポリパテで隙間を埋めて、胴体といっしょに塗装したほうが、ドイツ機の場合良いだろう。

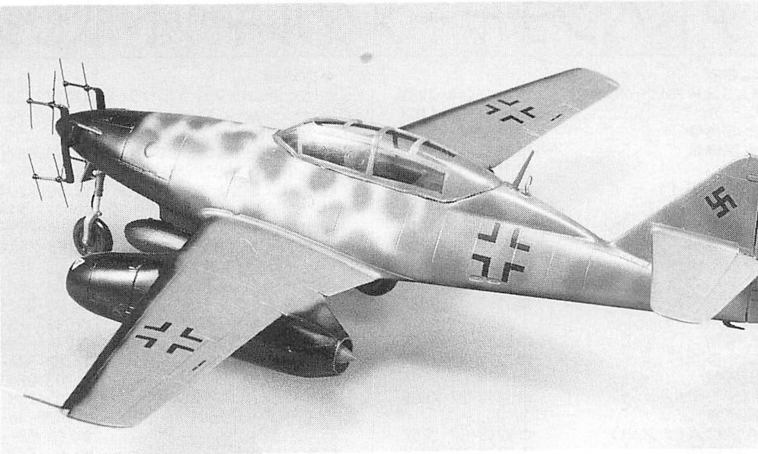
FuG218 レーダーは、取り付け基部のみ入っているので、アンテナは真鍮線の細いもので自作し、アンテナが出る部分はエポキシ系接着剤を盛って表現した。増槽はピンホールも多く、上下の合わせめのモールドが曖昧なので、ポリパテで埋め、ペーパーで仕上げたのち、伸ばしランナーを巻いて接着したほうが工作も早いし、仕上りもきれい。

レジン・パーツの接着は、時間がかかるがエポキシ系のもので行なったほうが強度的にも安心なので、こちらを奨めたい。

塗装は、ウォーイーグルに図示されている16./NJG.11所属の機体とした。74/75/76の迷彩に、下面が黒というもので、胴体が76の地に、機首付近が黒、風防から後ろが75、そして74のモットリング(斑点)はやや大きめに施されている。主翼、水平尾翼上面は75 1色。主翼前縁およびエンジンポッド上面前後は下面の黒が上に回り込んでいる。

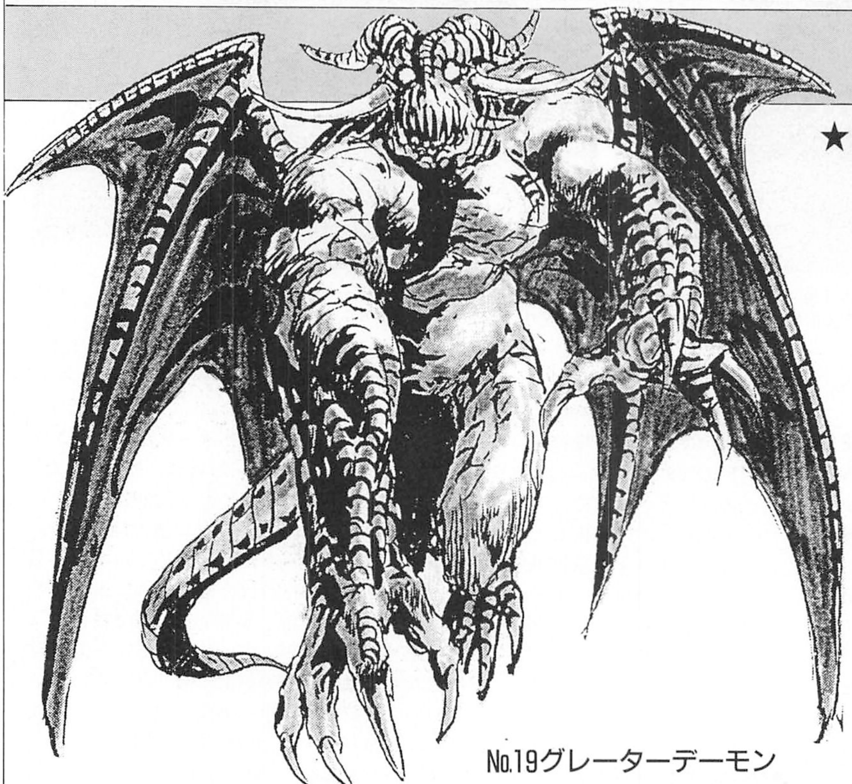
割りと簡単に出来る改造キットではあります。しめて約5000円‼なり。

▼Me 262 のキットはこのミッシングリンクのパーツを使えば1/32、1/48、1/72の各スケールでA、Bの両型を揃えることが出来る。このMe 262はモノのなかでは合いは良いほうだろう。



アオシマのメタルフィギアシリーズ

NEWS



No.19グレーターデーモン

★最強モンスター軍団出現★

ウイザードリイに登場する最強のモンスター達が登場するシリーズです。ワードナ、グレーターデーモンなど有名なモンスターがコレクションに加わります。

No.19グレーターデーモン
No.20ワードナ
No.21ゴブリンズ
予価各1,500円

11月発売予定

アドベンチャーメタルキット取り扱い店ご紹介(東日本)

●北海道	
(株)ポストホビー札幌店	☎011-214-2283
ホビー光	☎0134-33-1103
ことぶきや	☎0152-43-2440
富士屋模型	☎0143-46-3558
トムトム	☎0166-31-6600
(株)サンエイトーイ	☎0166-31-4466
●青森県	
ホビープラザユーホー	☎0178-24-3315
サカタ模型	☎0177-43-7800
ニシムラ模型	☎0172-35-1442
ホビーハウス	☎0173-34-6139
模型のヤマト	☎0178-43-9537
●宮城県	
仙台模型	☎0222-61-3489
サニーランド	☎0222-47-3355
●山形県	
シバタモデル	☎0236-22-4925
●福島県	
NAZCA(ナスカ)	☎0245-57-2767
たいら模型	☎0246-22-6414
●栃木県	
アドベンチャラーズイン	☎0286-33-6362
青和模型	☎0286-37-2986
てづか模型	☎0286-34-9592
●千葉県	
(株)ポストホビー千葉店	☎0472-25-1568
(株)ポストホビー津田沼店	☎0474-78-5856
ヤマモト模型	☎0471-67-2345
ホビーショップ　コンボイ	☎0473-51-8771
●埼玉県	
(株)ポストホビー新所沢店	☎0429-98-8184
ホビーワイド	☎0485-43-0565
船橋模型	☎0482-65-1701
ダルマヤ模型機店	☎0484-41-4543
おもちゃのポビー深谷	☎0485-72-8219
イエローサブマリン	☎0488-52-7977
はっとり模型	☎0485-56-4654

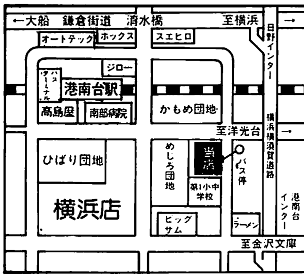
●群馬県	
ホビーショップミュルサンス	☎0272-33-8320
ホビーショップハヤブサ堂	☎0270-24-1523
●東京都	
(株)ポストホビー池袋店	☎ 03-987-0531
(株)ポストホビー渋谷店	☎ 03-464-6627
(株)ポストホビー代々木店	☎ 03-370-0204
(株)ポストホビー吉祥寺店	☎0422-21-8145
モデルエース久ケ原店	☎ 03-751-7327
モデルエース荏原町店	☎ 03-783-1543
(株)マミー自由ケ丘店	☎ 03-717-3333
ホビーショップモネ	☎ 03-964-6250
フジ模型	☎ 03-991-9627
モデルショップノリオ	☎0423-73-9211
(株)なかじま商事玩具売場	☎0427-25-2211
喜屋ホビー	☎ 03-398-1424
ヨシオカヤ	☎ 03-956-3484
ホビーショップ　スギ	☎ 03-738-8778
ウエーブ　P・X	☎0422-48-4170
石丸模型	☎ 03-881-1732
ひまわり模型	☎ 03-691-9834
ホビーショップサニー	☎ 03-413-0857
オオハシ模型工作店	☎ 03-619-0007
サイトーホビー	☎ 03-907-0087
トイボックスやはぎや	☎ 03-967-0346
ヤマナカ模型	☎ 03-901-4848
●神奈川県	
(株)キディランド横浜西口店	☎045-314-7581
(株)マミー	☎044-433-2597
ロッキー	☎0466-36-0072
おきやま	☎0427-43-5656
ホビーショップ　ニッコウ	☎045-842-0789
ホビーショップ　シグナル	☎0427-43-0561
コスタホビー	☎0466-22-8461
ホビープラザ	☎045-902-5797
こみや	☎0463-21-2629
ホビーショップ　ハンディキャップ	☎044-911-6222

●静岡県	
ホビーショップシグマ	☎0542-46-7040
少年科学社	☎05473-6-4100
モデルショップハットリ	☎0546-43-4181
ホビーメイト　おおかはら	☎05359-2-1705
川瀬商店	☎0534-48-1508
マルサンホビー宝塚店	☎0559-63-0340
ホビースポットマツヨシ	☎0543-46-6523
めるへん	☎0542-63-8380
赤春堂おもちゃ天国	☎0542-52-1835
ホビーハウス	☎0542-78-3650
イワザキ	☎0542-83-1010
おもちゃのスズモト	☎05358-7-2719
●新潟県	
(有)龍文堂	☎0258-33-1670
北川模型	☎02504-3-3610
藤田商店	☎0255-43-2451
太田商店	☎02538-7-3012
ドリミーBOX	☎0252-59-7100
竹内玩具	☎0250-38-2514
北川模型	☎0250-42-3610
ホビーロード	☎0252-43-0557
学芸公社	☎0255-43-2451
東京ベビー	☎0255-43-5245
日野屋	☎0255-22-0203
おもちゃのまさや	☎0259-52-3953
●富山県	
愛児堂本店	☎0764-21-1188
橋本玩具	☎0764-21-7227
●長野県	
(株)ポストホビー長野店	☎0262-26-0729
MORIJI2	☎0268-25-0828
ホビースペース　コスモス	☎0266-58-7432
(有)長野屋玩具店	☎0265-22-4628
ホビーショップ　バンタム	☎0263-36-3041
●岐阜県	
(株)ポストホビー岐阜店	☎0582-65-6525
ジョイハート	☎0572-24-1515

このリストの作成につきましては、見本市の注文書を参考にさせていただきました。お取り扱いをいただいておりますのに、リストにもれている場合は御一報ください。

AOSHIMA

(有)アオシマ文化教材社
〒420 静岡市流通センター12番3号
☎0542(63)2400



"完成品多数展示"

内外プラモデル、ラジコン、Nゲージ、モデルガン、エアガン、ガレージキット、プラキャスト、マイクロデカール、シュミレーションゲーム（AH、HJ、GDW、AT、T、TSR、EPC、VG、B他）、資料、工具、コンプレッサー、etc.

オリジナル濃縮カラー(ラッカー)赤、白、黒、クリアー、各200mℓ ¥900 〒350

通販御希望の方はTELにてお問い合せ下さい。

特別セール

●イタレリ 1/24

701 メルセデスベンツ540K

703 ロールスロイス ファントムII

704 クライスラー フェートン

各¥2,000 ——→ ¥1,000

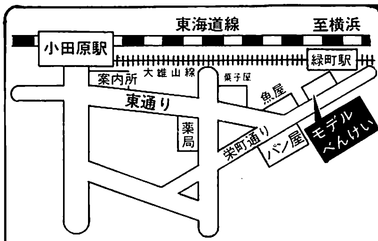
(横浜店)045(831)2165〒233横浜市港南区港南台6-4-11.

(横須賀店)0468(41)8302〒239横須賀市二葉1-38-23

営業時間 AM10:00～PM8:00

かめやま模型

月曜定休・祝祭日は営業(横須賀店平日PM1:00より)



〒250 小田原市栄町3-5-19

小田原 べんけい

大雄山線緑町駅下車0分!!

(小田原駅より徒歩8分)

0465-22-3933 プラモデル

0465-24-0309 鉄道模型

マイクロデカール(US-NAVY中心)

インアクション、エアロガイド

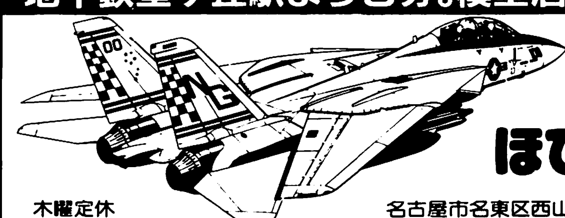
ハイテック戦車

トライマスター、キット、工具

揃っています

エアフィックス、エレール
ペガサス、マーリン) 全キット在庫

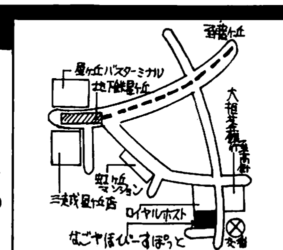
地下鉄星ヶ丘駅より5分。模型店めぐりの第1歩



なごや ほびーすぽっと

木曜定休

名古屋市名東区西山本通1の2 TEL052(782)5433



国産・輸入プラ専門店

世界各国のキット・最新キット、デカールが色々入荷。

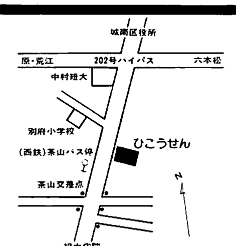
珍品キットも入荷してます。

おまけに洋書コーナーも新設しました。

※年中無休 AM11:00～PM9:00

AIR SHIP

MOKEI YA ひこうせん



〒814 福岡市城南区茶山1丁目1-18 TEL・FAX(092)851・0223

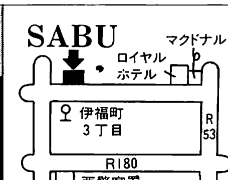
営業時間が変りました。ご注意下さい。

日・祭日 PM1:00～PM8:00

平　　日 PM2:00～PM9:00

上記の営業時間に変わりました。今後ともよろしく。

HOBBY SHOP SABU (サ ブ)



京山ロープーウェイ行
伊福町3丁目バス停前

岡山市伊福町3丁目29-6 TEL0862(54)6113

車 ヒコーキ 戦車

プラモデル 内外 たくさん あります。

ウォーターライン大特価

ミニカー 少量ですが入荷しています。

ビテス・BOX・NZG

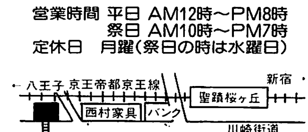
夏休み 9月29日までお休みです。

Model Shop NORIO

0423 (73)9211

営業時間 平日 AM12時～PM8時
　　　　 祭日 AM10時～PM7時

定休日 月曜(祭日の時は水曜日)



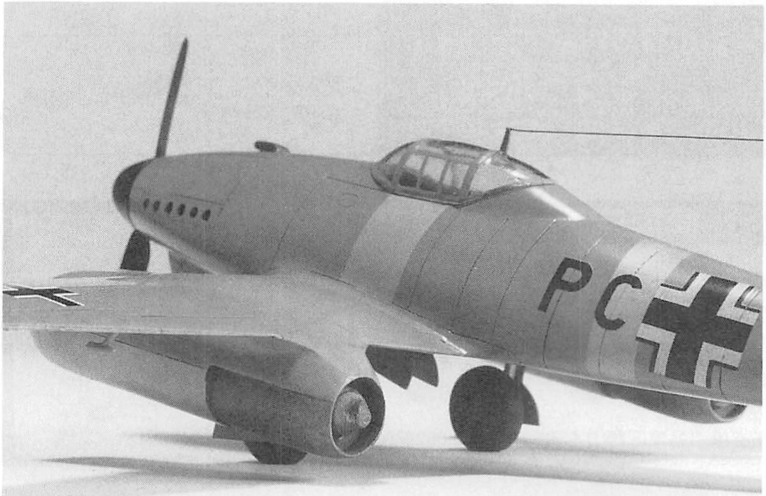
〒206
東京都多摩市一の宮50-2

Me262 MODEL VARIATION

史上最初の実用ジェット戦闘機Me262は、あまりの高性能にビックリしたヒトラーが戦闘爆撃機として生産を許可したのでも判るように、誕生から終戦まで、高性能をフルに運用しようと、多くのバリエーションが計画、誕生した。ここでは秀作ハセガワ1／72のMe262A-1aをベースとし、エアモデルの改造パーツと組み合わせて、各バリエーションを製作した。

Me262V1

ハセガワ1/72 Me262A-1a&エアモデル　松樹祐司



1941年４月18日、既に計画段階のＰ1065から制式のMe262に呼称を改められていた、メッサーシュミット初のジェット戦闘機の試作１号機が進空した。

しかしこの時には予定されたＢＭＷ003Ｖはまだ完成しておらず、さし当たり機体の空力特性を調べるために、機首に750馬力のピストンエンジン、ユンカース・ユモ210Ｇ１基を取り付けていた。

速度は水平飛行で420km／h、降下時に540km／hというものだったが、操縦性能は非常に優れている事が判った。高速時に昇降舵に激しい震動が発生したが、これは小改修によってクリアーされた。

BMW003Vの到着はそれから半年以上後の11月半ばの事で、ジェット・エンジンによる初飛行は翌1942年の３月25日に行なわれた。

まだ充分に信頼のおけない新型エンジンの事で、機首のユモ210Gも残されていたが、案の定機体が50mほどまで上昇したところでジェット・エンジンは２基とも停止してしまい、機体はユモ210Gによってかろうじて着陸した。

エンジン停止の原因はコンプレッサー・ブレードの飛散によるもので、以後BMWは再設計のためにかなりの期間を要する事になる。

Me262は以後エンジンをユモ004系に替えるが、ジェット・エンジンのみによる初飛行は1942年７月18日にMe262V3によって行なわれた。

Me262V1もその後ユモ004-Oに換装し、1943年７月19日から1944年６月７日に失われるまで、95回の飛行を記録している。

モデリング

航空機モデルの改造でも、原型を作るというのはあまり例が多くはないようだ。大体原型なんていうのは昆虫でいえば、幼虫か蛹みたいなもので、コスチュームも地味だし、軍用機では肝心の武装もなし、スタイルにしてからが量産型より無格好と相場が決っている。モデラーの食指を動かすのに足る魅力を持ったものは稀れといえるだろう。Me262の改造作品もいろいろと見たが、Ｖ３以前のものは憶えがない。

とにかく有名機の第１号機といった歴史的意義でも見出さないと、出番はまわってきそうにない。

何だかサンザンなでだしたが、このMe262V1については資料がてんで不足しており、モデリングも容易でない。

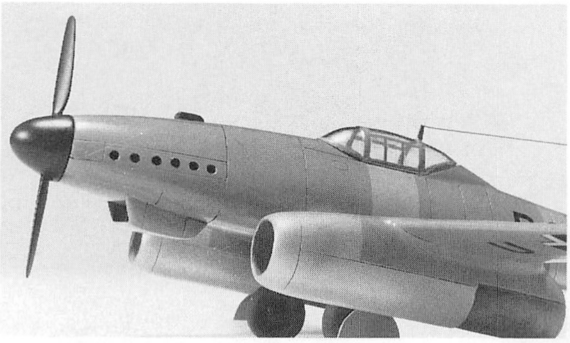
作例ではエアモデルの真空成型改造パーツを用いてある。これはAM-111というMe262のプロトタイプ各種とMe163Sがセットになったもので、出来にムラのある同社の製品中、極端にひどくはないがあまりお歓めしたくもない部類に入る。

Ｖ１用には機種まわりの他、キャノピー、主翼、エンジン、タイヤのパーツが用意されている。少々古いものなので、ベーシック・キットにはマッチボックス製が指定されている。作例ではより出来の良いハセガワ製を使用したが、当然と言おうか機首と主翼のパーツはピッタリとはいかない（マッチボックスのを使ってもそんなに楽に出来るとは思えないが）。まあ、まるっきり自作するよりは楽と納得しておこう。

◆胴　体……コクピットは当然、量産型とは違いがあると思われるが、1／72

▼1941年４月18日に初飛行したMe262の原型１号機。機首にユモ210Gを装備し、主翼にはBMW003ジェット・エンジンを装備している。量産とは各部の形状がだいぶ異なる。

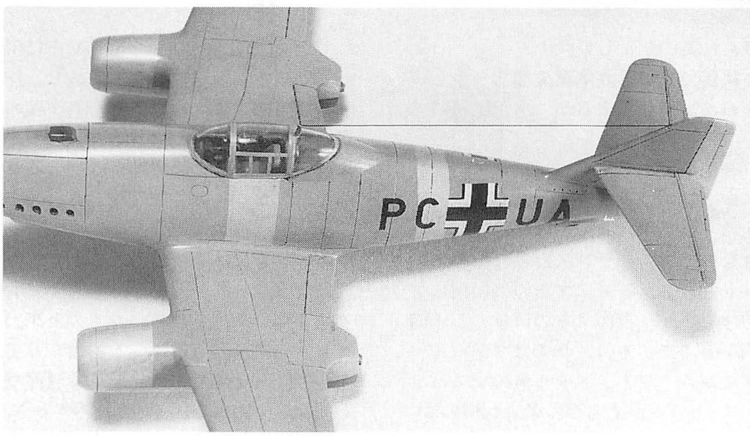




▲機首部はエアモデルのものを使ってあるが、ベースがマッチボックスのため、ハセガワの胴体に合わせるにはかなりの手間がかかる。



▲垂直尾翼形状は量産型に較べ高さが低くなっている。尾輪は他キットから流用。引き込み式なので、一応それらしく収納孔を彫る。



▲エアモデルのバキュームには主翼胴体下部のパーツが入っているが、作例では胴体下面だけ使い、主翼上面および下面外翼はハセガワを使ってある。内翼前縁は下面に合わせる。

だし、キットのキャノピーはあまりクリアーではないし、何より資料もないのでストレートに作ってしまう。

胴体は左右を貼り合わせる前に、尾輪収容口を開け、後で尾輪が固定できるような工作をしておく事が必要。

完全に接着してから機首を切断し、改造パーツの機首部を固定する訳だが、改造パーツを用いず、キットの機首部を削ったりパテ盛りしたりして作っても、それほど手間は変らないような気もする。

排気管は実際には楕円形。エアモデルの説明書では排気管がやや突き出しているように描かれているが、これは確認出来ない。

スピンナーは割に丸っこく、作例でも少し長すぎたようだ。プロペラ関係はBf109Dのものを流用したという事なので、それらしいものを調達してやる。エレールのBf109B／Cからもってくるのが安直そうだが、このキットは現在絶版だし、プロペラの出来も必ずしもベストではない。

◆主　翼……主翼は胴体下部を含む下面全体のパーツが用意されており、これにベーシック・キットの主翼上面を合わせるようになっている。本機の主翼前縁は直線ではなく、2段式に後退角がつけられているが、内翼の上面は下面に合うよう削って修整しなければならない。

また、ハセガワとマッチボックスでは主翼の細かい寸法が異なるために、改造パーツはピッタリと合わない。それにシャープさにも欠けるので、作例では改造パーツは胴体下部のみとし、外翼は上下ともハセガワのものを使った。胴体下部も主脚収容口の位置が違っていなければ、もっと楽に作れたのに。

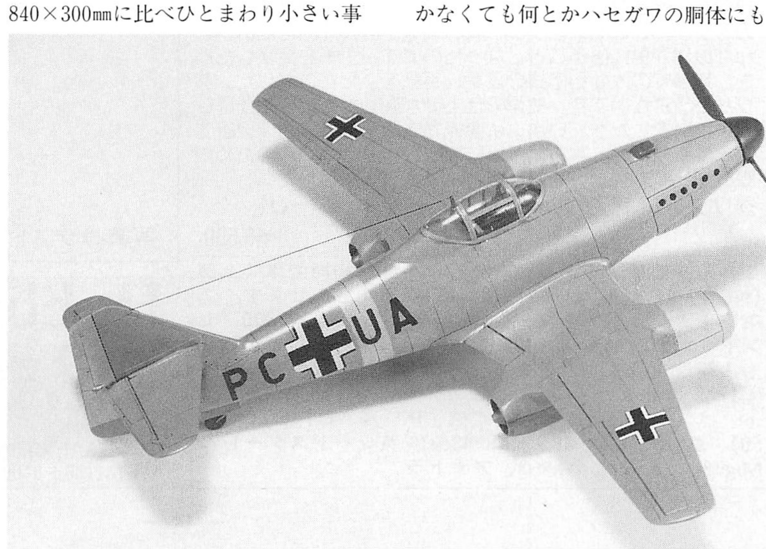
主脚の周辺は不明瞭でさっぱり判らない。タイヤは770×270㎜と量産型の840×300㎜に比べひとまわり小さい事が判っているが、後はV2、V3の写真を参考にそれらしく作るしかない。作例ではハセガワの主脚柱を用いたが、実際にはもっと細くきゃしゃな作りになっている。

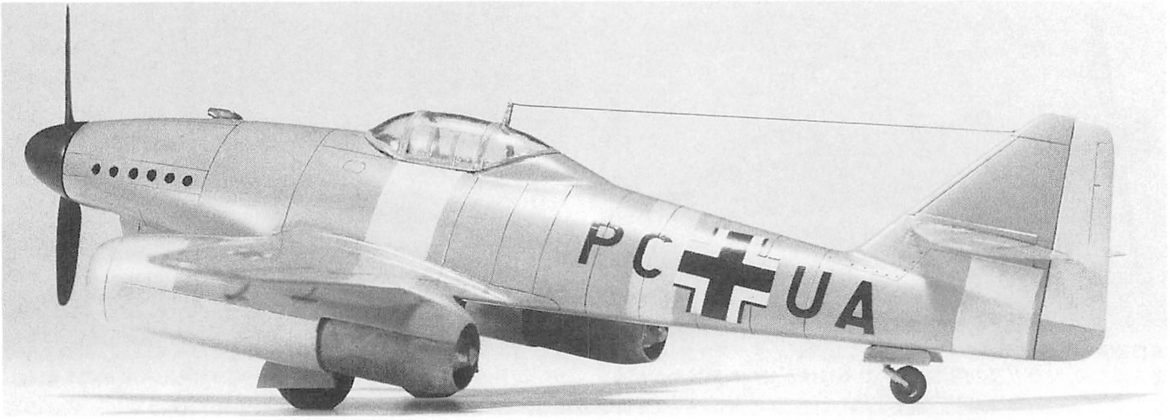
脚収容口の形状も定かではないので、脚カバーを参考にしつつ一応キットのスジ彫りにそったものとした。

エンジン部は尚判らない。BMW003Vを装備したのはV1だけだから、他に参考になるものもない。それでもパーツがそれなりの出来ならば、ストレートに組んで知らん顔をしていればよいのだが、腹立たしい事に出来が悪く、一層イラついてしまった。結局、作例ではハセガワ・キットのエンジンポッドを切った貼ったして、それらしきものをデッチ上げたのだが、後半のむき出しになったエンジンはディティール全くナシのお手軽仕上げになってしまった。

主翼と胴体、エンジンポッドの接合は充分にパテのお世話にもなって、全く"楽しい"作業となった。主翼付け根の弦長の変化により、胴体側にモールドされたフィレット部も削って修整しなければならない。

キャノピーは作り直す気力がなかったので、キット付属のものを使用した。根気よく削ってやれば、ピッタシとはいかなくても何とかハセガワの胴体にも





のせられるようになった。但し第２風防側面の２本の縦線は開閉式の小窓の枠と思われ、実際には左側にしかない。

Ｖ１ではキャノピーのはっきり判る写真がないが、Ｖ７までの初期の機体では風防がそれ以降のものに比べて丸っこく、フレームもより頑丈なゴツイものになっていた。また、その多くは外側にはフレームがなく、内側の黒っぽい色で塗られたフレームが見えている。

作例もフレームは黒く塗るほうが正解だったかもしれない。

アンテナ線は直接キャノピーに引き込まれるのではなく、第３風防前端に固定された短かいアンテナ柱に取り付けられるのが正しい。

尾翼では、垂直尾翼先端部が少し短かいのが確認出来るが、水平尾翼については明らかでない。

初期の機体はエルロンにマスバランスが２個ずつ取り付けられているので、他のキットから流用か自作しないといけない。マスバランスだけのためにキットをスクラップにするのは如何にも勿体ないが、自作するのはけっこう面倒なものである。1／48ではウォーイーグルからホワイトメタル製のマスバランス・セットがあるが、是非1／72のもお願いしたい所だ。所ジョージだ。

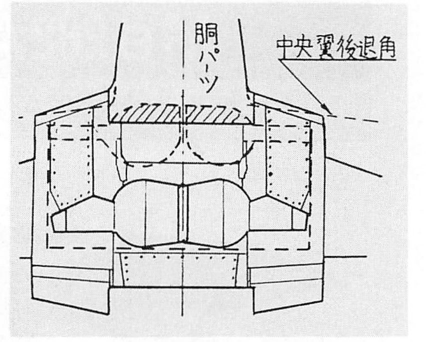
◆塗　装………塗装は試作機の標準として全面02RLMグレイ。但しＶ１に限ってはあちこちが斑になっており、作例では説明書に従って一部を無塗装の銀とした。主翼等にももっと無塗装の部分があるように見えるが、何しろ鮮明な写真がないので正確なところは不明。

エンジンをユモに換装してからの写真は発表されていないが、恐らくグレイ系の迷彩が施されていたものと思われる。当然改修点はエンジンばかりでなく、降着装置やキャノピーも量産型と同様なものになっていただろうから、原型の面影はなくなっていたに違いない。

Me262V3

ハセガワ1/72 Me262A-1a&エアモデル「倉敷翼端灯」池田　始





▲主翼内容の前縁はＶ１のように後退角がないもの。

それの持つバリエーションの多さからも興味尽きないのがドイツ機であろう。筆者が先月のDo335の興奮さめやらぬ今月担当したのは３機であるが、そのうち２機はMe262のバリエーションへの大改造であった。原稿締切り２週間前の事であった。突然の編集長からの電話でMe262V3をやっつけてくれ、改造は簡単で尾輪式にするだけだという事。あっそうか。それなら前脚納孔を埋めて尾輪をどこかから持って来れば出来るからと、電話を切ってよく考えると私は青ざめた。以下改造箇所。

●前脚納孔を埋めて尾輪を付ける。

●主脚納孔を主翼前縁近くまで前に位置させる。

●主車輪は後の量産型と較べて直径が小さいのでジャンク・パーツより持って来る。脚カバーは0.3㎜プラ板で自作。

●エンジンナセル形状の変更と外板接合ライン（スジ彫り）の変更。

●V1からV4までは主翼のエンジンより内側は後退角がない。またそれに伴い、スジ彫りの変更。

●キャノピーはエアモデルの改造キットより持って来る。

●機首上部ラインは量産型に比べ機銃を積んでないためであろうか、またヒンジ部が長いためであろう細めで直線的である。機銃孔は埋める。

１週間で上記の改造をし、塗装して仕上げるためにはあれこれ考えるよりもまず手を動かして切った貼ったで文字どおりやっつけてやる事であった。以下一応筆者なりのやり方を記す。

コクピットはあとからでも入るので左右の胴体を貼り合せてしまうが、この時、指示どおり前脚納孔も組み込んでおいてポリパテで前脚納孔は埋める。

翼下面パーツを図の点線の所で切り抜いてしまい、0.5㎜プラ板にあらかじめ前進させた主脚納孔を開けた物を取り付ける。この時裏から瞬間接着剤を盛り補強とする。脚収納孔は前部胴体にも掛って来るのでここも切り抜いておく（斜線部）。

脚納孔内部はコクピットカプセル下部を0.5㎜プラ板を丸めた物で、また、胴体内側のリブなど再現してやった。ハセガワの脚収納孔は浅くて実機では胴体外板の裏側が見えるような文字どおり底なしであるが、計らずも実機どおりの深さとなり、これで脚も引き込めそうだ。

エンジンナセルは上下にパテを盛りズン胴な形状を再現してやる。エアモデルにもこのパーツは用意されていて形状も良いのだが、主翼への取り付けの部分で手間を食いそうなのでこうした。

機首ラインは裏打ちをせずに細く削ったためペラペラになって後にスジ彫りもうまく出来なくなる始末なので裏打ちしたほうがよいだろう。

キャノピーはハセガワの第３キャノピー部の色を塗ってしまう部分（つまり胴体の一部となる部分）のみ使用し、胴体に接着した後、エアモデルのキャノピーをスリ合わせた。

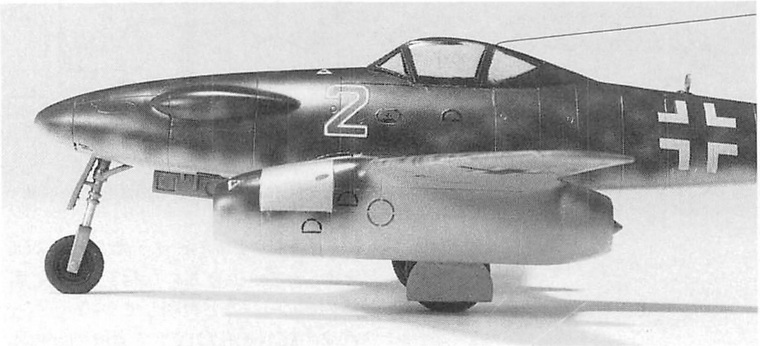
塗装パターンは量産型でも用いられたグレイ系のパターンだが、内翼上面は少し変型パターンである。塗色は今回Ｖ９を製作された石原氏より譲り受けたモノグラムカラーの74、75、76である。74はもう少しグリーンがかったほうが良いと思われるが75はみごとバイトレットしており、３色ともモノグラムペインティングガイドのカラーチップに極く近いと思われる。

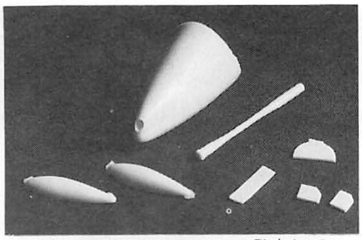
▼ユモ004に換え、初飛行したＶ３。史上初のジェット飛行であった。エンジンナセル形状も量産型に較べズン胴な形状をしている。



Me262A-1a/U3

ハセガワ1/72 Me262A-1a&Zモデル　松樹祐司





▲ドイツの計画機をレジンで発売しているZモデルから出ている。U３&U４用のパーツ。価格は1,500円。仕上は最高。

これまで、改造派のモデラーに好まれてきたMe262のバリエーションのベスト３といえば、複座型のB-1、50㎜砲を積んだA-1a／U4、それに写真偵察型のA-1a／U3だろう。

何れもほどほどの手間で、それに見合う効果が得られることから選ばれたもので、これまでに幾つかのパーツ等も発表されてきたが、1／72ではハセガワからB-1が発表され、他の２種もＺモデルから出されているレンジ製の改造パーツで、かなり容易に作れるようになった。

Me262の写真偵察機としての使用は開発のかなり初期から考えられており、胴体を改設計した本格的なものが計画されていたが、実際に完成したのは機首のMk.108機関砲のスペースにRb50／30カメラ２基を収め、突出するフィルムのマガジンをフェアリングでカバーするという、簡便な改造型だった。

A-1a／U3は少数が作られ、1944年末からNAG6（第６近距離偵察グルッペ）に配備された。

A-1a／U3の量産型はA-4aと称し、何機かが完成したとも言われる。

さらにA-5aというRb50／30２基に加え、機首にMk.108２門を装備する戦闘偵察型も計画されていた。

モデリング

Me262A-1a／U3用の改造パーツは、例のエアモデルのAM-111にも入っているが、ちょっと膨らみすぎで使えない。Ｚモデルのものは始めやや膨らみが不足気味に見えたが、取り付けてみるとちょうど良い。

密着性も良好だが、裏側の前後にある湯口の跡は、パーツに傷を付けないように注意深く削り落とす事。

こういったパーツの接着は意外と難しい事がある。まず鉛筆等で位置決めをしておく。次に接着剤だが、スチロール同士なら隙間に細筆でラッカーシンナーでも流してやればよい。レジンの場合は瞬間接着剤かエポキシを使わなくてはならないが、特に密着性が高い場合は、少しでも余分に付けるとはみ出して見苦しくなってしまう。そんな場合はパーツの裏側を少し削って接着剤の〝タマリ〟を作ってやるのが有効。より慎重に行くのなら、両方に穴を開けて、支柱で固定する手もある。

フェアリングを固定したら、胴体側のパネルラインに合わせてスジ彫りを入れてやる。

機首の銃口は塞ぐが、ハセガワ・キットの銃口付近は曲面がスムーズでないので、ヤスリをかけて馴染ませておく。実機では銃口を塞いだパッチはそれほど目立たないので、必ずしもスジ彫りを入れ直す必要はない。

ハセガワのキットでは排莢口はスジ彫りだけの表現となっているが、A-1a／U3ではこれはパッチで塞がれているから、そのままでちょうど良い事になる。

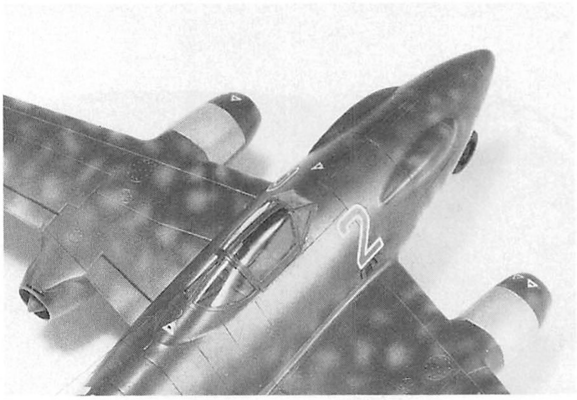
肝心のカメラ用の窓は、キットの説明書を含め一般には円形と言われているが、実際にはやや突出した正方形だったようだ。モノグラムの〝Jet Planes of the Third Reich〟p.142に実物のカラー写真が載っているが、これはかなりのアップのため、当初位置関係がはっきりしなかったが、よく見ると右舷の窓を右のやや前方から撮ったものと判った。再現には1／72なら0.2㎜の透明プラ板くらいがちょうど良い。

A-1a／U3への改造点は以上で、他はハセガワのキットをストレートに作ればケッコウ。

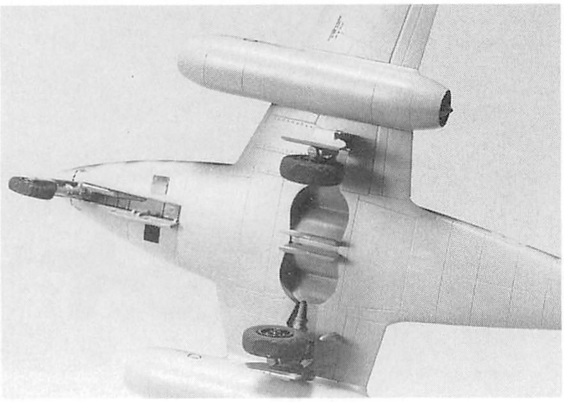
塗　装

NAG6のMe262A-1a／U3（つまり実用に供されたものすべてという事になるが）の塗装はほぼ共通で、全面76に、

▼パーツで見ると平べったい感じのフェアリングカバーも、機首につけてみるとちょうどのサイズといえる。隙間はパテで埋めておく。



▼前脚収納孔両側に、カメラ窓を自作する。0.2㎜の透明プラ板を切り出し胴体に貼り付ける。やや出っ張っているのに注意すること。



上側面に81と82かそのどちらか１色によるスプレー。このスプレー塗装は斑点というより蛇行線を重ねていったもので、各翼の上面も同様の塗装だったようだ。

機番は普通白フチのみによるもので、コクピットの前方に記入された。作例の機体（W.Nr.110585）は2.／NAG6の所属で、〝2〞の書体は実際には頭が丸いタイプ。



▲全面76に81か82をスプレー塗装し、エンジンカウルの一部は無塗装とした。

Me262A-1a/U4

ハセガワ1/72 Me262A-1a&Zモデル　松樹祐司



出来は大変良いので、どこかの改造パーツのように作りながらイラつく事もない。但しレジンの宿命で、事後収縮によりハセガワのキットとは必ずしも完全フィットはしないので、多少のパテは要る。

機首側の接着面には金属棒を差し込んだりして、胴体側との接着を強化する。

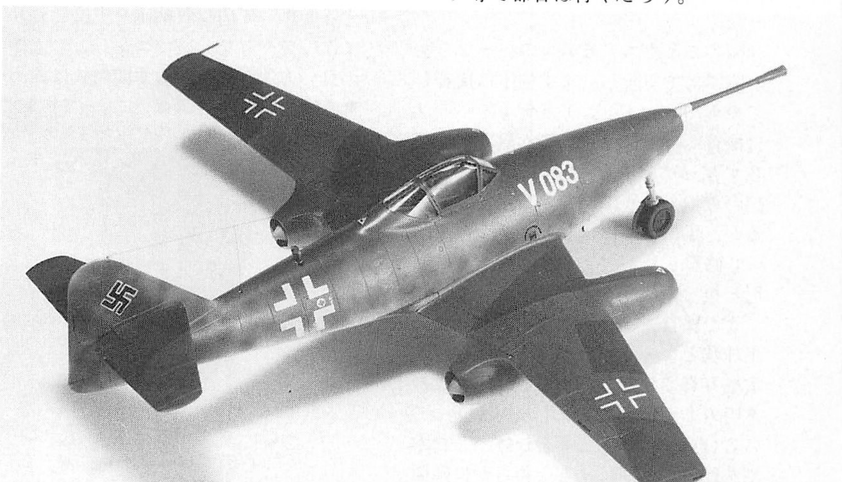
塗装とマーキングは殆ど選択の余地がないので、架空のものにして楽しむのも一法だろう。

〝V 083〞はもう手に入らないナントカいう大昔のデカールを使用したが、そんなに変った書体ではないので、インレタ等で都合は付くだろう。

本機については既にバックナンバー（'87／2）で紹介しているが、幸か不幸か'87／2月号はまだ絶版になっていないので、そちらを見てと言ってしまいたいところだが、一応手短かにダイジェストしておこう。

このMe262A-1a／U4はMe262E-1のプロトタイプで、機首に50㎜マウザーMk.214A-17を装備し、米重爆隊を迎撃しようとするものだった。

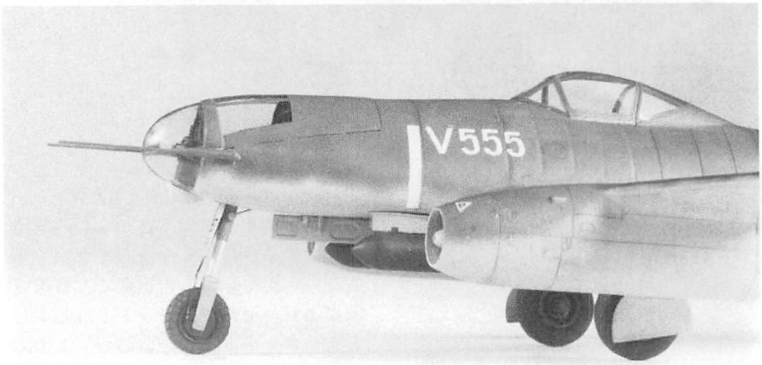
Zモデルの改造パーツはA-1a／U3用のバルジと、A-1a／U4用の機首まわりがセットになっているが、レジンの量では後者の圧勝。



▶４発爆撃機迎撃用に装備したMk. 214 50㎜機関砲。機首とのフィッティングは楽で、少々のスリ合わせだけでＯＫ。

Me262 A-2a/U2

ハセガワ1/72Me262A-Ia&エアモデル「倉敷翼端灯」池田　始



ハセガワとキットのアウトラインやはめ合わせの精度は見事で、作例のような大改造を施しても基本がしっかりしているため、改造しない個所は全く神経を使わなくても済むので助かる。

◆機首部……キャノピー２つ前のラインで輪切りにする。モノグラム刊「第３帝国のジェット機」に前部風防を開けた写真を見るにつけ、私め〝ヒンジ男〟はここを開閉式にしてやろうと思った。

図のごとくエアモデルのパーツをⓐの開閉部で切断し、まず胴体に接着してやる(ⓑ)。またエアモデルのパーツは機首へ行くに従って側面形で細くなりすぎ、かつ直線的すぎるようである。図の点線のように修整したいわけであるが、①のようには0.5㎜プラ板を貼って修整したが、②のようにするには塩ビ板で絞り直すしかない。

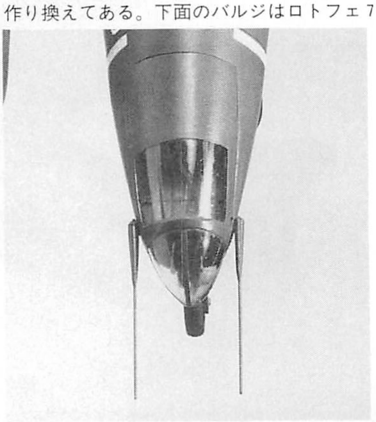
また機首先端の透明パーツも完全な半球状となっているので作り換えた。実機写真で判断して正面形はタテ長のダ円のようだし、平面形は先端が尖っている(点線③)。②と③を一体とした木型を作る。木型は④となめらかに隙間のないようにし、また段がないようにしてから塩ビの厚さ分だけ約0.3㎜ほど小さくしてやる。木型は同じ物を使っても②と③は別々に塩ビ板を絞ってやる。

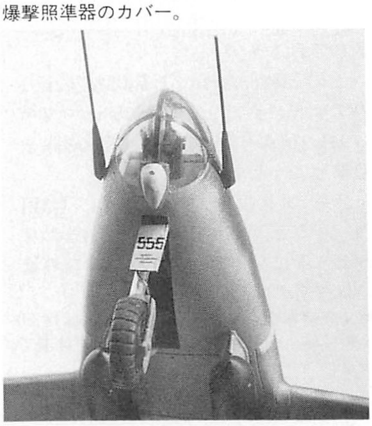
爆撃手はここに伏せて乗るのであるが、内部の床はフラットではなくちょうど爆撃手の股の当りに、前輪が収納される所のみ床から出張っている。ここはＭＡ別冊57年８月のMe262写真集のＰ25に写真が載っている。キャノピー開閉式とした場合、ここはよく見えると思って前輪収納庫を実機どおりに作ってやった。後にエンジンの工作の良い方法が見つからず開閉式は諦めたため内部はよく見えなくなったが、前脚納孔は深くなって実感は出たと思う。また、前脚柱も金属パイプで作り直したため、引き込みシリンダーやその基部なども実機どおりとする事が出来た。

機首風防内にロトフェ爆撃照準器、またその下の風防外のバルジを丸や角のプラ棒により自作する。機首風防はセロテープの細切りやグンゼのマイクロラインの黒。機首両側のアンテナのような物は実機では照準時か急降下の際の指針となったのかはよく判っていないが、0.3㎜洋白線にエポパテを巻き根元のほうが太くなるようなテーパー状にした物である。なお、主翼下面のモラーネアンテナも同様にして作り直してある。

◆他の部分の工作……垂直尾翼ラダー下部に大きな尾灯が目立つので、アクリル板より自作。なお、ノーマルなMe262を製作する場合も前期型はこのような尾灯となっているので、作る機種の写真などよく見るとよいだろう。翼端灯もクリアー材で自作。ループアンテナは0.1㎜アルミ板の細切りを丸めた物。主脚収納孔内部は配管や配線をそれらしく。カバーはキットの物を薄く削りエッジをシャープにする。それと胴体中央部側面の外板のうねりも先のそった半丸やすりなどで再現してやった。

▼機首には爆撃手が腹ばいになって搭乗する。ガラス部形状は実機に較べ丸すぎるので、作り換えてある。下面のバルジはロトフェ７Ｈ爆撃照準器のカバー。

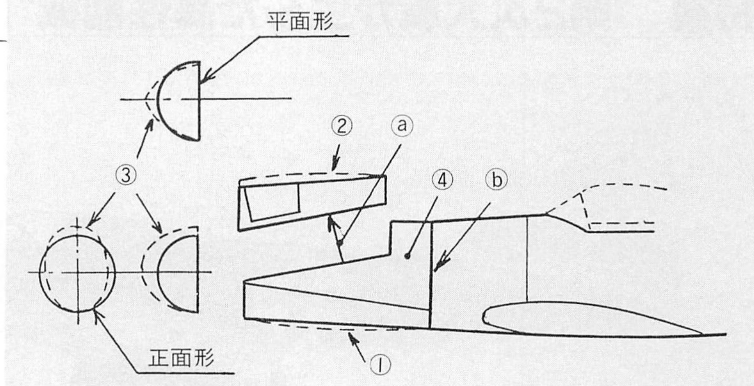




▼爆撃手を乗せた本格的爆撃機として登場したA-2a/U2。Me262バリエーションのなかでもひときわ目立つ存在だ。



◆塗装&マーキング……上面81の単色、下面76である。白色のV555は高さ3.3㎜のインレタを4.3㎜に延長し、エナメルの白でタッチアップしてある。数字の5の形状で判るであろう。機首と尾部にある白バンドはベタデカールからであるが、特に後の物は直線的な帯でなくキットのデカールの赤青バンドのように円錐を展開した形状となるので注意が必要である。



Me262 C-1a

モノグラム1/48　Me262A-1a改造「倉敷翼端灯」鳥越徳治



モノグラムのキットの改造個所を順を追って説明します。

① 胴体最後部とラダー下部を図面を参考に切断します。胴体接着後丸ヤスリと水ペーパーで内側から削りエッジを薄くします。真鍮パイプでロケットノズルを作り取り付けます。

② 胴体後部にプラペーパーで補強板を作り貼り付けます。この時アルミテープを貼り、スジ彫りに沿ってナイフで切ってから剥がして展開図にするといいでしょう。

③ 胴体後部下面に燃料排出管は真鍮パイプから作り、前部の蛇腹状の部分はランナーをモーターツールに挟んで削り出しました。排出口は古く傷んだ細筆の毛を止めている部分（ここが金属製でテーパーの付いているもの）から作りました。

④ 信号弾発射部はパテで埋め整形します。

⑤ 後部にパネルを追加スジ彫りします。

⑥ ループアンテナはフレームひとつ分前に移してやります。今回はこれを完全に見落としてしまい、気が付いたのが完成した後でキットを放り投げたくなりました。考証は最初にしっかりとやっておきましょう。

その他手を加えた所は、コクピット内部に少し手を入れキャノピーは真鍮線を軸にして可動にしました。

エンジンポッド後部のエアスクープは、型抜きの関係上モールドがあまいので彫刻刀で彫り込み、ピンバイスで穴を開けてそれらしくします。

前脚部主脚収納部は穴を開けたプラ板などでリブを作り、焼きなました真鍮線などでパイピングをしました。脚柱にはブレーキパイプを付加し、トルクリンクには軽め孔を開けてやる。

各アンテナ類やピトー管は真鍮線で作り、翼端灯はクリアー材で作り直します。機首ガンカメラはピンバイスで開孔して、クリアー材を埋め込みます。

各種翼操作ロッドも真鍮線で作りました。ここらへんのA型と共通の細部工作にはレプリカ'86年1月号の野原先生のイラストを参考に。下面を76、上面を81、82のマダラ迷彩とし、ピースコンをしぼってフリーハンドで行いました。各色はモデルアート別冊「ドイツ軍用機の塗装とマーキング」を参考に調合しました。

V186はモデルデカールNo.58、No.60英空軍用レターを使い、1の書体が違うのでⅣから切り出して使いました。その他各国籍マークはマイクロから、注意書きはレベル1/72スケールのMe262から流用しました。

資料としては

○Monogram／Jet Planes of the Third Reich

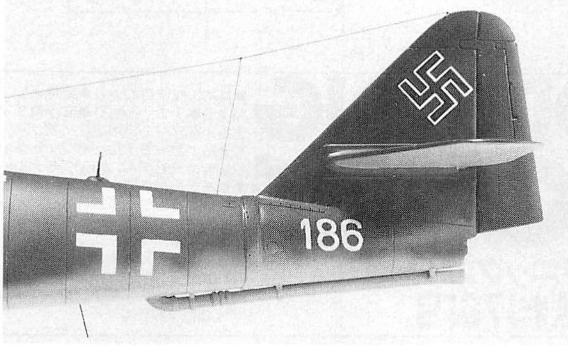
○航空ファン '81年3月号

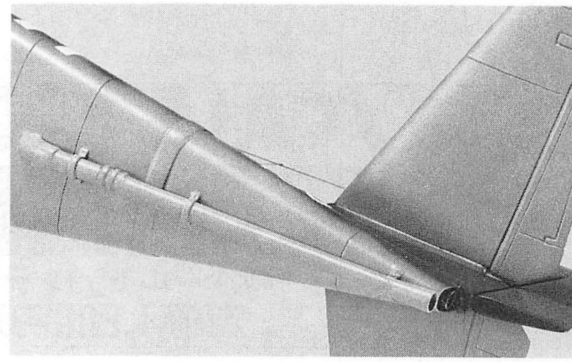
'86年4月号

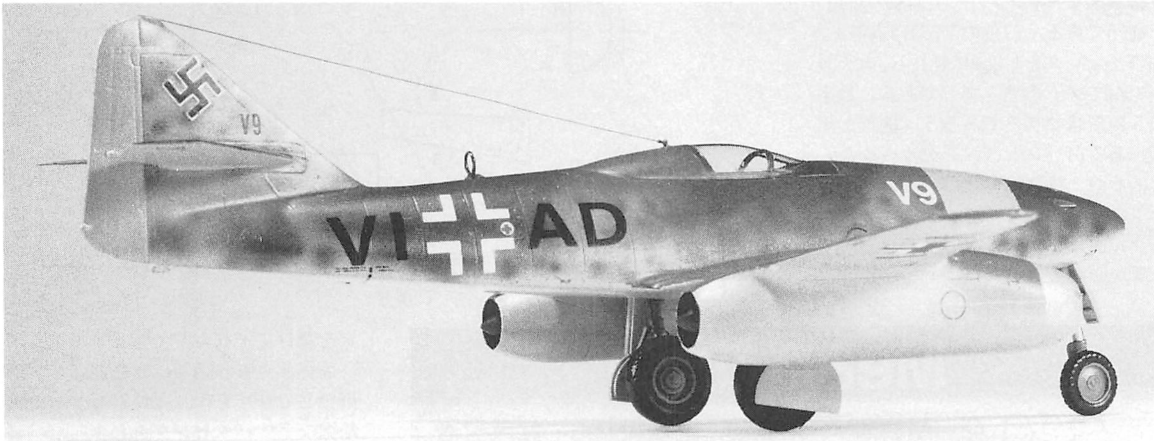
○世界の傑作機　Me262

○レプリカ '86年1月号

▼胴体内にHWK509Aロケット・エンジンを積んだMe262C-1a。この機体に3基のエンジンを搭載出来たということ自体不思議といえる。







Me262 V9 高速研究機

ハセガワ1/72Me262A-Ia＆エアモデル「倉敷翼端灯」石原英夫

メッサーシュミットMe262V9レーシングキャノピー・タイプの機体を作ってみる事としました。このタイプは本当のところまったく知らなかったのです。今回の使用キットはハセガワを使用。また、フランクモデル（現在のエアモデル）のバキューム・キット「Me262プロトタイプ／Me163S」にキャノピー（当然使用不能）と改造例があったので資料に使ってみました。いろいろな資料及び写真を見ても確認出来ない部分がありデータ的に貴重であると思います。

キットの改造

はじめに垂直尾翼前縁を前方に延長する。プラ板を確実に接着するため、前縁部を1.5mm幅にカット後、プラ板にて接着し、水平尾翼中心線より3.5mm延長部を基準とし整形しました。

水平尾翼は今回は40°後退したタイプとしました。キットガイド部をカットし、その部分に同じ厚みの翼をカット、垂直尾翼にあるモールドを削り、プラペーパーに取り付けパネルモールドとして接着、水平尾翼を接着しました。

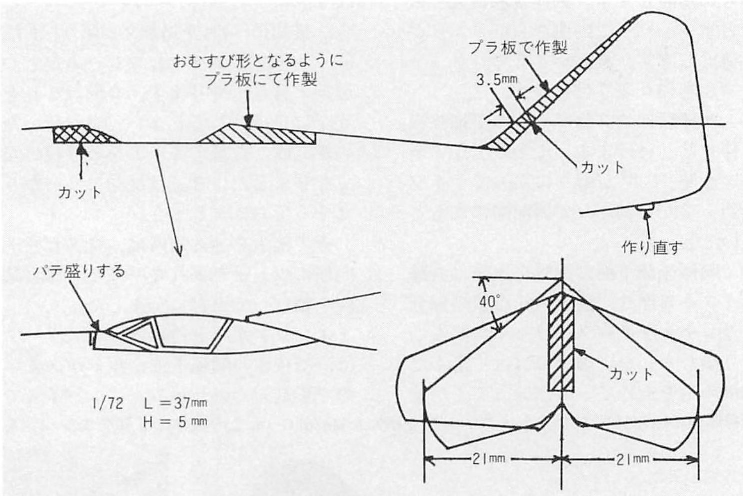
次にレーシングキャノピーは、バルサ形を作り塩ビ板にてヒートプレスして作成。また、キャノピー取り付け部は、ハセガワのキットはA/B共通でキットの物は使用出来ないので、プラ板にて機体断面と同じようにコクピット後ろまで作り、その部分へキャノピーをサンドペーパーで現物を合わせにて削り合わせた。コクピット前部の胴体を削り、この部分のみ塗装を行ないキャノピーを接着し、前後部をパテにて修整とした。

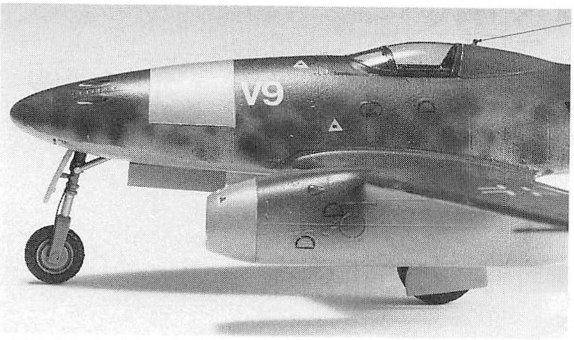
改造時の削りカス等がキャノピー内へ残らないように。この時コクピット内は照準器を削り取り、シートベルトの取り付けだけとしました。

塗装及びマーキング

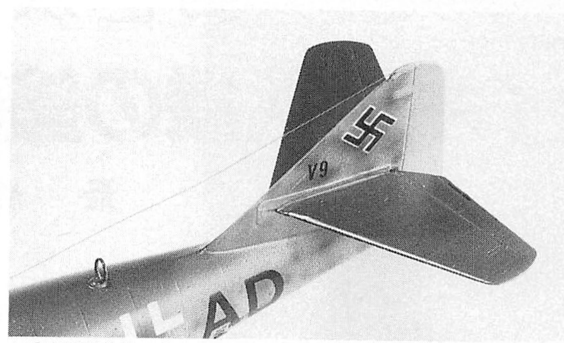
グレイ系迷彩ＲＬＭ74/75/76のパターンで、手持ちの古いモノグラムカラーに同じ色があり塗装してみました。缶入カラーなので今でも使用出来るようです。部分塗装として機関砲点検パネル、エンジンナセル先端カバーと方向舵は銀に白を１対１で塗装、キャノピー枠はＲＬＭ71にて塗装しました。

デカールはマイクロデカール、ファクトリーコードはインレタ（エレクトリックレタリング6.3mm、V9はカセットレタリング）を使用してみました。





▲空気抵抗軽減を狙った背の低いキャノピーは、自作してからカット後、胴体とスリ合わせて接着。隙間をパテで埋めてある。



▲垂直尾翼前縁は前方に延びて面積が増え、水平尾翼はかなりきつい後退角(40°)がついている。

Me262 SCHNELL BOMBER Ⅰa

ハセガワ1/72 Me262A-Ia改造「倉敷翼端灯」上野広志

胴体前部の改造で出来る本機を、ハセガワのMe262(1/72)から作ってみた。何せ私の手持ちの資料といえば文林堂の世界の傑作機「MESSERSCHMITT Me262」に掲載されている側面図だけで、胴体前部の上面、下面は推測である。

コクピットを機首先端へ移動し従来型のコクピット部分の胴体中央部は、1.2㎜のプラ板3枚を重ねカッターナイフと平ヤスリで整形した。

左側後部の信号弾発射口にピンバイスで2個ずつ計4個の穴を開けた。

キャノピーは、図面を見ているとキットのものが使えると思い、ヤスリ等で修整したが外形が全然違うので、木型を作り塩ビ板から絞った。

コクピット内部はキャノピーを取り付けると、あまり見えないのでかなり省略し、キットの操縦桿、座席、計器盤を使用し、シートベルトを追加した。

前脚収納部は、Me262A-1a/U4と同じようなので同機の図面をもとに半丸ヤスリ、幅の細い平ヤスリで工作した。

前脚取り付け部は、初めてキットのものを使い一部修整して使おうとしたが、工作に失敗して、1.2㎜と0.3㎜のプラ板でそれらしく作った。

後で同機の偵察型を前記の方法で作ってみたが出来映えはプラ板から作ったほうがいいように思う。

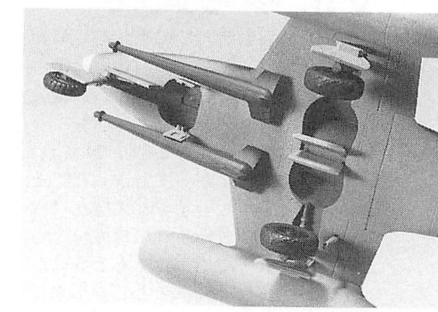
前脚収納部扉もMe262A-1a/U4を参考に、前部扉はキットのものを一部改修して左側へ取り付けし、中央部車輪カバーを0.3㎜のプラ板で作り、後部扉も0.3㎜のプラ板で左右一体で作り、後に分割し取り付けた。

翼端灯は、1.2㎜の透明プラ板から削り出した。

ピート管、ループアンテナはキットのものでは太すぎるので直径0.3㎜の真鍮線で作った。

武装はMe262A-2aと同じように下部のMk108 30㎜機関砲を残し、コクピット真下の2個の爆弾架に魚雷型爆弾を装備した。

魚雷型爆弾胴体は、太めのランナーから、フィン等は0.3㎜のプラ板から作った。



▲コクピットが前へ移動したため、前脚は90°ひねって収納される。爆弾は魚雷型。

前部のフィン（フィンと呼んでいいのか分からないが）は、プラ板を大きめに切り、中心に1.0㎜のピンバイスで穴を大きくしてゆき、爆弾頭部に差し込み接着し、後部のフィンは幅は正確に、高さは余裕を持たせて大きめに切り接着した後、ハサミ、ヤスリ、カッターナイフで整形した。

塗装は上面全体がRLM83の地にRLM81のスポット塗装、下面はRLM76 1色。

なお、本機が計画機なので実戦配備はなかったが、もし配備されていたらKG51(第51爆撃航空団)所属となったと思われるので、機首及び垂直尾翼上端を白塗装とした。

▼Me262を大幅に再設計した純粋な爆撃型で、スマートなスタイルはいかにも高速といった印象を受ける。



第2次大戦の
イギリス機の塗装とマーキング
最終回

松樹祐司

VII. 参考資料

今を去る数年前、Y編集長から最初にこの連載の依頼があった時は、確か数回でまとめるように言われたと思う。筆者も数回は無理としても10回ちょっと、1年位でまとまる心積りでいたのが、結局倍程もかかってしまった。それにしても必ずしもイギリス機が〝専攻〟ではない筆者の手許には充分といえる程の資料はなく、良くもどうにかこうにかこれだけ続けることが出来たものと思っている。細かい部分については不充分な点も少くないとは思うが、とりあえず大戦期の英機の塗装についてのアウトラインは判ってもらえる内容になったとは思う。

変化に富むドイツ機等の場合と異なり、かなり厳しく管理されていたイギリスの塗装とマーキングのシステムは、一見平坦に見えるために、かえって油断を招き、意外にミスを犯して気付かないでいるモデラーも少なくない。実際イギリス機の塗装とマーキングに関してまとまった出版物というのは想像以上に少なく、とくに日本国内ではかなりの冷遇ぶりである(日本では大戦モノはドイツと日本しか商売にならにいという声もある位だ)。

最後に当たって、一応基本的な参考図書についてまとめておく。但し、これまでに出された英機関係の出版物の量はそりゃもう膨大なもので、今回は充分なスペースも情報もないので、塗装とマーキングに関連したものに限定してある。

1. 塗装関係

●British Aviation Colours of World War Two
Aston Publications刊

公式文書から塗装とマーキングに関するものをまとめた1冊。1939年4月から'44年9月までのAMO(航空省通達)を主体にしたもので、前回の通達についての訂正まで載ったオリジナルの強味がある。但し、モデラー向けに咀嚼されてものではないので一部判り難く、また塗装やマーキングの変更はAMOより、シグナル等のより頻繁に出される通達によることが多く、これ1冊でシステムの変遷の全体を把握することは困難である。

もうひとつ重要なのは巻末に添付された29色のカラーチップで、一般に入手出来るものとしては最も信頼性の高いものである。これだけでも本書は価値がある。

●fighting colours
●bombing colours
共にMichael J.F.Bowyer著 Kookcburrc刊

共に1960年代のエアフィックスマガジンに連載されていた記事を1冊にまとめたもの。著者自身が当時見て記録してきた事実もかなり盛り込まれていて、説得力のある内容になっている。

戦闘機編、爆撃機編共1935年から'70年代までをカバーしているが、新しい年代の部分は後に書き足されたもので、内容の重点は大戦期に置かれている。

それぞれ1冊にまとめる際に一部の内容がカットされており(とくに爆撃機編)、連載のほうでしか見られない写真も少なくない。また、写真が小さ目なのも惜しい点。当初はPSLから出版されたが、現在はクーカバラ版のみ。

●RAF Camouflage of World War 2 (AIRFIX magazine guide II)
Michael J.F.Bowyer著 PSL刊

これは既に絶版で、とくに重要という訳でもないが、全体を11章に分け、オーソドックスながら比較的マイナーな分野までコンパクトにまとめた、シリーズ中でも価値のある1冊。こういったスタイルでより部厚いのが1冊欲しいのだ。

●Camouflage and Markingsシリーズ
James Goulding, Rober C. Jones, Richard L. Ward著 Ducimas Books刊

これも絶版になってしまったが、このテーマでは欠くことの出来ない優れた内容のシリーズである。

対象は空軍の戦闘機、それも北ヨーロッパ戦線と限定されるが、その範囲での塗装と基本的なマーキングシステムに関してはほぼ完全にまとめられている。24ページというボリュームから出版当時はポストプロファイル等と騒がれたが、テキストが、殆ど塗装とマーキングに関することという点で全く性格を異にするものだった。

英機シリーズは12冊が出たが、バラのものと12冊合本になったものがあった。

2. カラー写真のある本

言うまでもなくカラー写真の力は偉大なもので、モノクロ写真や怪し気なカラー図で作り上げられた曖昧なイメージが一瞬の内に払拭されてしまう。とくに大戦機の場合は価値が高い訳だが、それも色調を良く残した鮮明なものである必要がある。その点で我々はコダックに感謝しなければならない。英米機ではその条件に適うものがかなり現存しているからだ。

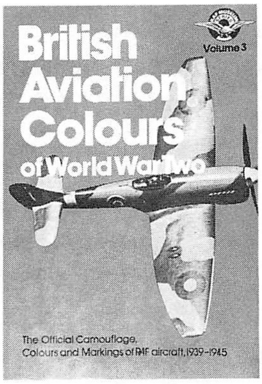
●BRITISH AIRCRAFT OF WORLD WAR II
John F. Turner著 Sidgwick & Jackson刊

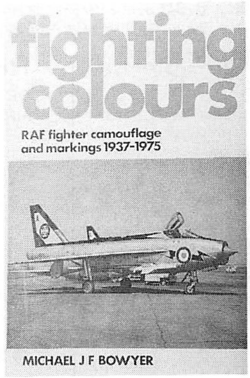
これは英空海軍機のデータとそのエピソード、主要な作戦をまとめたものだが、何といっても値打ちは中程のカラーセクションで、かなり状態の良いものばかり、40点が収録されている。

迷彩機の色調は勿論、例えばNo.241 Sqn. のスピットファイアMk.IXcが、ベスビオ山上空を2機で飛行している有名なショットがあるが、これらではコードレターが何とオレンジで記入されている事等も判ってしまう。

●British Fighters of World War II
Bill Gunston著 Hamlyn/Aerospace刊

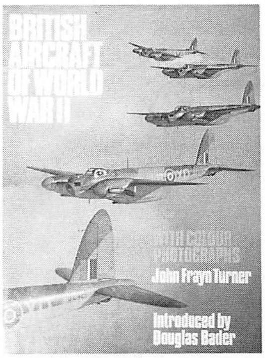
こちらは英空海軍の戦闘機をまとめたもので、カッタウェイやカラー図等で多角的に攻めているが、カラー写真

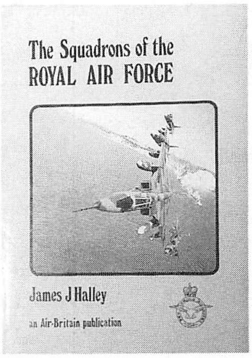


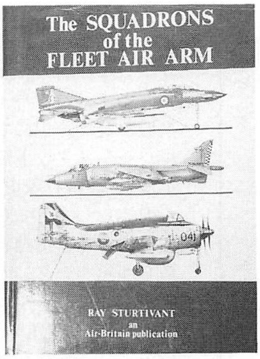














も30点程載っている。

これは現用機で既に判っていることだが、同じ色でも(とくにグレイ系)、写真によってかなり色調が違って見えるから、有難がる余り色見本代わりにまで使ってはいけない。勿論、元から色調にバラツキノある場合もあるのだが。

●CAMERA ABOVE THE CLOUDS Vol.1, Vol.2
Anthony Harold編　Air Life刊
各5,380円(西山洋書調べ)

有名なカメラマン、チャールズ・ブラウンによる写真のセレクションで、'30年代から'50年代の様々な機体が大サイズの写真で登場する。カラーは30点程ずつ。

3. コードレター

●SQUADRON CODES 1937—56
Michael J.F. Bowyer, John D.R. Rawlings著　PSL刊

シリアルナンバーに関する出版物はいくつかあるが、コードレターについてのまとまった1冊はこれだけ。

これもエアフィックスマガジンに長期連載されたものの単行本化だが、やはりかなりの写真が削られているようだ。

英空軍機のコードシステムは決してルーズなものではないから、その多くは所属の"判読"が出来るのだが、一部の後方部隊や、一線級部隊でも海外で短期間用いられたようなものでは、未だに判明しないものがある。この本では小規模なフライトやOTU、英の指揮下で戦った外国の部隊のコードまで網羅しているが、このテーマはまだ完結していない。

エヴィエーションニュースのVol.15、No.7には戦前のコードレターが各部隊1点ずつの写真(未発表多し)と共に解説されている。

4. 部隊史

これは一見本来のテーマから外れるようだが、写真の解説が不充分な時等に部隊や場所、時期の判定等に役立つ。

●FIGHTER SQUADRONS OF THE RAF AND THEIR AIRCRAFT
Jane's 刊

長いタイトルなので割愛するが、表題の戦闘隊編の他に爆撃隊編と沿岸支援及び特殊部隊編(本誌No.289ブックレビュー参照)から成る3部作。

RAFの創設から"現在"(勿論出版時の、最初の2冊は'60年代)までの各部隊の歴史を、基地や使用機の変遷と共に綴ったものだが、写真もふんだんに収録されているので、写真集と考えても良いだろう。

●The Squadrons of the ROYAL AIR FORCE
James J. Halley著　Air Britain刊

上記3冊を1冊にまとめてコンパクトにしたといった感じなのがこれ。写真は各部隊に付き1点程度ずつだが、本来の用途は充分に果たす。

●The SQUADRONS of the FLEET AIR ARM
Ray Sturtivant著　Air Britain刊

上記の姉妹版で、FAAの部隊史だが、こちらは類似書が存在せず、より価値の高い1冊といえる。記述や写真解説も上記のものより詳しくなっているし、何より資料の少ないFAA機の事、多数の未発表写真が有難い。総合的に見てFAAの本としては最高クラス。

この他にもイギリスで出版されている雑誌類には、貴重な資料が載っていることが少なくない。このテーマに限れば、Scale Models, Aircraft Model World, Scale Aircraft Modellings等が良い。とくにSAM誌は必ず特集機のカラー写真(大戦機でも)が表紙を飾るし、イアン・ハントレー氏の連載記事も見逃せない。同氏は大戦中、まだ10代ながら既に相当なマニアで、機体の正確なイラストや塗装のカラーサンプル等を残しており(この辺がマニアの国、イギリスのレベル)、それらと戦後収集された数々の資料に裏打ちされた記述は、単なる思い出話でなく高い資料的価値を持ったレポートになっている。筆者は未入手なのだが、同氏は、色見本付の塗装に関する小冊子を著しているようだ。

最後に資料でいろいろとお世話になったY編集長と編集に面倒を掛けたM君に謝意を表して連載を終了したい。

ブックレビュー

●西山洋書：〒104 東京都中央区銀座4-7-11たきんビル3F☎03-562-0820
●ハセガワ：〒425 静岡県焼津市八楠1193-2☎0546-28-8241

Deutsche Flugzeugfü hrershulen und ihre Maschinen 1919—1945



●Karl Ries著
●Motorbuch Verleg刊
●6,960円(西山洋書調べ)

カール・リース数年振りの著作で、第1次大戦直後から第2次大戦までの、ドイツの飛行学校とその使用機をまとめた異色作。地味ではあるがこれまで殆どまとまった資料のなかったテーマだけにその価値は高い。機種はとくに前半のものはマイナーで殆どキットも存在していないが、大戦期になると各種の練習機や、旧式化して学校にまわされた機体の珍しい写真が続き、モデラーにも有益だろう。訓練のシステムや各学校の略史等も参考になる。表紙裏等にカラーで学校のエンブレムが50点描かれているが、リースの旧著にもなかった初見のものも多い。 24.5×21.5cm、232pp.、写真474点。

FLIEGERTRUPPE 1914—1918 Nr. .1Ⓐ Nr. .2Ⓑ



Ⓐ



Ⓑ

●A.E.Ferko著/刊
●Ⓐ1,350円Ⓑ1,550円
(ビンテージモデル調べ)

第1次大戦ドイツ航空隊の写真集1冊目はエース、ハンス・フォン・コイデル少尉の戦歴がメインで、彼や彼にまつわるパイロットの様子と乗機の数々。主にフォッカーDやハルバーシュタット等前期の機体。後半はA226飛行隊史とA2986 飛行隊の機体(ハノーバーCL2等の複座機)。2冊目の方は指揮官の名前からカラスを部隊マークにしたJasta18 の戦史が主体で、アルバトロスD.5、ファルツD3、フォッカーDr1、D.7等。後半にはドイツ初期の鉄十字マークのバリエーションや捕獲された英仏機等。どちらも機体写真ばかりではないが、その多くは珍しいもので、WW1機ファンにお奨め。 28×21cm、48pp.、写真1−100点、2−126点。

PHANTOM SQUADRONS OF THE ROYAL AIR FORCE AND FLEET AIR ARM



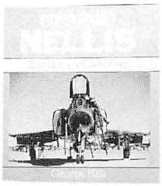
●Richard L.Ward著
●Linewrights刊
●4,000円(ハセガワ調べ)

英空軍及び海軍で使用された各型のファントムIIを各スコードロン毎にまとめたもの。

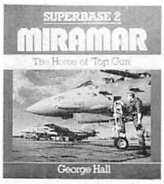
英の空海軍がファントムIIの配備を始めてから20年近くになるが、その間本機を装備したスコードロンは18個、現在も8個で現役を保っている。その長い就役期間には、塗装やマーキングの変更や、特殊なマーキングの例も見られたが、ここではそれらをとおして見る事が出来る。

各部隊毎に略史も付き、写真の説明もかなり詳しい。写真の出はまあまあだが、ロービジ機のモノクロはディティールの飛んでしまっているものが少なくない。30×21.5cm、68pp.写真210点(カラー−15)。

NELLIS Ⓐ MIRAMAR Ⓑ



Ⓐ



Ⓑ

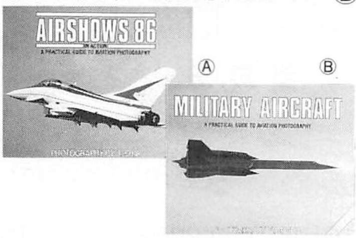
●ⒶⒷ共Geoge Hall著
●Osprey Publishing刊
●ⒶⒷ共2,500円(西山洋書調べ)

新しく始まったオスプリーの"スーパー・ベース"シリーズは有名な基地毎に軍用機を紹介するオールカラーの写真集で、沢山でてくる現用機写真集に、多少でも目先を変えようとするアノ手コノ手の一法だろう。

最初の2冊は"レッド・フラッグ"のネリスと、"トップ・ガン"のミラマーで、さもありなんといった選択。体裁・内容ともにこれまでのオスプリーカラー・シリーズとほぼ同じと考えて良く、全編鮮明で大判のカラー写真で埋っている。

類書が多くなって余り強い印象は残らないけれど、やはりオールカラーは楽しめる。 23×21cm、128pp.写真Ⓐ121点、Ⓑ119点。

AIR SHOWS 86 IN ACTION Ⓐ MILITARY AIRCRAFT Ⓑ



●ⒶⒷ共 Tiang Sim-Sia著
●Enterprise刊
●Ⓐ1,780円 Ⓑ2,140円

こちらはもうちょっと簡便なつくりの写真集で、よくあるハンディな図鑑といったスタイル。つまり1機種1〜2ページにページ大のカラー写真と簡単な解説を附したもの。エアショウ86とミリタリー・エアクラフトの2冊とも、結果的に内容は似たりよったりになった。両者とも、最新鋭の軍用機がメインで、違いといえば前者の方が若干の民間機とアクロチーム機を多めに含んでいる事くらい。写真そのものは決して悪くないが国内にも類書はあるし、モデラーがわざわざ求める程の内容とは言えそうにない。

20×25cm、80pp.、写真Ⓐ82点、Ⓑ80点(共にオールカラー)。

DEUTSCHE LUFTSCHIFFE



●Heinz J.Nowarra著
●Podzun-Pallas-Verlag刊
●1,780円(西山洋書調べ)

ヴァッフェン・アルゼナールの特別号の新刊で、ドイツの飛行船についてまとめたもの。

19世紀末の実験的なものから、1937年のヒンデンブルク号の炎上までが述べられているが、主体は第1次大戦に用いられたシュッテ・ランツやグラーフ・ツェッペリンの軍用飛行船で、各型式や戦歴についても触れられている。現在ではのどかな印象の強い飛行船も、かつてイギリスの市民には恐怖の対象であった訳だその辺の戦史についてはイギリスから出ているR・リメルによる、より詳細な1冊の方をおすすめしたい。

21×27.5cm、52pp.+カラーカバー、写真99点。

●ビンテージモデル：〒175 東京都板橋区赤塚1-20-8

FLUGZEUGTRÄGER "GRAF ZEPPELIN"



●Siegfried Breyer著
●Podzun-Pallas-Verlag刊
●2,160円（西山洋書調べ）

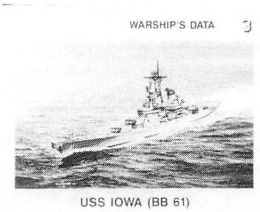
マリーネ・アルゼナールの4冊目はドイツで唯一艦建造されながらも、完成に至らなかった空母、グラーフツェッペリンを取り上げている。

例によって、図面や構造図を交えて、グラーフ・ツェッペリンの建造から、ソ連軍に捕獲された後までを綴っている。写真は不鮮明なものもあるが、かなり良く収集されている。最後にはドイツの他の空母の建造／改造案も記述。

巻末の現用艦のコーナーでは、仏のカサール級駆逐艦、ルーマニアの艦艇等の他、ワシントン条約から66年といった記事も。

29.5×21cm、48pp.、写真49点。

USS IOWA(BB 61)



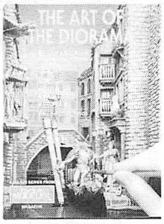
●Robert F.Sumrall著
●Pictorial Histories Pub.刊
●1,830円（西山洋書調べ）

こちらはアメリカ艦のウォーシップデータの3冊目で、戦艦アイオワがテーマ。

こちらも例によって1864年に竣工した初代(スループ艦)から書き起し、開発の経緯、構造、戦歴等を詳細に述べている。但しシリーズ名からも判るように本書の重点は開発／構造におかれており、ページのかなりを使って各時期の装備等を解説している。中央見開きには1942年7月と1986年12月時の2面図と、カラー図が2種載っており、迷彩についても簡単ながら触れられている。巻末のデータもかなり詳細。

11.5×28cm、54pp.＋カラー見開×2、写真102点。

THE ART OF THE DIORAMA

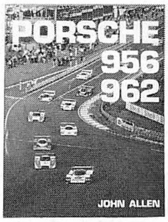


●Ray Andarson著
●Kalmbach Books刊
●1,460円（西山洋書調べ）

これはファイン・スケール・モデラー誌に連載された、ジオラマ技術を1冊にまとめたもの。

作品は何れも細部まで神経の行き届いた完成度の高いものばかりで、それぞれが個有の空間を作り上げている。テーマは中世ヨーロッパや、開拓時代のアメリカのものが多く、我々にはちょっと馴染み難い点もあるが、その技術には得るべき所が少なくない。元々が雑誌の連載だからステップ・バイ・ステップで技法が解説されており、理解もし易くなっている。戦場に固執せず、新しいジャンルに目を向けてみようかという気にもさせてくれる1冊だ。27×21cm、56pp.（カラー34）、写真83点。

PORSCHE 956 962



●JOHN ALLEN著
●Haynes刊
●5,020円(西山洋書調べ)

世界スポーツプロトタイプカー選手権をはじめとして、IMSA、全日本の耐久レースで無敵を誇ったポルシェ956/962の単行本。'82年から'87年までのレースでの活躍をまとめたもので、ディティール的な写真や解説はないものの、7年間に使われたマシンはほとんどフォローされている。また、ワークスをはじめとして各プライベート・チーム、そしてドライバーの紹介がある。プライベートといってもお馴じみのチームばかりで、その活躍ぶりがよく判る。珍しいところではIMSAの962。シングル・ターボのためリア・カウル等の違いの判る写真が有難い。21.3×27.7cm、157PP、モノクロ156点、カラー58点。

価格は西山洋書調べ。太ゴシックの文字は注目記事。

輸入雑誌内容紹介

〔Scale Aircraft Modelling〕

Vol.10 No.11('88/8)

●輸出型キャンベラ（写真17点、塗装例60種）、●ハンターT7（エシュロン1/32）Pt.2、・30年代のハーケンクロイツ他、44pp。

〔SCALE MODELS〕

'88/7

・ホーカー・ハンターT7、・マクラーレンMP4/2C（プロター)、・AH-64アパッチ細部写真、・A-4 キットガイド、・GAIGC FT-7 他、48pp.（カラー9＋カバー)。

〔AIR FORCES INTERNATIONAL〕

'88/8

・ライトニングスペシャル、マーキング、細部写真、F.1A、F.3、T.4/5 1/72図面入り。・アブロアンソン解説。他26pp.

〔AIR FORCES INTERNATIONAL〕

'88/9

・H.M.S.アークロイヤルアンドエアクラフト。**主にシーハリアー、細部写真有。**・アブロアンソンPart.2解説及び1/72図面。他29pp.

〔AVIATION NEWS magazine〕

'88/8

・イギリスエアライン特集。・アルバトロスD.V.マーキング。他

NEWS

石橋謙一航空機イラスト集

プラモデルのパッケージや航空雑誌などでお馴みの石橋謙一氏の航空機イラスト作品集がバンダイBクラブ別冊として刊行される。

未発表作品を含む、100点近くのカラー、60点のモノクロ作品で石橋氏の10年間に渡る大作を見事に網羅。

●A4判、総112pp(カラー80、単色36)、カバー付き。
●定価1,800円
●10月20日発売
●発行(株)バンダイ

※この本を抽選で5名様にプレゼント！応募はハガキで。〒102 東京都千代田区飯田橋2-8-3モデルアート社イラスト本プレゼント係まで。締切りは10月末日（消印有効)。



プロペラファン ニュース

室内と屋外で飛行会 パイパーカブ・カーニバル

毎年８月のお盆休みの２日間、全国からピーナッツ機のファンが名古屋に集り、自慢の自作機で飛行会が開かれている。

ピーナッツ機は翼幅33cmという小型機なので、各自それぞれ５機くらいで参加するので30名近くで、参加総機数は100機以上となり、初日は早朝の午前７時から飛行会は始められ、終日ピーナッツ機が大空を舞うという楽しい飛行会であった。

毎年この飛行会には課題機が出て特別競技が行われるが、今年はパイパーカブが課題とされ、同一機体による競技とするため米マイクロ社のパイパーカブ機（下図面）が選ばれた。これは同社キットの図面を採用したものであるが、ほとんどの部品がバルサの構造で出来ており、また設計も優れており好性能の機体であるからだ。

下図を見てもお判りのように、プロペラおよび機首部品など全部バルサ板を用いており、普通市販のバルサを用い図面どおりに製作して、約5.5ｇくらいの軽量に仕上がるモデルである。

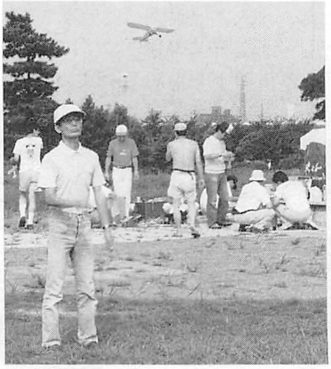
なおもうひとつ課題機に採り上げられた理由に、昼間をアウトドア（屋外）、夜間を宿舎にある体育館を利用しインドア（室内）競技で楽しもうという企画であり、つまり昼夜一日中ピーナッツ機を飛ばすパイパーカブ・カーニバルといったところで、両競技に適するピーナッツ機として選ばれ、課題機となったのである。

さてこの日集ったカブ機は16機、機体重量も各機まちまちで最軽量は2.8ｇで、最高は8.2ｇ。たとえ同一図面で作っても各人まちまち、これは材料の選択もさることながら、工作技術がここでかなりの差がつくようである。

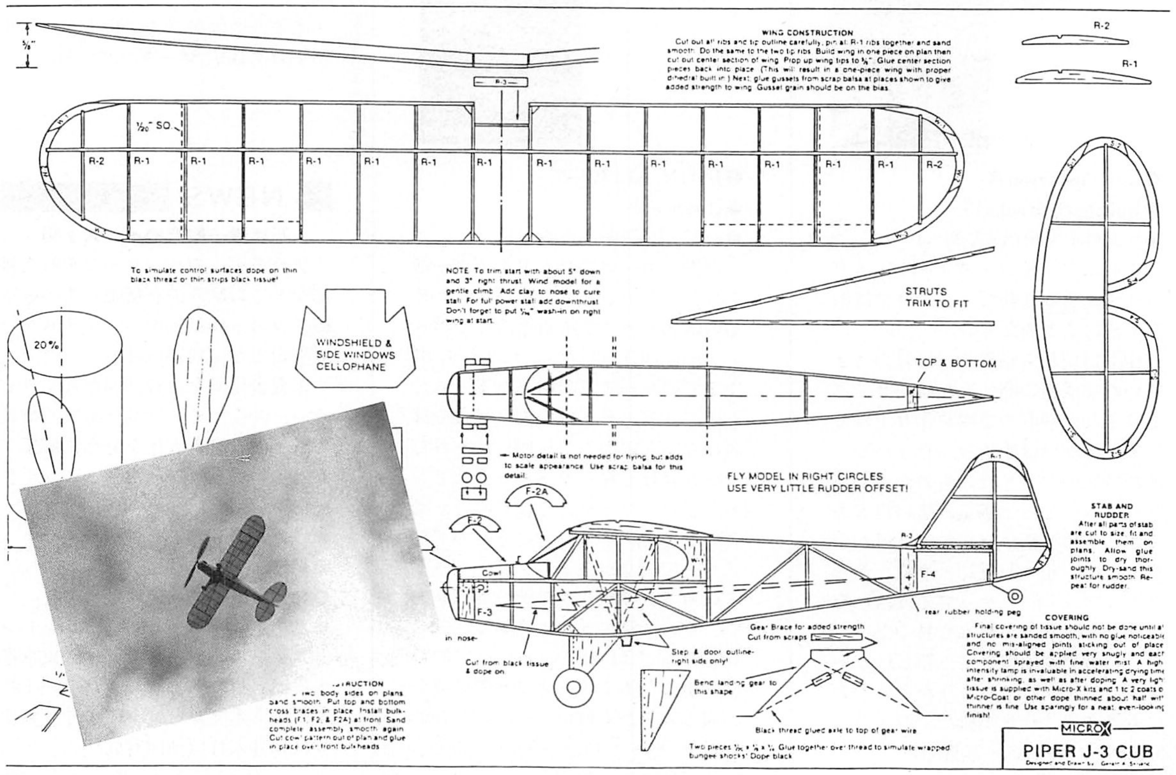
競技ではやはり軽量機が有利で、2.8ｇ機は屋外で81秒、室内で101秒で優勝したが、２位はそれぞれ72秒と51秒の記録を出し、あながち無風状態の室内がゴム機には有利だとは言えない結果となった。

とにかく課題機で屋外と室内の両競技を行なう飛行会はスリル満点で大成功だった。









“クルマのお話あれこれ”第7回

ベンツを集めてみました

河原　誠

1.ベンツの本当の社名は？

我が日本国ではベンツ、そして欧州では面白いことにメルセデスで理解されているこのクルマ、正式にはダイムラー・ベンツ社のメルセデス・ベンツという自動車になる。

今からちょうど100年ほど前、ゴットリー・ダイムラーとカール・ベンツというふたりが、ほぼ時期を同時にして、世界初のガソリン・エンジン車を発明したことは名高く、第１次大戦の敗戦国ドイツの政策により、両社が歩み寄り合併してできた会社こそが、現代のダイムラー・ベンツ社ということになるのだが、片や、そこの商品名たるメルセデス・ベンツのメルセデスの名前の由来は、どこから来たものか……？

簡単に言ってしまえば、当時（20世紀早々）のダイムラー社に席を置く重役の娘の名前から取ったとのこと。

更にくわしい資料によれば、入社前このオジさんは、大のレース好きで、ダイムラー製マシンにより出走を記録、しかし、すでに財をなし、社会的名声もあったためか諸事情により、偽名にての参加は彼の娘のネーミング、メルセデスによるものだったのだ。

ところで、彼がなぜダイムラー社に入社したのかといういきさつについては、これまた興味を引くもので、ダイムラーのフランスにおける販売権利を、商売上得ようとしたものの、従来の代理店との複雑な関係からむずかしい問題をかかえることになってしまい、いっそそれを回避するうえでも、自分みずからダイムラー社に出資する形で、重役におさまったというわけだった。

これなら誰にも文句を言われず、堂々とフランスにおけるダイムラーの権利を主張できるというもの。

そして、ついでながら、メルセデスという名を車名に使うところなんぞ、子供思いの人だったことが想像できる人物像が浮かび出てくる。

メルセデスの名の出現は、こんなところよりきている。

2.ベンツ＝高級車

その後、ダイムラー・ベンツ社となってからも、メルセデス・ベンツという車名は残り、モーター・スポーツにたいへん興味を持つメーカーとして、長年に渡り活動してきた高性能車（いわゆるスポーツカー）の生産会社であることは、今の高級車の代名詞ともいわれた同社のイメージからは考えつかない事実であることも注目してほしい。

ただ、その頃より、すでに高級車思考はあったようで、第１次大戦後下の混乱期における同業社の相次いだ倒産の中、切り抜けられたのも実は、高級車によるところだったのである。

やがてリタイアすることになってしまう他社が、すべて生産コストを低め、しいては価格を下げることにより急場をしのごうとして、商品が売れなくなるほど悪いモノにしてしまったのとは逆に、ベンツは先述の高価格良質化の姿勢を打ち出し、賞賛を得、うまくこの難を切り抜けたというわけなのだ。

一説によれば、’55年ル・マンの大惨事の責任を取り、以後、高級車思考メーカーに専念ともあるが、すでに２次大戦前よりこの傾向はあったとせねばならないだろう。

3.ミドル・サイズのベンツ

いずれにせよ、未だに続いている高級車イメージのメルセデス・ベンツ(以下ベンツ）ではあるが、近年、真に日本の道路事情にあわせるかのように、ミドルクラスのサイズも、ベンツの長い歴史からすれば、ついこの間発表され、新天地を開かんとしているところに注意したい。

230系、260系及び300系がそれに当たるが、更に190系では、〝３ナンバーで走れるベンツ〞をキャッチフレーズに、バリエーションも豊富といったところ。

いずれもエンジンの総排気量を意味する数字によるネーミングということになり、たとえば最もポピュラーな〝E〞シリーズの230Eは、2.3ℓの直列４気筒なのに対し、260E及び300Eはそれぞれ2.6ℓと3ℓの直列６気筒という違いがある。

4.ミドル・サイズの内味

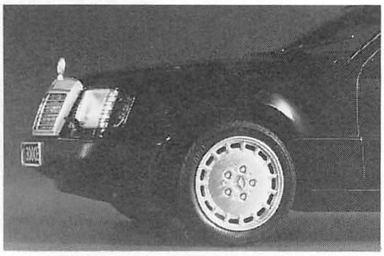
今回、フジミより発売となった300CEは、このうちきわめて新しい車種ばかりでなく、これらベンツのミディアム・クラスの高性能スポーツ・バージョンとしての存在なのだ。

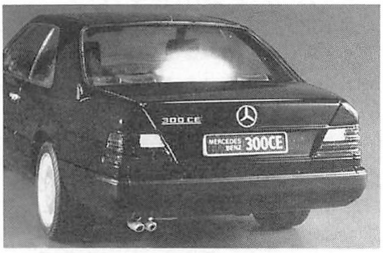


クルマのお話あれこれ



▲メルセデス・ベンツ300CE（フジミ1/24）：河原　誠　ベンツのミディアム・サイズの中での最高バージョンたる車。のちにエンジン付きを発売予定しているのか、ボンネットは別パーツとなり、エンジンルーム内もモールドされている。ドアの内張りのモールドは見事。





またこの他、300Dのようなターボ。ディーゼル車が用意されているところなんぞは、1910年にこのタイプのエンジンに興味を持ち、早くから各種車輌に実用化した同社らしき伝統が生きづいているといったところだろうか。

230TEや作例の200TDは、そのTよりステーションワゴンを意味したノーマル・アスピレーション・エンジン付きE及びディーゼル・エンジン付きDということになる。

驚くべきことに、このステーション・ワゴンでさえcd値0.34を誇るのも、エアロダイナミックなボディを売り物とする同シリーズの特徴といえるだろう。

一方、コンパクト・クラスの愛称でミディアム・クラスよりも少々先に人気を得た感じのある190シリーズは、国内デビュー当時、右ハンドル車さえ用意される力の入れようで話題をさらったが、当初の直列4気筒2ℓのパワー・ユニットの枠を越え、現在では、直列6気筒2.6ℓの190E2.6などが登場している。中でも高性能版は190E2.3-16なる車種。

あのレーシング・エンジン・チューナーとして名高いコスワースの全面協力を得て開発されたブロックこそ、従来の4気筒ながらDOHC16バルブのヘッドを持つ2.3ℓ車なのだ。

そのスーパー・スポーツぶりは、30年ぶりの本格的モーター・スポーツ復活をベンツに決定させるきっかけを作った立役車として記憶に新しい。

一方、このクラスのディーゼル車種としては、190D2.5などがあり、非常に静かで、鋭い走りが、キャッチフレーズとなるほどのすぐれもので注目したい。

以上、コンパクト及びミディアム・クラスとも、これまでのベンツとは違ったコンセプトを持つ新シリーズとして、今後の展開が楽しみなことになりそうだ。

5.最近のベンツ・モデル

モデル・キット界に目を向けてみると、決してベンツなるクルマは、知名度の割には、数値的にめぐまれているとはいえない存在だった。

輸入品でいくつかが紹介されたものの、簡単に入手できるほど在庫はかかえておらず、唯一はタミヤの500SECのみといってもいいくらい長い間を経験してしまっている。

ところが、最近では、このコンパクト-ミディアム・クラスが、実際の宣伝におけるダイムラー・ベンツ社の力の入れようを反映してか、にわかにキットが出没するようになってきた。

しかも、基本ボディは同じということで、当然のごとくバリエーションも増える傾向があり、模型店での市民権もある程度は確保するまでにいたっているのは、ベンツ・ファンにとっては、よろこばしきことだろう。

その先陣を務めたのが、エッシーで、一時、同社が社運(？)をかけた自動車シリーズのひとつに組み込まれたのは、ラッキーなデビューといわざるを得ない。車種的には、190E及び190E2.3-16の通称コスワース・ベンツが選択されたが、作例のごとく、後車のファンにとっては、多少興ざめするスタンダード2ℓパワーユニットの搭載は残念な事実として笑ってしまう。

同シリーズの特徴である、きわめてマニアックな車種選定は、目をみはる



▼メルセデス・ベンツ200TD（ドイツ・レベル1/24）：河原　誠　ベンツのステーションワゴンのモデル化という非常に珍しいキット。それも西ドイツで使われている消防車仕様というのがユニーク。以後かなりのバリエーションが期待できる。





もののの、メカニカル的な分野においては、おまけ程度にとどまってしまったのは、この190Eシリーズも、その例外ではなかったようだ。

しかし、スタンダード190Eとしては、このメーカーからでているものだけなので、ベンツ・ファンには、必作所有アイテムとして重宝されているといえよう。

また、実車と同じく、西ドイツ・レベル社より出ているシリーズは、ミディアム・クラスをテーマとしたものだ。

同国であること、ドイツ社プラモデルはめずらしいことも手伝って、大いに期待されたが、今の日本のメーカーを中心としたレベルから察すると完全なパンチ不足は、顕著なことになってしまう。

しかし、そのバリエーションときたら、フジミのポルシェ911をはじめとするシリーズに引けをとらない驚異的な数で、チューニング・メーカーによるものも加えると10近くなってきている。

それは、実車におけるドイツ国内の人気を示すバロメーターとしてなら理解できるというもの。

エンジン・レスと、日本販売価格(円高とはいえ、それはドルに対してであり、マルクではないということが実感できる）のためか、今後爆発的な人気を得られない地味なキット陣であると説明しておこう。

キット自体の精度や、解説を見る限り、作るということに関してあまり神経がこまかくないようで、むしろ完成して〝ミディアム・ベンツをある程度のミニチュアで楽しんでください〟的要素が濃いモデルであり、一部の人々からは、嫌われるかもしれない。

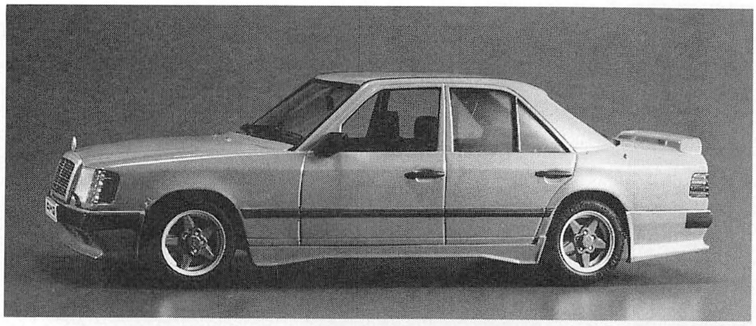
しかし、前後バンパー部を含むアンダー・ボディが、別パーツとなっているところなんぞ、作るモデラーには、親切な配慮として、うれしくて好感が持てる。

中でも、作例化した消防指揮車は、日本のメーカーではきわめて実現しそうもないバージョンとして、その筋のファンには感謝されていることだろう。

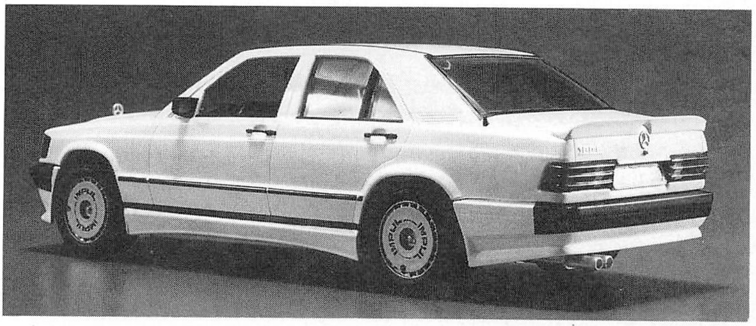
筆者自身、この手のモデルが好きな、少々正当派からはずれた存在であることを再確認するほど、室内電話及び消防装備品のパーツ陣になぜか感激をしてしまう単純さは、病的といわれてもしかたないと思うほどだった。

今後、世界のパトカー（エッシーのゴルフやエレールのルノーなどなど……）やタクシーのお話あれこれもやってみたいという希望が広がり、更にはヨーロッパの無国籍な街並みまで展開していけたら……。

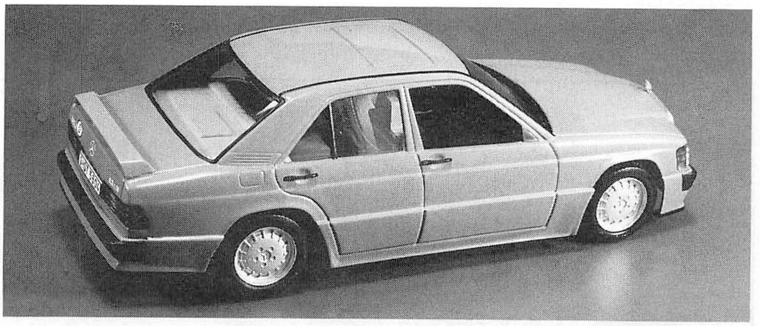
作るのは、〝どうも〟という読者諸氏も、見る分には悪い気がしないテーマとして、いつかは実現したいものだね、



▲メルセデス・ベンツ300E AMG（ドイツ・レベル1/24）：河原　誠　ノーマルの300EにドイツのチューナーAMGが手を施したモデル。リアの部分でボディをしぼりすぎの感じもあるが、300Eというアイテムで許してしまう。

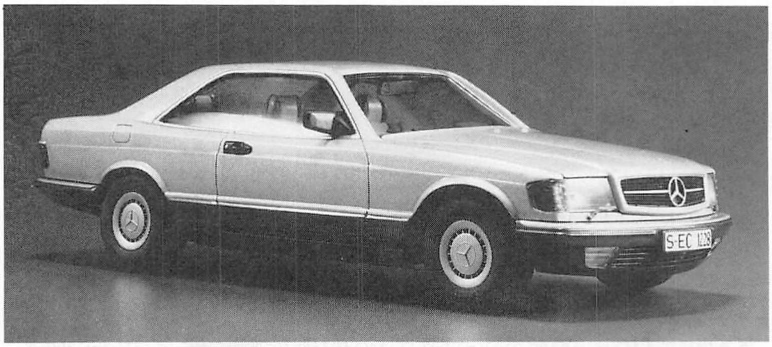


▲メルセデス・ベンツ190 コスワース（フジミ 1/24）：太田富士雄　キットはフジミ標準の出来で、プラモの見本みたいなキット。フロントとリアのスカートが別パーツとなっているので、合わせに注意して接着すること。サイドモールはマスキングによる吹き付け。



▲メルセデス・ベンツ19E 2.3/16（エッシー1/24）：太田富士雄　コスワース・エンジン付きのキットで、フロント、リア、そしてサイド・パネルが別パーツとなっている。エンジン・パーツを除けば、パーツはグッと少なく、同社のデルタ等と較べると非常に組み立てやすい。

クルマのお話あれこれ



▲メルセデス・ベンツ500SEC（タミヤ1/24）：太田富士雄　SLシリーズをクーペ化した、スポーティーなモデルで、タミヤ得意の完全ディスプレイに仕上っている。とくにシャシー下面のモールドは流石で、１色で塗ってしまうのがもったいないほどだ。

MA編集スタッフ様!

道はそれてしまったけれど、このシリーズのもうひとつの楽しみは、豊富なデカール・サービスにあるという話で、軌道にもどすことにする。

作例の消防指揮車なら、６個のバリエーションが可能なマークが用意され、ロード・ゴーイングカーなら、なんと９個のナンバー・プレートと５種の国籍ステッカーは、大出血サービスのなにものでもない。

これだけは、かつてのモデル・キットにはなかった特徴的なもの。

最も新しいミディアムのみならずベンツ・キットは、フジミ300CEもある。

パーツをひかえめにし、ガッチリしたつくりは、実車をイメージさせるに充分な演出効果をもつ出来は、最新の精密度アップの同社インチアップディスクの中でも、ひときわの輝きが感じられるといっても過言ではない。

特に、サイドビューは実にいい。絶景とはこのためにある言葉なのだ。

そして、問題はボディカラーにある。

無難なところでは、シルバーか少々洒落て、上半分濃いブルー系に、下はシルバーメタかグレイっていうところ。

組み立て図における指定色は黒。バンパーもつや消しとはいえ黒色なので、オール・ブラックということになってしまった。

このミディアム・ベンツに黒色はマッチできるのかという不安を持ちつつも、ちょっと冒険してみた作例である。

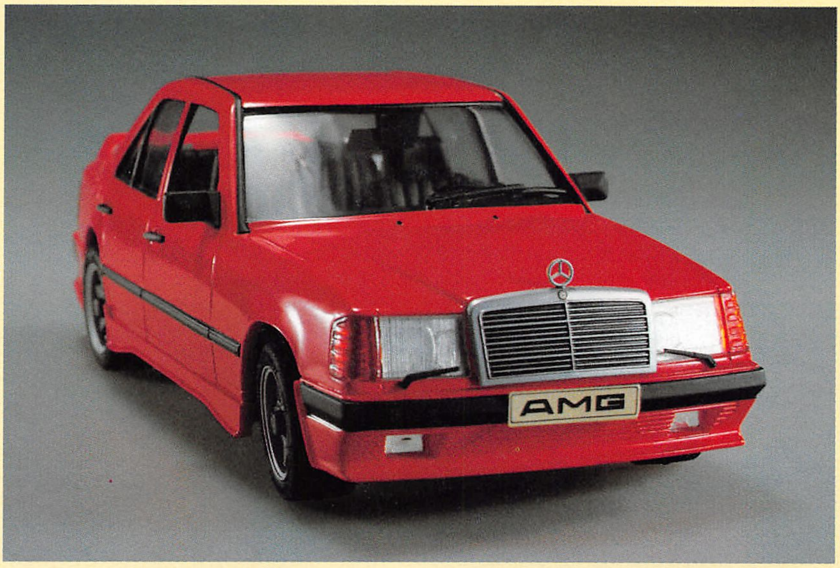
角ばっていない、全体的に丸味のボディ形状が、黒色というクルマに対するある種の拒否反応みたいなものを、見事とり去ってしまっていると思える仕上がりに好感を持ってしまう。

もっとも最近では、黒いカペラを街中で目撃し、えらく美しいと思ったほどで、時代がそしてニューデザインが、一部の車種の特権であったかのような黒色を受けいれるまでになってきたことと理解すべきらしい。

そして、これらベンツ・モデル・キットに共通していえることは、いずれも、フロント・ラジエター・グリル上に付けられた〝スリー・ポインテッド・スター〟なるエンブレムが、実車のポイントと同じく、見事に表現されていることで、1/24というたいへん小さなスケールにもかかわらず、ちゃんと抜けているところは抜けているという各社の思い入れみたいなものを感じている事実なのだ。

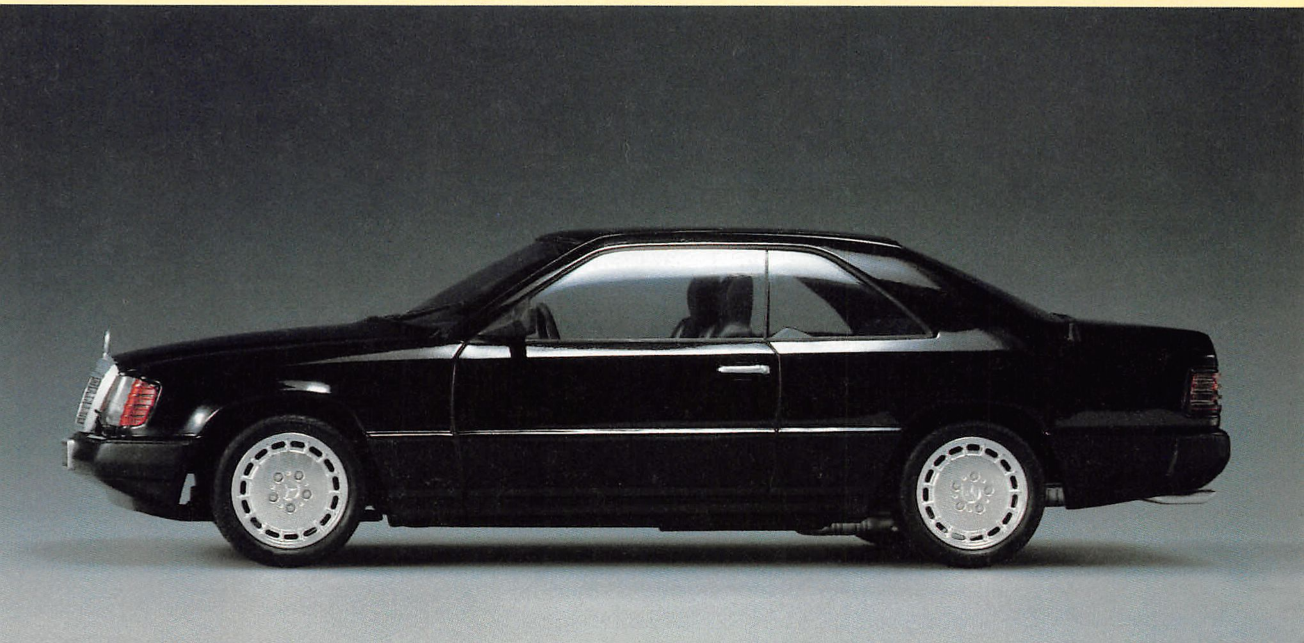


▲メルセデスベンツ200 TD
ELW：ドイツ・レベル1／24



▶メルセデス ベンツ300E AMG
：ドイツ・レベル1／24

▼メルセデス ベンツ300CE
：フジミ1／24



PEUGEOT 205T16 & 405T16

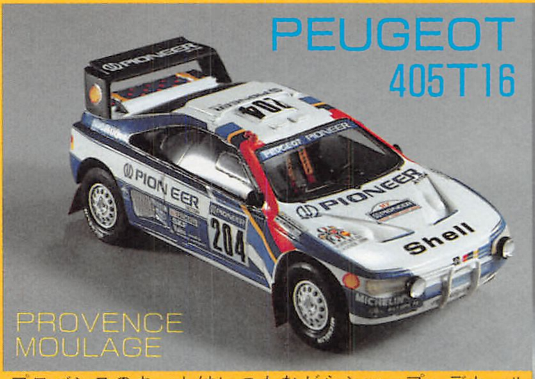
10e RALLY PARIS-ALG パリ ダ

1/43プロバンスムラージュ、



1988年1月1日朝のパリは、恒例となったベルサイユ宮殿前でのパリ・ダカールラリーのスタートで始まった。2年連続優勝を狙うプジョーチームは最強メンバー、マシーン、メカニックを揃えてきた。ドライバーには当然昨年総合優勝を果したアリ・バタネン、それに'86年'87年のWRCシリーズチャンピオンのユハ・カンクネン、元F1ドライバーのペスカローロ、2年連続ファラオラリー出場のアンブロシーノと完璧な程の布陣であった。マシンはバタネン、ペスカローロがニューマシン405T16グランレイド、そしてカンクネン、アンブロシーノが信頼性バツグンの205T16の合計4台。

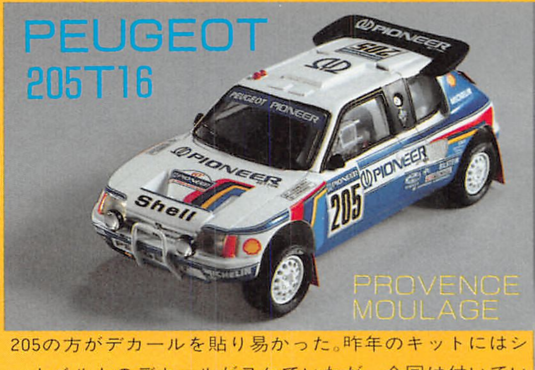
アフリカに入ってバタネンは快調にトップを走り続け残りあと3日というところで車は盗まれてしまい失格。2位につけていたカンクネンはバタネンの涙を受け205の連続優勝でなんとかプジョーの体面は守られた。故サビーネの判断があったら結果は違っていただろうか?



プロバンスのキットはいつもながらシャープ。デカールもほぼ正確だが1部ヌケてたり、側面は1枚にしすぎて凸凹に合せるのが難しかった。

プジョー405T16はベースとなった205の信頼度とより空力的なボディとが組み合わされたパリ・ダカ史上最強マシンとして登場した。この204はバタネンの車。キットは全体をサーフェイサー仕上げののち全体を白で塗装、カラーリングはいつものデカールで再現できる。車内で注意するのはドライバーズシートのみ黒、ナビシートは青で塗ること。





205の方がデカールを貼り易かった。昨年のキットにはシートベルトのデカールがヌケていたが、今回は付いていた。マークソフターと蒸しタオル使用でなじませた。

88年の優勝車プジョー205T16。ドライバーはカンクネン。キットは87年のキットとほぼ同じだが細い変更があったぐらい。最近のデカール(カルトグラフ製)はフィルムがうすくなったためあまりマークソフターを多用すると破れるおそれがあるので注意。205のタイヤは一回り小さいようだ。



E
ER-DAKAR
カールラリー'88

ジェンピー、ミツワ

山田　雄二



MITSUBISHI PAJERO

NIKON & CITIZEN

年ごとに高速化して行くこのラリーにとって三菱勢もそのパワーアップと空力特性の向上は、もとがたとえジープ型とはいえ優勝を狙うには（プジョーを抜くには）絶対に必要な事であった。今年のソノートミツビシは空力性を重視し今までの角ばったイメージを一新させる丸くなったフォルムで戦った。もちろん中身もエンジン出力が275馬力とパワーアップされ、プジョーの走りに劣らないものとなっていた。また昨年3位に入ったシチズンチームは信頼度を重視し87年タイプとほぼ同じマシンで参加し、上位入賞を目指した。

ソノートミツビシニコンチームはアフリカでの順位は思ったより上がらず、１台また１台とメカニカルトラブルにてリタイア、コーワンもダカール海岸を見ることなく消えていった。一方シチズンチームの篠塚は序々に順位を上げ１月15日に3位、18日に2位となって昨年を上回る総合2位という輝かしい成績となったのであった。

今年のニコンミツビシパジェロの特長は、この前後に絞られたボディ。卵のようでもあるが、鉄腕アトムの頭！と言っても通じそうなスタイルである。





ミッドレーサーはニコンとシチズンの両チームを出したがボディはニコン88年タイプなのでリアのウィング を削り、プラ板で角型に。



1/43でパジェロがキット化されているのを知ったのはオートモデリングVol.3の中の広告からであった。結構古くからキット化（86年のコーワンの車）しているようで、パリ・ダカファンのみならずこういった日本車のキット化は嬉しいものがある。

このJEMMPYのレジンキット、出来の方はというとプロバンス、スターターより1ランク下でシャープさがいま1つ。エッチングはなかなかの出来で、キャッチピンも付いている。デカールの質は薄からず厚からずなじみも良いのだが文字がつぶれていたり、色が違っているのがあったのでミツワのミッドレーサーから何点か流用した。表面の仕上げに十分注意して下地を磨いてやればなかなかの完成となる。またミッドレーサーのシチズンミツビシは改造して、雰囲気で迫ってみた。

協力
ミニカーショップ コジマ ☎03-491-3243

NEW KIT REVIEW

F3D-2 SKYNIGHT

F3D-2 スカイナイト

■マッチボックス1/72　■本文P.72

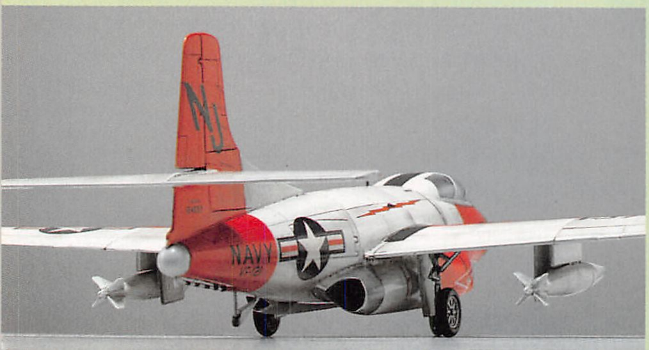


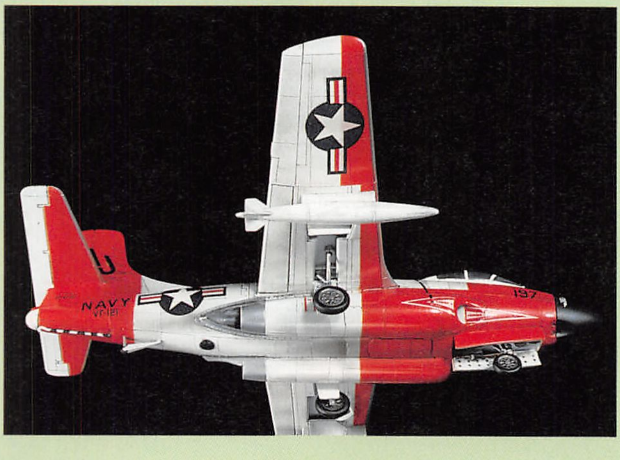


またまたマッチボックスから知られざる?飛行機が登場。とはいえ本機はアメリカ海軍初のジェット夜間艦上戦闘機という由緒ある機体。USネイビーのファンは心してかからねばなりませんゾ。











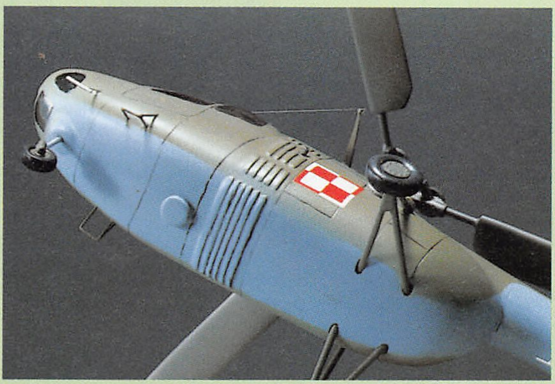
TBF AVENGER

TBF アベンジャー

■モノグラム1/48　■本文P.77

かなり昔のキットの再版だけど、そこは流石にモノグラム、今でもリッパに通用するモデルだ。「未知との遭遇」のジオラマにしてみるなんてどうかな?







Mil Mi-1

Mil Mi-1

■WKモデルス　■本文P.78

西ドイツ製のキット。これもその渋さがために手が動こうというもの。作例では風防の自作をはじめいくつかの部分に手を加えている。

NEW KIT REVIEW

HONDA VFR750R

ホンダ VFR750R

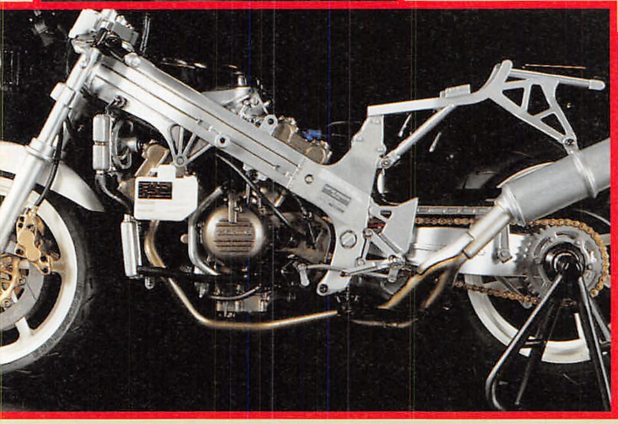
■タミヤ1/12　■本文P.80

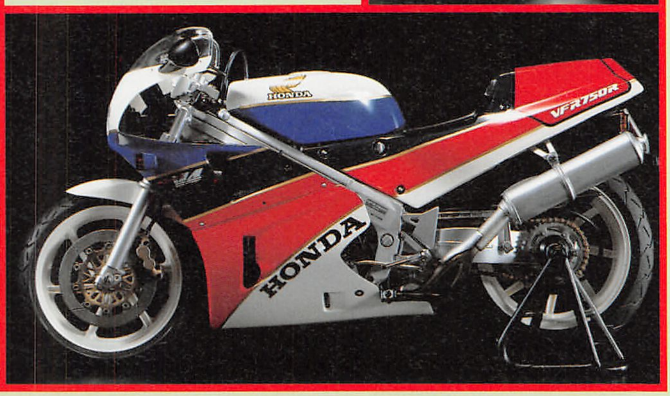
パーツの一体成型、極小ビスを用いての組み立てなどを導入。完成時の充実度からは想像できないほどその組み立ては楽に行なうことができる。











U.S.S. DALLAS vs TYPHOON CLASS

U.S.S.ダラスvsタイフーン級

■ドラゴンモデルス1/700　■本文P.82

核戦略の要、潜水艦。その見えない海面下の要塞をこうして立体的に捕えることができるのも模型の楽しさのひとつだ。





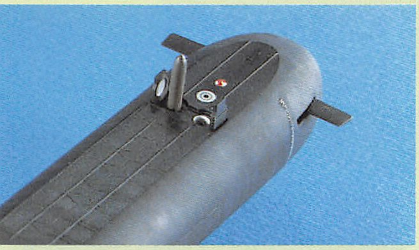
PANTHER Ausf. G.

パンターG型(前期型)

■グンゼ1/35　■本文P.84

その重厚さはハイテックモデルならではのもの。製作時の苦労もこうして完成してしまえばその迫力の前に消えてしまう。



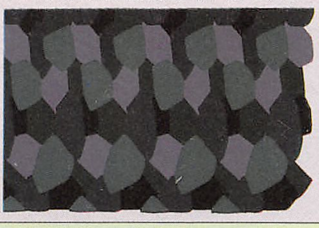


ニューデカール

アメリカル/グリフォン

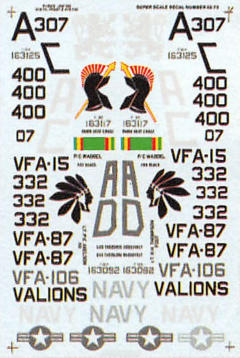


▶マイクロスケールデカールがスーパースケールデカールとなったことは以前お伝えしたが、名称変更後の第1弾が入荷している。価格は各750円。㊞▶ビーバーコーポレーション☎03-655-5300。
◀No.28 1/72 Jasta5のアルバトロスDIII、V用個人マーキング集。2,900円。
▼No.27 1/48ドイツ空軍夜間用5色ローゼンジ。1,450円。㊞▶ビンテージモデル〒175東京都板橋区赤塚1-20-8。

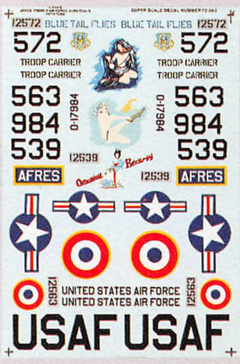


スーパースケール

32-72 VFA-15、87、106のF-18A。同タイトルで1/48(48-331)、1/72(72-564)も同時発売。



72-563アメリカ空軍とフランス空軍のC-119。



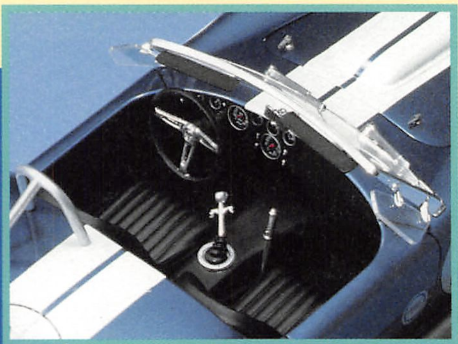
NEW KIT REVIEW

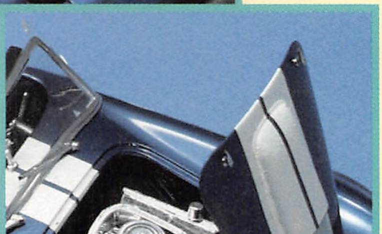
モノグラム1/24　風戸　順



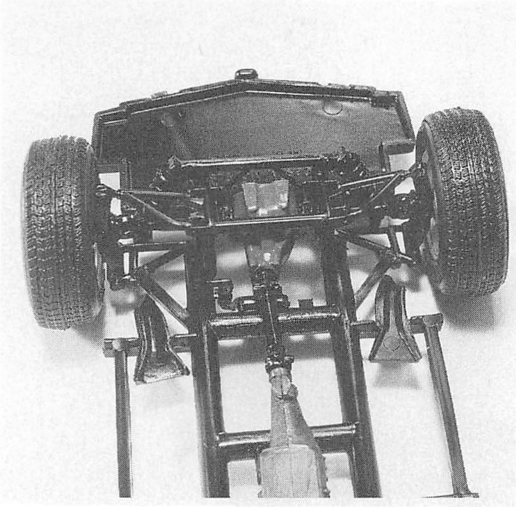
SHELBY COBRA 427 S/C





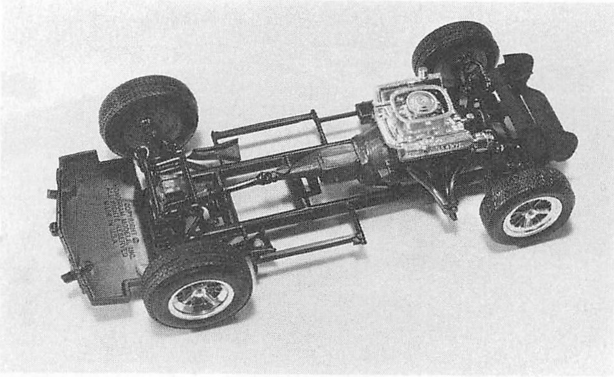






◀リア・シャシー部。ドライブシャフトやデフ，サスペンションアーム類などなど。一時のモノグラムより見劣りはするが、それでも水準以上。

▼シャシー全体。エンジン、ミッション、エキゾーストパイプの配置が判る。



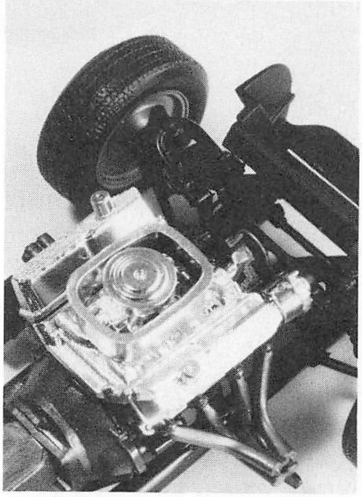
最近ではTVCMにまで登場しているコブラである。数年前までは日本には1～2台しかないのではと言われていたのだが，今では一体何台日本にあるのかわからないようである。こんなことは日本だけかと思ったら、どうやら本国でも人気は高いようで、モノグラムからキットが発売になった。今さらコブラでもないだろうにと思うのは私だけなのかもしれない。ついこの間、クライマックスより発売されたコブラをサイフの中味であきらめてしまった人にはうれしいキットであろう。内容的に言えば、クライマックスのキットのほうが上であるが、お値段は約1/10なのだからしょうがないでしょう。

コブラ427と言えば数年前に出たサニーのキットを思い出す人もいると思うが，サニーのキットはボディのみ427でシャシー回りは289であった。

しかし、今回のモノグラムのキットはシャシー回りも427となっているので、その辺は心配しなくても良い。だが、一時のモノグラムの出来ではなく、多少ガッカリするところもある。

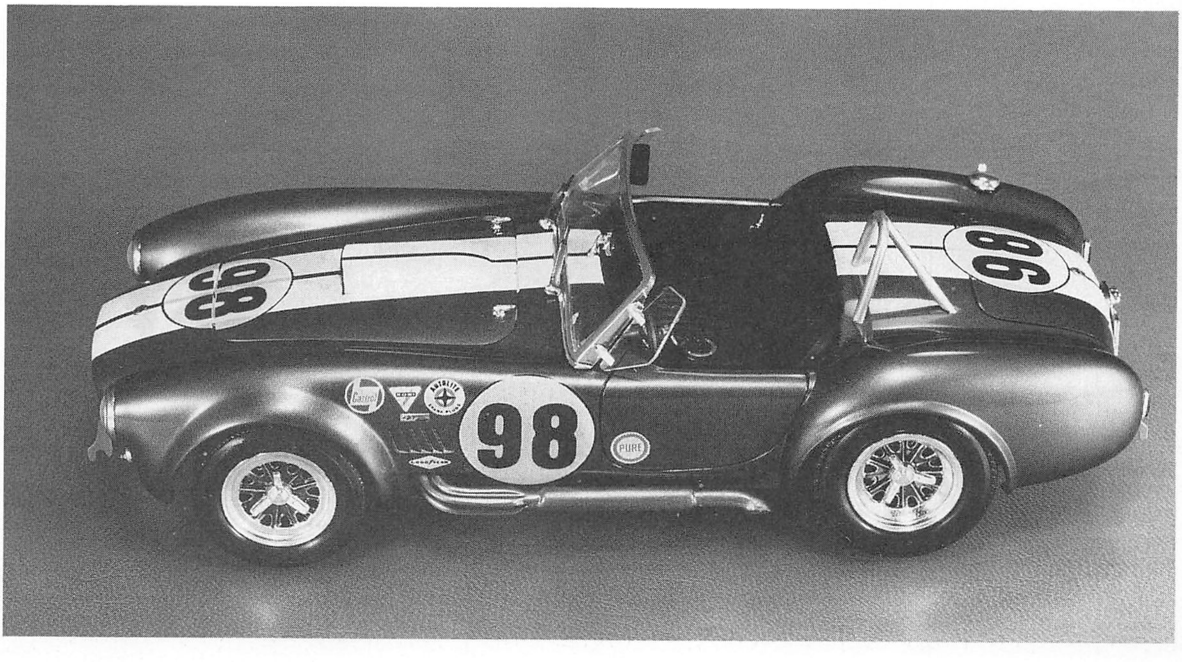
内容としてはコンプリート・キットで，完成後もボンネットを開けて，427エンジンは見えるが，アッサリとした出来である。

コブラと言うとコダワリたくなる人がいると思うが，そのような人達はかなり手を入れてやらないと納得したものには出来上がらないであろう。キットのデカールより資料を調べると，デカールとしては良く出来ているように思えるが，パッケージにも書いてあるが、427〝S/C〟となっている。このタイプは後期型と言っても良いタイプで、テールランプが異なっているのである。後期型となると、シェルビーの中心マ



▲コブラの強心臓，427エンジン部。完成後はボンネットを開けて見られる。しかし，少しアッサリしているのが残念。

▼今の車には見られない流れるようなアウトライン。それでいて武骨さをも兼ね備えるところが人気のヒミツ。





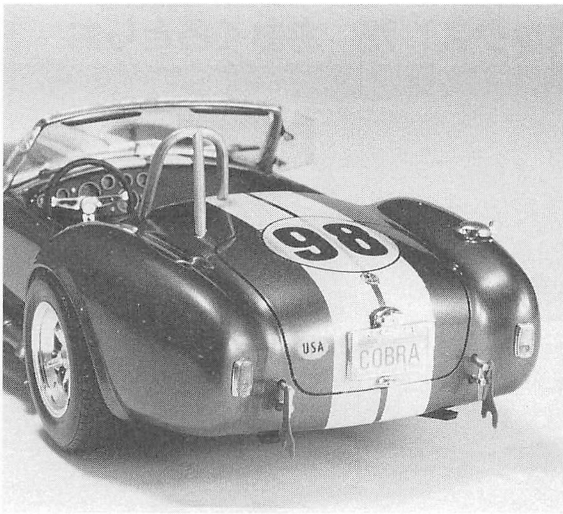
シンはデイトナクーペとなり、90番代のゼッケンはコブラよりデイトナクーペに付いているレースのほうが多くなってしまうのである。そのようにして見ていくと、このキットは現在ラグナセカ等で走っているマシンを元にキット化したものではないかということになってくる。作例はキットをストレートに組み立てているが、ロールバーを作り直してやれば多少らしくなると思う。写真を見るとキットのように、後方三点のロールバーを付けた427もあるが、たいていの場合、前期型では前方三点のロールバーとなっているほうが多く見られる。

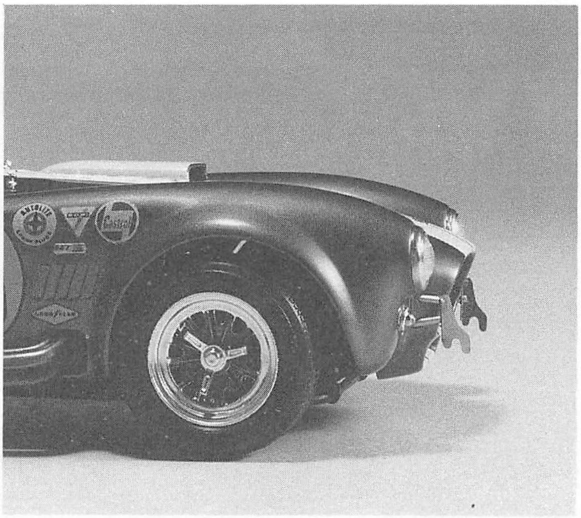
キットとしてはとくに組み立てづらいというところもないので、ボディのブルーメタリックをうまく塗ってやれば良いだろう。作例のブルーメタリックは、シルバー＋ブルーで作ったものだが、ブルーはアクセルカラーのブルーを使っている。このブルーは配合色ではないので、クリアーブルーの仕上げは行なっていない。このアクセルカラーは最低量が200mlと多いのが問題である。

このキットで問題となるところはタイヤとデカールである。タイヤは、前後サイズが異っていたりして一見良さそうに見えるが、前輪がミシュランで後輪がグッドイヤーとなっているのである。パターンさえ気にしなければ各ネームは片側だけなので、ネームの入っていない面を外側にしてやれば良い。作例ではそのようにしてある。ホイールは良く出来ているようなので、他のキットよりタイヤみスカウトすれば良いだろう。完成してしまえば、タイヤのパターンなんでそんなに気にならないし、今ではタイヤのネームのデカールも売っているので、グッドイヤーのネームを貼ってしまえばわからなくなってしまう。

デカールのほうは、デカールだけ見ていると良さそうなのだが、ストライプのデカールは、どうやってもダメだ







▼▲前後ジャッキポイント部。ドラクラブより発売されてたエッチング・パーツを使用。ちょっと目立たないところだが、モデル完成時にはいっそうひきたつ。

ったので、作例ではハセガワのストライプデカールより切り出したものを使っている。モノグラムのデカールは平面では良いのだが、ドアモールドの凹部分や三次曲面には、マークソフターやマイクロセットを使ってもダメであった。また、モノグラムのデカールは外周がハガレやすくなってしまうので、デカールを貼ってから余白を切り取ったほうが良いだろう。デカールを貼ってからのクリアーは塗らないほうが良いだろう。多少の塗りでは問題ないが、多目に塗るとチジレてしまうので、クリアーは塗れないと思っていたほうが良いだろう。

なお、作例では前後のジャッキポイントにドラクラブより発売になった、エッチング・パーツを使っているが、これは、ジャッキポイントのエッチングと六角頭のピンとがセットになっている。エッチングのピンの取り付け穴は小さいのでドリルで開け直し、ピンも短いので真鍮パイプ等で取り付けると良いだろう。キットには同じような形のパーツがメッキ・パーツで入っている。

キットはレーシングバージョンとなっているのでバンパーは入っていないが、シートベルトも入っていないのでこちらのほうは、各自買わなければならない。なんとなく中途半端なキットのように感じるが、スロットレーシングのボディにもいいかもしれない。それよりかやはり細部を作り込んでやるほうがキットとしてはおもしろいかもしれない。

NEW KIT REVIEW

マッチボックス1/72　おおくらとしお



F3D-2 SKYNIGHT

突然こういう機体がキット化されるとびっくりしてしまうが、CH-47チヌーク、T-2Cバックアイといった思ってもみないアイテムを、ぱっと出してしまうマッチボックスだから、ま、さしてびっくりすることもないか。

実機について

Ｆ３Ｄスカイナイトの設計開始は、1945年9月、試作1号機の初飛行が1948年３月。双発複座の本機はアメリカ海軍初のジェット夜間艦上戦闘機で、並列に座った乗員の左はパイロットで右がレーダー操作員。全幅15.2ｍ、全長14.9ｍ、全高5.0ｍで同時代のグラマンＦ9Ｆパンサーやｆ2Ｈバンシーよりも大柄な機体。パワーはウェスチングハウス製Ｊ34-ＷＥ-36(1,490kg)×２基、最大速度855km/h（海面上）。固定武装は20㎜機関砲×４。

キットになっているＦ3Ｄ-２型は初期生産型－１(28機生産)を改良した量産型(237機生産)だ。

スカイナイトは試作当時から性能がぱっとせず、離着艦性能の悪さが致命傷となり、海軍では主力とはなりえず訓練機として使われた。キットのボックスアートになっているのがそれで、-２型をレーダー操作員の訓練機とした-２Ｔ2型。海軍ではぱっとしなかった本機も、陸上を基地とする海兵隊では実戦機として使用、朝鮮戦争に投入されてソ連製Yak-15、MiG-15などの撃墜を記録している。キットのデカールになっている"ＷＦ"のレターのものが、朝鮮戦争に投入された海兵隊のＶＭＦ(Ｎ)-513の所属機。なお海兵隊では、本機の電子偵察型-２Ｑ（後にEF-10Bと改称）をベトナム戦争でも使用した。

キット

マッチボックスらしいおおらかな成型。彫刻は動翼部と他の一部が深い凹彫りで、パネルラインは適度な凸線。

合わせで修整するところは、風防、エンジン回り、主翼接合部、それに主翼の折りたたみ部。主翼は折りたたみ状態に作ることもできる。合わせの修整とはいっても、カッカとくるほどの作業ではない。翼の後縁は大分厚いけれど、これを薄くする労力を他のディティールアップに振り向けると、それのほうがよっぽど完成度アップの効果あり。組み立て時にかなりのオモリを入れないとシリモチをつくので要注意。デカールは前述のとおり２種付き。密着度はいいのだが下地が透けるのが難点。参考資料としてはNAVAL FIGHTERS NUMBER FOUR DOUGLAS Ｆ３Ｄ Skynightが力になってくれる。

それでは作例の製作方法を写真とイラストでどうぞ。

製作ガイド

①　コクピットはご覧のような出来。手を入れたいところだが、資料といっても前述の本にT.Oからの抜粋と思われるイラストぐらい。ここはアキラメて全体をつや消し黒に塗装、メーターの丸だけ銀でまーるく塗ることにして次へ。あっそーだ。シートを切り取るとき、ヘッドレストを切り落とさぬよう ご注意。説明書の絵にはヘッドレストが描かれてないのでネ。

②　機首下面の砲口がキットではボツになっているので、凹んでいるところにピンバイスで穴開けして真鍮パイプをさし込む。径は？と問われると困ってしまうが、0.5㎜ぐらいでいいんではないかと……フンイキフンイキ。

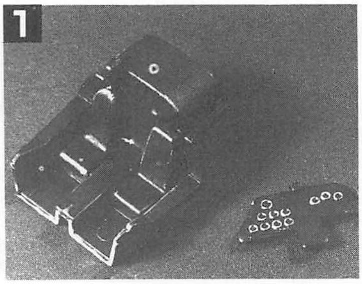
コクピット内側はつや消し黒で塗装しておく（図Ａ）。

③　エンジン周辺は接着後にパテなどでの修整が必要。修整時にモールドが消えてしまうので、ついでだから凸線モールドはすべて彫り直すとよい。

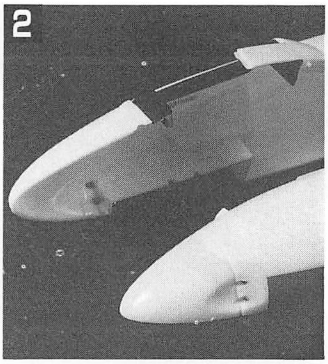
インテークの胴体側に段差ができるが気にしなくてよい。実際はここに吸気口？がある（図Ｂ）。

④　主翼は折りたたんだ状態にも作れるが、折りたたみ部のディティールのことなど考え合わせると、伸ばした状態にするのが正解。内翼と外翼を接着する時、くの字にならぬよう注意。翼上面部の内、外翼の接合部にはプラ板を挟んで接着しておくと強くなる(図Ｃ)。

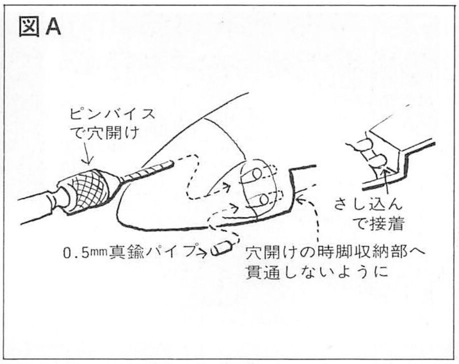
⑤　主翼の取り付け方法はなんだかムカシふう。そのままではぐらつくので、接合部下面に0.3㎜プラ板を接着してお

1


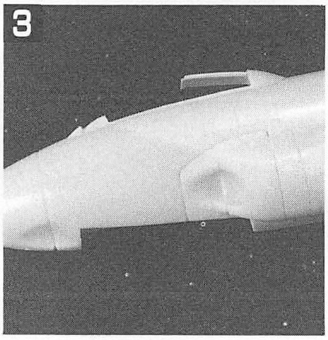
2



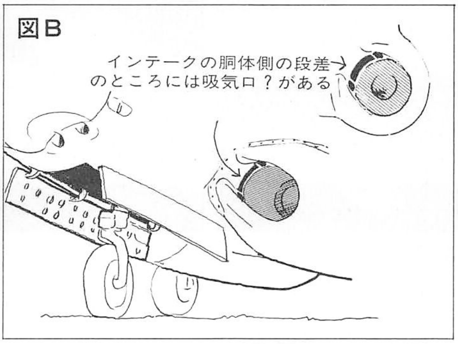
図A



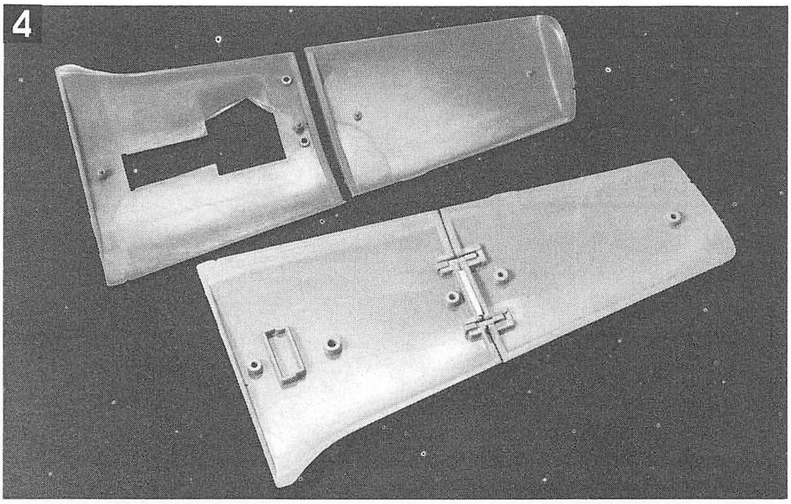
3



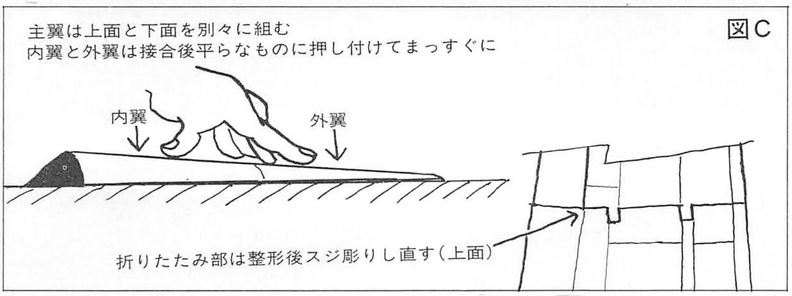
図B



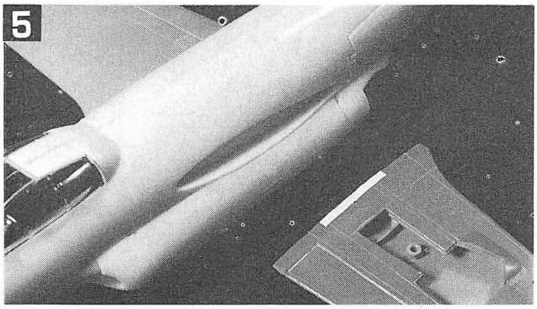
4



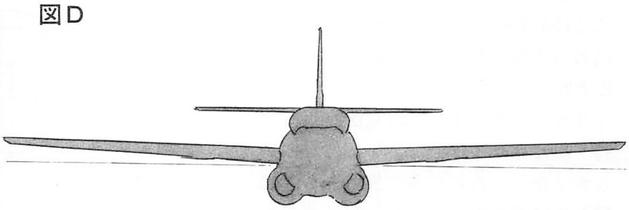
図C



5



図D



くと固定しやすい。なお、接着するとき上反角を少し付けておこう（図D）。

⑥ 風防は段差ができる。まず、計器盤上部のグレアシールド上面を削り込んで、前部接合部の浮きを可能な限り直しておく。風防は3分割されているが、組み立ては風防独自に行なうよりも上面、左、右というように、胴体へ順に付けていくほうがよい。

⑦ 仮り合わせしても消せない隙間はパテで埋めてしまい、完全に付いたところで思い切りよくペーパーがけ。

⑧ ペーパー整形時にはスリガラスみたいになるけど、1500番で仕上げてコンパウンドで磨けば元どおりの透明度になる。この修整作業で風防フレームがステルスになって、塗装時のマスキングに不便だが、きれいになることだからそこはガマンガマン。それからオモリを忘れずに入れておくこと。オシリの重いヒコーキなので、レドーム内部にずっしり入れておこう（足の弱いのが心配だけど）。

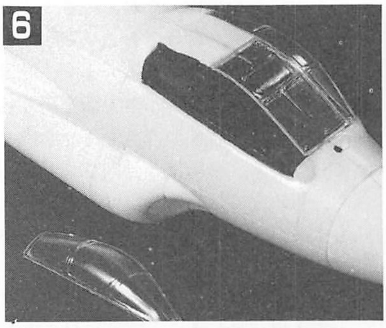
⑨ エンジン回りは前述のようにパテ修整するが、エンジンベイと胴体との境はテープを貼ってパテ盛りし、修整後に少し段差を付けておく。実機写真によると、プレスした外板をかぶせるように付けてあって、その部分に少し段があるので、ちょっとディティールアップというか、モノグラムしちゃったというか、そんなワケ。

⑩ それでもってもう一発、ディティールアップしましょう。パテで段差を付けたところにリベット打ち。といっても鉄筆で打ったのではおとなしいので、0.5mmのドリルでハデ目にやって、きまり！もう一発ついでにベイ下面のパネルにもリベット打ち（ここは鉄筆で打つ）を（図E）。

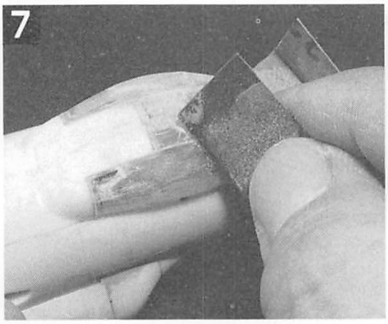
⑪ 風防後部も先のエンジンベイみたいにディティールアップしよう。ここはパテは使わないが、風防後部と胴体の交わるところ（1mm程外のり）の外のりを深めにスジ彫り、鉄筆でポツポツとリベットを打ってやる。これでフラットだったこの部分が、シャキッとディティールアップ（図F）。

⑫ 下面部の追加したスジ彫りはこの

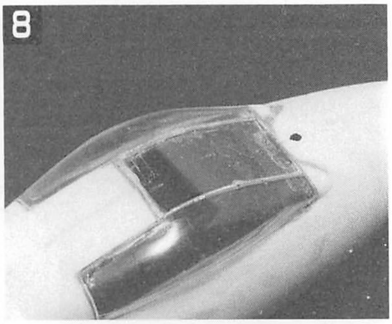
6



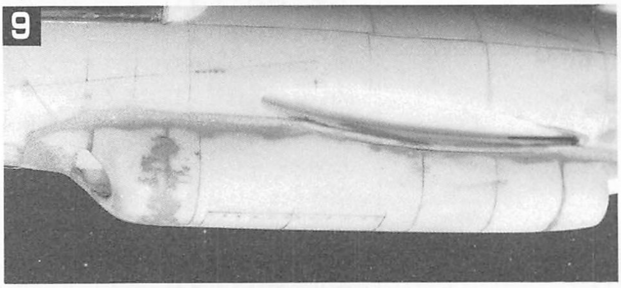
7



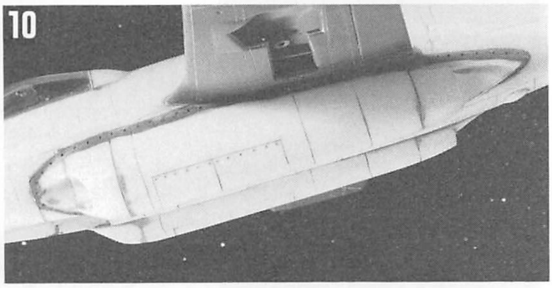
8



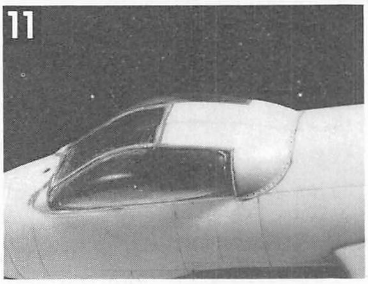
9



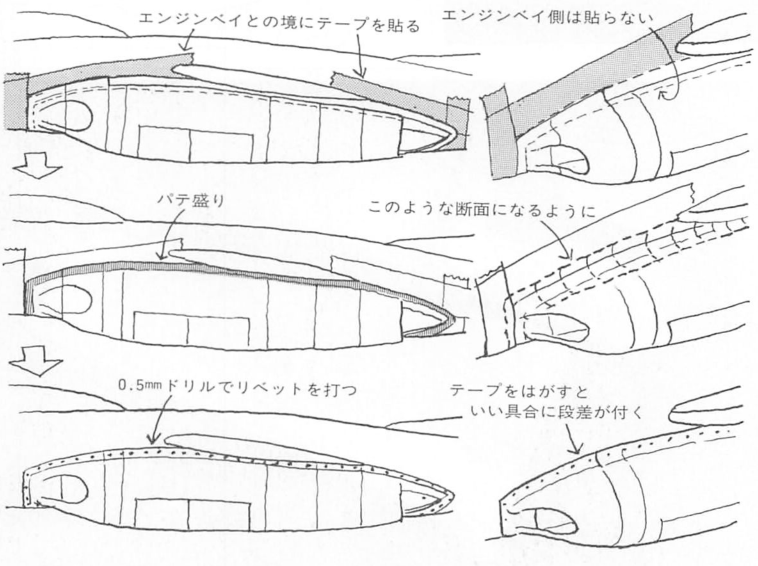
10



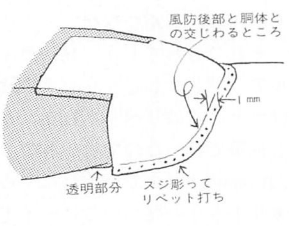
11



図E



図F

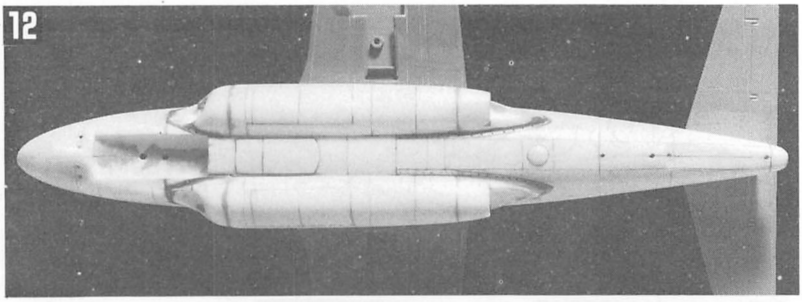


ように。後部の丸いアンテナのフクラミは、周囲を少しスジ彫ってやるとすっきりする。エンジン回り後部も0.5㎜のリベット打ちを。ほんとはこのリベットはエンジン全周にあるのだが、キットの細部位置関係の不具合いから一部は省略。

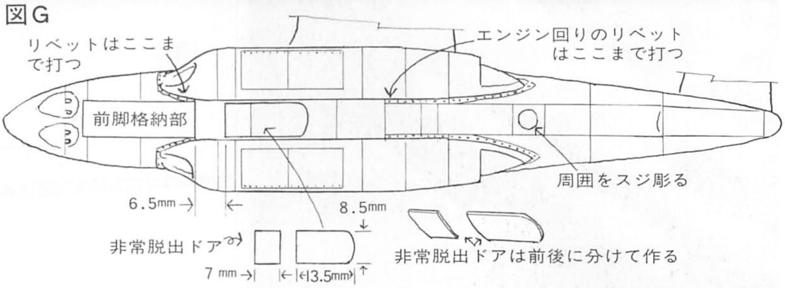
前脚格納部直後に非常脱出ドアを付ける。本機の乗員脱出方法は射出式ではなく、コクピット後壁からトンネルを伝って下方へ放り出すのだ。で、脱出ドアはすじ彫るだけでもいいのだが、ここは0.27㎜プラペーパーをていねいに切って貼り付けて、モノグラムぽく浮き出しディティールにして仕上りのミリョクに酔いましょう（図G）。

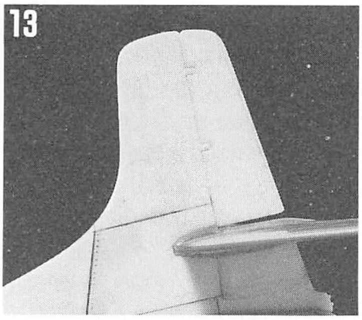
⑬　垂直尾翼の中央から下部も浮き出しディティールにする。実機もここに関しては浮き出ているようで(写真での判断だが)、ここは0.14㎜プラペーパー

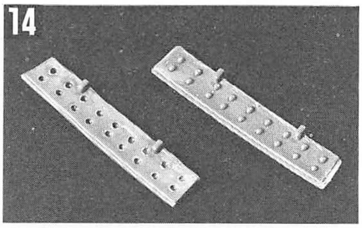
12



図G







を貼り付けて前縁だけリベット？を打つ。水平尾翼付け根は、エンジン回りと同じようにパテで整形する(図H)。

⑭　前脚カバー内側はポコポコと健康サンダルふうモールドになっているが、このモールドは削り落としてピンバイスで浅く凹丸にしておく。

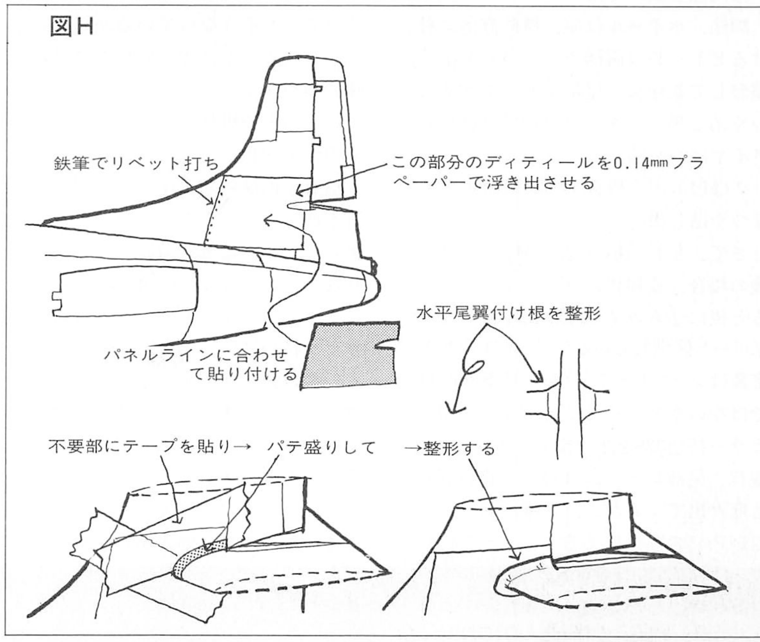
⑮　キットの凸線モールドは彫り直したわけだが、動翼と機首、尾部レドーム境の、運河的モールドはそのままにする（埋めて彫り直す時間と労力を省くため）ので、彫り直すすじ彫りはやや深目に彫って、手付けずのモールドとバランスをとっておきマス。

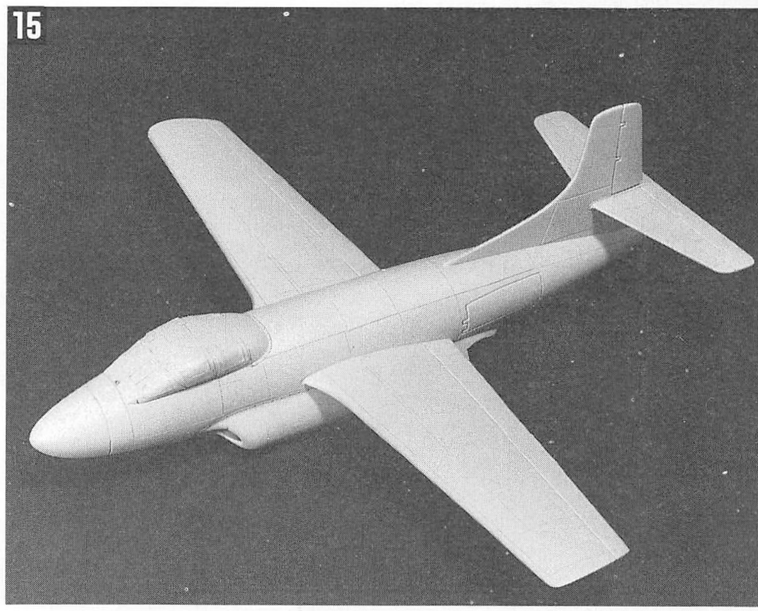
下塗り作業に入る。風防にきっちりマスキングをして、フレームの部分につや消し黒を塗装、その後全体を明るいグレイで下塗りする。風防部分は厚目に下塗りしてやると、塗膜の厚みでフレームの厚みを表現できる。塗装方法は吹き付けをお勧めする。下塗りが済んだらいよいよ本塗装へ。

塗装とマーキング

作例機の-2T2の基本塗装はグロスホワイトとオレンジ。オレンジの配合率は黄60％＋赤40％。主翼のオレンジの塗り分けは下面の場合、内翼部は折りたたみ部を境にして前縁寄りに塗り分ける。主翼及び水平尾翼前縁は無塗装銀なので、銀塗装にするかまたはメタルカラーで磨き出すのもよいだろう。

垂直尾翼の前縁も無塗装の機体があるが、作例の＃197は塗装されているようだ。インテーク内部、脚格納部、脚カバー内側は白、レドームは機首が半つや黒、尾部は半光沢白。主翼上面、風防上面、ウォークウェイは完全つや消し黒。排気口周辺は無塗装の銀、排気の当たる内側はつや消しの暗い銀、排気口のエッ







▲マスキングテープとエアブラシを用いて汚しを行なっている。このような仕上げは特撮用のモデルでもよくやっており、それを参考にするのもいいだろう。

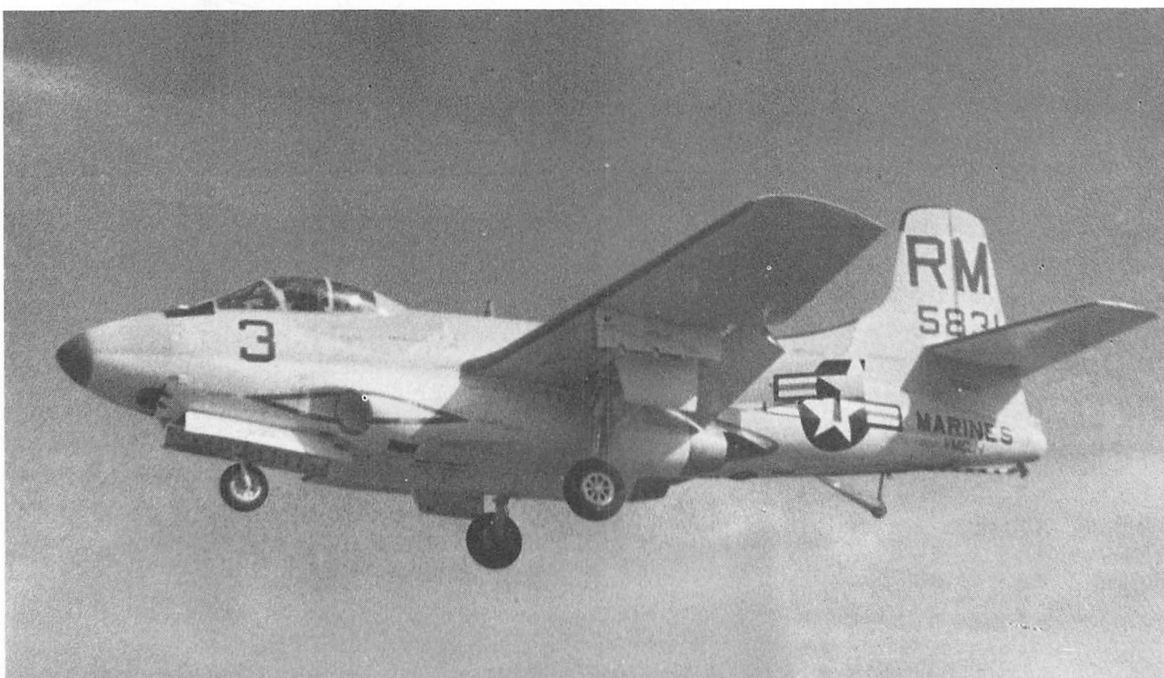
ジは内側を削って薄くしておこう。
脚柱、ホイールは銀、風防直前に付けるピトー管は両側をペーパーで薄く整形して銀塗装。尾部下面アンテナはつや消し黒、スキッドは白で支柱は銀、タイヤはつや消し黒。アレスティングフックは白×黒。機首上面反射防止塗装はつや消し黒。

さて、もう一方の-2、VMF(N)-513機の場合、資料のカラーイラストによると黒に塗られていて、海軍機のシーブルーと区別しているので、本機の基本塗装はシープレーン・グレイ(FS26081)ではないかと、そこでモデルではMr.カラー特色339を半つや消しにして塗装。機首、尾部レドームは資料（資料資料と度々出てくるがこれが唯一頼りなので）P.45の写真によると、すべて同色に塗られているようでキットのカラーイラストもそうなっているから、同色とすればよいが、少し変化を付ける意味でつやを変えるとよいだろう。インテーク内部や脚格納部、脚カバー内側も機体と同色のようだ。

機首上面反射防止塗装、主翼上面機首上面、ウォークウェイはつや消し黒、風防フレームは無塗装銀（塗装がはがれたのかも知れない）。前脚は写真説明にライトグレイとあるので、これはMr.カラー特色325で、主脚は脚柱が黒、ホイールは銀。ノズル周辺は前記＃197機と同じ。スキッドは機体と同色で、支柱は銀、タイヤは黒。アレスティングフックは白×黒。

マーキングはすべてデカールを使えばよいが、主翼上面と風防上面ウォークウェイは、つやの調子を自分なりにつくって塗装するとよい。デカールは前述のように下地が透けて、とくに国籍マークの白が影響を受けやすいので要注意。作例はそこを失敗しているのでネ。白/オレンジ塗装の機体はそのままではオモチャっぽくなるので、極く薄く溶いたつや消し黒（少し茶っぽくするためにレッドブラウンを混合）で、パネルごとにテープを貼り、最小絞りにしたエアブラシで、前から後へ気流が流れるように軽く吹いてやるとよい。この汚しではテーピングをフルにやるので、デカールのはがれ防止のために、あらかじめクリアーを薄く吹き付けてデカールを押えておくとよい。

なお、作例機の-2T2の場合は背中にアンテナを自作して付けること。



▲板付空港に着陸せんとするVMCJ-1のEF-10B(F3D-2Q)。塗装はガルグレイとホワイト。エアブレーキの内側まで国籍マークが描かれている。前脚カバー内側、銃口、胴体下面のディティールなどがよく判る。(写真：岩河　敏)

NEW KIT REVIEW

モノグラム1/48　金子家祥



TBF AVENGER

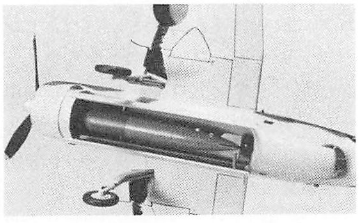
はじめに

最近では飛行機物は新鋭ジェット機ばかりが目について、私のようなレシプロ機ファンはいささか不満に思う昨今である。もう少しこの手の飛行機が出てもいいと思う。その数少ない物の中から今回、モノグラムのアベンジャーが久々に再販されたことはたいへん喜ばしい次第である。

キットについて

このキットはもう20年ぐらい前の古いキットで、まさにオール可動全盛期のキットである。したがって今の目からみれば修整個所もいくつか見受けられる。では気になる点や修整個所について見てみよう。

まずこのキットの最大のウィークポイントは主翼付け根である。以前は折りたたみ式だったものをパーツの廃止のみで固定式としてあるため、合せに多少難がある。そこを瞬間接着剤で固定したが予想以上に結合部分に隙間が開いてしまう。また主翼と主翼中央部分の上半角に段差が出来るのでパテ(私



はタミヤパテを使用）で修整し、あとはペーパーがけで整形した。この作業が意外に時間がかかってしまった。次に修整を要するところは胴体下部にあるリアウインドウの合いが良くないことである。私の場合、マスキングしたあとパテとペーパーがけで仕上げたが、透明プラ板で自作したほうが良いかもしれない。あと気になる点としては、主脚のタイヤ幅が細いようなので他より流用したほうが良いようだ。作例ではキットのままである。また主脚は固定した。全体としてリベットが少し荒いようだが私はそのまま目をつぶることにした。あとはそのままストレートに組んで完成のはこびとなったのだが爆弾倉の開閉や着艦フックの出し入れで尾輪が引き込みするメカニズムなど決して捨てたものではない。

塗装とマーキング

アベンジャーの塗装はなんといっても太平洋戦争後半に登場したトライカラー・スキーム（3色迷彩）が有名であるが、私は少しヒネって大戦初期塗装とした。つまり、上面ブルーグレイと下面ライトグレイの2色塗装である。私は手塗りで仕上げたのでムラの少ない水性カラーを使用した。一番の問題点はアベンジャーのこの手の写真及び資料があまりないことだ。幸いなことに私の手元のスコードロン社のネイビー・エア・カラーズに、ミッドウェイ海戦時のアベンジャーの塗装例があったのでそれを元に塗装した。また、上面のブルーグレイは白っぽく仕上げてある。これは太平洋の強い日射しのため、色のアセリが激しく全体に白っぽく見えるためだ。

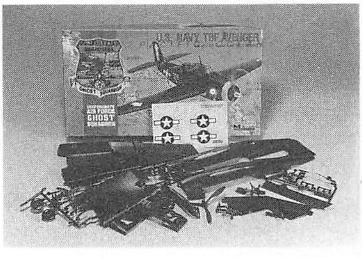
最後にマーキングですが、デカールもミッドウェイ海戦時の物を貼った。作例ではVT-8（アメリカ海軍第8雷撃飛行隊）所属機とした。こう見るとアベンジャーの2色塗装もなかなか良いものだ。

おしまいに

これで愚作ではありますが同スケールのドーントレス、ヘルダイバーと並べてみるとなかなか堂々とした一作だと我ながら、自己満足している今日このごろなのであります。

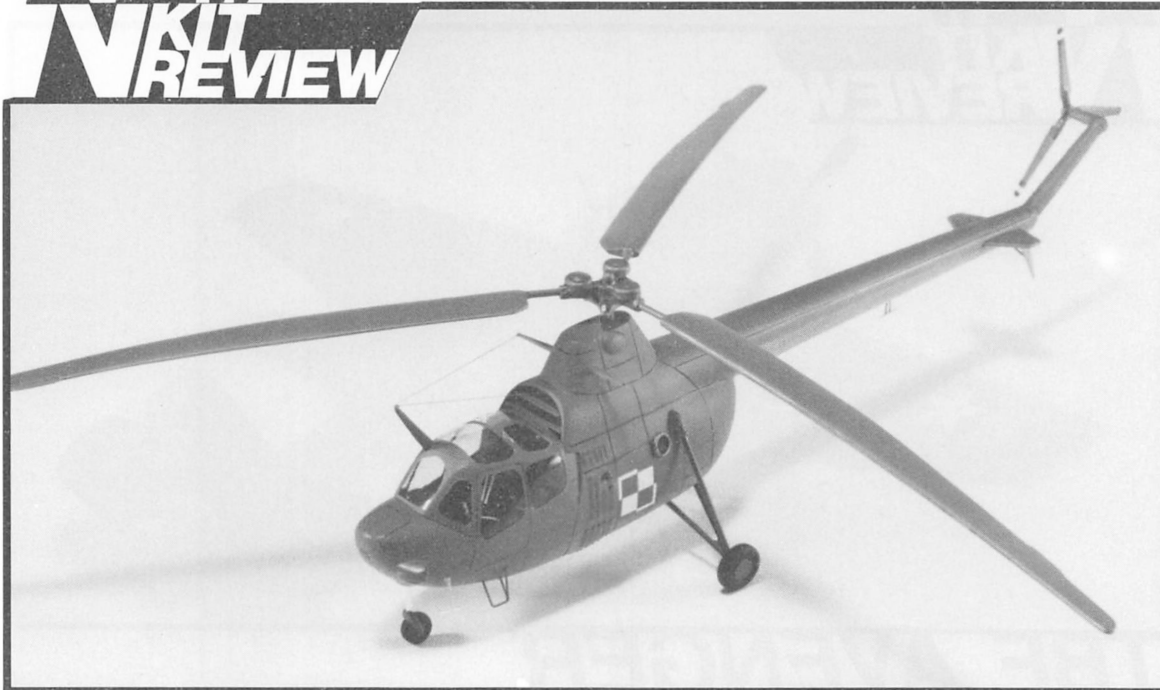
おまけ

このキットは最近、テキサス州の南部連邦空軍博物館のゴーストスコードロンのデカールが入って、ドーントレス、ヘルキャットとともに発売された。



NEW KIT REVIEW

WKモデルス1/72　茨木　保



Mil Mi-1 Hare

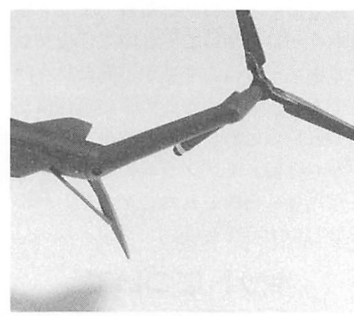
近頃めっきりメジャーになってしまった感のある、Mi-24 HIND の御先祖様Mi-1。実機は1947年12月、GM-1の名称でMIL OKB によって開発が始められ、翌1948年９月、M.K.BAIKALOV の操縦によって初飛行に成功しました。

機体(構造)は、鋼管フレームに応力外皮張り。テールブームは全金属製セミモノコック。ロータブレードは、初期型では木製で、テーパーのついた鋼管桁で補強。後期型では勿論金属製となっていました。

アバウト・ザ・キット

キットは、ハインケルHe70F、He170に続くWKモデル3番目の製品で、パーツ総数は34点。モールドは、ゴム質の多い？少々ベットリとした感触のするダークグリーンのプラスティックでモールドされています。表面のモールディングは少々ざらついているものの一応スジ彫り仕上げとなっています。

何時ものパターンでは、コクピットから組み立てを始める訳ですが、本キットでは殆どのパーツに接着ガイド用のピンやタブ等がモールドされていないため、全体の基準になる胴体部から組み立てを始めます。



▲補強したテールブーム最後部。

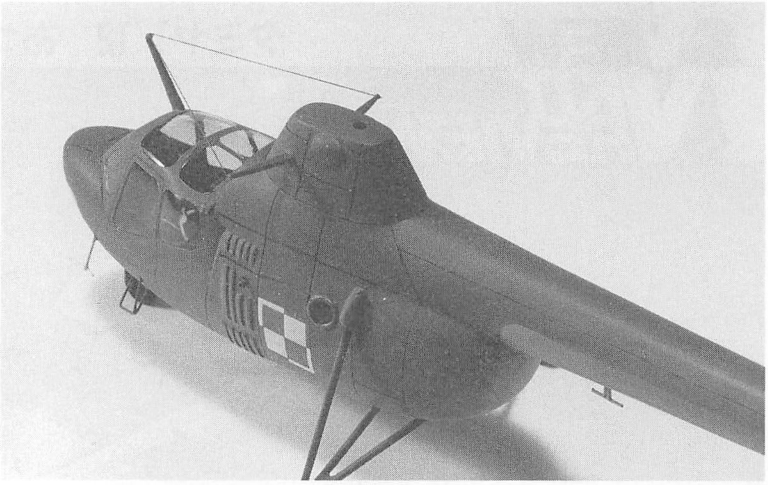
さて、左右分割された胴体パーツも先に書いたような具合ですので、接合面をかるくサンディングし、スムーズに整えた後接着します。また、テールブーム最後部パーツNo.24も同様の下ごしらえの後、真鍮線を埋め込み強度を確保して接着します。

キャビン部は、バルクヘッドのパーツNo.20を基準にして、フロアやエアインテーク内部パーツを接着します。フロアに取り付けるパイロット/パッセンジャーシート、コントロールスティック、ピッチコントロールレバー等は取



◀コクピット部分。シートやスティックの位置関係がわかるかな!?

▶真鍮線、プラ板などで自作した脚柱及びアンテナ類。



▼Mi-24に通じるところのある正面形。



り付ける位置が曖昧ですので、胴体機首パーツとの位置関係を見計らって接着します。キャビンキャノピーは材質の関係？でひび割れが入り易いので注意が必要です。REVIEWで用いたキットでは入手した時既にひび割れしていましたので、やむなくヒートプレスで自作して使用しました。

ヘリコプターになくてはならないメイン/テールロータも他の部分と同じくいも付け式で、全く強度が得られませんので、組み立て説明書の裏面？に幸いにも1/72現寸図が印刷されているのを利用して、真鍮線/パイプを使用し強度を上げます。

メインロータブレードは、自重による垂れ下がり状態にモールド‼されていてなかなかですが、ロータアームやマスト等の細部パーツのモールドが良くないため、ピッチコントローラの自作と併せて、真鍮線/パイプを組み合わせたものに交換します。

テールロータも同様に、ロータハブ側に回転軸を取り付け、ブーム側に合った穴を開けてさし込みます。

首/主脚は、ホイール部分のみキットのパーツを使用し、脚柱はそれぞれ図面に合わせて真鍮線で自作します。

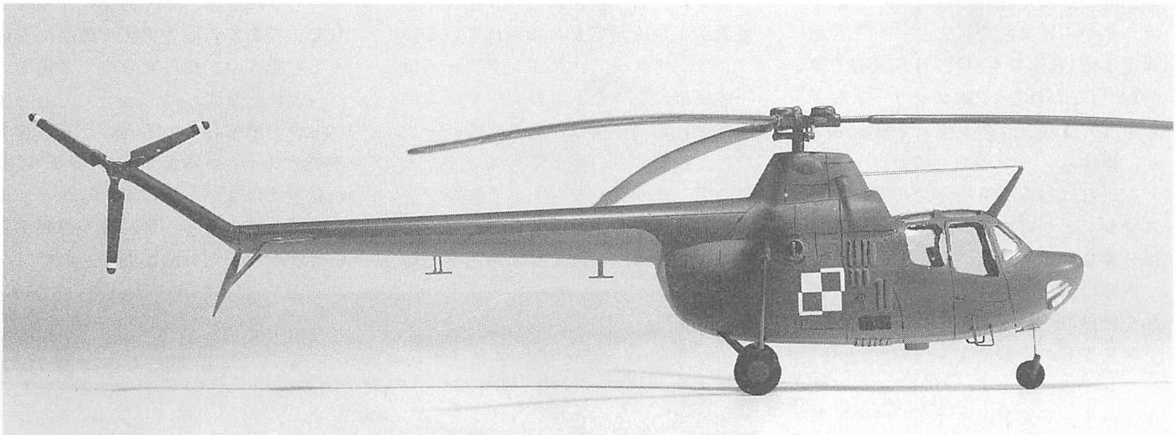
その他では、各アンテナ柱とテールバンパー等をプラ板から自作し、テールブーム下面にある電波高度計アンテナや、テールバンパーの支柱、尾翼の取り付け補強部等は真鍮線を使用します。

塗装

塗装は上面ダークグリーン、下面ペールブルーグレイ。ロータはシルバーグレイもしくはグレイ、とスタンダードなものが大半を占め、わずかに中近東諸国で使用された機体が、グリーン/ブラウン/サンド/ライトブルーのカムフラージュを施こされていた他、フィンランドで使用されていた機体は、例のダークグリーン/ブラック/ライト・ブルーのカムフラージュが施こされていました。

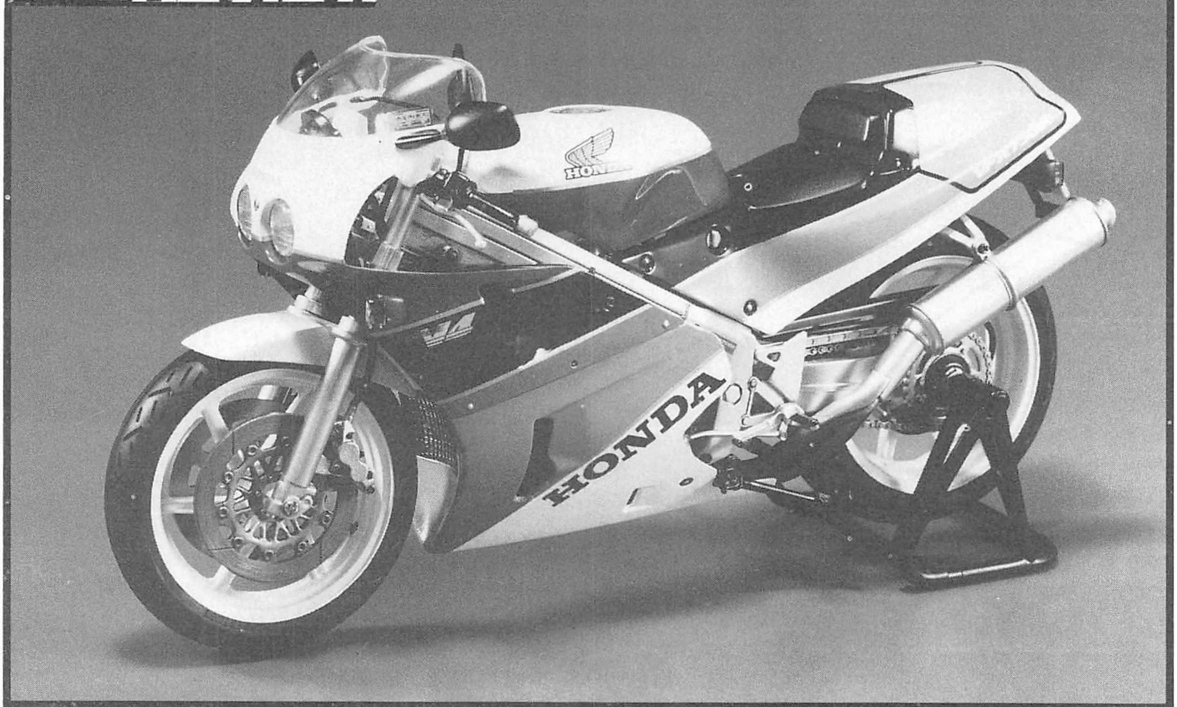
キットの指定は、先のスタンダードカムフラージュに、レッドスター、ナンバーのデカールを使用するようになっていましたが、デカールのなじみが悪く、ストックの中からポーランドのナショナルマークを見つけ、それを使用しました。

▼スマートな側面形。



NEW KIT REVIEW

タミヤ1/12　あつたゆきお



HONDA VFR750R

VFR750Rというより、RC30という型式名称で名の通っているこのマシンは'87RVFのレプリカとして、148万円で1000台が限定販売された。この数字は今年から始まったスーパーバイク世界選手権(日本でも8月27日SUGOで第5戦が行なわれた)や耐久シリーズなどを争うF-1マシンのレギュレーションが、車体もノーマルのものをベースにしなければならなくなったので、ベースマシンとしてホモロゲーション達成に必要な数でもあるのだ。

内容は、ワークスレーサーに保安部品を付けただけといってもよく、ワークスRVFの金型により作られたメインフレーム、センターロック式のリアホイール、FRPのカウル、チタン製のコンロッドなど、エンジンから車体構成までRVFしているのだ。

ちなみに今年の8耐のワークスマシンは、このRC30をベースにしている。

ということで、予約しても買えなかった人、限定解除じゃない人、限定解除でもおかねのない人、免許のない人は、オイラといっしょに、約千分の一で買えるタミヤVFR750Rで楽しみましょう。

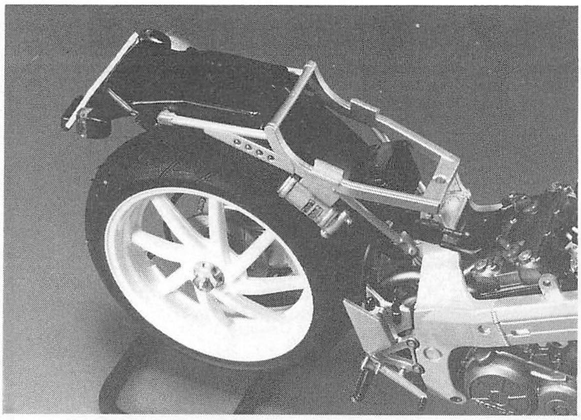
キットについて

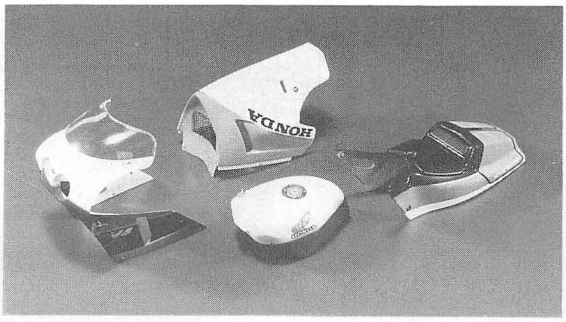
キットの内容は、いつもどおり。より簡単に、より精密にという相反する要素が高い次元でまとめられている。

クランクケース、スイングアームは一体成型になった。これらフレームに固定されるパーツは、組み立てパーツだと、接着のさい多少でもズレてくっ付いてしまうと、フレームとエンジンマウント部分が合わなくなったり、スイングアームがよれてしまったりということがおきうるので（もちろん組み立てるがわの責任ではあるが）なにはともあれ歓迎すべきことである。

パーツ点数は、多くもなく、少なくもなくである。他のタミヤ製品にもいえると思うが、組み立てやすさ優先でパーツ数を押さえ、なにがなんでも一体パーツを増やしているという見方をするモデラーもいるようだが（べつに悪い見方ではないと思うが）しかし、よく観察してみると、これ以上分割する必要がないから分割しない、のではな







◀実車同様のセンターロック式。
▲分割式のカウル。

いか。パーツ点数が増えれば、もちろん組み立ては面倒になりしいてはそれが組みにくいということにすり変ってしまうものだ。

それよりも、完成した時の全体のバランス（とくにバイクは）に重点をおいて、もちろん組み立て易さも含めた結果、これだけのパーツ数になった。と考えたほうが素直だと思うけどナ。

基本的に誰が組んでも、組み上がるように設計してあるもんだし（タミヤ製品はとくにそのことを主眼にしていると思う）大方の人々は、完成させることを目的にキットを購入するわけだから、完成したときに、似ても似つかないようなのが出来ちゃったらマンモスかなピーでしょ。

てな具合で、計算しつくされたパーツ数に、組み易さをかねそなえ、完成した時のかたちの良さと、三拍子揃ったはっぴーなキットだ。と思うんだよネ、オイラは。

組み立ては、とてもスムーズにいく。組み立て説明書のみやすさは、いつもどおりだ。各部のパーツ構成（分割）もよく考えられているうえに、説明書1コマずつの組み立てバランスがよく、一度に組むパーツの多さに混乱してしまうこともないし、ストレスがたまってくることもない。

エンジンは、実車と同様のマウントで、フレーム、エンジンは個々に組み立て、塗装が出来る。エンジンは極小ビスでフレームに固定される。専用のドライバーが付属しているが、柄が小さいので力の入れ加減がつかみにくくあまり使い良くなかった。またビスの頭からはずれやすいので、他の部分を傷付けないよう注意しましょう。

カウルはバブルスクリーンもふくめた一体成型だ。非常に透明度の高いクリアー・パーツで、塗装するのがもったないぐらいだ。肉厚も薄く、エッジのシャープさといったら普通じゃない。フレームに固定してしまえば何でもないが、作業中の扱いには注意しないと割ってしまう可能性もあるゾ。

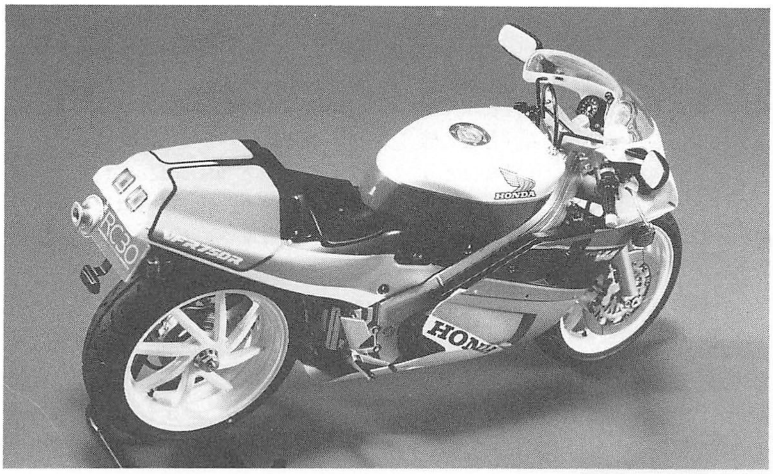
その他、注意しなければいけないところは、説明書にもあるがタイヤの回転方向ぐらい。あとは、矢印に従いパーツを接着していけば、間違いなく完成するはずだ。

カラーリング

塗装は、説明書どおりで良い。極細部の指示は省略されているので、各自リサーチしてくれたまえ。指示はもちろんタミヤカラーのナンバーだが、大方のカラーはMrカラーにおきかえられる。

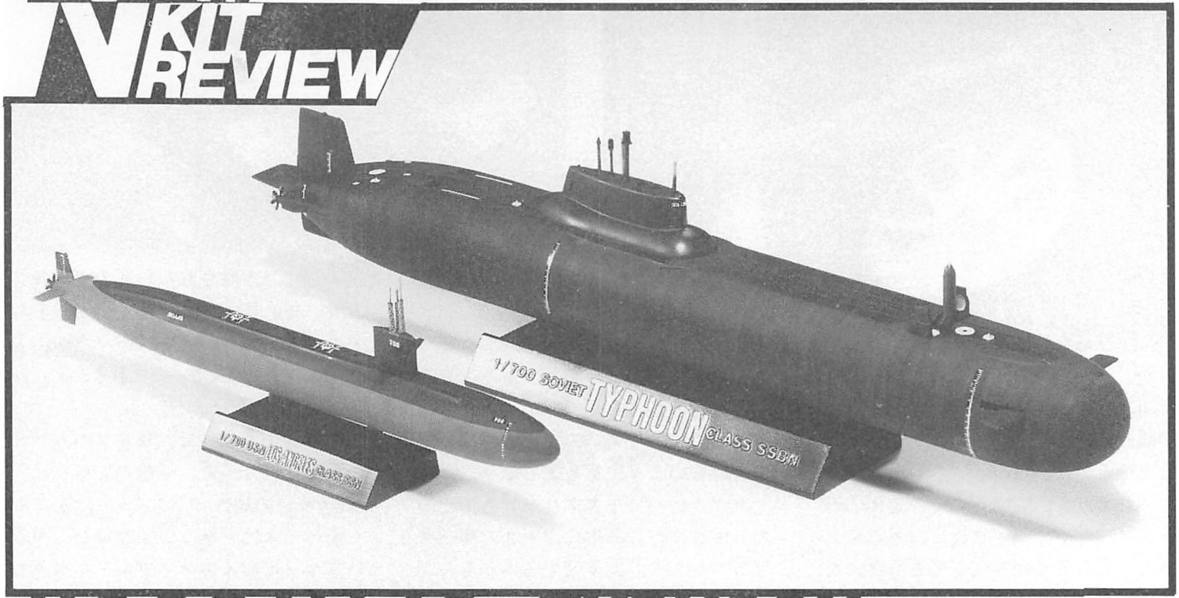
カウルのカラーは、レッドのみデカール化されている。２色のブルーは、Mrカラーの場合、暗いブルーは⑤ブルーをベースにブラックで調整し、明るいブルーは⑮インディブルーをベースにホワイト、または㉞スカイブルーのベースにブルー。これでそこそこの色は出ます。カンスプレーなどストレートで使う場合、明るいブルーは⑮インディブルーか⑧0コバルトブルー。暗いほうは、⑤ブルーか、⑬ネービーブルーあたりか、まあかなり妥協しないといけないけど。参考までに、ロスホワイトの単色もあります。

もちろん、オリジナルにこだわる必要もないので、好きな色ぬって楽しんでください。そのほうがより楽しめると思うナ。



NEW KIT REVIEW

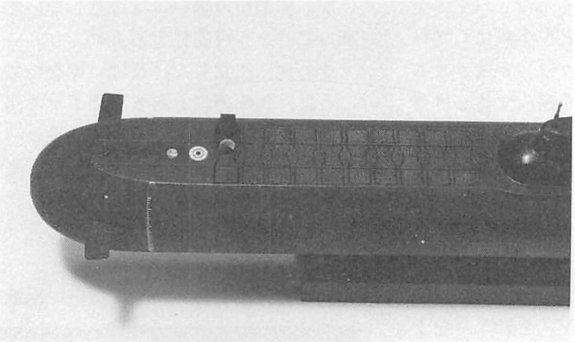
ドラゴンモデル 1/700　野倉平八郎



U.S.S.DALLAS VS TYPHOON CLASS

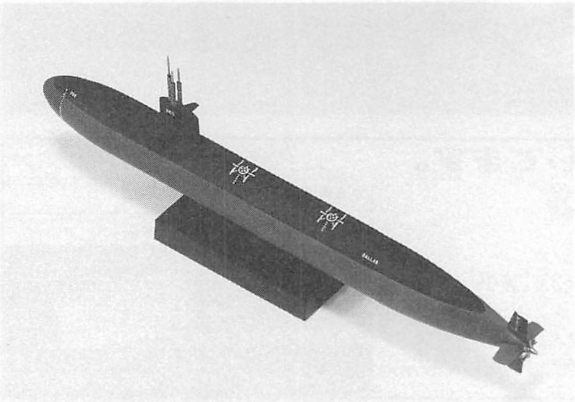
今年２月に発売された1/350ソ連タイフーン級潜水艦に続いて、８月には1/700でも同艦とロサンゼルス級潜水艦が発売された。『現代海軍力(モダン・シーパワー)シリーズ』と銘打ったこのシリーズ第１弾は、まさに〝レッド・オクトーバー詰合せ(アソート)〟と言うべきもので、商品名がロサンゼルス級ではなくU.S.S.ダラスとなっているのに思わずニヤリとさせられる。続くシリーズ２番目はソ連アルファ級と米オハイオ級だが、こちらはV・K・コノヴァロフとはなっていないようだ。

タイフーン型は1983年に１番艦が就役し、現在までに４隻が北洋艦隊に配備されていると伝えられる。各艦の艦名は全く不明なのだが、１番艦はどうやら『タイフーン』らしい。ソ連潜水艦の呼称は西側で勝手にABCのコード名を付けたものを使用しているがタイフーン級だけは、戦略兵器制限交渉の席上で当時のソ連ウスチノフ国防相が



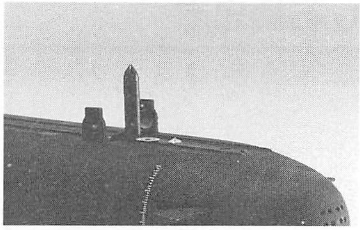
◀タイフーン級潜水艇。同社の1/350タイフーンの単なるスケールダウンではなく、ミサイル・ハッチの形状を最新資料を基に直してあるところが立派。

「タイフーン型戦略ミサイル潜水艦」と呼んだことから、この名前が使われている。１番艦が『タイフーン』なら２、３番艦は『サイクロン』と『ハリケーン』か？（おっと、これでは仮面ライダーのオートバイではないか）ただし、米海軍でもオハイオ級潜水艦のことを『トライデント型潜水艦』というように、搭載ミサイルの名称で呼ぶこともあるので、タイフーンも確証はない。



◀U.S.S.ダラス。このキットには、P-3Cオライオン、S-3Aバイキング、SH-60Bシーホークの1/700モデルが付いている。

ロサンゼルス級は1976年から現在までに38隻が完成しており、最終的には64隻建造する計画といわれる。ダラスは本級の13番艦で、1981年７月に就役、大西洋艦隊に配備されている。ロサンゼルス級の31番艦までは４門の魚雷発射管からMk.48魚雷、サブロック対潜ミサイル、ハープーン対艦ミサイル、トマホーク巡航ミサイルを撃ち分ける方式だったが、32番艦からは艦首ソナーと耐圧船殻の間に12基のトマホーク垂直発射システム（VLS）を装備している。模型の場合は外見上の違いはない。ソ連がタイフーン級など水面下行動能力を増大させているのに対応して、本級も34番艦以降、潜舵をセイルから船体前部に移して引込式にするという話もあったが、『世界の艦船』編集部に確認したところでは、最新の38番艦までこの変更は行なわれていない。もし実施されれば、模型のバリエーションとしては面白いのだが。



▲ミサイル・ハッチ開口部。ちょっとした改造でミサイルの出し入れができる。

トム・クランシーを追え

『ニューズウィーク日本版』9月1日号に、『レッド・オクトーバーを追え』、『レッド・ストーム作戦発動』の作者、トム・クランシーのプロフィール記事が載っていた。とにかく面白いので、買い逃した方は友人に借りて読んでみては？ここで受けるクランシーの印象は、「ちょっとアブナイ人だが、現用ファンにとっては羨望の的」(昭彦・談)という感じで、彼がイージス艦ヨークタウンやロサンゼルス級潜水艦リッコーバーを取材で訪れる様子や、アバディーンで105㎜砲を撃った話など、スケール・モデラーにもこれ位待遇が良ければいい模型が作れるだろうに……。

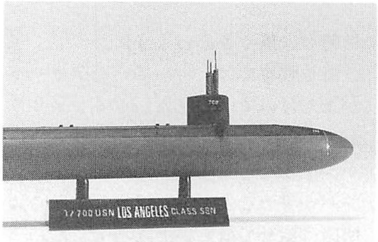
キットの製作

ウォーターラインの標準スケール1/700で登場したこのシリーズだが、部品分割はウォーターライン・モデルに対応したものとはなっていない。これは当然と言えば当然で、大戦中の潜水艦と違って今日の涙滴型潜水艦では、水面上に出ている部分が極めて少なく、さらに艦尾の縦舵が離れた所からポツンと水面上に突き出しているといった、ジオラマにでもしないかぎりウォーターライン・モデルには不適当な形をしているからだ。ジオラマにする場合でも、水上航行中、潜航・浮上シーン、進水式など、様々な吃水線があるわけで、筆者などはウォーターラインで分割されなくて助かったなどと思っている。

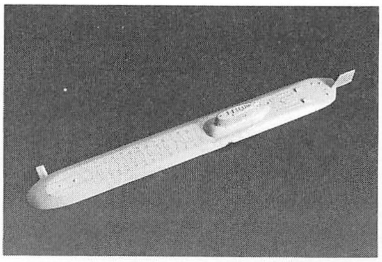
タイフーン級は、先の1/350のスケールダウンだが、ミサイル・ハッチの形状が最新の資料に基づいて改修されているなど、メーカーの熱意が感じられる。作例ではハッチの開口部に直径5㎜、内径3㎜のプラパイプを内側に付けてミサイルが出し入れできるようにした。艦首側潜舵の位置は、もう少し斜め上前方のようだ(吃水線よりも上)。塗装については、船体に吸音タイルを貼っていることから、艦底部もタイルの上から別の色を塗っていることはないだろうと考え、全面ツヤ消し黒としてみた。ミサイル甲板と艦橋はタイル貼りではないようなので半ツヤにしている。

ロサンゼルス級の方は、艦首の形状も、写真と見較べてみてもそっくりにできていて大変よろしい。塗装については、吃水線での黒と艦底色の塗り分けラインが、少し難しそうだ。作例は進水直前の12番艦ジャクソンビル(699)の写真を参考にした。

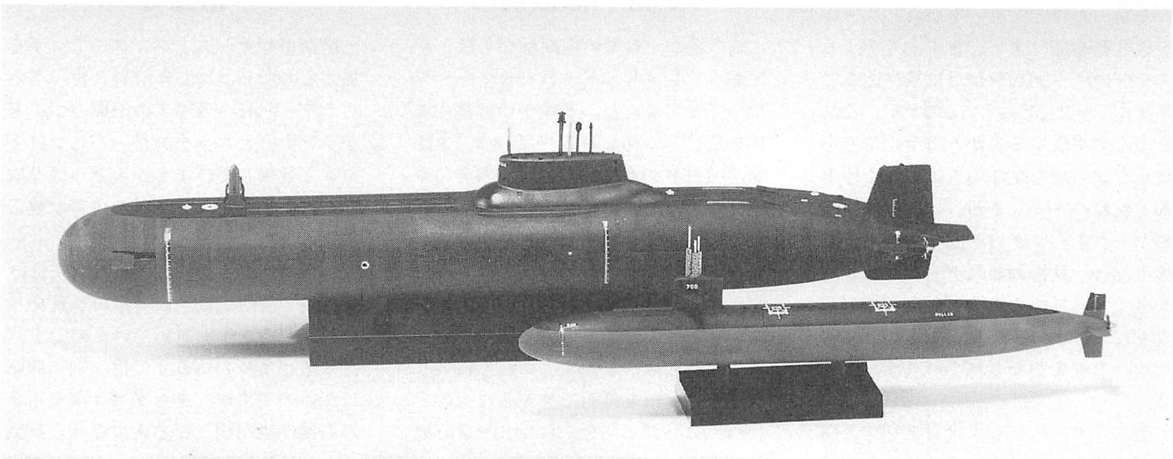
なお、製作中のウォーターライン・モデルは、息子の昭彦が作っているレッド・オクトーバーとダラスです。レッド・オクトーバーは船体を設定どおり延長し、ラストで左舷に20度傾いた状態としています。次回には完成したジオラマをご紹介できることと思います。



▲艦体側面。吃水線塗り分け部がわかる。



▲製作途中のレッドオクトーバー。



NEW KIT REVIEW

グンゼ1/35 「ゲルニカ」石橋忠志



PANTHER Ausf. G.

私は作ってみたゾ

皆様、チャンと作っていますか？このハイテック・シリーズ。コレクション用に買った人も多いでしょうが、私は作ってみました。

シリーズ第４弾は、パンターG型の前期型ですが、A型かD型にしてもらいたかったなどと思いながらビニールを破り箱を開けます。まず、モデルカステンのキャタピラが目に飛び込んできます。何と200枚もあるのです。これを組んで塗装するのかと多少の不安を覚えながら他を見ていきます。車体下部と転輪パーツですが、これは後期型やヤークトパンターと同じものが、車体上部は、後部の通気グリルの部分が大きくなっているタイプになって（写真1）、エッチング・パーツもこれにしたがって変更がなされています（写真2）。

次にメタル・パーツに目を移すと防盾が2個入っている。これは好きなほうを選べばいいでしょう（写真3）。

ファンカバーの部品がヒーターが付いていないタイプに、それに排気筒が消炎ファンが付いていない基部が角型になったタイプが入っていますが、メタル・パーツ一覧表では、丸型になったタイプが写っています。

なお、メタル・パーツの点検は、かならずしましょう。一覧表と同じに置いて見較べるといいですよ。でも部品は絶対に無くさないように。

Ⅲ号戦車では、付いていたデカールがまた付いていません。ツインメリット・コーティングをするからいらないか、そうだったら国籍マークや車輌ナンバー等のことを少しでもいいから説明図に載せて欲しいところでした。

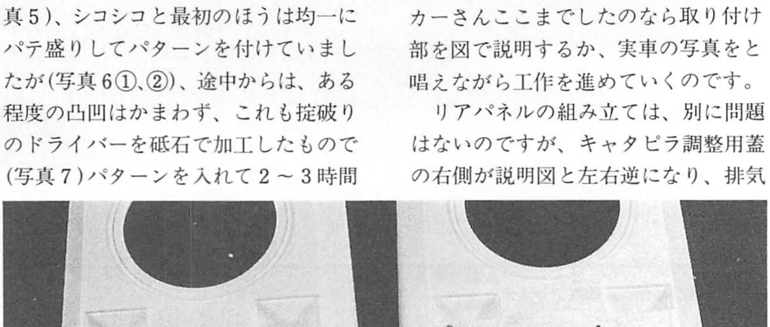
辛い思いは最初に

友人達が、「G型の前期型ならほとんどがツインメリット・コーティングをやってますもんね。」と暖かい言葉や資料を貸してくれたので（写真4）、本誌'88年6月号の高木氏の記事を参考にやってみました。コーティングをしないところに油性ペンでしるしをつけ（写真5）、シコシコと最初のほうは均一にパテ盛りしてパターンを付けていましたが（写真6①、②）、途中からは、ある程度の凸凹はかまわず、これも捻破りのドライバーを砥石で加工したもので（写真7）パターンを入れて２～３時間ぐらい置いてカッターナイフで平面に削って600番の水ペーパーで軽くかけてやるといった楽をしてしまいました。でもパターンは、あくまで丁寧に入れて下さい。さもないと作品がだいなしになってしまいます（写真8①、②、③）。

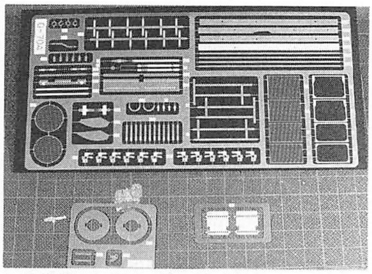
組立て

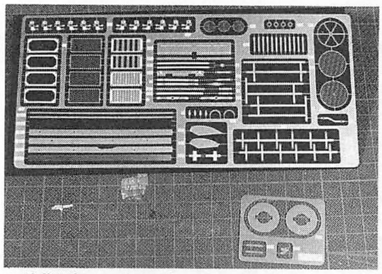
後期型やヤークトパンターで、手を加えるのならココしかないと付けていたデファレンシャルギアの内側のボルトがランナーとエッチング・パーツにチャンと登場していますが大ざっぱな取り付け指示のため、正確な位置が解らず付けてしまいました（写真9）。メーカーさんここまでしたのなら取り付け部を図で説明するか、実車の写真をと唱えながら工作を進めていくのです。

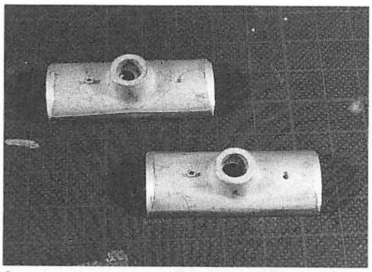
リアパネルの組み立ては、別に問題はないのですが、キャタピラ調整用蓋の右側が説明図と左右逆になり、排気

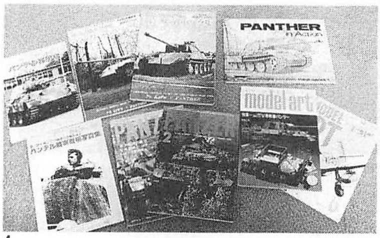


1 右が後期型、左が前期型

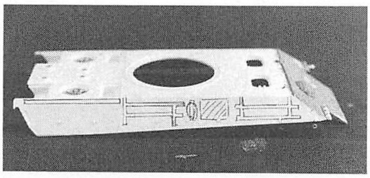

2 前期型エッチング・パーツ

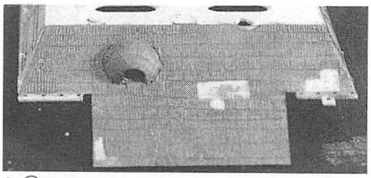

2 後期型エッチング・パーツ

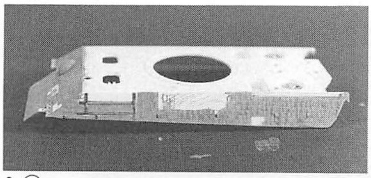

3



4


5


6-①


6-②

筒カバーを丸く加工するのは、マイクロペンチという工具(写真10)で少しずつ丸くしていきました。

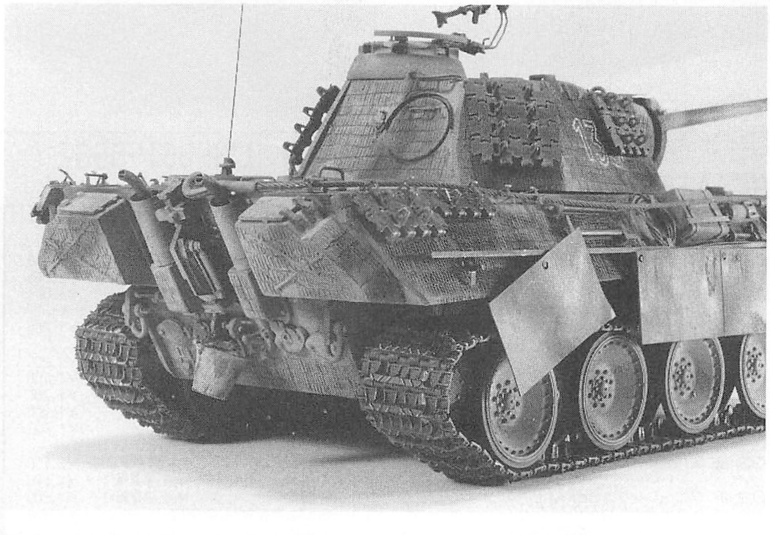
ライト部分ですが、B-12にB-11とB-10を付けるように指示してありますが、これはどちらかを選んで付けるのが正しい。B-11を付ける時は、レンズを透明プラ板等で追加工作して下さい。作例では、B-10の防空用スリットカバータイプにしてちょっと手を加えてみました(写真11)。

砲身止めのⓂ59は左右逆ですしⓂ41のフロントペリスコープベースは前後が逆になっていますので手持ちの資料等で充分リサーチしながら組み立てていきます。この辺の組み立てよりピンを使っていくのですが、私はニッパーでパチンパチンと切っては飛ばして無くすといった事をしていましたらピンがなくなってしまい、ピンを捜しに行きましたが、幸いに事務用品店にシルクピン(写真12)というディスプレイ等に使用するのが使えそうなので、また安心してパチン、パチンと飛ばし始めました。

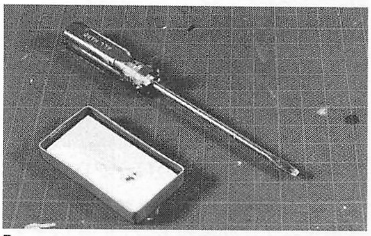
ファンカバーや通気グリルを取り付ける前にかならず内側を黒く塗っておいて下さい。組み立てから塗装しても内側まで塗料が回ってくれません（自分が失敗して解りました。反省)。

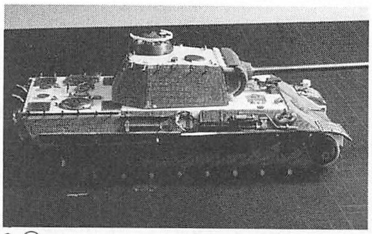
側面のフェンダーの取り付けには細心の注意が必要です。エッチング・パーツNo.21、22にNo.23を接着するのですが1㎜にも満たない接着面にゼリー状の瞬間接着剤を使用しながらやりました。少ししか付けないとすぐ外れるし多めに付けるとはみだしてくるというジレンマと戦いながら付けましたが、案の定ドライブラシの時に外れてしまい、接着面をキレイにしてまた付け直すといったことをしてしまいました。

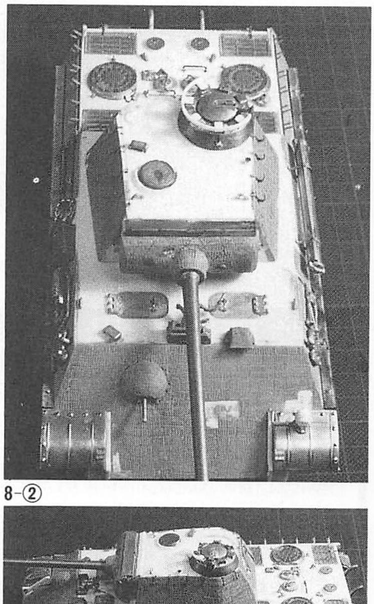
このフェンダー部分は、折り曲げにしたほうが良かったんじゃないでしょうか？



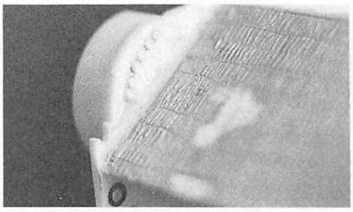
工具類の取付け


7

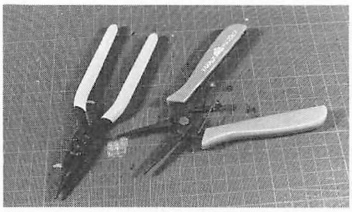

8-①


8-②

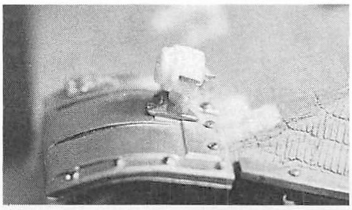

8-③



9

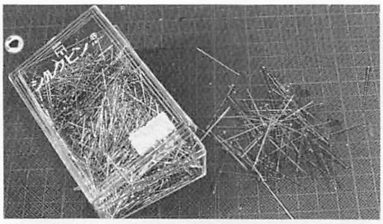


10

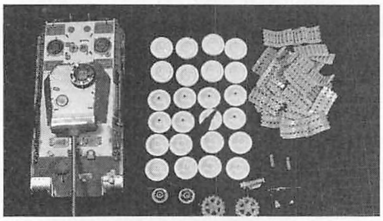


11

車体側面にシャベル等の各パーツを取り付けていくのですが、説明図を参考にして現場合わせのほうが良いでしょう。そうしないとジャッキ台や砲身洗桿ケースに砲塔が当ってしまいます。



12



13

Ⓜ68のカナテコを取り付けるように指示されていますが、フェンダーに当ってしまい作例では付けていません。しかし、このラック、実車の写真ではあまりみないタイプなんですが……。

砲身洗桿ケースのパイプとエッチングとジャッキ台のメタルとエッチング・パーツの接着は、相性が悪いのか、それとも私の手が油性なのかすぐポロリとはずれてしまうので、２液混合のエポキシ樹脂系の接着剤を使用しました。

砲　塔

エスケープハッチの雨トイは、丸みをつけ接着しないとすぐはずれるし対空機銃レールは、折ってしまうし、スペアキャタピラフックの位置もキャタピラに合せて取り付けないと重なったりしてしまう。砲身にマズルブレーキを付ける時は、正確な中心をだして穴を開けてやること。

最後に

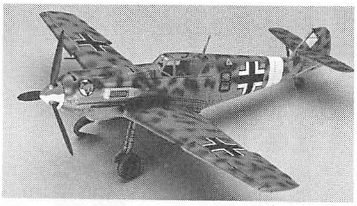
キャタピラと塗装は、これも高木氏の記事を参考に、三色迷彩にして戦場のパンターなんだという感じで自分なりに塗ってみました。

このハイテック・シリーズ、メタル・パーツにペーパーをかければ、爪の中まで真っ黒になるわ、エッチングの２次加工はしなきゃいかんわ、ツイメリットコーティングはしなきゃいかんわでそりゃあ大騒ぎさ！そして、塗装してしまえば、あの苦労はなんだったとメタルやエッチングの部分が解らなくなってしまうので、皆様塗装する前には、かならず記念撮影をしましょうね（写真13)。オジサンモデラー奮戦記でした。

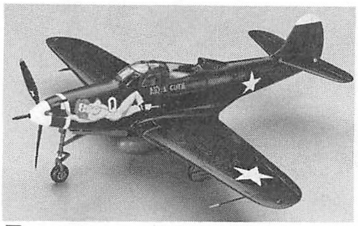


でものはつもの

トライアングル▶☎045-544-6770
三晃産業▶☎078-861-5667



■メッサーシュミットBf109E-4/-7Trop。ハセガワ1/48。1,500円。防塵フィルター付きのトロピカル仕様機。



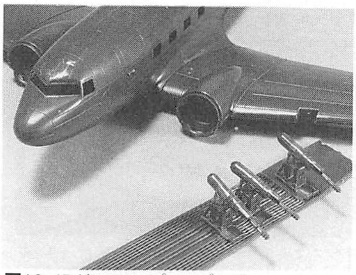
■P-39エアラコブラ。ハセガワ／モノグラム1/48。1,600円。モノグラムの製品にハセガワ製のデカールと説明書をセット。リアルなエンジン、機関砲を内蔵し、アウトラインも見事なベストキットだ。



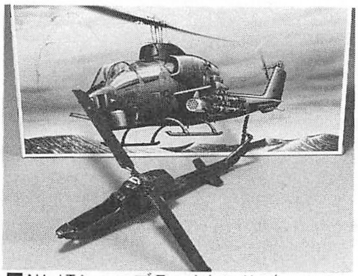
■RF-101Cブードゥー。ハセガワ1/72。700円。機首下面のカメラ窓を改修し、デカール替えのリフレッシュキット。



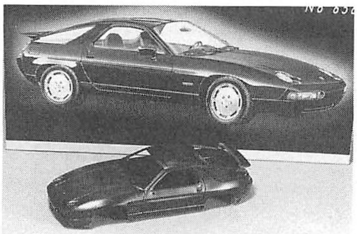
■ポリカボマーカーPM-12シルバー。タミヤ。300円。クリアーボディにワンタッチ塗装できるマーカーの新色。RCやミニ四駆などのクリアーボディに最適。君のカラーバリエーションを広げよう！



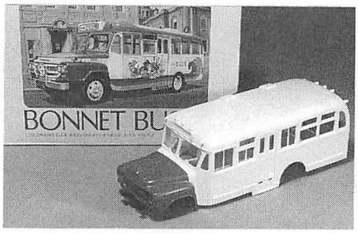
■AC-47ガンシップ・スプーキー。イタレリ1/72。1,100円。以前から評判の高かった同社のC-47にAC用の部品を追加して今回の発売となった。追加部品は床と機銃だが、この機銃、銃架までモデル化されてとってもリアル。



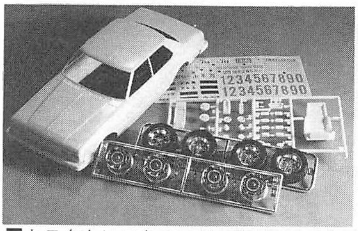
■AH-1Tシーコブラ。イタレリ1/72。500円。元となったものは同社のスーパーコブラ。胴体など主要部分が共通でエアインテークなど変更になっている。



■ポルシェ928S4。イタレリ1/24。1,500円。エンジンや内装などよくまとめられている。部品も少なめ。ウインドウは運転席側が開いている。



■いすゞボンネットバス(中央バス)。LS1/32。1,500円。北海道小樽ロマン号のカラーリングで登場。キットは呉市交通局と同じ。ボディカラーのデカールはよく見たら余白なしのすぐれもの。



■トヨタクレスタスーパールーセントターボ。LS1/24。800円。

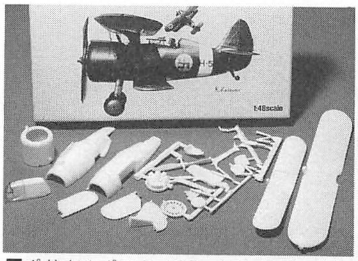


■ニッサンケンメリスカイライン4ドア2000GT-X。LS1/24。800円。上記クレスタとともに発売されたTHE 1/24中古車セール800円ポッキリ・シリーズ。以前のキットにアルミホイールなどのオプションパーツが入ったリフレッシュキット。





■XF5F-1スカイロケット。レアプレーン1/72。2,600円。真空成型キット。バキュームの割にエンジンディティールが細くきれいだ。メタルパーツ（脚柱、車輪等）とデカール付。問▶三晃産業。



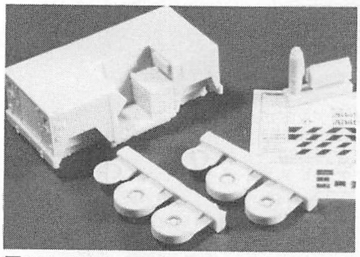
■ポリカルポフI-15bis。トライアングル1/48。5,300円。レジン。全体にコンパクトにまとめられた出来のよいキット。



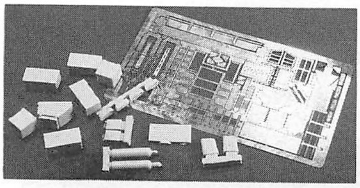
■ポリカルポフI-153。トライアングル1/48。5,300円。レジン。以上2点共にデカールは付かない。問▶トライアングル

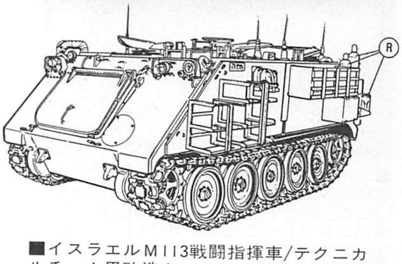


■Ba349Bナッター。トライアングル1/48。3,000円。レジン。ドイツ空軍の簡易ロケット戦闘機。キットの内容は、部品数は少なめ、標準的な分割なので組み立ては容易そう。問▶トライアングル。



■NAS EPUトラクター。バーリンデン1/48。1,600円。レジン。米海軍陸上基地用。飛行機ジオラマに欠かせないEPUトラクターとその他アクセサリーパーツのセット、モールドもとってもきれい。問▶山本商会。



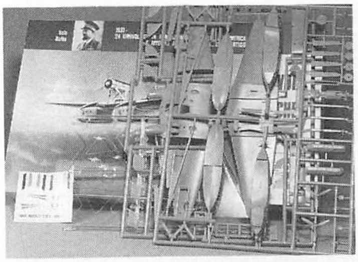


■イスラエルM113戦闘指揮車/テクニカルチーム用改造キット。バーリンデン1/35。2,500円。エッチング、レジン。ジェ

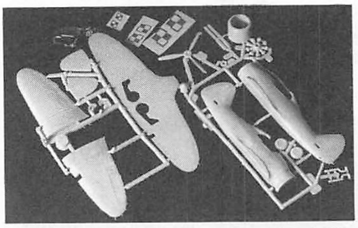
でものはつもの

ミスタークラフト▶☎03-461-2665

リ・カン、工具箱、ボンベなどの小物がレジンパーツ。搭載キャリアがエッチング・パーツだ。装甲板をプラ板で自作し、キャリアを取り付ける。説明書に実車細部写真あり。問▶山本商会。



■サボイアSM55飛行艇。デルタモデル1/72。3,500円。独創的なフォルムを見事に再現しているし、モールドもなかなかない。組み立てがいのあるキットだ。問▶ジャーマンホビードラ。



■PZL P-50ヤストザブ。STANKOSKI 1/72。900円。ポーランド製の小柄なキット。問▶ジャーマンホビードラ。



■クラッドバスタージュニア。タミヤ1/32。1,000円。ワイルドミニ四駆シリーズ第5弾。直径5㎝のタイヤが力強い。別売のハイスピードギヤでスピードが3倍。



■ダッシュ1号・皇帝(エンペラー)。タミヤ1/32。600円。レーサーミニ四駆シリーズ第12弾！コロコロコミックの人気漫画「ダッシュ四駆郎」の四駆郎の愛車！



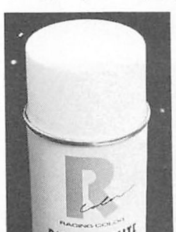
■スホーイSu-7BKL。KP1/72。ソ連機でお馴じみのKPの新作。大柄の機体に細かい凸モールド。キャノピーは開状態と閉状態と2つ付く。出来の方はいつもどおり。おまけで1/200のSu-7が付いている。最近ソ連機が市場に出まわるようになってソ連機ファンは笑いがとまらないでしょうネ！



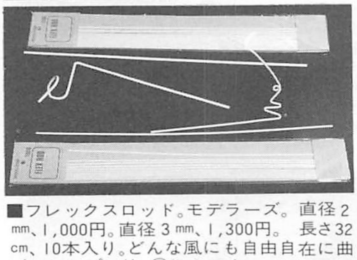
■アメリカ現用アクセサリー・パーツセット。タミヤ1/35。600円。最近にわかに人気の出てきている現用AFV。そんな中に強力な助っ人の登場となった。105㎜戦車砲弾4種、空薬きょう、砲弾ケースに木箱、120㎜滑腔砲弾2種、万力、酸素・アセチレンボンベ、スティンガー携帯地対空ミサイル、M60E3機関銃、など30種にものぼる各種装備品の詰め合わせ。



■トミーカイラM-30。フジミ1/24。1,000円。日本初の公認チューンドカー。マフラーはアルミパイプ、専用シート付き。



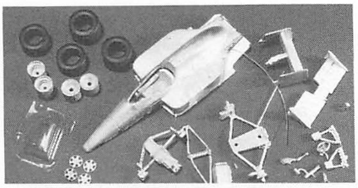
■レーシングカラースプレー・スーパーホワイト。モデラーズ。700円。隠蔽力が抜群に強い白。たとえ下地が黒でも2度も塗れば完璧！青系黄系でない完全無欠の真っ白だ。「ボクはど〜も白を塗るのがニガ手」という貴方。ぜひ一度、お試しくだされ。問▶ミスター・クラフト。

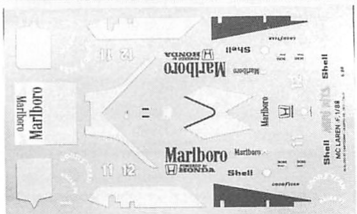


■フレックスロッド。モデラーズ。直径2㎜、1,000円。直径3㎜、1,300円。長さ32㎝、10本入り。どんな風にも自由自在に曲げられるプラ棒。問▶ミスター・クラフト。

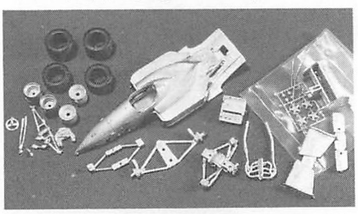


■10.5㎝leFH18榴弾砲。グンゼ1/35。7,000円。全金属製。重量、質感ともにズッシリくるモデル。各部可動式の構造でマニアックな仕上り。マニアならぜひひとつ欲しい代物だ。





■マクラーレンホンダMP4/4。メリキット1/43。7,500円。細長いノーズと平べったいアウトラインが印象的。そのラインを見事に再現している。デカールはセナ、プロスト用付き。問▶コジマ。



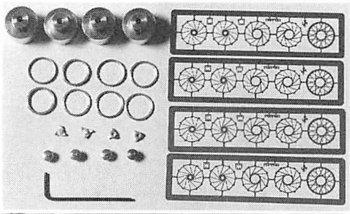
■ベネトンフォードB188。メリキット1/43。7,500円。若手ナニーニの活躍で株をあげてきたベネトンのマシン。アウトラインは見事に再現されている。ホイールの表現はエッチング。問▶コジマ

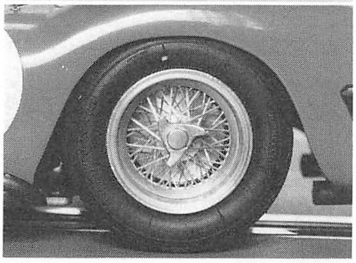


■トヨタセリカ4WD・ツールドコルス'88。プロバンスムラージュ1/43。7,200円。レジン。今年の5月にWRCデビューを果したマシン。早々のキット化だがアウトラインは素晴らしい。問▶コジマ。

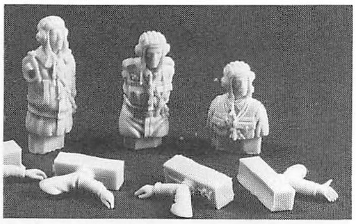
■ぎりぎりセーフ！の情報。トキホビーの1/144メタルプレーンの新作、Ta-152H1。オーストリアのロコのミニタンクシリーズ、HOスケールのマン630給水車とVWトラック2種、ジェリカンセット、ドライビングミラーセット、Nスケールでレオパルド戦車。来月号で詳しく紹介!!

ホビーボックス博多店▶☎092-271-0146　マキシム▶☎0473-24-2437
ビンテージモデル▶〒175 東京都板橋区赤塚1-20-8　Qモデル▶☎045-812-8016

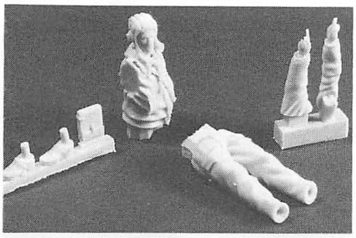




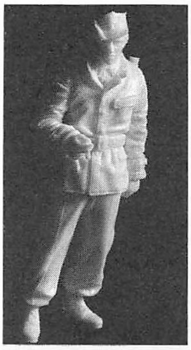
■ボラーニ・ワイヤーホイールキット。Qモデル1/24。5,700円。スロットカー用のワイヤーホイール。アルミリム、ステンレスエッチング3層5枚重ねで本物と同じワイヤー72本となっている。スピンナーはホワイトメタル製でとってもリアルだ。フェラーリGTO、SWB、LMなどにピッタリフィット。㊐▶Qモデル。



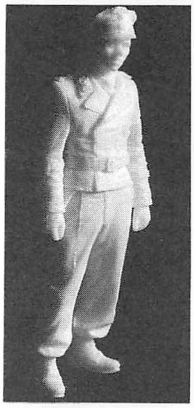
■'80sソ連戦車クルー。バーリンデン1/35。2,200円。レジン。胸上、腰上、股上の上半身ものが3体セット。モールドはいつものごとく極上。君のソ連戦車も一段とひきたつぞ!!㊐▶山本商会。



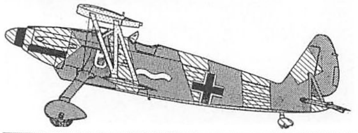
■'80sソ連戦車指揮官。バーリンデン1/35。1,300円。レジン。ジャケットの襟やポケット口、帽子、通信器のコード類等々細かいところに至るまでスーパーディティールのあめあられ！㊐▶山本商会。

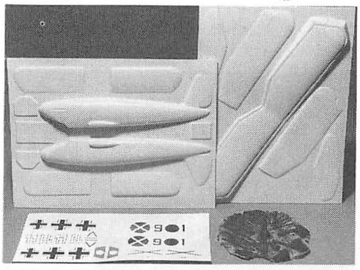


■ミハエル・ヴィットマンUボートレザージャケットタイプ。ホビーボックス1/35。950円。パンツァーキラーと謳われたヴィットマンのフィギュア。ジャケットなどかなりリアルで襟の折り返しなど目を見張るものがある。指にタバコをはさんで立つポーズがシブイ！



■ミハエル・ヴィットマンSS戦車服タイプ。ホビーボックス1/35。950円。手を握って立っているポーズは見ているだけで力強さを感じる。襟章や帽子のツバ、ベルトなどなかなかのもの。以上2点㊐▶ホビーボックス博多店。

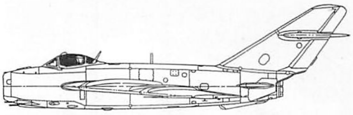


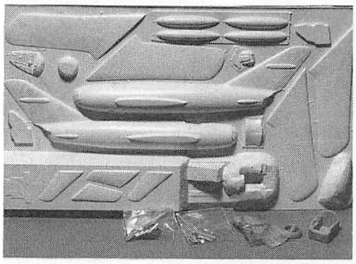


■アラドAr.68E。エアモデル1/48。価格未定。真空成型キット。ドイツの複葉戦闘機。機体全面がスジ彫りで動翼部のスジもメリハリがきいてよい。分割も標準的。小部品はすべてレジン製のものが付く。全体的に出来はよさそうだ。デカール付き。㊐▶ビンテージモデル。

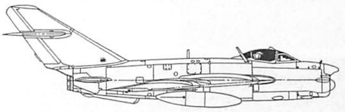


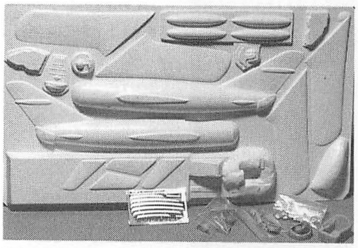
■スホーイSu-22フィッターJ。グリフォン1/72。3,500円。簡易インジェクションというが出来はよい。全面スジ彫り。デカールはリビアとソ連空軍のものが付く。㊐▶マキシム。



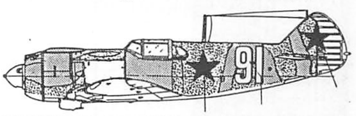


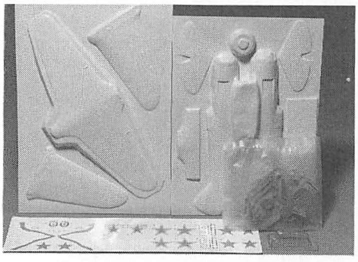
■MiG-17FフレスコC。ウォーイーグル1/48。価格未定。真空成型キット。全体に非常によいモールド。レジンのコクピットに6分割のメタルシート。計器盤、機銃、アンテナ、排気ノズル、脚柱、タイヤ、脚カバーまでみ～んなメタル。境界層板はな～んとエッチング。機首空気取り入れ口はバキュームパーツの他にレジン製のものも入っている。仕上りが楽しみなおすすめキット。



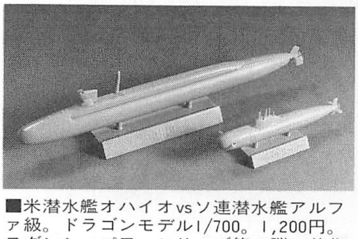


■MiG-17PFフレスコD。ウォーイーグル1/48。価格未定。真空成型キット。機首部分がD型用のレドーム付きになったもの。以上2点㊐▶ビンテージモデル。





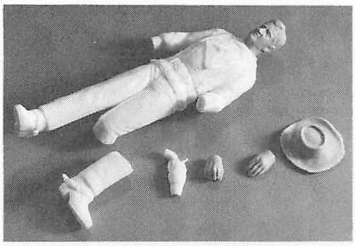
■ラボーチキンLaG-5。カロモデル1/48。価格未定。真空成型キット。バキュームキットらしいシンプルな分割。プロペラ、タイヤ、脚柱などのレジン・パーツ付き。この部品の抜けがよく、モールドもキッチリしている。㊐▶ビンテージモデル。



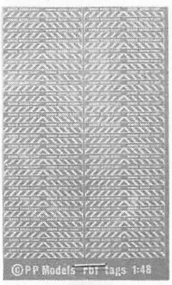
■米潜水艦オハイオvsソ連潜水艦アルファ級。ドラゴンモデル1/700。1,200円。モダンシーパワーシリーズ第2弾。前作同様オマケ飛行機（ベアDとホーモン）が付く。シンプルオブベストのキット。

でものはつもの

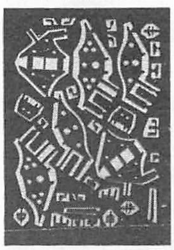
ピットロード▶☎044-865-2460
ミニカーショップコジマ▶☎03-491-3243
山本商会▶☎044-932-2367
福田商店▶〒333埼玉県川口市芝5663-4



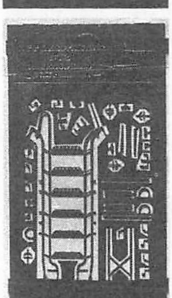
■西部の男Ⅰ。福田商店1/12。〒共2,500円。レジン。まんま西部劇の映画に出てきそうなリアル感タップリのキット。顔が妙にリアルすぎてこわいくらいだ。問▶福田商店。



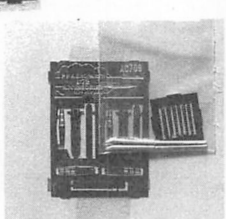
■〝Remove Before Flight″タグ。P.Pモデル1/48、300円。1/72、300円。紙製。駐機中の機体各所にぶらさがっている赤いタンザク状のあれです。USAF、USN、NATO、RAF、RNの機体に使えます。ジオラマ指向の貴方にピッタリ。



■ソ連機用チョーク。P.Pモデル1/72。600円。エッチング。ミグやスホーイなどの車輪止めが3タイプセットになっている。いっしょにMiG-23用のディティールアップ・パーツ(バックミラーやアンテナ類)もセットされる。



■MiG-23用ラダー。P.Pモデル1/72。600円。エッチング。MiG-23となっているがソ連戦闘機及び攻撃機に使える。最近増えてきたソ連機のキットのディティールアップに是非1つ欲しいアイテムだ。あと上記と同様のMiG-23用パーツもセットされる。



■F-4ファントムⅡ用空中給油プローブ。P.Pモデル1/72。700円。海軍型ファントム用で給油プローブ本体がメタル製。支柱やカバーなどがエッチング製。格納部も見事にエッチングで再現されている。2セット入り。実にお徳！以上4点共問▶山本商会。



■ベレッタ・プロ・ストリート。アメリカレベル1/25。1,800円。プロストックレース用のフルチューンマシン。



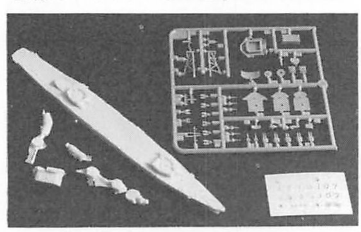
■〝ウルトラ-Z″ST・マシーン。アメリカレベル1/25。1,800円。カマロの魅力を余すことなくキット化。



■'34フォードクーペST.ロッド。アメリカレベル1/16。4,600円。外見は50年前のクラッシックカー、ボンネットを開けるとシボレーV8エンジンが出現する！



■'34フォードフェートンST.ロッド。アメリカレベル1/16。4,600円。ホットロッド仕様のハイテクマシーン。



■海上自衛隊護衛艦DD107「むらさめ」。ピットロード1/700。1,700円。今年3月に退役した艦。艦体等レジン。艦橋や機銃などインジェクション・パーツ入り。その他自作や流用について親切な解説、図面入り。問▶ピットロード。



■ボーイング737-200。エアフィックス1/144。1,000円。デカール替えの限定もの。デカールはエールフランスとブリティッシュエアの2種類入り。



■ボーイング727-200。エアフィックス1/144。1,000円。こちらもデカール替えでパンナムとルフトハンザの2種類入り。その他にダグラスDC-9-30も同様でKLMオランダ航空とイベリア航空の2種類。当時は標準以上の出来だったのでこまかいことは言わずにエアラインを楽しもう。



■SHOW'n'GO。ダイヤモンドビデオ。VHS48分。ドラッグ・レースの各カテゴリー(トップフューエル、ファニーカー、ホットロッド、ジェット・ドラッグ)、そしてビッグフット、スプリントカー等、アメリカならではのレースを紹介するビデオ。ビッグパワーを愛する国民が作り上げたこの“ショー”は、ヨーロッパや日本ではとても生まれそうもないものばかりで、画面に思わず見入ってしまう。圧巻はジェット・ドラッグで、“キーン”という爆音は一瞬飛行場にいる錯覚に陥いる。トップスピードでのゼロヨンは4秒!!バカバカしさではこれ以上ないというのが、このジェットの炎でポンコツ車を“焼き上げる”というもの。完璧にアメリカしてて楽しいヨ。



■GATHERING SPEED。ダイヤモンドビデオ。VHS110分。'30年代頃から'50年代頃までのドラッグレースのビデオで、当然ながらモノクロの写真が挿入されていて絵自体の動きは乏しいものの、当時から塩湖で走っていたり、チューニングされたエンジン等、現在と変わらぬ風景はパネルに入れて観賞したいくらい美しい。当時のドライバーがナレーションし、思い出に花をそえる。問2本とも▶藤間商事。

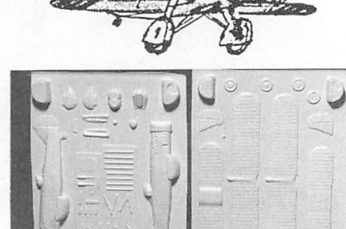


■フィアット・アバルト1000SPバルケッタ・タボレーラ1965。B.Vモデル1/43。15,000円。ホワイトメタル製のフルディティール。キーホルダー付。問▶メイクアップ。



■BMW M3 Gr.A'87。スターター1/43。7,500円。'87年世界ツーリングカーレースのドライバーズチャンピオン、ラバーリアのマシン。問▶ミニカーショップコジマ。

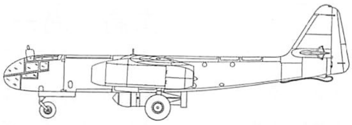


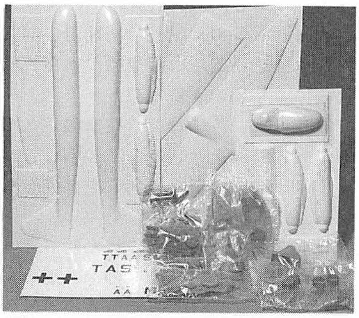


■フィアットFiat CR32。フォーマプレー

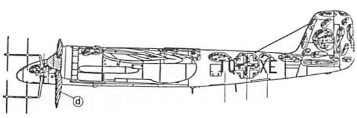
メイクアップ▶☎03-498-9876
ジャーマンホビードラ▶☎03-469-2030　　ホビーショップワーク▶☎078-332-2598

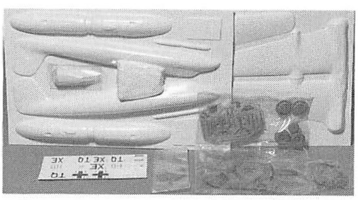
ン1/48。4,400円。真空成型キット。分割は標準的だ。タイヤと機銃はメタル製。問▶ジャーマンホビードラ。



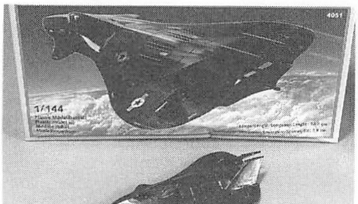


■アラドAr.234B。カロモデル1/48。7,400円。真空成型キット。タイヤや脚柱など小物パーツはレジン製。全体によくまとまったキット。その他デカール付き。問ジャーマンホビードラ。





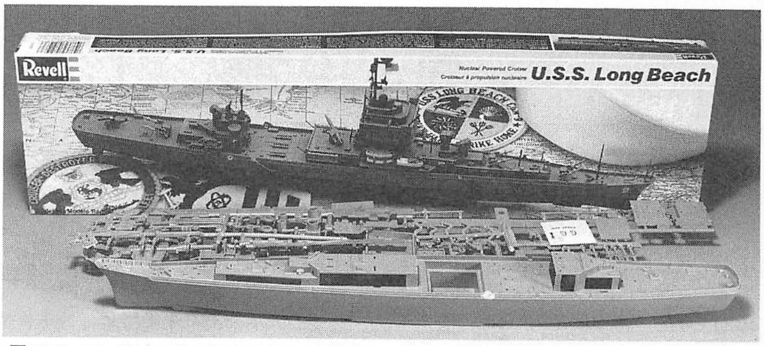
■フォッケウルフTa-154A-0/A-4。カロモデル1/48。7,400円。真空成型キット。A-0とネプツーン・レーダー搭載のA-4のコンパチ・キット。レーダーアンテナはレジン。問▶ジャーマンホビードラ。



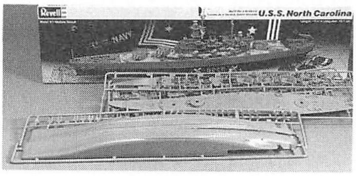
■F-19ステルスファイター。ドイツレベル1/144。650円。実機がまだ確認されていないのに業界で大モテのF-19だ。キットは多少甘い感じがあるがアウトラインもかなり正確!?かどうかアメリカのお偉いさんに聞いて下さい。



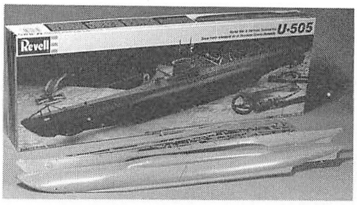
■フェラーリF40。フジミ1/24。1,000円。リアルスポーツカー・シリーズの第1弾。今回のシリーズは気軽に作れるキットを前提に、極力部品を減らしている。エンジン本体は一体成型だが出来あがりはリアル。フロントグリル部、リアダクト部には金属メッシュが入って精密。リアウイングはボディと一体など組み立ては楽だが決っして手抜きキットではない。リアサイドのダクトが他社と違い5本もの。



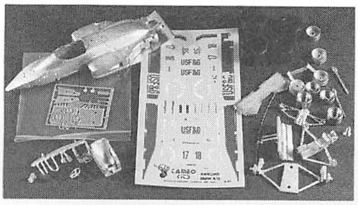
■U.S.S.ロングビーチ。アメリカレベル1/508。1,700円。1961年に就役した米海軍初の原子力ミサイル巡洋艦。全体にメリハリがきいていてシャキッとしたキット。艦体中央部になんと原子炉を内蔵/製作中の放射能もれにくれぐれも要注意//なんてネ/



■戦艦ノースカロライナ。アメリカレベル1/500。1,700円。第2次大戦を生き残った戦艦。全長45.1㎝の大型キットで組み立ては楽そうだ。



■UボートU-505。アメリカレベル1/125。2,300円。本誌7月号で取り上げたカットモデルのUボートと同型のもの。但し今回はカットモデルではない。

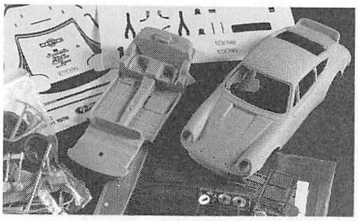


■アローズ・メガトロンA10b'88ブラジルGP。タメオ1/43。7,500円。'89は無限+中嶋コンビ参入の噂があるアローズのマシン。'87モデルと同じだが、サス等がエッチング製。問▶ミニカーショップコジマ。

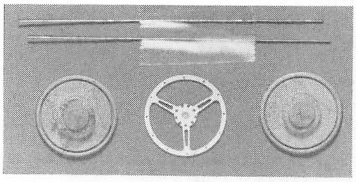


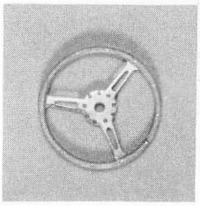
■マトラMS80フォード。SRC 1/43。8,700円。'69年J.スチュワートにチャンピオンをもたらしたマシン。フルディティールで、ウイングが2枚入っておりイギリス、フランスを作れる。問▶メイクアップ。

■ツクダの新製品情報が届いたのでお知らせします。まず1/72スケールで、ポリカルポフI-16。フォッケウルフTa-152H。カタリナPBY-5A。ドルニエDo335A-6。ドルニエDo17Z-2。マッキMC200セッタ。メッサーシュミットMe410A-1/U-4。ハインケルHe115。1/48スケールでシコルスキーH-19はつかり。1/232スケールでアメリカ装甲巡洋艦オリンピアが発売となるよ。



■ポルシェ911SCマルティーニ'78サファリ・ラリー。ロブステリ1/43。7,200円。同社の911キット・シリーズのひとつ。値段が2,000円近くも下り、お買得。エッチングは色付。問▶ミニカーショップコジマ。





■デリントンスタイル・チェリーウッドステアリングホイールキット。3,200円(上)と同完成品。6,300円(左)。レプリカ&ミニチュアーズ1/24。遂にくるところまできた//という感じ。本物と同じチェリーウッドを使った超リアル品。フェラーリを愛する情熱がここまでやってくれました。この情熱が他にもディティールアップ・パーツを出してくれました。1/24でフェラーリ250GTO V12エンジン(4,800円)、250GT SWBエンジン(4,800円)、IPRAテンプレート(800円)、テスタロッサインテリアディティールパーツ(2,300円)、テスタロッサGTOスクリプト(1,600円)、ディノGTロゴタイプ(1,000円)、など紹介しきれない程、他にもいっぱいあるんだよ。問▶ワーク。



■F-14Aトムキャット。サニーインターナショナル1/48。2,200円。最近また過熱ぎみのトム人気の中、サニーからの新製品。全面きれいなスジ彫りで素晴しいディティールの数々。コクピット、シート、フィギュア、脚や機首レドーム内レーダーなど。武装も豊富にとりそろえ、サイドワインダー、スパロー、フェニックスはもちろんのこと、増槽に偵察ポット、アンテナフェアリングは3タイプとなかなかの力の入れようだ。

WL連合艦隊編成講座No.127

駆逐艦　陽炎型

衣島　尚一

甲型駆逐艦陽炎型について

旧海軍の代表的駆逐艦として、吹雪を始めとする特型とともに人気を二分するのが陽炎型、夕雲型と続く甲型駆逐艦であろう。

艦隊型と称される大型駆逐艦は、昭和初期の特型で確立したが、軍縮条約による制限によって、以後登場した初春型、白露型は小型の船体に過大な武装や性能を盛り込もうとしたため、中途半端な性能の艦となり、昭和９年の第２次艦艇補充計画の後半で白露型に代わって建造された朝潮型において、ようやく兵装、復元性能、船体強度などを満足したものの、最高速力35ノット、航続距離18ノットで4,000海里については、用兵側の要求性能に今一歩と考えられていた。

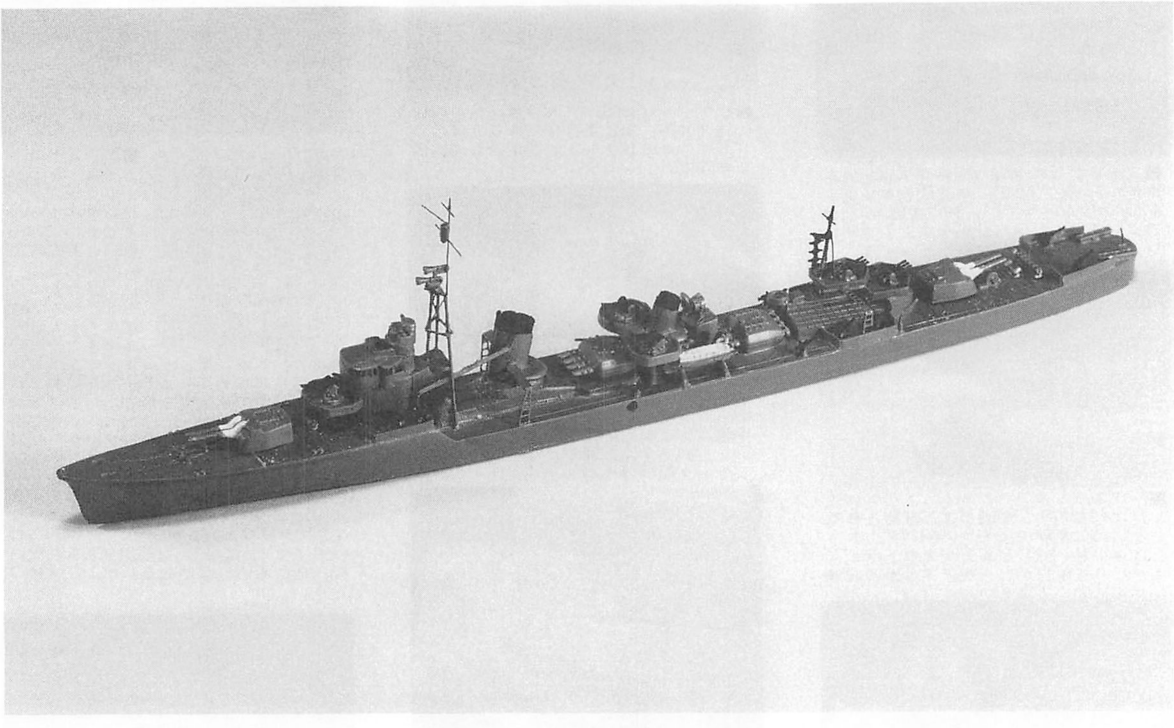
昭和12年に策定された第３次艦艇補充計画では、軍縮条約からの脱退を前程に、兵装は特型および朝潮型に準じ、速力を36ノット以上、航続力18ノットで5,000海里以上の性能を発揮できるものが用兵側よりの要求であった。

この要求を満たす艦型は、公試排水量2,800t、全長は120mを超え、機関出力60,000馬力以上が必要で、まるで軽巡並の大型艦となることが予想された。結局、武装は朝潮型と同等とし、艦型も特型程度の公試排水量2,500t内とすると、速力または航続力のいずれかを削らねばならないこととなり、用兵側は航続力を優先し、速力を朝潮型並の35ノットに低下させることで妥協した。こうして完成した陽炎型は、基準排水量2,000t、公試排水量2,500t、全長118.5m、型幅10.8m、型深6.45m、艦本式タービン2基で52,000馬力、35ノット、航続力は18ノットで5,000海里とし、兵装はスタンダードな50口径３年式の12.7cm連装砲３基６門、発射管は61cm４連装が２基８射線で、魚雷は新採用の93式酸素魚雷を新造時より搭載、次発装填装置により16本を搭載した。

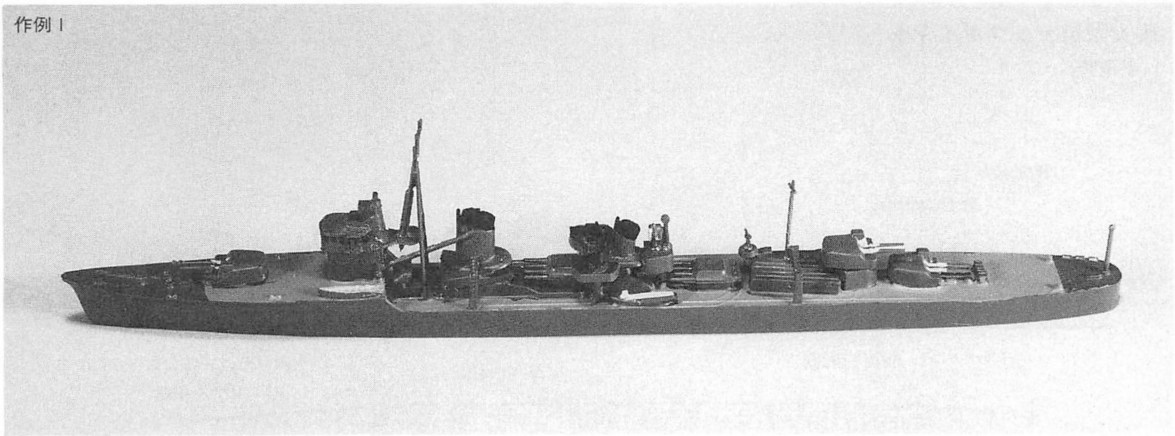
機銃は大戦時における標準機銃となった96式25mmを連装で２基装備し、艦尾には爆雷投下器と投射器を装備している。

性能向上のため採用された新設計の艦型により、当初見積りの最高速力も35.5ノットを発揮し、機関性能の改善により公試段階では航続力も18ノットで6,000海里近いものが見込まれ、名実共に第一級の艦隊型駆逐艦の完成を見たのである。

大戦中の武装強化は昭和18年に入って、まず25mm連装が３連装に換装され、引き続き艦橋前に25mm連装１基が増備された。



作例1



昭和19年には他艦と同様、より徹底した対空機銃の増強が行なわれ、後部2番砲を撤去し、その跡に25㎜3連装2基を増備、25㎜単装機銃も次第に追加されてマリアナ沖海戦後には単装12～14基の重武装となっている。これらの重量増加にともない、前部の次発装塡装置や、パラベーンは撤去され、また艦尾の爆雷投下器は、より多数の投下が可能な投下軌条に換装された。

電探は昭和18年夏以後まず前檣を改造して22号電探が、マリアナ沖海戦頃には後檣に13号電探が装備されている。

陽炎型の戦歴

前述した第3次艦艇補充計画で15隻、(計画では18隻だが、このうちの3隻分は大和型戦艦建造費として流用)、第4次計画で3隻の合計18隻が開戦前に完成している。

開戦と同時に陽炎型は最新鋭駆逐艦として、機動部隊直衛を始めとする幾多の作戦に活躍した。

昭和17年2月、早くも夏潮がマカッサル沖で米潜の雷撃により沈み、同年11月には早潮が爆撃により沈没した。

昭和18年には陽炎、黒潮、親潮、初風、時津風、嵐、萩風が相い次いで沈没し、昭和19年のレイテ沖海戦までには谷風、舞風が沈んでいる。

レイテ沖海戦およびその直後の戦闘により不知火、浦風、野分が沈み、艦首を失なってシンガポールにあった天津風も、仮艦首を付着、内地へ帰投中に爆撃により沈没、大和の沖縄特攻に残存していた陽炎型の雪風、磯風、浜風が参加し、磯風と浜風が沈没した。結局18隻中ほとんど無傷で雪風のみ1隻が終戦時残存し、戦後は台湾海軍において丹陽と名を改め昭和40年代まで活躍したのは皆さんもよく御承知のことである。

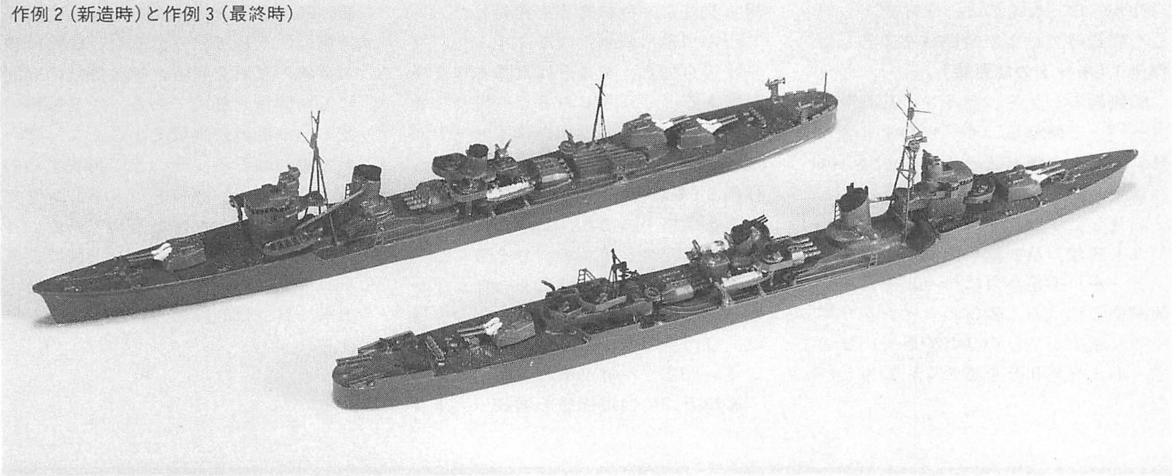
キットについて

W.L.シリーズのキットはアオシマよりネームシップの陽炎と不知火が新造時、雪風と天津風が対空兵装強化後の状態として発売されている。船体のライン等は、前回の朝潮型よりもシャープにとらえられているが、ピットロードの武装パーツに比べると、主砲、発射管、機銃その他の精度は比較するのが可哀相といったところだ。

また天津風は、昭和20年4月6日の戦闘状態の写真で見ても2番砲塔は残っているので、これはメーカーの設定ミスといったところだろう。

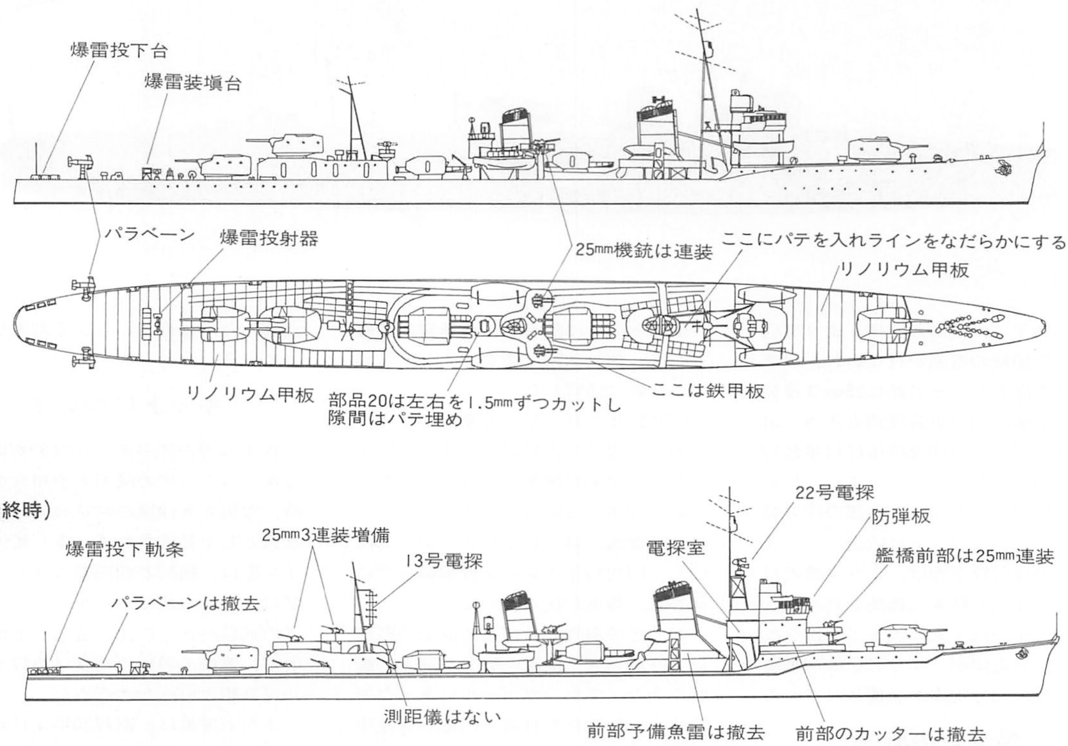
その他、ボートダビットの省略、マスト類の太さ、リノリウム甲板の表現不足等、チェックポイントは数多いが、

作例2(新造時)と作例3(最終時)



陽炎型チェックポイント

（新造時）



船体の基本型が悪くないのが救いであるといったらいいすぎだろうか。

陽炎型のメイクアップ

前回の朝潮型と同様、キットを修整しながら作ったものと、メイクアップした新造時、および最終時を工作した。

作例 1（キットの修整版）

船側面のヒケや、ラインの乱れ等をペーパーで修整し、パーツのすり合わせ、マストの削り込み等、キットを100％尊重した工作である。

一見してボートダビットの不足や、マスト形状、及び砲塔、発射管等のディティール不足が目につく。それでも朝潮型と比べると艦首のラインがリアルで、船体がしっかりとできているので、あまり異和感を感じないかもしれない。

作例 2（新造時、ピットロードパーツ使用）

チェックポイントに従い、船体の甲板上、リノリウムラインをケガき、主砲、発射管、機銃、探照灯、カッター、ボートダビット、測距儀、94式方位盤、爆雷装塡台、投射器等を交換した。

予備魚雷格納函上のモールドや、リール等も加え、マストは真鍮線に交換してある。こうしてみるとやはり、キットのそのままとは相当にイメージが変わり、シャープな感じになると思う。

作例 3（最終時）

2番砲塔を撤去し、25㎜3連装を2基増備したスタイルで、おそらく雪風、磯風、浜風がこの状態であったと思われる。浦風、不知火、野分の場合もほぼ同様だと思うが、単装機銃がこれほど多いかどうかは不明だ。

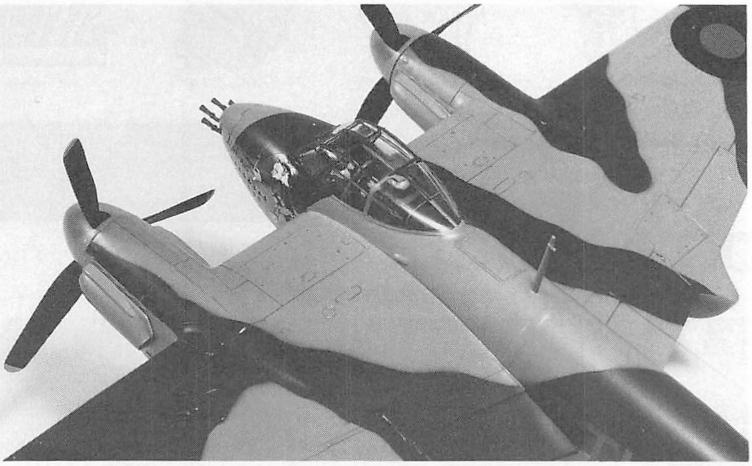
艦橋下部には電探室を増設し、1番煙突左右の予備魚雷格納函は撤去。マストは前部の上から1/3くらいのところに台を作り、22号電探を設置。後部マストにも13号電探を接着する。

爆雷投下台は投下軌条に交換し、後部の25㎜3連装のスポンソンは変形5角形にプラ板で作り直した。また戦後の雪風の写真を参考に単装機銃の周囲にも防弾板を加えてある。なお艦橋の窓も、前面は防弾板で小さくなっていたと思われるが、そこまで再現するのも大変なので、窓枠をロットリングで細かく書き直したにとどめてある。各パーツはすべてピットロード製で、ストレートに作ったキットと比べれば、出来の良さは数段の差が出てくると思う。

MODELING St.

WINGS OF THE WORLD KIT REVIEW

今月からこのコーナーでは、グンゼが最近発売を始めた"WINGS OF THE WORLD"(世界の翼シリーズ)を毎月紹介していこう。キットはエアフィックス、エレール、エッシー・アーテル3社のもので、再版となるものばかりだが、価格が従来に較べ大幅にダウンしているのがうれしい。



D.H.MOSQUITO FB.VI

デ・ハビランド・モスキートFB.VI

グンゼ/エアフィックス1/48　￥2,000



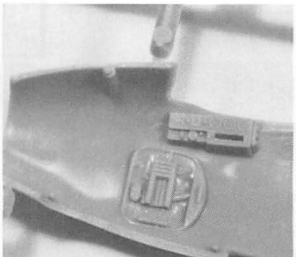
木製構造にロールスロイス・マリーン・エンジンを２基搭載し、600km/h以上の高速を誇ったモスキートは、イギリスの第２次大戦中の３大有名機のひとつに数えられています（他にランカスター、スピットファイア）。

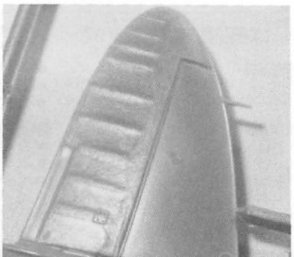
映画「633爆撃機」に登場するモスキートは、軽快な運動性を十二分に駆使して、困難な任務を遂行。コクピット内の写真ともども、飛行機ファンを大いに喜ばせてくれました。

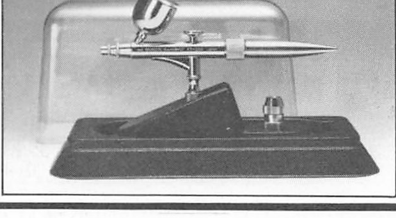
モスキートは多目的に使われ、戦闘爆撃機、爆撃機、偵察機、夜間戦闘機としてヨーロッパの大空を縦横無尽に暴れまくりました。

エアフィックスがモデライズしたモスキートは、戦闘爆撃機型のFB. VIで、ソリッド・ノーズに機銃を８門装備し、マーキングによって爆弾、もしくはロケット弾を搭載することが出来ます。

機体表面のモールドは非常にきれいで、木製のモスキートをよく表現しています。一段浮き上ったパネルや補強









板もそんなに厚くなく、そして、上品なパネルライン……、エアフィックスの技術の高さの一端がうかがわれます。

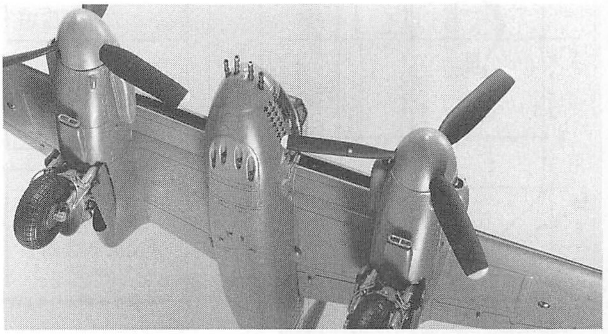
モスキートの窓枠の多い風防から見えるコクピット内は、想像以上に細かくモールドされ（乗降ハッチの内側や計器パネルなど)、細かく塗り分けするだけで充分に引き立ちます。また、フィギュア2体の表情もよく出ていますので、ぜひコクピットに座らせてみたいものです。

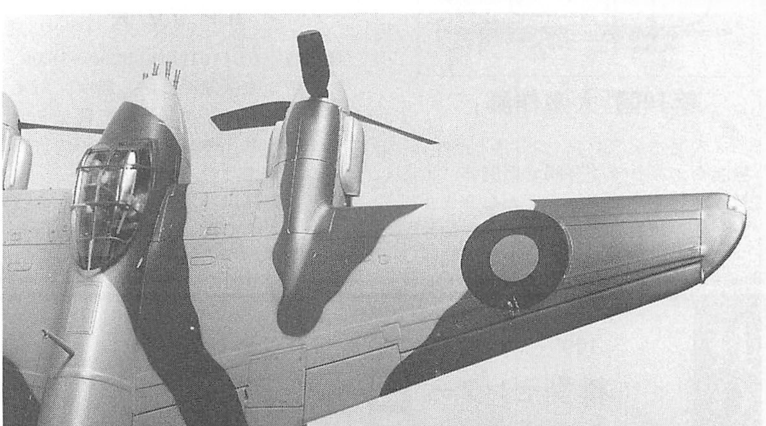
もうひとつ素晴しい部分は主脚まわりです。複雑なモスキートの主脚構造をうまく分割して組み立てやすくしており、そして精密感を少しも損わないようになっています。

説明書ではエンジンカウリング左右接着時に組み上った主脚をはさむように指示されていますが、塗装の能率を考えて、主脚は塗装終了後に組み込んだほうがいいでしょう。

塗装はMr. カラーでズバリの色が発売されていますので、これを使ってきれいに仕上げて下さい。デカールにはもちろんMr. マークソフターをお忘れなく。

▼▶機体表面はパネルを一段盛り上げたりしてある。機首には20mm機関砲8門を装備している。下面の4門はモールドを削り取って真鍮パイプを埋め込むと見映えがする。





サッポロ・モデラーズ・エキシビジョン88　札幌市民会館2Fギャラリーにて。10月16日(日)、午前10時より午後6時まで。

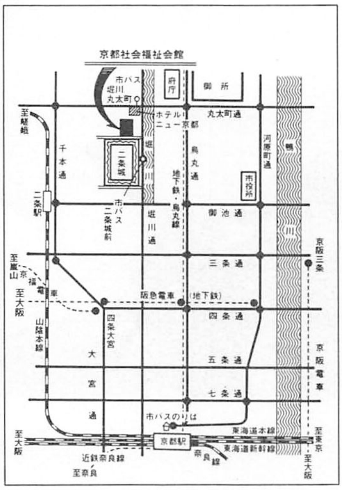
読者倶楽部

展示会

SOMETIME
第1回作品展示会

日　時：10月15日(土)13:00～20:00
　　　　10月16日(日)9:00～15:30
場　所：京都社会福祉会館2F第11会議室
テーマ：AFV、AFV、AFV
連絡先：井上智也己　〒615 京都市右京区梅津中村町37-8

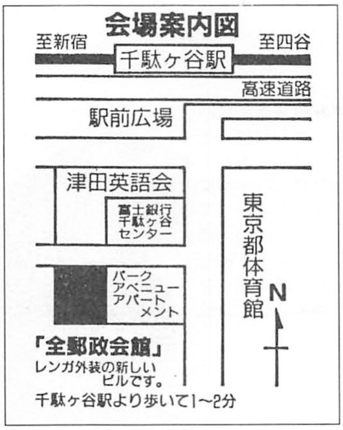
入場無料ですのでよろしく。また新規入会希望者も募集中です。



第10回「大激作展」

この度ホラブロワーズ、ストール、無名会の3クラブ合同で恒例の「大激作展」を開催することとなりました。今年は第10回目を迎え、課題作「わたしの好きな戦闘機」と「回転翼」に加え、斎藤会員の1/100ファントム・コレクションが100機完成し一挙初公開されます。さらに、無名会からは第8空軍のB-17が編隊で出撃する予定です。また、毎度御好評の不用キットバザーを同時開催、飛び入り参加大歓迎のゲスト・コーナーも用意しております。

日　時：10月9日(日)12:00～18:00
　　　　10月10日(月)10:00～17:00
場　所：東京都千駄ヶ谷「全郵政会館」B1第一会議室
　　　　（JR総武線千駄ヶ谷駅徒歩3分）
連絡先：大泉　淳　☎0423-66-1448
　〒183 府中市分梅町1-30-5-102
　天海真一郎☎03-471-2504
　〒140 品川区東品川3-16-3-810
　鱒　哲夫　☎03-800-1587
　〒116 荒川区西尾久2-1-5



AFVの会

日　時：10月16日(日)10:00～16:00
場　所：東医健保会館　新宿区南元町4　JR信濃町徒歩3分
テーマ作品：キューベルワーゲンを楽しむ。

テーマ作品以外にもコンテストを行ないますので御自分の作品をお持ち込み下さい。

第5回北九州銀翼会展示会

今回は月刊モデルアート誌上で活躍中の松樹裕司氏とモデルアート別冊編集長渡辺徹氏をゲストとしてお迎えします。いろいろと面白いお話が聞けることと期待しています。会場にはこの1年間の会員の全作品を展示しますので是非とも足をお運び下さいますようお願い致します。

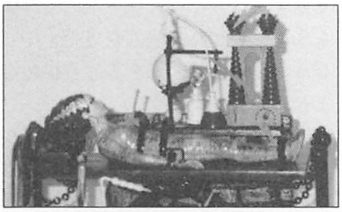
日　時：10月29日(土)10:00～19:00
　　　　30日(日)10:00～18:00
場　所：HOBBY BOX小倉店
　　　　北九州市小倉北区江南町7-1　☎093-922-0240
テーマ：1/72ソ連機、1/72第2次大戦ドイツ軍用機、1/48第2次大戦戦闘機、モデルアート誌上発表作品（F-86F、F-18、紫電）
連絡先：上記HOBBY BOX 小倉店井田店長まで。

会員募集

オーロラファンクラブ

現在、レプリカNo.10フランケンシュタインの花嫁、配布中。またオーロラ社の資料の他にマルサン商店電動怪獣組み立て図集等も作成配布しています。詳しくは60円切手同封にて入会案内を請求下さい。レプリカバックナンバー10種にてお待ちしています。

連絡先：〒580 大阪府松原市岡3-1-28　伊東良祐



第２回S.L.B.展示会

日　時：11月５日(土)12:00～17:00
　　　　　６日(日)９:00～17:00
場　所：文京区民センター４Ｆ
連絡先：ホビーショップはせがわ内
　　　　　S.L.B.事務局☎0492-59-0169

テーマはとくにありませんが、飛行機を中心とした作品展となります。



TDMC展示会

日　時：10月２日　10：00～17：00
場　所：豊田市上郷地域文化広場

トヨタ自動車デザイン部の模型クラブ、TDMC(TOYOTA DESIGN MODELERS CLUB)による作品展。カーモデルを中心にスケールモデルを出品。メンバーがなにしろ普段、実物の自動車の造型に深く関わっているだけにどんなモデルが登場するか、大変楽しみな展示会といえそう。

関西学生模型連盟
サークル募集

今回、関西学生模型連盟は新しく参加サークルを募集しています。関西圏で活動しているサークルでこれから展示、作品公開等の大きな活動を考えられているサークルの方々、関西学生模型連盟はそんな方々に活動の場をお与えします。

官製ハガキで、団体名、代表者の住所、氏名、電話番号、簡単な紹介文をお書き添えのうえ、
〒581 大阪府八尾市楽音寺6-10第２クラブハウス (116)大阪経済法科大学模型研究会まで。

読者の声

MA誌の編集部のみなさまこんにちは。私は何度かバックナンバーをたのんだことがある18才のまだかけ出しのモデラーです。編集部のみなさまや今月のMA誌に載せるために作品や記事を書いている方も、この暑さにまけずにがんばって下さい。

ところで、今回は８月12日に発売のFw 190の注文をお願いするためにこれを書いています。私は大戦機好きですが、Fw190は、世界一スタイルのいい空冷エンジン機だと思います。また液冷でもFw190やTa 152が一番だと思います。

それにしても、今ドイツ機フィーバーですね。ハセガワのBf109E-3、E-4/7や、トライマスターのFw 190DやHe162など。しかし私としては日本軍機にも1/48ですぐれたキットが出てほしいですね。

私の知る限りタミヤの48シリーズの零戦とか、ハセガワの97戦や紫電21型くらいしか知りません。

ハセガワでもBf 109を出したついでに和製メッサー飛燕をⅠ型甲、乙、丙、丁のコンバーチブル・キットでいいから出してほしいなあ。それと１式戦や２式戦なんかも1/48でいいやつほしいなあー。

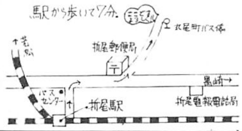
話しは変りますが、MAでも１式戦や２式戦、５式戦（これは飛燕のときついでにしてほしかった）、海軍の雷電、烈風の臨増や、陸軍機の塗装とマーク、海軍機の塗装とマーク〔艦攻、陸攻、艦爆、陸爆〕編もほしいですね。また米国や英国軍機の塗装とマークやヒコーキの特集なんかもやってほしいですなあ。それとあと１つ。先月号で終った航空史を作った名機たちの、あの美しい絵の89年のカレンダーを作るとか、しかも細かいことに、その月に起った航空史上の出来事の日に一口メモを付けるとかして。こんな多くを注文してもMA誌の編集部のみな様も大変だろうと思いますけど、これからのMA誌の奮気を期待しています。
ではさようなら。

山梨県　市川真弘

増刊のご注文ありがとうございます。そんなカレンダーがあったら楽しいでしょうね。でも作るのが大変そう。それから増刊については、いくつかはご希望にそえるかもしれませんよ。

「Fw190A/F/G」をさっそく購入しました。内容は良かったの一言です。話はいきなり変りますが、私が初めてFw190Aのプラモを手にしたのは、小学校６年くらいだったと記憶しています。近所の駄菓子屋で当時としては珍しくビニールでシールされた飛行機のキットを発見しました。箱には「ドイツ・ドルニエ爆撃機」とあり「オール可動式」となんともエキサイティングなことも書かれていました。そして￥100の大金を強欲そうなばあさんに払い、家に帰って箱を開けたら何か変なのです。胴体が箱絵と違う、主翼も尾翼もおかしい。おまけにプロペラが一組しかないではありませんか。ステッカー式のマークは鉤十字と鉄十字なのでドイツ軍には違いないのでしょう。とにかく強引に組み立てると見たこともない単発機が完成しましたが、一応知っていたBf 109には全く似ていません。そこで学研「科学」付録の飛行機図鑑で調べたところ、Fw 190らしいことがわかりました。騙されたような形で手に入れたFw190Aですが、かえってその無骨なスタイルが好きになりました。

ところで貴誌増刊にフォッケウルフのライバル、スピットファイアは登場しないのでしょうか。人気は今イチのようですがこの名機も宜しくお願いします。



読者倶楽部

プレゼント

①A.C.O.（アーセーオ：フランス西部自動車クラブ、ル・マン24時間の主催者）のエンブレムシール
……………………………………4名様
表貼りと裏貼り（ウインドウガラスの両面から貼る）の2枚1組で。もちろん、本物のクルマ用です(写真左)。

②A.C.O.特製、ル・マン24時間記念のワインテスター。
……………………………………2名様
金属製。これでワインをすくって飲むそうです(写真右)。

③ル・マン24時間記念のサンシェード。……………………………3名様
フロントウインドウ（リアでも可）に貼ります。これももちろん実物用。以上提供㈱マツダオート西東京。

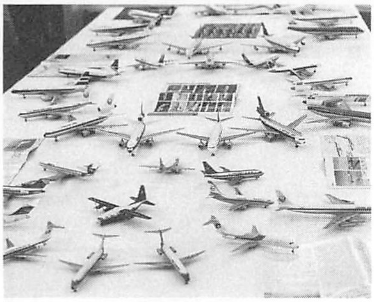
応募はハガキで。今月でおもしろかった記事2つ、つまらなかった記事2つ、レジンやメタルの1/43カーモデルの記事についての意見、希望賞品番号、氏名、年令、住所を明記のうえ〒102 東京都千代田区飯田橋2-8-3 モデルアート10月号プレゼント係まで。締め切りは10月31日（消印有効）。



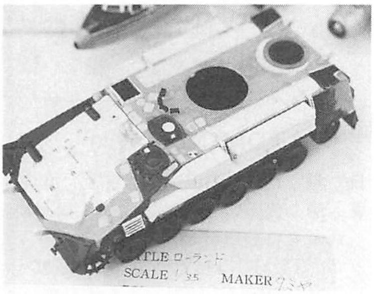
レポート

FFC翼光会第9回展示会

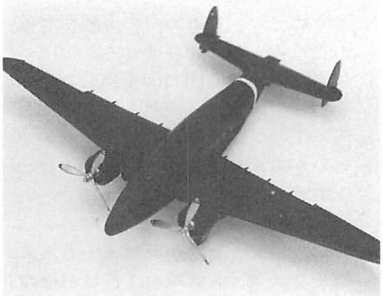
8月20日、21日の両日、盛岡市で行なわれた作品展。テーマの「旅客機&輸送機」に合わせて大きなテーブルは世界のエアラインでびっしり。その他にもロボコップから96陸攻までの広いジャンルで見事な作品が集まり、見応えのある楽しい展示会になっていました。







1/35ローランド　タミヤ斉藤会員



1/72ロ式輸送機エアフィックス　宮野会員



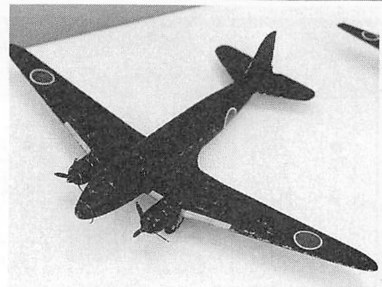
会場でも作る作る！





1/48隼Ⅰ型ニチモ　宮野会員

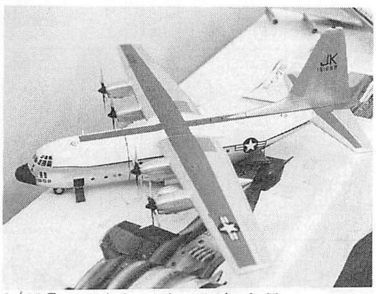




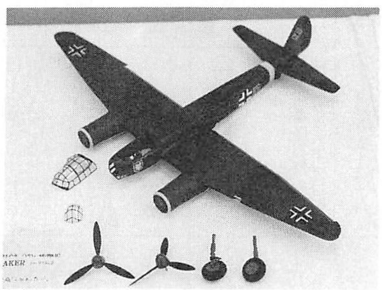
1/72零式輸送機イタレリ改造　斉藤会員



1/35LVTP7タミヤ　藤原会員



1/48C-130イタレリ　阿部会員



1/48Ju88フルスクラッチ　三浦会員



西村会長



バラゴン　イノウエアーツ　西村会長



1/12ホンダNXR750タミヤ　村上会員



1/72ボーイング247ウィリアムズ　三田会員

秋の夜長にじっくりと……

■フォーマプレーン(VFキット)
(毎月数点づつ入荷です。あらかじめお問い合せ下さい。)
A1 1/72バンパイアーT11改造………¥900
2 〃 スピットファイアー垂直尾翼/フロート……¥900
B1 〃 AEw3ガネット改造…………¥1,400
2 〃 C-2A グレイハウンド …………¥1,400
3 〃 アブロ707A …………¥1,400
4 〃 BE-2各種改造…………¥1,400
C1 〃 アンサルド スカウトⓂ…………¥2,400
2 〃 カーチスSC-1シーホーク…………¥2,400
3 〃 フェニックススカウトⓂ…………¥2,400
4 〃 IAR-80 …………¥2,400
5 〃 IK-3…………¥2,400
6 〃 フィゼラーFi167…………¥2,400
7 〃 ハルバシュタットCLⅡⓂ…………¥2,400
8 〃 カーチスSC3Cシーミュー…………¥2,400
9 〃 グラマンXP-50 …………¥2,400
10 〃 グラマンXF5F-1…………¥2,400
11 〃 グラマンXF5F-2…………¥2,400
12 〃 マクダネルFH-1ファントム…………¥2,400
13 〃 ロッキードT2V-1シースター…………¥2,400
14 〃 サンダース・ローSRA-1…………¥2,400
15 〃 セスナ ボブキャット/クレン…………¥2,400
16 〃 YAK-36フォージャーA…………¥2,400
17 〃 アーガス フォーワダー…………¥2,400
18 〃 ルンプラー6B-1Ⓜ…………¥2,400
19 〃 Be-2CⓂ…………¥2,400
20 〃 Su-15フラゴン…………¥2,400
21 〃 FE-2bⓂ…………¥2,400
22 〃 ハンリオットHD-1Ⓜ…………¥2,400
23 〃 アルバトロスBⅡⓂ…………¥2,400
24 〃 ニューポール12Ⓜ…………¥2,400
25 〃 モランソルニエA-1Ⓜ…………¥2,400
26 〃 ローナーCⅠⓂⒹ…………¥2,400
27 〃 ハンザブランデンブルグDⅠ…………¥2,400
28 〃 ハンザブランデンブルグKDW…………¥2,400
29 〃 F.B.A.レベックⓂ…………¥2,400
30 〃 アームストロングホイットワースFK10…¥2,400
31 〃 ロイドCⅡ…………¥2,400
32 〃 アビアテックBⅡⓂ…………¥2,400
33 〃 A.E.G CⅣⓂ…………¥2,400
34 〃 ハンザブランデンブルグW12Ⓜ…………¥2,400
35 〃 ファルツDRIⓂ…………¥2,400
36 〃 ローランドDⅢbⓂ…………¥2,400
37 〃 アルバトロスDXⅠⓂ…………¥2,400
38 〃 ドルニエDo-27…………¥2,400
39 〃 ポリカルポフR-Z…………¥2,400
D16 1/72ピラタス ターボポーター…………¥2,900
17 〃 サーブ17A…………¥2,900
18 〃 MBR2…………¥2,900
19 〃 フェアリーアルバコア…………¥2,900
20 〃 ローナLⓂ…………¥2,900
21 〃 ドーランドAR・IA2ⓂⒹ…………¥2,900
22 〃 シェルバ オートジャイロⓂ…………¥2,900
23 〃 P.F.W BI…………¥2,900
24 〃 ノースアメリカンF-29Aセイバーライナー Ⓜ…¥900
25 1/144アブロ、ヨークⓂ…………¥2,900
26 〃 ビッカース バンガードⓂ…………¥2,900
27 〃 ダラスDC-2KLMⓂ…………¥2,900
E1 1/72カーチスT-32コンドル…………¥4,400
2 〃 スチンソンAエアライナー…………¥4,400
3 〃 スチンソンTエアライナー…………¥4,400
4 〃 スチンソンUエアライナー…………¥4,400
5 〃 ビッカースバーシティ…………¥4,400
6 〃 ブレゲーXIXスーパービドンⓂ…………¥4,400
7 〃 ブレゲーXIXミリタリーⓂ…………¥4,400
8 1/48ビュッカーBü131Ⓜ…………¥4,400
9 〃 スーパーマリンスイフトⓂ…………¥4,400
10 〃 ユンカースJu-87A-1Ⓜ…………¥4,400
11 〃 カサ101アビアジェット…………¥4,400
12 〃 フィアットCR32Ⓜ…………¥4,400
13 〃 ポリカルポフⅠ-15Ⓜ…………¥4,400
14 〃 ポリカルポフⅠ-16Ⓜ…………¥4,400
15 〃 ボーイングB-9…………¥4,400
F1 1/72アブロ748ダンエアーⓂⒹ…………¥4,900
2 〃 フリードリーハーフェンGⅢⓂ…………¥4,900
3 〃 カサ212Ⓜ…………¥4,900
4 1/48ウェストランド ワイバーンS4Ⓜ…………¥4,900
5 1/72ダラスDC-2(KLM) …………¥4,900
6 〃 アブロアンドバーC1Ⓜ …………¥4,900
7 〃 DHCカリブー …………¥4,900
8 〃 YAK40…………¥4,900
G7 〃 ダグラスDC-7C…………¥6,500
8 〃 DC-4カーベイア…………¥6,500
9 〃 ホーカーシドレーニムロッドMR.1…………¥6,500
10 〃 アブロバルカン…………¥6,500
11 〃 ハンドレページヘイスティング…………¥6,500
12 〃 ドルニエDo-15Ⓜ…………¥6,500
13 〃 BAC111 500シリーズⓂ…………¥6,500
14 〃 ダグラスC-54スカイマスターⓂ …………¥6,500
Ⓜ:メタルパーツ付、Ⓓ:デカール付

■ブリストルモデル(VFキット)
1/72アブロシャクルトンMk.1 …………¥4,800
〃 アブロシャクルトンMk.2 …………¥4,800
〃 ボルトンポールバリオル…………¥3,200
〃 ブリストル ブリガンド…………¥4,800
〃 ブリストル バッキンガム…………¥4,800
〃 パーシバル プレンテスT.Mk.1 …………¥2,800
〃 A.W.ホイットレーMk4/5 …………¥4,000
〃 ホーカーシーフューリーF.B.2 …………¥3,500
〃 スホーイSu-7フィッター…………¥3,500
〃 スホーイSu-17/20/22フィッター…………¥3,500
〃 スホーイSu-9フィッター…………¥3,500
〃 スホーイSu-11フィッター…………¥3,500
〃 ヤコブレフYAK38フォージャー…………¥3,500
〃 ツポレフTu-28フィドラー …………¥5,900
〃 スーパーマリン アタッカー …………¥3,500
〃 ノースアメリカンB-45A/Bトルネード…¥4,000
〃 ノースアメリカンRB-45Cトルネード…¥4,000

■ジョイスティックモデル(VFキット)
J1 1/72ソッピースバットボート1A…………¥2,300
2 〃 ハルバシュタットCL4…………¥2,300
3 〃 ロイドC2 …………¥2,500
4 〃 アビアテックB2 …………¥2,500
5 〃 フェニックスA飛行艇…………¥2,500
6 〃 ルンプラーC1…………¥2,300
7 〃 アルバトロスC3…………¥2,500
8 〃 ソッピースフォルダー807…………¥2,500
9 〃 AEG C4 …………¥2,500
10 〃 アルバトロスC1…………¥2,500
11 〃 ルンプラーC4…………¥2,700
12 〃 アビアテックC1…………¥2,500

■クラシックプレーン(VFキット)
1/72ドベルデュサン モノクーペ…………¥1,200
〃 ハインケルHe176…………¥1,200
〃 アビアテックD1 …………¥1,500
〃 シーメンスシュケットD3…………¥1,500
〃 ブリストル72レーサー…………¥1,500
〃 ハンザブランデンブルグC1…………¥1,500
〃 〃 CC…………¥1,500
〃 〃 D1…………¥1,500
〃 フォッカーD1…………¥1,500
〃 〃 D2 …………¥1,500
〃 〃 D6…………¥1,500
〃 〃 D8…………¥1,500
〃 〃 M7…………¥1,500
〃 デハビランドDH4…………¥1,500
〃 〃 DH4…………¥1,500
〃 〃 DH9A…………¥1,500
〃 LVG C6…………¥1,500
〃 DFW T28フロー…………¥1,500
〃 DFW C5…………¥1,500
〃 カーチスジェニー…………¥1,500
〃 アルバトロスD1/D2…………¥1,500
〃 マーチンサイド エレファント…………¥1,500
〃 〃 S1…………¥1,500
〃 ニューポール11…………¥1,500
〃 ソッピース ストラッター…………¥1,500
〃 ブレゲー14…………¥1,500
〃 ハンリオットHD-1/HD-2…………¥1,500
〃 ファルツD12…………¥1,500
〃 ユンカースJ10…………¥2,900
〃 ユンカースF13…………¥2,900
〃 フォッカーF3…………¥2,900
〃 〃 F2…………¥2,900
〃 AEG G4…………¥2,900
〃 シュターケンE4/20…………¥4,500
〃 ブラックバーントリプレーンⓇ…………¥1,500
〃 ボアザンLA3Ⓜ…………¥1,800
〃 ソッピース タブロイドⓇ…………¥1,500
Ⓡ:レジンパーツ付、Ⓜ:メタルパーツ付

■カロアスモデル(VFキット)
1/48アラドAr68EⓇⒹ…………¥3,900
〃 アラドAr234BⓇⒹ…………¥7,400
〃 フォッケウルフTa154A-0/A-4ⓇⒹ…………¥6,800
〃 フォッケウルフTa154A-2/U-4ⓇⒹ…………¥9,900
Ⓡ:レジンパーツ付、Ⓓメタルパーツ付

■グンゼ・1/35メタルキット
NEW10.5cmleFH18榴弾砲…………¥7,000
●1/35ハイテック 0
NEWⅢ号戦車N型…………¥8,000
パンターG型前期型…………¥8,000
Ⅲ号戦車J型…………¥8,000
ヤクトパンター後期型…………¥8,000
パンターG型後期型…………¥8,000

■ハセガワ
NEW1/24タカキュートヨタ88C …………¥1,200
ミノルタトヨタ88C …………¥1,200

■ゴールドメダルモデル(エッチングパーツ)
●1/350
350-1 現用ニュージャージー …………¥6,500
350-2現用エンタープライズ…………¥6,500
350-3商船(タイタニック/ルシタニア)…………¥6,500
350-4WWⅡ戦艦(ミズーリ)…………¥6,500
350-5大和、武蔵…………¥6,500
350-6ビスマルク、テルピッツ…………¥6,500
350-7キングジョージ、プリンスオブウェールズ…¥6,500
350-8海軍軍人…………¥950
350-9はしご…………¥850
350-10 40mm機銃用ガードレール25個…………¥600
350-11ドアハッチ、消火ホース、救命リング…¥1,100
●1/700
700-1 海軍船舶 …………¥2,100
700-2商船…………¥2,100
700-3WWⅡ米戦艦 …………¥2,100
700-4大和、武蔵…………¥2,100
700-5ビスマルク、テルピッツ…………¥2,100
700-6キングジョージ、プリンスオブウェールズ…¥2,100
700-7WWⅡ米空母 …………¥2,100
700-8WWⅡ米巡洋、駆逐艦…………¥2,100
700-9現用ソ連艦 …………¥2,100
700-10現用米艦、自衛艦…………¥2,100
700-11エンタープライズ、ニミッツ…………¥2,100
700-12WWⅡ日本戦艦…………¥2,100
700-13WWⅡ日本巡洋、駆逐艦…………¥2,100
700-14WWⅡ日本空母 …………¥2,100
700-15現用英艦…………¥2,100
700-16WWⅡ英空母 …………¥2,100
700-17海軍軍人…………¥700
700-18WWⅡ空母部品 …………¥700
700-19はしご…………¥500
700-20いかりとくさり …………¥1,200
700-21 20mm砲…………¥950

■モデラーズ
NEW1/20アドバンローラF3000…………¥3,500
1/20キャビンローラF3000…………¥3,500
1/20マルボロローラF3000…………¥3,500
●レーシングスプレー
●マイアミブルー、●キャビンレッド、●マルボロレッド…各¥600
●スーパーホワイト …………¥700
NEW1/24ケンウッドポルシェ'88 …………¥2,000

■ビテス 1/43ケンウッドポルシェ962'88LM……¥2,800
ラッキーサン イセザキ町店にて発売中

お問合せは東神奈川店まで

●**お知らせ** まいどおなじみ第8回横浜展示会11月19日、20日、今回は会場がモケイラッキー東神奈川店と同じビルの4階になります。メインテーマの「ファントム」以下、多数参加予定/御期待下さい。以上クラブ オブ ビギナーズとクレイジーフォームズからのお知らせでした。

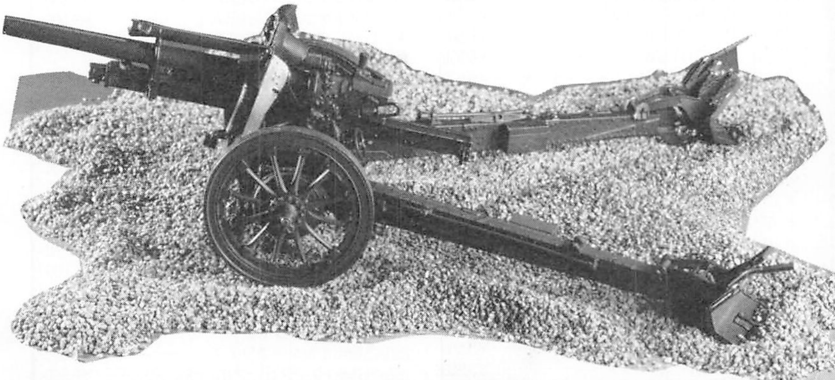
モケイ ラッキー 大口店
〒221 横浜市神奈川区大口通り23
☎045(401)8523営業時間AM10:00～PM8:30

モケイ ラッキー 東神奈川店
〒221 横浜市神奈川区西神奈川1-6-1
東神奈川駅前サクラピアビル3F
☎045(324)3473営業時間AM10:00～PM8:00

ラッキー・サン イセザキ町店
〒231 横浜市中区イセザキ町3丁目98
ファッションプラザオデオン5F
☎045(252)2557営業時間AM11:00～PM8:00

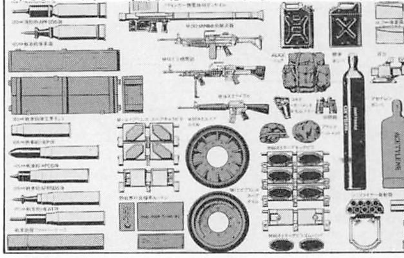
nmc お勧めのニューキット！

1/35　グンゼ　　¥7,000
ドイツ　10.5cm　ℓeFH18榴弾砲





1/35タミヤ　米現用アクセサリーパーツ¥600



1/24フジミ　ニューグロリア3.0 ¥900

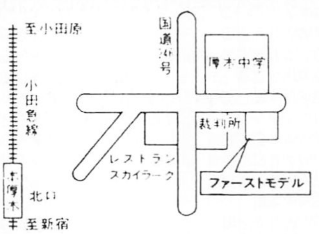


艦艇模型テクニックガイド5

南雲艦隊

絶賛発売中!!

モデルアート9月号臨時増刊
定価1,200円



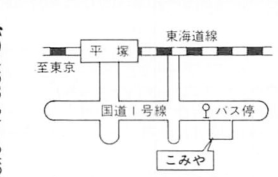
ファーストモデル

ホビー全般取扱い

〒243 厚木市寿町3-4-7
TEL.0462-24-7833

こみや

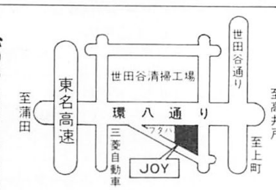
☎0463·21·2629



〒254 平塚市明石町24-5

ジョイ

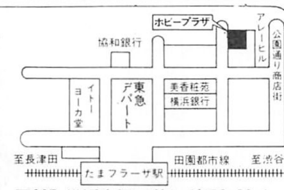
☎03·427·7800



〒158 世田谷区上用賀6-6-13

ホビープラザ

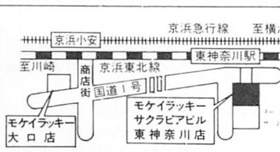
☎045·902·5797



〒227 横浜市緑区美しが丘2-20-1
美しが丘アレービル1F

モケイラッキー

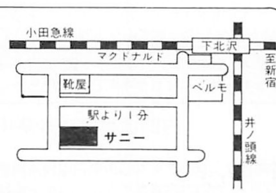
☎045·401·8523



〒221 横浜市神奈川区大口通23
（大口店）
〒221 横浜市神奈川区西神奈川1-6
（サクラビア店）

サニー

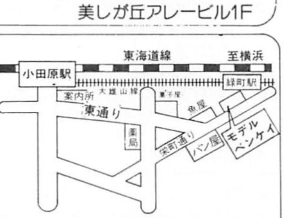
☎03·413·0857



〒155 世田谷区北沢2-12-1

モデルべんけい

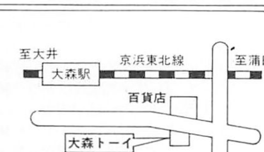
☎0465·22·3933



〒250 小田原市栄町3-5-19

大森トーイ

☎03·771·7241



〒143 大田区山王3-23-3

オオハシ模型工作店

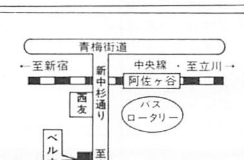
☎03·619·0007



〒131 墨田区東向島5-42-1

ベルホビー

☎03·337·0629



〒166 杉並区阿佐ケ谷北1-42-6

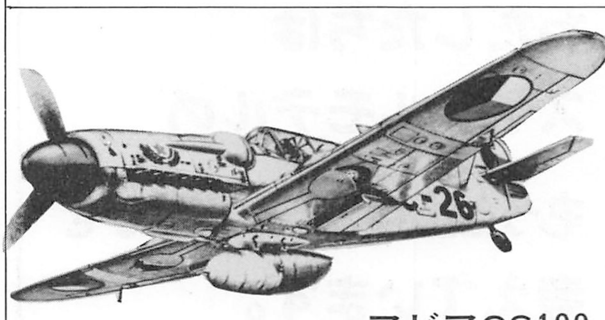
ぷらんでーと TO-B 船橋 東武

船橋 東武
6階・模型売場
〒273 船橋市本町7-1-1
☎0474(25)2211
水曜定休

KP PLASTIKOVY MODEL

1/72 KP

MADE IN CZECHOSLOVAKIA



アビアCS199



ミグ15

アエロL29	ミグ 17	ミグ 15UTI	ヤク 23	レトフ S231	アエロ C3A ¥800
アビアB534	アビア B35	アビア C2	ミグ 21MF	La-5FN	アエロ MB200¥1,400
アビアB33/IL-10	アビア S199	アエロ L39	スピットファイア2F	各¥700	
ミグ 19	アビア CS199	レトフ S-16	PO-2		全機種発売中
レトフ S328	ミグ 15	アビア B21	アビア BH3		チェコスロバキア製

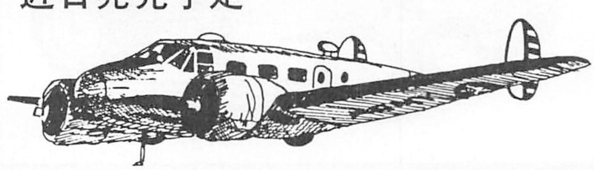
PIONEER 2

1/72 スケール

パイオニア 2　フォッカーD-21　¥800



近日発売予定



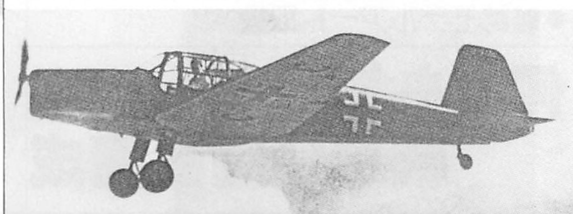
ビーチC45　¥1,000

NEUHEIT! HUMA

西ドイツ フーマモデル 1/72スケール



メッサーシュミットMe263‥¥2,300



ビュッカーBü181…………¥2,300

輸入発売元　㈱ビーバーコーポレーション　〒132 東京都江戸川区松島4-8-5
TEL03(655)5300FAX03(655)3115

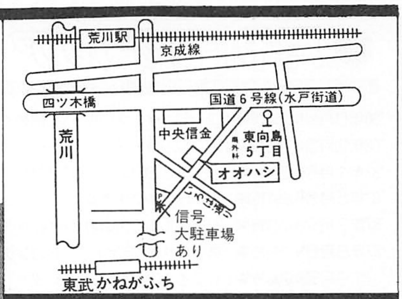
《マーリンモデル》
●ユンカースJ1……………………………………㊠¥3,200
●ファルツDR-1 ………………………………㊠¥1,800
●ホーカーウッドコック…………………………㊠¥2,300
《WKモデル》
●ビュッカー18 ……………………………………㊠¥2,300
"オールドタイマープラモデルがツクダより"
●P-1 1/72ポリカルポフI-16……………………………¥700
●P-2 1/72フォッケウルフTa152H………………………¥700
●P-3 1/72マッキーMC200 ………………………………¥700
●P-4 1/72ドルニエ335A-6 ……………………………¥1,200
●P-5 1/72ドルニエDo17Z-2 ……………………………¥1,500
●P-6 1/72メッサーシュミットMe410…………¥1,200
●P-7 1/72ハインケルHe115¥……………………¥1,700
●P-8 1/72PBY-5Aカタリナ ……………………¥1,800
●H-1 1/48シコルスキーH-19 …………………¥1,900
●C-1 1/232アメリカ巡洋艦オリンピア…………¥2,400
"ウインドソックス データファイル"の新版が入荷!!
モノクロですが豊富な写真が魅力です。
●#7 ファルツD-3………………………………………¥1,100
●#8 スパッツⅦ…………………………………………¥1,100
お待ちかねの製品ですが
"T.C.I"残念乍ら発売が延期されてしまいました。

〒166 東京都杉並区阿佐ケ谷北1-42-6
●UC・住友カード・JCB・バンクカード
(¥20,000以上分割OK/NSK信販)

ベルホビー

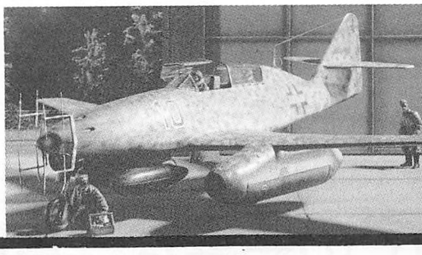
定休日 毎週火曜日
営業時間 平日PM 1:00〜PM9:30
休日AM11:00〜PM9:30

店内が見やすく捜しやすくなりました。
是非 ご来店下さい。



Me262のキットも豊富にあります。

アメリカレベル 1/32
ドイツレベル 1/32
モノグラム 1/48
エレール 1/72
マッチボックス 1/72
エアフィックス 1/72



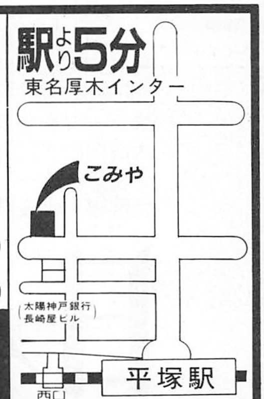
オオハシ模型
墨田区東向島5-42-1
☎03-619-0007〒131

Newエアーキット&カーキット

■フジミ 1/72スーパートムキャット …………¥3,800
■トライマスター 1/48He162A(普及版)……¥2,800
■トライマスター 1/48He162A用デカール…¥1,200
■ブラーゴ 1/24フェラーリF40(メタル)
■フジミ 1/24フェラーリF40 ………………¥1,000
■モデラーズ 1/20キャビンローラコスワース…¥3,500
■イマイ サンダーバード2号&コンテナ(5種)

さがしていませんか？第3弾
●タミヤ1/12フェラーリ312T ….¥3,500
● 〃 〃 タイレルP34………¥3,500
● 〃 〃 ロータス72D………¥3,800
●リンドバーグ ツクダ1/48
ダグラスX-3………¥1,400
●ホビーネットワークV48
コンベアポゴ………¥1,450
●ホビーネットワーク1/48
F11Fタイガー………¥1,450
●ホビーネットワーク1/48
F11Fブルーエンジェル….¥1,450

駅より5分
東名厚木インター



神奈川県平塚市明石町24-5
☎0463-21-2629
10:00〜19:00・水曜定休

こみや

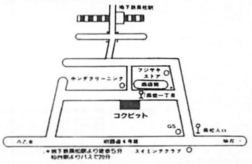
ミリタリー・フィギュアモデル 新製品 入荷!!

■バーリンデン(値段は全て予価です)
No.330 54mmヒューイコブラパイロット…………¥1,600
331 1/35TANK TURRET BUNKER……………¥2,000
332 54mmトップガン(US NAVY)………………¥1,800
333 1/35シャーマンM4A2装甲板……………¥2,600
334 〃 シャーマンM34ガンシールド …………¥1,800
335 〃 MANEUBER MARKINGS(REFORGER)…………950
336 54mm英国兵ヘッドNo.1 WWII……………¥900
337 1/35シャーマンM34A1ガンシールド …………¥1,800
341 〃 米軍タンクペリスコープ(50年代初期) ……¥900
346 〃 戦車用工具装備品(メタルタイプ)…………¥1,300
352 54mmアメリカ兵ヘッド(ベトナム)…………¥900
354 1/48 US NAVY EPUトラクター……………¥1,600
355 54mm武装親衛隊パンツァー将校WWII…………¥1,500
356 〃 大日本帝国陸軍 将校WWII……………¥1,500
357 1/35WWII連合軍 壁用 スローガン …………¥950
359 1/48 US NAVY消火作業車(ラージサイズ) ………¥2,600
360 1/35 V-100戦闘車両(US ARMYベトナム)………¥5,800
361 54mm大日本帝国陸軍 戦車兵 WWII…………¥1,500
バーリンデン カタログ No.4 ……………¥1,000〒250円

■A.D.V.
No.35-009 1/35ロシアT-60/41タンク……………¥9,500
-210 〃 ソ連兵 アフガン……………¥1,700
-211 〃 ムジャヘディン アフガンゲリラ…………¥1,700
■TOP BRASS(1/35エッチングパーツ)
DS-301 M4シャーマン アメリカンタイプデテールアップパーツ‥¥3,200
302 〃 ブリティッシュタイプ 〃 ‥¥3,000
■アキュリット アーマー
1/35 BMP-M1976(BRM)偵察戦車……………¥13,800
〃 対空砲搭載 セントーMk,2……………¥14,800
〃 17ポンド砲搭載 A30チャレンジャー…………価格未定
〃 WWII ドイツSd,kfz123ルックス…………価格未定
■仏・NKC
1/35 WWII ドイツSd,kfz124ベスペ……………¥11,800

★フィギュアモデル製作に欠かせない資料!!
A & A P ユニフォーム イラストレーテッドシリーズ各¥1,780
OSPREY メンアット アームスシリーズ 各¥1,710、エリートシリーズ 各¥1,980

—輸入プラコレクターズクラブ会員募集中!!—
輸入プラ、洋書等の入荷情況を、直接会員の方にお知らせするシステムで、早く確実にご希望の品をお求めになれます。
○会費一年間2200円 半年間1200円 ○入会案内パンフレット 送料共60円(会費のご送金は郵便振替をご利用下さい。)
○郵便振替口座番号(仙台2-17003)コクピット



HOBBY SPOT
コクピット
〒980 仙台市黒松1-3-13
PHONE (022)271-9068

★通販用在庫リスト
●輸入プラ……………………〒共400円
●洋書…………………………〒共400円
●ミリタリー・フィギュア〒共300円
切手可

MODEL ART

モデルアート社
〒102 東京都千代田区飯田橋2-6-3
☎03-262-6450代FAX03-262-7932

モデルアートバックナンバーの購入法

●バックナンバーご希望の方は、全国の書店又は全国の有名模型店でお求め下さい。店頭にない場合は、書店もしくは模型店にてご注文頂ければ約2週間ほどで入手できます。また、通信販売も行っております。以下の要領にてご利用下さい。
●送料は2冊以上一律100円です。ただし定価合計が3000円以上になりますと送料は当社サービスといたします。
●注文方法は〈現金書留〉〈郵便定額小為替〉〈郵便振替〉の3通りございますが、郵便料金が高くなっていますので、後の2方法をお推めいたします。(※切手でのご注文をご希望の方は、なるべく小額切手でお願いいたします。)

■郵便振替口座　東京4-196313■

●月刊モデルアート定期購読のご案内
①6ヶ月予約購読――4,200円(送料込)
②12ヶ月予約購読――8,400円(　〃　)
早くて、確実にお手許に届く定期購読をお推めいたします。期間は半月と一年、ただし途中で発刊される増刊号は含みません。また、定期購読中に価格の変更があっても差額の追加料金は頂きません。ご希望の方は、何年何月号からかを明記して、当社直販部までご送金下さい。

●月刊モデルアートバックナンバー

'86年8月号No.274特集：エンジョイ・メーキング 素材で楽しむ模型達 …… ¥700〒70
'86年10月号No.278特集：アグレッサーズ …… ¥700〒70
'87年1月号No.284特集：今一番面白い！ツーリングカーレースグループA· ¥700〒70
'87年5月号No.291特集：思い出の中に生き続ける60年代のバイク達 …… ¥800〒70
'87年7月号No.294特集：バイエルンの白い狼"BMW" …… ¥700〒65
'87年8月号No.296特集：読者の代表"モデルアートコンテスト入賞作品展" ¥700〒65
'87年9月号No.298特集：近ごろAFVがおもしろい!! …… ¥700〒65
'87年10月号No.300特集：太平洋航空戦のエースたち・海軍編 …… ¥700〒65
'87年12月号No.303特集：2万5千馬力の咆哮が聞える!!F-1 …… ¥700〒65
'88年1月号No.305特集：敵前上陸一番乗り!!アメリカ海兵隊 …… ¥700〒65
'88年2月号No.306特集："栄光のアメリカ海軍の華"グラマン戦闘機 …… ¥700〒65
'88年3月号No.307特集：現代最強のアタックヘリたち …… ¥700〒65
'88年5月号No.310特集：エアモデルテクニック …… ¥700〒65
'88年6月号No.312特集：ヨーロッパ航空戦のエース達"ドイツ本土防空戦"· ¥700〒65
'88年7月号No.314特集：こんなふうに楽しんでみましょうヨ!!モデルバラエティ· ¥700〒65
'88年8月号No.315特集：至極のスポーティーカー"トヨタセリカ/スープラ" ¥700〒65
'88年 9月号No.317特集："第2次大戦最強シリーズ"最強戦闘機は!! …… ¥700〒65

日本で初めての完璧な写真航空機辞典

明治43年(1910)、日本で初めて飛んだアンリ・ファルマン複葉機とグラーデ単葉機から、現代の「飛鳥」STOL4発輸送機まで「日本の航空機」約1,500機種の各型合計約2,000枚以上の写真とその解説データを集録した、日本で初めての完璧な写真大辞典です。

モデルアート創刊20年を記念してのこの大作を、戦前編、戦後編の2巻として目下鋭意編集が進行中です。未発表写真、データを数多く採り入れた日本機の全貌としては史上初めての企画です。

今回御案内の戦前編は昭和20年(1945)までの複葉機全盛時代から、震電、剣、桜花、橘花、秋水など国産ジェット機／ロケット機の出現まで完載で、64年1月全国航空機ファン待望裡に発売予定です。

日本航空機辞典

1910年(明治43年)～1945年(昭和20年)

1989年1月発売予定

解説者のことば

野沢　正(のざわただし)

「米英ソ飛行機識別書」「日本航空50年史」「日本航空機総集」「飛行機千一夜」「航空の事典」などを編著。現在は航空史研究家として著述に従事。
1979～1988年航空ジャーナリスト協会顧問。

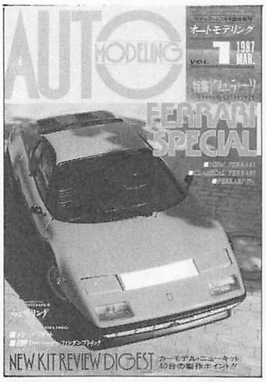
日本機ファンが永久保存することを念願して、その全機種2,000枚以上の写真と解説とデータを集録し、約3年間の整理期間を経て、ようやく戦前編と戦後編の2冊が完成することになりました。

徳川アンリ・ファルマン、日野グラーデの初飛行から約80年間に存在した日本国籍の日の丸つき軍用機、J記号つき民間機、珍らしい試作機などを集めた、誌上「日本航空博物館」の実現です。

戦前編では陸軍機、海軍機、民間機、飛行船および発動機を一機も洩らさず集録した、史上初めての写真辞典となります。

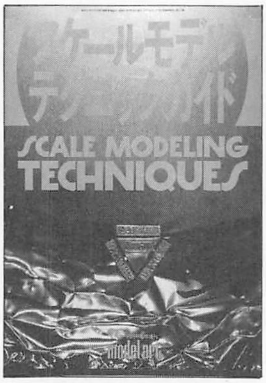
●B-5判●総頁数384頁●写真総点数約1,100枚●定価4,800円〒無料

No.288
オートモデリング1
フェラーリ



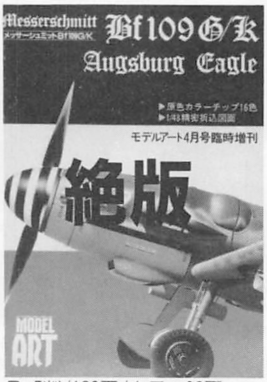
A-4判/106頁/カラー20頁
¥1,400〒70

No.277
スケールモデル
テクニックガイド



B-5判/102頁/カラー16頁
¥1,200〒70

No.290
メッサーシュミット
Bf109G/K



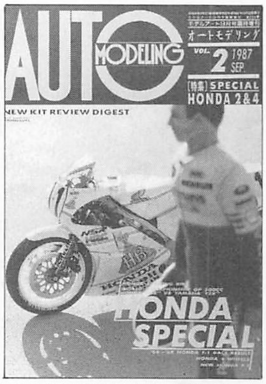
B-5判/182頁/カラー28頁
原色カラーチャート16色付
¥2,000〒75

No.263
日本陸軍3式戦闘機
飛燕



B-5判/148頁/カラー24頁
原色カラーチャート8色付
¥1,600〒75

No.299
オートモデリング2
ホンダ2&4



A-4判/136頁/カラー32頁
¥1,500〒80

No.293
ジオラマ
テクニックガイド



B-5判/94頁/カラー12頁
¥1,200〒65

No.308
ドイツ軍用機の
塗装とマーキング



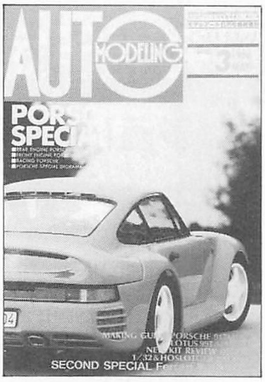
B-5判/166頁/カラー24頁
原色カラーチャート16色付
¥2,000〒75

No.283
日本陸軍4式戦闘機
疾風



B-5判/156頁/カラー24頁
¥2,000〒75

No.311
オートモデリング3
ポルシェ



A-4判/136頁/カラー40頁
¥1,500〒85

No.295
艦艇模型
テクニック講座4
ドイツ大海艦隊



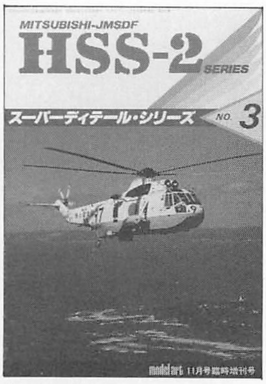
B-5判/108頁
¥1,200〒65

No.304
日本海軍局地戦闘機
紫電/紫電改



B-5判/156頁/カラー16頁
1/48、1/72精密紫電改折込図
¥2,000〒75

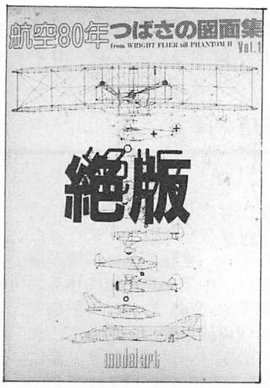
No.261
スーパーディテールシリーズ
HSS-2シリーズ



B-5判/50頁/カラー16頁
¥650〒55

特別出版

航空80年 つばさの図面集[1]

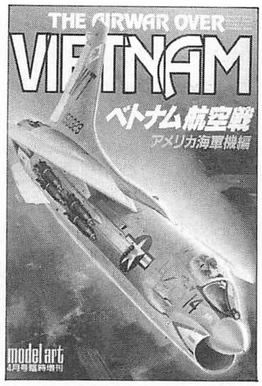


A-4判/106頁

¥2,800〒200

No.269

ベトナム航空戦[1] 米海軍機編



B-5判/132頁/カラー16頁

¥1,600〒75

No.259

F-104 スターファイター



B-5判/132頁/カラー24頁
1/48、1/72折込原寸図

¥1,400〒75

No.252

スーパーディテールシリーズ

三菱T-2/F-1

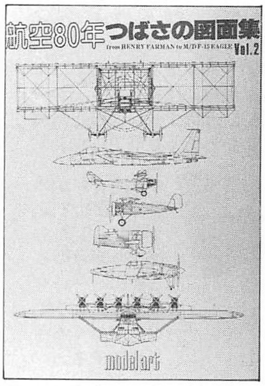


B-5判/50頁/カラー16頁

¥600〒55

特別出版

航空80年 つばさの図面集[2]



A-4判/118頁

¥3,200〒無料

No.281

ベトナム航空戦[2] 米空軍機編



B-5判/130頁/カラー16頁

¥1,500〒75

No.302

航空自衛隊の F-86セイバー



B-5判/136頁/カラー16頁
1/72用スペシャルデカール付

¥1.800〒75

No.316

Fw190A/F/G フォッケウルフ



B-5判/180頁/カラー22頁
原色カラーチャート8色付

¥2,000〒80

特別出版

プロペラファン[1]



A-4判/84頁/デカール付

¥1,800〒250

No.297

ベトナム航空戦[3] 米空軍機vsミグ

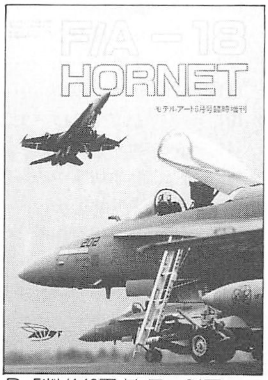


B-5判/146頁/カラー16頁
原色カラーチャート8色付

¥1,600〒75

No.313

F/A-18 ホーネット



B-5判/142頁/カラー24頁
1/48折込原寸図

¥1,800〒75

No.318

艦艇模型 テクニック講座[5] 南雲艦隊



B-5判/104頁/カラー4頁

¥1,200〒65

MODEL ART

モデルアート11月号予告

特　集：“今だ現役バリバリ”M60シリーズ

1/35で見るM60バリエーション(M60、M60A IRISE、M60A2、M60A3、M60A1イスラエル使用、M728)　イラストで見るM60の変化 1/35アクセサリー・パーツ紹介　ロコを使った西ドイツ陸軍の編成

新製品：フジミ1/72 F-14Aトムキャット グリフォン1/72 Su22フィッターJ デルタモデル1/72 SM55飛行艇　ホビークラフトカナダ1/72 F2H-3 バンシー　リバイバル1/20フェラーリ500＆アルファロメオ159

連　載：クルマのお話あれこれ“'88ル・マン” WL連合艦隊編成講座

編集後記



横須賀米海軍基地に、米海軍のミサイル巡洋艦バンカーヒル（CG-52)が配備された。ご承知のように本艦は、タイコンデロガ級イージス巡洋艦の６番艦。この日は取材陣に本艦の頭脳であるＣＩＣ（戦闘情報センター）も公開されたが、室内は映画館みたいにまっ暗ヤミで、唯一明るいのは中央に地図を描き出しているまっ青なスクリーンだけ。目が慣れてると所狭しと並んだオペレーター席が見え、コンソール上にオレンジ色の数字や記号が無数にチカチカとまたたいている。こういう暗ヤミと表示だけの環境で仕事をするのってどんなのか？それが実戦なら。Ⓘ



小学生の頃、模型少年の必須アイテムといえばレベルの1/72ファイター・シリーズだった。零戦、P-51、Bf109……世界の名戦闘機が揃うシリーズなのだが、中でも思い出に残るのが今月の特集にあるMe262。なにしろお店で初めて見た時には現用機なのかと思ってしまい、大戦機ばかりのシリーズになぜ？と実に不思議だったのである。そして作ってみると100円にしてはでかいし、何よりもかっこがいい。すっかり気に入ってしまい何機か量産してしまった。もちろん資料など手元になく、塗装は気分まかせの自由自在仕上げであった。Ⓜ



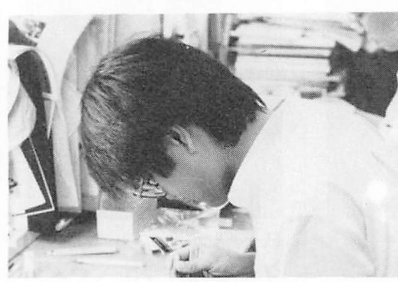
いったい今年は夏はあったのでしょうか。ほとんど梅雨の続きのような８月、暑い時は暑くないと体の調子はあまり良くないですよ。ただ夜が涼しかったので、いつもの夏よりは寝やすかったのはありがたかったです。まァ田んぼの中の家ですから風通しがいいってこともあるかな。しかし９月に入ってびっくりしたのはいろんな所にカビが発生していたことでした。箱にしまっておいた皮靴にカメラのレンズとビックリしたあるよ。靴のほうはなんとかなりましたが、レンズはオーバーホールしてもらわなければ……。あ～ァ！またまた出費だ。グスン！Ⓚ



いやー、ひさしぶりに生のプロレスを観てきました。UWFと全日本という内容的に好対照をなすものだっただけに、面白さが倍増しました。UWFは異種格闘技戦がメインでしたが、やはりUWF同士の試合が一番スリルがあって、観客にはうけてました。でも、メイン試合前のセレモニーで使われたレーザーによる演出は、これがプロレスかと思うような豪華さ。全日本はなんといってもオリンピック・コンビ対龍原砲に尽きます。30数分の戦いは真剣そのもの(誰だ笑うのは！)。ほほえましかった馬場対木村戦。こんなプロレスがあってもいいと思った私でした。Ⓨ



８月24日水曜日に休みがもらえたので早起きして百里基地に写真を撮りに出かけてきました。前日、秋葉原で購入したエアバンドをさっそく使ってみました。やっぱり思ったとおり何を話しているのかさっぱりわからなかったけど、１日聞いていたらなんとなく雰囲気でわかるよーになってきました。当日は天気も良く、気温も上昇し、最高でした。そんな中、築城のファントムが２機飛来しました。普段、梅花のファントムに見慣れているせいか、天狗のファントムは新鮮でした。しかし、残念なのは、ゴミの多いこと。皆さんゴミは捨てずに持ち帰ってネ！絶対だよ!!㊖



◀社内で何かの製作に励む？氏。この製作したものが今月号のどこかのページを飾っているのだ。いつもごくろうさんですネ。

広告案内



1:700ウォーターライン・プラモデル・セット

ハワイ海戦（真珠湾攻撃）	ミッドウェイ海戦（空母部隊）	ミッドウェイ海戦（主力部隊）	レイテ沖海戦（第2艦隊）	大和沖縄特攻作戦
戦艦 霧島、比叡 空母 赤城、加賀、瑞鶴、飛龍	戦艦 榛名、霧島 空母 赤城、加賀、蒼竜、飛龍	戦艦 大和、伊勢、日向、山城、陸奥(他艦改造)、長門(他艦改造)	戦艦 大和、武蔵(大和改造)、長門、金剛、榛名	戦艦 大和 巡洋艦 矢矧 駆逐艦 雪風、浜風、磯風、冬月
全19隻	全18隻	全26隻	全30隻	全10隻
WK-001 キット価格 11,700円	WK-002 キット価格 10,250円	WK-003 キット価格 12,450円	WK-004 キット価格 14,650円	WK-005 キット価格 5,030円
WP-001 専用塗装セット 3,220円	WP-002 専用塗装セット 3,220円	WP-003 専用塗装セット 2,920円	WP-004 専用塗装セット 3,320円	WP-005 専用塗装セット 2,620円

- 史実に基づき、より正確に再現できるように、キットの中には同型艦を利用して制作していただくものもあります。
- 塗装セットには、各キットの塗装に使用するエナメル塗料、マーカーペン、溶剤、ハケ、受皿、マスキング用品が含まれています。
- 沖縄特攻作戦の戦艦「大和」にはより精密に再現できる様に迫撃砲キットが付属されています。
- リアル再現の必需品／精密工具セット(ピンセット、精密ニッパー、ヤスリ3本セット)も2,400円で発売中。

無料総合カタログ進呈中!!

ご覧の掲載誌をお知らせの上、お申し込みください。

遂に登場!

88年プラモデル見本市 新製品ビデオ版カタログ

モデラーのみなさんが見たい知りたい最先端情報を満載／
ファン必携のビデオ版カタログの登場です。
あなたのビデオライブラリーに、是非1本…。

送料共 **2,000円**

※お申込みの際、必ずVHS・ベータの別をお知らせ下さい。

新製品 ●ディスプレイテーブル SIGHT-10(サイト・テン)好評発売中●

お支払いは商品到着後

- 一括払い／一括代引は、商品お届け時に代金と引き換えでお支払い下さい。一括払込は最寄りの郵便局から当社がお送りする振替用紙で7日以内にお払込み下さい。
- 分割払い(3万円以上お買い上げより6回・12回払いが御利用いただけます。)／セントラルファイナンスをご利用いただきます。(6回払い(実質年率12.85%)12回払い(実質年率13.67%)

※お申込み商品によって、お支払い方法等の変更をお願いする場合があります。

お申し込みはお電話で!!

- 商品は御注文いただいてから完全梱包の上10日前後でお届けいたします。
- 返品・お問い合せ等は7日以内にお願いいたします。
- 返品の場合の送料は、お客様のご負担とさせて頂きます。(開封後の返品は御遠慮願います。)
- 送料は当社負担。一部地域に限り実費請求させていただきます。

㈱天神屋通信販売事業部 〒422 静岡市曲金6丁目1-54 TEL(0542)83-6999

趣味の通信販売
RT レインボー・テン

お申し込み、お問い合せは フリーダイヤル 0120-007654
年中無休※受付時間はAM9:00〜PM6:00

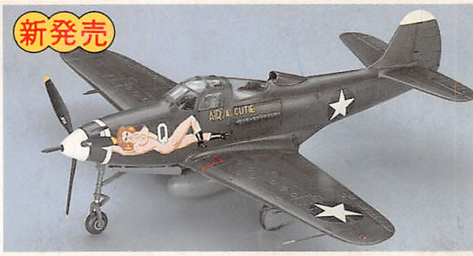
モデルアート　昭和43年4月3日第3種郵便物認可　昭和63年10月1日発行(通巻319集)

誇り高きアフリカ・エンブレム！



J2　1:48 メッサーシュミッ
Bf109E-4/
《好評発売中》¥1,50

J3　1:48 メッサーシュミット Bf109E-4/7 Trop 《新 発 売》 ¥1,500



新発売

HM8　1:48 P-39　エアラコブラ　¥1,60



新発売

P16　1:48 ブリティッシュ・ファントム FGR.2 ¥2,80

いよいよ充実／メッサーシリーズ

1941年2月、1人の将軍がトリポリタニアの熱い砂の上に下り立ちました。この将軍の名はエルウィン・ロンメル。この時から〝砂漠の狐〟と英軍から恐れられ、チャーチルをして〝偉大な将軍〟と言わしめたロンメルと彼のドイツ・アフリカ軍団の2年3ヶ月に渡る苦闘が始まったのでした。そのアフリカ軍団のエアーカバーとして熱砂の大地、北アフリカへ進出したのがアフリカ・エンブレムを誇らしげに機首に描いた第27戦闘航空団(JG27)でした。このJG27に当初配備されていたのが熱帯地仕様のBf109E-4/7Tropで北アフリカの砂塵対策に各部をシール、さらに過給器インテイクにサンドフィルターを装着するなど、ヨーロッパで活躍したE-4/7とは若干異なっていました。ハセガワではメッサーシリーズの第3弾として熱砂の北アフリカで英砂漠空軍と死闘を繰り広げたE-4/7 Tropをリリース。キットは基本的には前作E-4/7と同じですが、Tropタイプの最大の特徴であるサンドフィルターを精密に再現、デカールにはI/JG27からシュレーア少尉、フランチスケト中尉など6機を塗装のバリエーションでセレクトして、北アフリカ独特の砂漠迷彩ともども一味違ったエミールをお楽しみいただけます。さあ、あなたも北アフリカの蒼空に思いをはせて、ぜひ一作にチャレンジしてください。



J1　1:48 メッサーシュミット Bf109E-3　¥1,500

ハセガワ
株式会社 長谷川製作所
〒425 静岡県焼津市八楠1193－2
TEL(0546)28-8241 FAX(0546)27-8046

Hasegawa Hobby kits

雑誌08733-10